龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

2013 Syllabus

2013 Syllabus

数理情報学科

理工学部
Faculty of Science and Technology

www.rikou.ryukoku.ac.jp

2013 Syllabus 龍谷大学理工学部 数理情報学科

学部・学科英文名

龍　谷　大　学　Ryukoku University

理　工　学　部　Faculty of Science and Technology

数理情報学科　Department of Applied Mathematics and Informatics

電子情報学科　Department of Electronics and Informatics

機械システム工学科　Department of Mechanical and Systems Engineering

物 質 化 学 科　Department of Materials Chemistry

情報メディア学科　Department of Media Informatics

環境ソリューション工学科　Department of Environmental Solution Technology

２０１３年度
理工学部　数理情報学科　Syllabus

2013年４月１日発行

編集発行　龍谷大学理工学部

〒520−2194　大津市瀬田大江町横谷１－５

印　　刷　アインズ株式会社

教養教育科目
(共同開講科目)(共通科目)
(基礎科目)

教養教育科目
(共同開講科目)(共通科目)
(総合科目)

シラバス

学部内共通科目

学科固有科目
＜数理情報学科＞

教職課程科目

本願寺派教師資格課程科目

最新の情報や、詳細情報は Web シラバスをご確認ください。

教養教育科目（共同開講科目）

（基　礎　科　目）

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
エ	英語ＩＡ	クラス・開講曜講時による			5
	英語ＩＢ	クラス・開講曜講時による			5
	英語ⅡＡ	クラス・開講曜講時による			6
	英語ⅡＢ	クラス・開講曜講時による			6
	英語Ⅲ	クラス・開講曜講時による			7
	英語Ⅳ	クラス・開講曜講時による			7
	英語セミナーＡ１	宇野　誠一	前期	月１	8
	英語セミナーＡ１	宇野　誠一	前期	月２	8
	英語セミナーＡ１	ワード　ジョン	前期	水３	9
	英語セミナーＡ１	ワード　ジョン	前期	金５	9
	英語セミナーＡ２	宇野　誠一	後期	月１	10
	英語セミナーＡ２	宇野　誠一	後期	月２	10
	英語セミナーＡ２	ワード　ジョン	後期	水３	11
	英語セミナーＡ２	ワード　ジョン	後期	金５	11
	英語セミナーＢ１	五十嵐　海理	前期	金２	12
	英語セミナーＢ２	五十嵐　海理	後期	金２	13
	英語セミナーＣ１	音羽　レベッカ	前期	水２	14
	英語セミナーＣ１	ワード　ジョン	前期	水２	14
	英語セミナーＣ１	音羽　レベッカ	前期	水３	15
	英語セミナーＣ１	イエニク・Ｓ・Ｃ	前期	金２	15
	英語セミナーＣ２	音羽　レベッカ	後期	水２	16
	英語セミナーＣ２	ワード　ジョン	後期	水２	16
	英語セミナーＣ２	音羽　レベッカ	後期	水３	17
	英語セミナーＣ２	イエニク・Ｓ・Ｃ	後期	水３	17
	英語セミナーＤ１	大槻　志郎	前期	水２	18
	英語セミナーＤ２	大槻　志郎	後期	水２	19
	英語セミナーＥ１	里井　久輝	前期	水３	20
	英語セミナーＥ２	里井　久輝	後期	水３	20
キ	教育原論Ａ	藤井　奈津子	前期	月１	21
	教育原論Ａ	広川　義哲	前期	月２	21
	教育原論Ｂ	大野　僚	後期	月１	22
	教育原論Ｂ	広川　義哲	後期	月２	22
ケ	経済学入門	藤田　和孝	前期	水４	23
	経済学入門	長命　洋佑	前期	金５	24
	経済学入門	李　復屏	後期	月１	25
	経済学入門	李　復屏	後期	月３	25
	言語学入門	泉　文明	前期	月２	26
	言語学入門	磯江　源	前期	木３	26
コ	コリア語ＩＡ	孫　才喜	前期	水３	27
	コリア語ＩＢ	孫　才喜	後期	水３	27
	コリア語ＩＣ	朴　炫国	前期	木３	28
	コリア語ＩＤ	朴　炫国	後期	木３	28
	コリア語セミナーＡ	柳　綏美	前期	水３	29
	コリア語セミナーＢ	柳　綏美	後期	水３	29
シ	社会学入門	渡辺　めぐみ	前期	木３	30
	社会学入門	渡辺　めぐみ	後期	木３	30
	社会思想史入門	村澤　真保呂	前期	水２	31
	社会思想史入門	森　元斎	後期	水２	31
	心理学入門	松島　恵介	前期	月１	32
	心理学入門	松島　恵介	後期	月１	32
	心理学入門	破田野　智美	前期	月１	33
ス	スポーツ技術学Ａ	種目・開講曜講時による	学科により異なる		33
	スポーツ技術学Ｂ	種目・開講曜講時による	学科により異なる		34
セ	生活の中の化学	中沖　隆彦／糟野　潤	後期	木３	34
	生活の中の数学	國府　宏枝／山岸　義和	前期	水３	35
	生活の中の統計技術	樋口　三郎	後期	水３	35
	生活の中の統計技術	香川　文庸	前期	木３	36
	生活の中の物理	石崎　俊雄	後期	月２	37
	政治学入門	山崎　充彦	前期	木３	38
	政治学入門	山崎　充彦	後期	木３	39
	生命と科学	宮武　智弘	前期	金１	40

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
チ	中国語ＩＡ	張　健同	前期	月１	40
	中国語ＩＡ	韓　正愛	前期	水３	41
	中国語ＩＢ	張　健同	後期	月１	41
	中国語ＩＢ	韓　正愛	後期	水３	42
	中国語ＩＣ	張　健同	前期	水３	42
	中国語ＩＣ	韓　正愛	前期	水４	43
	中国語ＩＣ	張　健同	前期	水４	43
	中国語ＩＤ	張　健同	後期	水３	44
	中国語ＩＤ	韓　正愛	後期	水４	44
	中国語ＩＤ	張　健同	後期	水４	45
	中国語セミナーＡ	李　愛華	前期	水３	45
	中国語セミナーＢ	李　愛華	後期	水３	46
テ	哲学入門	渡邊　華月	前期	月３	46
	哲学入門	渡邊　華月	後期	月３	47
	哲学入門	渡邊　華月	前期	水３	47
	哲学入門	渡邊　華月	後期	水３	48
ト	ドイツ語ＩＡ	青山　豊	前期	月２	48
	ドイツ語ＩＡ	呉　春吉	前期	月３	49
	ドイツ語ＩＢ	青山　豊	後期	月２	49
	ドイツ語ＩＢ	呉　春吉	後期	月３	50
	ドイツ語ＩＣ	青山　豊	前期	月３	50
	ドイツ語ＩＣ	永井　達夫	前期	水３	51
	ドイツ語ＩＤ	青山　豊	後期	月３	51
	ドイツ語ＩＤ	永井　達夫	後期	水３	52
	ドイツ語セミナーＡ	青山　豊	前期	月４	52
	ドイツ語セミナーＢ	青山　豊	後期	月４	53
	統計入門	李　復屏	前期	月１	53
	統計入門	長命　洋佑	後期	金５	54
ニ	日本国憲法	時本　義昭	前期	木３	55
	日本国憲法	時本　義昭	後期	月１	55
	日本国憲法	時本　義昭	後期	月３	56
	日本国憲法	時本　義昭	後期	木３	56
ハ	発達と教育Ａ	松島　恵介	前期	水１	57
	発達と教育Ａ	松島　恵介	前期	水２	57
	発達と教育Ｂ	松島　恵介	後期	水１	58
	発達と教育Ｂ	松島　恵介	後期	水２	58
フ	仏教の思想Ａ	道元　徹心	前期	水２	62
	仏教の思想Ａ	乗山　悟	前期	水２	62
	仏教の思想Ｂ	道元　徹心	後期	水２	64
	仏教の思想Ｂ	乗山　悟	後期	水２	64
	フランス語ＩＡ	佐々木　香理	前期	水３	65
	フランス語ＩＢ	瓜生　濃世	後期	水３	65
	フランス語ＩＣ	森部　卓	前期	月２	66
	フランス語ＩＣ	嶋﨑　陽一	前期	月３	66
	フランス語ＩＣ	森部　卓	前期	木３	67
	フランス語ＩＤ	森部　卓	後期	月２	67
	フランス語ＩＤ	嶋﨑　陽一	後期	月３	68
	フランス語ＩＤ	森部　卓	後期	木３	68
	フランス語セミナーＡ	嶋﨑　陽一	前期	木４	69
	フランス語セミナーＢ	嶋﨑　陽一	後期	木４	69
	文学入門	大槻　志郎	前期	水３	70
	文学入門	嶋﨑　陽一	前期	木３	71
	文学入門	坂本　輝世	後期	水４	71
	文学入門	嶋﨑　陽一	後期	木３	72
ホ	法学入門	時本　義昭	前期	月１	72
	法学入門	時本　義昭	前期	月３	73
リ	倫理学入門	菊地　建至	前期	水３	74
	倫理学入門	菊地　建至	後期	水５	75
レ	歴史入門	西村　昌洋	前期	水３	76
	歴史入門	佐野　東生	後期	金２	76
ロ	論理学入門	中谷　隆雄	前期	月３	77
	論理学入門	中谷　隆雄	後期	月３	77

英語ＩA

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

英語ＩB

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

英語ⅡA

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰでの基礎力確認に積み上げる形で、さらに基礎力の向上をはかる。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み入れる。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

英語ⅡB

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰでの基礎力確認に積み上げる形で、さらに基礎力の向上をはかる。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み入れる。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

英語Ⅲ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎力をもとに四技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文など）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとる。授業によってはCALL教室を使って語学ソフトやインターネットなどを利用することもある。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

英語Ⅳ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎力をもとに四技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文など）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとり、授業によっては、CALL教室を使って語学ソフトやインターネットなどを利用することもある。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み入れる。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示。

英語セミナーＡ１

【担当】宇野　誠一
【開講】前期　月１

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。
■到達目標
１年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。
■講義方法
毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎週授業でおこなったUnitの復習をしておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）Participationが含まれる
定期試験（30%）最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝日出版　2,000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2,200円
■講義計画
①オリエンテーション
②Text 1
③Text 2
④Text 3
⑤Text 4
⑥Text 5
⑦Text 6
⑧Text 7
⑨Text 8
⑩Text 9
⑪Text 10
⑫Text 11
⑬Text 12
⑭In class Final Exam
⑮Feedback

英語セミナーＡ１

【担当】宇野　誠一
【開講】前期　月２

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。
■到達目標
１年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。
■講義方法
毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎週授業でおこなったUnitの復習をすること。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）Participationが含まれる
定期試験（30%）最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝日出版　2,000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2,200円
■講義計画
①オリエンテーション
②Text 1
③Text 2
④Text 3
⑤Text 4
⑥Text 5
⑦Text 6
⑧Text 7
⑨Text 8
⑩Text 9
⑪Text 10
⑫Text 11
⑬Text 12
⑭In class Final Exam
⑮Feedback

英語セミナーＡ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　水３

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies.
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the partcular type of listening questions that can be found in parts1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by acheiving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary,reviewing grammar,and strenghtening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiyuri Newspaper to read,and be required to submit their answers to the questions asked about the article.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Class Performance
小テスト（25%）Small Test
そ の 他（25%）Homework
Vocabulary Notebook
■テキスト
『TOEIC（R）Preperation BookVolume 4』 ETS TOEIC
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
特になし
■講義計画
①Introduction to TOEIC
②Describing Photographs
③Tactics: Aspects of Photos
④Questions and Responses
⑤Sound-alike Words
⑥Information Questions
⑦Yes/No Questions
⑧Embedded Questions
⑨Sound/Meaning Distractors
⑩Negative Questions
⑪Inference Questions
⑫Short Conversations
⑬Incomplete Sentences
⑭Reading Comprehension
⑮Mock Test

英語セミナーＡ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　金５

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies.
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be foundin parts 1=4 of the TOEIC test.This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by acheiving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary,reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively.We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Active Participation
小テスト（25%）Results
そ の 他（25%）Homework
Vocabulary Notebook
■テキスト
『TOEIC（R）Preperation BookVolume 4』 ETS TOEIC
■参考文献
特になし
■講義計画
①Introduction to TOEIC
②Describing Photographs
③Aspects of pictures
④Questions and Responses
⑤Sound-alike Words
⑥Information Questions
⑦Yes/No Questions
⑧Embedded Questions
⑨Sound/Meaning Distractors
⑩Negative Questions
⑪Inference Questions
⑫Short Conversations
⑬Incomplete Questions
⑭Reading Comprehension
⑮Mock Test

英語セミナーＡ２

【担当】宇野　誠一
【開講】後期　月１

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
前期同様にTOEICに必要とされる能力の向上を後期においてもはかる。後期は特に、Listeningを重点的におこなう。
■到達目標
各自が明確なゴール（到達目標）を持つように願う。
■講義方法
毎週テキストに従って授業を進めていく。毎クラス、その日のポイントを明確ににして教えていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎週授業でおこなったUnitの復習をおこなうこと。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）Participationが含まれる
定期試験（30%）最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
MIkako Fujioka, Christopher Belton 『Listening Strategies for the TOEIC Test』 CENGAGE Learning　2,000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2,200円

■講義計画
①オリエンテーション
②Unit 1
③Unit 2
④Unit 3
⑤Unit 4
⑥Unit 5
⑦Unit 6
⑧Unit 7
⑨Unit 8
⑩Unit 9
⑪Unit 10
⑫Unit 11
⑬Unit 12
⑭In Class Final Test
⑮Feedback

英語セミナーＡ２

【担当】宇野　誠一
【開講】後期　月２

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
前期同様にTOEICに必要とされる能力の向上を後期においてもはかる。後期は特に、Listeningを重点的におこなう。
■到達目標
各自が明確なゴール（到達目標）を持つように願う。
■講義方法
毎週テキストに従って授業を進めていく。毎クラス、その日のポイントを明確ににして教えていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎週授業でおこなったUnitの復習をしておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）Participationが含まれる
定期試験（30%）最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
MIkako Fujioka, Christopher Belton 『Listening Strategies for the TOEIC Test』 CENGAGE Learning　2,000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2,200円

■講義計画
①オリエンテーション
②Unit 1
③Unit 2
④Unit 3
⑤Unit 4
⑥Unit 5
⑦Unit 6
⑧Unit 7
⑨Unit 8
⑩Unit 9
⑪Unit 10
⑫Unit 11
⑬Unit 12
⑭In Class Final Test
⑮Feedback

英語セミナーＡ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水３

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies.
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and give them the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary,reviewing grammar,strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively.We will also study specific vocabulary that matches the themes foun in the test.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students will be given articles from"The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read,and be required to submit their answers to the questions asked about the article.
■成績評価の方法
平常点（50%）Active Participation
小テスト（25%）Results
その他（25%）Homework
Vocabulary Notebook
■テキスト
『TOEIC（R）Preperation BookVolume 4』 ETS TOEIC
■参考文献
特になし
■講義計画
①Intro to TOEIC
②Describing Photographs
③Aspects of Photographs
④Questions and Responses
⑤Sound-alike Words
⑥Information Questions
⑦Yes/No Questions
⑧Embedded Questions
⑨Sound/Meaning Distractors
⑩Negative Questions
⑪Inference Questions
⑫Short Conversations
⑬Incomplete Sentences
⑭Reading Comprehension
⑮Mock Test

英語セミナーＡ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　金５

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies.
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts1=4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by acheiving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods,building vocabulary,reviewing grammar,and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively.We will also study specific vocabulaty that matches the themes found in the test.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students will be given articles from"The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read,and be required to submit their answers to the questions asked about the article.
■成績評価の方法
平常点（50%）Class Performance
小テスト（25%）Small Test
その他（25%）　Homework
Vocabulary Notebook
■テキスト
『TOEIC（R）Preperation BookVolume 4』 ETS TOEIC
■参考文献
特になし
■講義計画
①Introduction to TOEIC
②Describing Photographs
③Aspects of Photos
④Questions and Responses
⑤Sound-alike Words
⑥Information Questions
⑦Yes/No Questions
⑧Embedded Questions
⑨Sound Meaning Distractors
⑩Negative Questions
⑪Inference Questions
⑫Short Questions
⑬Incomplete Sentences
⑭Reading Comprehension
⑮Mock Test

英語セミナーＢ１

【担当】五十嵐　海理
【開講】前期　金２

■サブタイトル
時事英語

■講義概要
時事英語とは、マスコミの英語のこと。主にアメリカやイギリスの新聞記事、雑誌記事、テレビ番組、ラジオ番組で使われる英語を指します。この授業では、英米の新聞やテレビでふつうに流れる英語に慣れていきます。
マスコミは万人向けです。したがって、アメリカやイギリスの普通の人たちの今の関心・興味が、彼らが容易に理解できる英語で、書かれています。
日本人学習者にとっては、時事英語は語彙レベルが高いと感じられるかもしれませんが、逆にいえば、英語母語話者の日常の書き言葉としての英語はこのくらいのレベルなので、そこまでの語彙が十分理解できるようになれば、他の英語で書かれた文章も理解できる部分が広がることでしょう。
テキストはニューヨークタイムズの記事を集めたものを使います。また、テキスト以外に、ふつうの英字新聞やビデオクリップなどを利用することもあります。

■到達目標
時事英語に慣れることを目標とします。とくに語彙をたくさん覚えてもらうことを目標とします。

■講義方法
ふつうの英語の授業と同じように、次のように考えています。
(1) 本文の精読（ときに速読も）
(2) テストなど
(3) リスニングテスト

■授業時間外における予・復習等の指示
進度にそって精読してきてください。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）授業中の受け答えです。
小テスト（20%）リスニングの小テストを行います。
定期試験（60%）学期末試験を行います。
成績評価の方法については変更することがあります。

■テキスト
Kita, R., and K. Adams 『Trends in Transition』 英宝社
2,000円
このほかにもオンラインで無料で利用できる教材を用意します。具体的にはTEDの講演です。
http://www.ted.com/

■参考文献
『The Daily Yomiuri』
『The Japan Times』
日本で発行されている英字新聞を利用しない手はありません。とくに、The Daily Yomiuriは、読売新聞と社説を共有していますから、日本語と英語で対照しながら読めます。そのほか、教室で指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
予習をしてきてください。予習ができないときは、せめて復習してください。また、講義計画は変更される場合があります。また５回欠席で期末テストはゼロ点になります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中にお知らせします。

■講義計画
①時事英語の特徴について確認しながら、精読していきます。
②環境についての記事１
③同上
④同上
⑤環境についての記事２
⑥同上
⑦同上
⑧社会における価値観についての記事１
⑨同上
⑩同上
⑪社会における価値観についての記事２
⑫同上
⑬同上
⑭社会における価値観についての記事３
⑮同上
⑯前期末試験

英語セミナーＢ２

【担当】五十嵐　海理
【開講】後期　金２

■サブタイトル
時事英語

■講義概要
時事英語とは、要するにマスコミの英語のこと。主にアメリカやイギリスの新聞記事、雑誌記事、テレビ番組、ラジオ番組で使われる英語を指します。この授業では時事英語に慣れていきます。
マスコミは万人向けです。したがって、アメリカやイギリスの普通の人たちの今の関心・興味が、彼らが容易に理解できる英語で、書かれています。
日本人学習者にとっては、時事英語は語彙レベルが高いと感じられるかもしれませんが、逆にいえば、英語母語話者の日常の書き言葉としての英語はこのくらいのレベルなので、そこまでの語彙が十分理解できるようになれば、他の英語で書かれた文章も理解できる部分が広がることでしょう。
テキストはニューヨークタイムズの記事を集めたものを使います。また､テキスト以外に､ふつうの英字新聞やビデオクリップなどを利用することもあります。

■到達目標
時事英語に慣れること、とくに語彙をたくさん覚えてもらうことを目標とします。

■講義方法
ふつうの英語の授業と同じように、次のように考えています。
(1) 本文の精読（ときに速読も）
(2) テストなど
(3) リスニングテスト

■授業時間外における予・復習等の指示
進度に沿って精読してきてください。
また、次の講演サイトからリスニングテストを出します。
http://www.ted.com/

■成績評価の方法
平 常 点（20%）授業中の受け答えです。
小テスト（20%）リスニングテストを行います。
定期試験（60%）定期試験です。
成績評価の方法は変更することがあります。

■テキスト
Kita, R., and K. Adams 『Trends in Transition』 英宝社
2,000円
テキストは前期からの継続使用です。講義計画は変更される可能性があることをご理解ください。
また、途中でテキストを読み終わってしまった場合は、ネットで記事を入手して読んでいきます。TIMEやNEWSWEEKのような報道系の雑誌の記事を読んだり、BBCの放送を見たりしたい、と思います。

■参考文献
『The Wall Street Journal』
『The Guardian』
『The Independent』
アメリカの高級紙の中でも経済よりの記事が多いウォールストリートジャーナルを図書館などで見てみてください。世界の金融の中心地でどんなことを知りたがっているか、知ることができます。イギリスの新聞、ガーディアンとインディペンデントは政治的態度が異なるので、比べてみてください。
その他、授業中に指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
予習をしてきてください。予習が出来なかったときは、せめて復習してください。また、５回欠席で期末試験の成績がゼロ点になりますので、気をつけてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
必要があれば指示します。

■講義計画
①テキストを前提とせずに、英語の新聞記事を使って、時事英語の特徴などをお話しします。また、授業のやり方を説明します。この回に欠席すると、皆さんには不利益になります。
②食糧問題の記事１（これ以降、すべてに言えることですが、前期での進捗状況によって、開始すべきユニットが変更になる場合がありますので、ご了承ください。）
③同上
④同上
⑤食糧問題の記事２
⑥同上
⑦同上
⑧教育についての記事１
⑨同上
⑩同上
⑪教育についての記事２
⑫同上
⑬同上
⑭教育についての記事３
⑮同上
⑯期末試験

英語セミナーＣ１

【担当】音羽　レベッカ
【開講】前期　水２

■サブタイトル
Thinking about Human Life 人生を考える
■講義概要
簡単な英語を使って、個人の生活・自分と周りの人々との関係を考える
■到達目標
人間として大事なことを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ
■講義方法
教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises
■授業時間外における予・復習等の指示
（1）毎回の単語を次回に復習する
（2）宿題を３回出す
（3）15回目にテストを行う
■成績評価の方法
その他（100%）下記のとおり
平常点10・参加45（１回に付き３点×15回）・宿題30（１回に付き10点×３回）・テスト15
合計100
■テキスト
教師がコピーを渡す
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Let’s think about our lives in English. It is important to be serious and attend the class regularly.
■オフィスアワー・教員への連絡方法
palantir55@yahoo.com　（必要な時だけ使うこと）
■講義計画
①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
②Movie：“The Apartment” Part Ⅰ & discussion
映画：「アパートの鍵を貸します」パート１
③Movie：“The Apartment” Part Ⅱ & discussion　Assign HW 1
映画：「アパートの鍵を貸します」パート２
④Me & Myself Ⅰ：Personal History – Who am I?
私自身Ⅰ：パーソナルヒストリー　わたしって誰?
⑤Me & Myself Ⅱ：Taking Care of Myself – What do I need?　Hand in HW 1
私自身II：自分を大切にするということ私に何が必要か?
⑥Me & Myself Ⅲ：Choices – What should I do?
私自身Ⅲ：選択　私はなにをすればいい?
⑦Me & Myself Ⅳ：Self-control – How can I manage myself?
私自身Ⅳ：自己管理　私をどうやって管理する?
⑧Me & Myself Ⅴ：The Future – How can I realize my dreams?　Assign HW 2
私自身Ⅴ：将来　私はどうやって夢を実現する?
⑨Me & Others Ⅰ：Differences – What makes me me?
私と人Ⅰ：違い　私と他の人との違い
⑩Me & Others Ⅱ：Groups – Where do I belong?　Hand in HW 2
私と人Ⅱ：グループ　私はどこに属する?
⑪Me & Others Ⅲ：Friends & Family – How should I relate?
私と人Ⅲ：友達と家族　私はどうやって関係をつくる?
⑫Me & Others Ⅳ：Emotions – How should I handle my feelings?
私と人Ⅳ：感情　私はどうやって感情を管理すればいい?
⑬Me & Others Ⅴ：Civility – How should I behave?　Assign HW 3
私と人Ⅴ：社会の中の私のふるまい　私はどう振舞うべきか?
⑭Me & Others Ⅵ：Judgment – How should I evaluate myself and others?
私と人Ⅵ：判断　自分と他の人をどうやって判断すればいい?
⑮TEST & Wrap up　Hand in HW 3

英語セミナーＣ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　水２

■サブタイトル
Language Acqusition Through Interaction.
■講義概要
The objective of this course is to prepare the students to use English in a variety of natural contexts.Throughout the course we will develop the learners listening and speaking skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give the students the opportunity to personalize the language hey learn,and make use of their own experience and knowledge.We will be working in pairs and small groups,providing a maximum amount of student-generated communication.
■到達目標
After completing this course,students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.
■講義方法
Students will be divided into pairs or small groups at the beginning of each class,thus providing many opportunities for student interaction.Throughout the course, students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions in English with greater confidence.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students are required to download the Self-study audio at>www.fifty-fifty-series.com and submit the results to me weekly.
■成績評価の方法
平常点（50%）Active Participation
小テスト（25%）Results
その他（25%）Homework
■テキスト
Warren Wilson 『Fifty-Fifty Book 2』 Longman
■参考文献
特になし
■講義計画
①Explanation of course
②Asking for Information
③Describing Things
④Making Requests
⑤Giving Instructions
⑥Reviewing
⑦Making Excuses-Giving Reasons
⑧Giving Opinions
⑨Comparing Things
⑩Reviewing
⑪Giving advice-Suggestions
⑫Talking about Experiences
⑬Inviting
⑭Predictions
⑮Reviewing

英語セミナーＣ１

【担当】音羽　レベッカ
【開講】前期　水３

■サブタイトル
Thinking about Human Life 人生を考える
■講義概要
簡単な英語を使って、個人の生活・自分と周りの人々との関係を考える
■到達目標
人間として大事なことを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ
■講義方法
教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises
■授業時間外における予・復習等の指示
（1）毎回の単語を次回に復習する
（2）宿題を３回出す
（3）15回目にテストを行う
■成績評価の方法
その他（100%）下記のとおり
平常点10・参加45（１回に付き３点×15回）・宿題30（１回に付き10点×３回）・テスト15
合計100
■テキスト
教師がコピーを渡す
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Let’ s think about our lives in English. It is important to be serious and attend the class regularly.
■オフィスアワー・教員への連絡方法
palantir55@yahoo.com　（必要な時だけ使うこと）

■講義計画
①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
②Movie：“The Apartment” Part I & discussion
映画：「アパートの鍵を貸します」パート１
③Movie：“The Apartment” Part II & discussion　Assign HW 1
映画：「アパートの鍵を貸します」パート２
④Me & Myself Ⅰ：Personal History – Who am I?
私自身Ⅰ：パーソナルヒストリー　わたしって誰?
⑤Me & Myself Ⅱ：Taking Care of Myself – What do I need?　Hand in HW 1
私自身Ⅱ：自分を大切にするということ私に何が必要か?
⑥Me & Myself Ⅲ：Choices – What should I do?
私自身Ⅲ：選択　私はなにをすればいい?
⑦Me & Myself Ⅳ：Self-control – How can I manage myself?
私自身Ⅳ：自己管理　私をどうやって管理する?
⑧Me & Myself Ⅴ：The Future – How can I realize my dreams?　Assign HW 2
私自身Ⅴ：将来　私はどうやって夢を実現する?
⑨Me & Others Ⅰ：Differences – What makes me me?
私と人Ⅰ：違い　私と他の人との違い
⑩Me & Others Ⅱ：Groups – Where do I belong?　Hand in HW 2
私と人Ⅱ：グループ　私はどこに属する?
⑪Me & Others Ⅲ：Friends & Family – How should I relate?
私と人Ⅲ：友達と家族　私はどうやって関係をつくる?
⑫Me & Others Ⅳ：Emotions – How should I handle my feelings?
私と人Ⅳ：感情　私はどうやって感情を管理すればいい?
⑬Me & Others Ⅴ：Civility – How should I behave?　Assign HW 3
私と人Ⅴ：社会の中の私のふるまい　私はどう振舞うべきか?
⑭Me & Others Ⅵ：Judgment – How should I evaluate myself and others?
私と人Ⅵ：判断　自分と他の人をどうやって判断すればいい?
⑮TEST & Wrap up　Hand in HW 3

英語セミナーＣ１

【担当】イエニク・Ｓ・Ｃ
【開講】前期　金２

■サブタイトル
Active English
■講義概要
The aim of this course is to improve students ability to use English by dividing the class into groups and having them create their own extended dialogues or short plays.　This places emphasis on the active skills: writing and speaking. The students create the concrete contents of the course themselves.
■到達目標
Relative to students abilities
■講義方法
Individual students each write dialogues or short plays and then perform them in groups.
■授業時間外における予・復習等の指示
Homework and preparatory exercises will be assigned to be done outside of class.
■成績評価の方法
平常点（100%）Homework.　Class Performance.
■テキスト
特になし
■参考文献
Any good dictionary.
■履修上の注意・担当者からの一言
Do not miss the first class.

■講義計画
①Introduction and Video Exercise
②Creative Stimulus Exercise
③Creative Stimulus and Narrative Writing
④Convert Narrative to Dialogue
⑤～⑮Learn, Practice and Perform Skits and Short Plays

英語セミナーＣ２

【担当】音羽　レベッカ
【開講】後期　水２

■サブタイトル
Thinking about Global Life　世界を考える
■講義概要
簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える
■到達目標
世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ
■講義方法
教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises
■授業時間外における予・復習等の指示
（1）毎回の単語を次回に復習する
（2）宿題を３回出す
（3）15回目にテストを行う
■成績評価の方法
その他（100%）下記を参照
平常点10・参加45（１回に付き３点×15回）・宿題30（１回に付き10点×３回）・テスト15
合計100
■テキスト
教師がコピーを渡す
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Let's think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.
■オフィスアワー・教員への連絡方法
palantir55@yahoo.com（必要な時だけ使うこと）
■講義計画
①Introduction to course, world map work
コース紹介・世界地図を親しんで
②Natural Environment Ⅰ：Creating the Earth
自然環境１：地球をつくったのは?
③Natural Environment Ⅱ：Competition & Cooperation
自然環境２：競争と協力
④Global Relationships Ⅰ：Humanity the Superorganism
グローバル関係１：人類スーパーオーガニズム
⑤Global Relationships Ⅱ：Work
グローバル関係２：人間の仕事
⑥Global Relationships Ⅲ：Religious Observance
グローバル関係３：人間の宗教
⑦Global Relationships Ⅳ：Culture
グローバル関係４：人間の文化
⑧Global Relationships Ⅴ：A Gaijin in Japan
グローバル関係５：日本に住む外国人
⑨What is Civilization Ⅰ：Human Rights & Responsibilities
文明とは何か１：人権と責任
⑩What is Civilization Ⅱ：History of Economic Man
文明とは何か２：経済人間の歴史
⑪What is Civilization Ⅲ：Humanity' s Highest Achievements
文明とは何か３：人間の最高の達成
⑫When Civilizastion Breaks Down Ⅰ：Crime & Punishment
文明が危ないとき１：犯罪
⑬When Civilization Breaks Down Ⅱ：War
文明が危ないとき２：戦争
⑭Word Work and Review
単語の勉強と復習
⑮Final Test
ファイナルテスト

英語セミナーＣ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水２

■サブタイトル
Language Acqusition Through Interaction.
■講義概要
The objective of this course is to prpare the students to use English in a variety of natural contexts.Throughout the course we will develop the learners listening and speaking skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give them the opportunity to personalize the language they learn,and make use of their own experiences and knowledge.We will be working in pairs and small groups providing a maximum amount of student of student-generated communication.
■到達目標
After completing this course,students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.
■講義方法
Students will be divided into pairs or small groups at the beginning of each class,thus providing many opportunities for student interaction.Throughoutthe course,students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions inEnglish with greater confidence.
■授業時間外における予・復習等の指示
Students are required to download the Self -study audioat>www.fifty-fifty-series.com and submit the results to me weekly.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）Active Participation
小テスト（25%）Results
そ の 他（25%）Homework
■テキスト
Warren Wilson 『Fifty-Fifty Book 2』 Longman
■参考文献
特になし
■講義計画
①Explanation of Course
②Asking for Information
③Describing Things
④Making Requests
⑤Giving Instructions
⑥Reviewing
⑦Making Excuses-Giving Reasons
⑧Giving Opinions
⑨Comparing Things
⑩Reviewing
⑪Giving advice-Suggestions
⑫Talking about Experiences
⑬Inviting
⑭Predictions
⑮Reviewing

英語セミナーＣ２

【担当】音羽　レベッカ
【開講】後期　水３

■サブタイトル
Thinking about Global Life　世界を考える
■講義概要
簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える
■到達目標
世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ
■講義方法
教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises
■授業時間外における予・復習等の指示
（1）毎回の単語を次回に復習する
（2）宿題を３回出す
（3）15回目にテストを行う
■成績評価の方法
その他（100%）下記を参照
平常点10・参加45（１回に付き３点×15回）・宿題30（１回に付き10点×３回）・テスト15
合計100
■テキスト
教師がコピーを渡す
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Let's think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.
■オフィスアワー・教員への連絡方法
palantir55@yahoo.com（必要な時だけ使うこと）

■講義計画
①Introduction to course, world map work
コース紹介・世界地図を親しんで
②Natural Environment Ⅰ：Creating the Earth
自然環境１：地球をつくったのは?
③Natural Environment Ⅱ：Competition & Cooperation
自然環境２：競争と協力
④Global Relationships Ⅰ：Humanity the Superorganism
グローバル関係１：人類スーパーオーガニズム
⑤Global Relationships Ⅱ：Work
グローバル関係２：人間の仕事
⑥Global Relationships Ⅲ：Religious Observance
グローバル関係３：人間の宗教
⑦Global Relationships Ⅳ：Culture
グローバル関係４：人間の文化
⑧Global Relationships Ⅴ：A Gaijin in Japan
グローバル関係５：日本に住む外国人
⑨What is Civilization Ⅰ：Human Rights & Responsibilities
文明とは何か１：人権と責任
⑩What is Civilization Ⅱ：History of Economic Man
文明とは何か２：経済人間の歴史
⑪What is Civilization Ⅲ：Humanity's Highest Achievements
文明とは何か３：人間の最高の達成
⑫When Civilizastion Breaks Down Ⅰ：Crime & Punishment
文明が危ないとき１：犯罪
⑬When Civilization Breaks Down Ⅱ：War
文明が危ないとき２：戦争
⑭Word Work and Review
単語の勉強と復習
⑮Final Test
ファイナルテスト

英語セミナーＣ２

【担当】イエニク・Ｓ・Ｃ
【開講】後期　水３

■サブタイトル
English Communication
■講義概要
To develop an intuitive grasp of and fluency with relatively easy English, especially through experiencing the sound of the language.
Mainly utilizes narrative and dramatic language in the forms of stories and video skits.
A balanced and integrated approach to all four language skills: listening, speaking, reading and writing.
A variety of exercises and tasks will be used to demonstrate common English usage and guide students to express their own original thoughts directly in English in both spoken and written forms. This will also naturally reinforce basic grammar and function structures from an active point of view.
■到達目標
Relative to students' abilities.
■講義方法
Various types of class participation. Dialogues, narrative writing, etc.
■授業時間外における予・復習等の指示
Homework and preparatory exercises will be assigned to be done outside of class.
■成績評価の方法
平常点（100%）Class participation.
■テキスト
辞書持参
■参考文献
特になし
■講義計画
①Dialogue
②Narrative
③Reading
④Dialogue
⑤Narrative
⑥Reading
⑦Dialogue
⑧Narrative
⑨Reading
⑩Dialogue
⑪Narrative
⑫Reading
⑬.Dialogue
⑭Narrative
⑮Reading

英語セミナーＤ１

【担当】大槻　志郎
【開講】前期　水２

■サブタイトル
Welcome to Narnia: Fantastic Fiction English 1

■講義概要
とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語で物語を楽しめるようになり、さらには英語で読むほうが翻訳より面白いと思えればしめたもので、あとは読み続けることさえできれば、英語力向上という結果はあとからついてくる。そのために各種の面白い物語をいろいろ読んでみる。
具体的には、読むのは２本セット。日本ではなじみがないが、映画上映の際にメインの映画＋短編映画１本の２本立てというやり方がある。メインディッシュ＋前菜のような感じ。この授業でもそのノリで、メインとして映画でも有名な「ナルニア国物語」シリーズの第1巻、The Lion, the Witch and the Wardrobeの原書をシリーズで毎回少しずつ英語で読み、一方、それとは気分を変えて、様々な、より短く、だいたいはより簡単で、変化に富んだ内容の短編や長編の一部を、retold版（より易しい英語で書き直したもの）なども活用して読む、という形を取ってみる。というわけで、けっこうぜいたくな試みである。

■到達目標
物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。
「実用」を超えた英語の味わいを経験すること。
物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法
事前に２本立て分２種類のハンドアウトを配布。合わせても４ページ前後の予定。授業で内容を確認、表現の練習など。メイン作品については、一部しか読めないので、話の展開はリスニング練習を兼ねて映画の映像で補う。
授業ではまず前回学習した英語表現、及び当日読む作品のストーリーについての小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説。表現練習など。次回分の作品について、必要に応じて予告的解説＋情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。ほぼ毎回、学習内容についてコメントを書いてもらう。

■系統的履修
英語セミナー Ｄ２

■授業時間外における予・復習等の指示
予習が大前提。とにかく自分で読んでみようとしなければいつまでも読めるようにならない。より意欲的に読む気になるようにこちらも工夫はするつもり。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）小テスト、課題（予習）の達成状況、授業中の発表、最後に書いてもらうコメントなど
定期試験（60%）
３分の１以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則０点とする。

■テキスト
The Lion, the Witch and the Wardrobe、及び他の小説の、いずれもハンドアウトを使用する予定。なお前者については、自分で本を買ってもいいし（2013年１月現在、600円弱で買える）、あらかじめ持っている本があればそれを活用してもよい。

■参考文献
児童文学とはいえ、さすがに原書は難しいと思う可能性もある。翻訳は図書館利用なども含めて簡単に読めるだろうから（かなり古風な訳だが）参考にするのは構わない。

■履修上の注意・担当者からの一言
欲ばりな内容で、消化しきれない恐れもあるので、授業の進め方については調整するかもしれない。それほど負担が大きいわけではないので、受講する場合はちゃんと予習するつもりで参加すること。メイン作品については、授業では要所要所しか読めないが、この機会にぜひ１冊丸ごと読破してほしい。原書の購入法は授業中に紹介、相談に乗る。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画
①introduction
②Narnia 1（1）＋昔話
③Narnia 1（2）＋不気味な話
④Narnia 1（3）＋皮肉な話
⑤Narnia 1（4）＋あっと驚く話
⑥Narnia 1（5）＋どきどきする話
⑦Narnia 1（6）＋ほのぼのする話
⑧Narnia 1（7）＋ショートショート
⑨Narnia 1（8）＋ほろりとする話
⑩Narnia 1（9）＋不思議な話
⑪Narnia 1（10）＋古典の名場面
⑫Narnia 1（11）＋怖い話
⑬Narnia 1（12）＋犯罪の話
⑭Narnia 1（13）＋にやりとする話
⑮Narnia 1（14）＋おかしい話
＊＋の後のサブのストーリーについては、とりあえずジャンルをランダムに示したもので、必ずしも取り上げる順番ではない。

英語セミナーＤ２

【担当】大槻　志郎
【開講】後期　水２

■サブタイトル
Les Miserables and Other Stories: Fantastic Fiction English 2

■講義概要
とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語で物語を楽しめるようになり、さらには英語で読むほうが翻訳より面白いと思えればしめたもので、あとは読み続けることさえできれば、英語力向上という結果はあとからついてくる。そのために各種の面白い物語をいろいろ読んでみる。
具体的には、読むものは２本セット。日本ではなじみがないが、映画上映の際にメインの映画＋短編映画１本の２本立てというやり方がある。メインディッシュ＋前菜のような感じ。この授業でもそのノリで、メインとしては、もともとフランスの小説であるLes Miserables（レ・ミゼラブル）を、英語で易しく書き直したretold版で毎回少しずつ読んでみる。日本では『ああ無情』と訳されているこの小説は、波乱万丈の展開のうちに涙と感動を呼ぶヒューマンな物語として、世界文学の歴史の中でも最も有名、かつ愛されたきた作品の一つであり、何度も映画化されているが、2012年にはミュージカル映画として公開され数々の映画賞を受賞している。
一方、そのメインとは気分を変えて、様々な、より短く、だいたいはより簡単で、変化に富んだ内容の短編や長編の一部を、これまたretold版なども活用して読む、という形を取ってみる。というわけで、けっこうぜいたくな試みである。

■到達目標
物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。
「実用」を超えた英語の味わいを経験すること。
物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法
事前に２本立て分２種類のハンドアウトを配布。合わせても４ページ前後の予定。授業で内容を確認、表現の練習など。メイン作品については、一部しか読めないので、話の展開はリスニング練習を兼ねて利用できる映画の映像で補う。
授業ではまず前回学習した英語表現、及び当日読む作品のストーリーについての小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説。表現練習など。次回分の作品について、必要に応じて予告的解説＋情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。ほぼ毎回、学習内容についてコメントを書いてもらう。

■系統的履修
英語セミナー Ｄ１

■授業時間外における予・復習等の指示
予習が大前提。とにかく自分で読んでみようとしなければいつまでも読めるようにならない。より意欲的に読む気になるようにこちらも工夫はするつもり。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）小テスト、課題（予習）の達成状況、授業中の発表、最後に書いてもらうコメントなど
定期試験（60%）
３分の１以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則０点とする。

■テキスト
Les Miserables、及び他の小説の、いずれもハンドアウトを使用する予定。Les Miserablesについては自分で本を買ってもいいが、2013年１月現在、やや入手しにくい。

■参考文献
世界的な古典だけに各種翻訳があるので参照してもらうのは構わないが、なにしろ長いから大変だろうと思う。授業で使うretold版はコンパクトにまとめてあって手頃。

■履修上の注意・担当者からの一言
欲ばりな内容で、消化しきれない恐れもあるので、授業の進め方については調整するかもしれない。それほど負担が大きいわけではないので、受講する場合はちゃんと予習するつもりで参加すること。メインのLes Miserablesは要所要所しか読めないが、図書館にもあるので、この機会に１冊丸ごと読破を試みるのもいいと思う。原書を購入したければ相談に乗る。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の４講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画
①introduction
②Les Miserables （1）＋昔話
③Les Miserables （2）＋不気味な話
④Les Miserables （3）＋皮肉な話
⑤Les Miserables （4）＋あっと驚く話
⑥Les Miserables （5）＋どきどきする話
⑦Les Miserables （6）＋ほのぼのする話
⑧Les Miserables （7）＋ショートショート
⑨Les Miserables （8）＋ほろりとする話
⑩Les Miserables （9）＋不思議な話
⑪Les Miserables （10）＋古典の名場面
⑫Les Miserables （11）＋怖い話
⑬Les Miserables （12）＋犯罪の話
⑭Les Miserables （13）＋にやりとする話
⑮Les Miserables （14）＋おかしい話
＊＋の後のサブのストーリーについては、とりあえずジャンルをランダムに示したもので、必ずしも取り上げる順番ではない。

英語セミナーＥ１

【担当】里井　久輝
【開講】前期　水３

■サブタイトル
映画と歌で英語に親しもう！
■講義概要
本セミナーは２部からなる。前半では、1999年の映画『ノッティングヒルの恋人』を用いて、さまざまな英語の表現を学びながら、現代英国の社会・文化の諸相を見てゆく。後半では、ジャズやポップスなどの英語の歌を取り上げ、主として音声学的および語用論的観点から歌詞を学ぶ。
■到達目標
映画や歌を通じて英語に親しみ、自然な英語音声を習得できるようにする。さまざまな英語の表現を身につけ、英語の総合的運用力の向上を目指す。
■講義方法
前半では、DVDも活用し、脚本や表現の面白さに着目しながら、セリフの聞き取り・語彙と表現のまとめ・文法演習・音読練習を中心に進める。各ユニットを２回で完成させる。後半では、映画との関連も考えながら、スタンダード・ジャズやポップスから毎回1曲を取り上げ、自然な発音と役に立つ表現を学んでゆく。
■授業時間外における予・復習等の指示
教科書や取り上げた歌の当該部分の音読ならびに予・復習を怠らず、身につけた表現を繰り返し暗唱すること。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）平素の学習活動状況・小テスト・提出課題・担当箇所の発表などを含む。
レポート（50%）レポート課題は別途指示する。
■テキスト
Hiromi Akimoto, Mayumi Hamada 『English Grammar in Focus -Expanded Edtion（映画『ノッティングヒルの恋人』で学ぶ会話英文法）』 Macmillan Languagehouse 2,205円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
毎回の入念な予復習と、真摯な受講態度とが必須である。常に音読を心がけ、興味と意欲を持ってしっかり取り組むこと。なお、第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。
■講義計画
①前期オリエンテーション
　映画『Notting Hill』の鑑賞（前半）
②映画『Notting Hill』の鑑賞（後半）
　レポート課題の説明
③Notting Hill - Not a Bad Place to Be 1
④Notting Hill - Not a Bad Place to Be 2
⑤Surreal, But Nice 1
⑥Surreal, But Nice 2
⑦I'll Be Your Date 1
⑧I'll Be Your Date 2
⑨Miracles Do Happen 1
⑩Miracles Do Happen 2
⑪Do You Want to Come Up? 1
⑫Do You Want to Come Up? 2
⑬Nice Surprise or Nasty Surprise 1
⑭Nice Surprise or Nasty Surprise 2
⑮まとめ・レポート提出

英語セミナーＥ２

【担当】里井　久輝
【開講】後期　水３

■サブタイトル
映画と歌で英語に親しもう！
■講義概要
本セミナーは２部からなる。前半では、1999年の映画『ノッティングヒルの恋人』を用いて、さまざまな英語の表現を学びながら、現代英国の社会・文化の諸相を見てゆく。後半では、ジャズやポップスなどの英語の歌を取り上げ、主として音声学的および語用論的観点から歌詞を学ぶ。
■到達目標
映画や歌を通じて英語に親しみ、自然な英語音声を習得できるようにする。さまざまな英語の表現を身につけ、英語の総合的運用力の向上を目指す。
■講義方法
前半では、DVDも活用し、脚本や表現の面白さに着目しながら、セリフの聞き取り・語彙と表現のまとめ・文法演習・音読練習を中心に進める。各ユニットを2回で完成させる。後半では、映画との関連も考えながら、スタンダード・ジャズやポップスから毎回１曲を取り上げ、自然な発音と役に立つ表現を学んでゆく。
■授業時間外における予・復習等の指示
教科書や取り上げた歌の当該部分の音読ならびに予・復習を怠らず、身につけた表現を繰り返し暗唱すること。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）平素の学習活動状況・小テスト・提出課題・担当箇所の発表などを含む。
レポート（50%）レポート課題は別途指示する。
■テキスト
Hiromi Akimoto, Mayumi Hamada 『English Grammar in Focus -Expanded Edtion（映画『ノッティングヒルの恋人』で学ぶ会話英文法）』 Macmillan Languagehouse 2,205円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
毎回の入念な予復習と、真摯な受講態度とが必須である。常に音読を心がけ、興味と意欲を持ってしっかり取り組むこと。なお、第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。
■講義計画
①後期オリエンテーション
②There Are such Horrible Pictures 1
③There Are such Horrible Pictures 2
④Breakfast in Bed? Or Lunch or Brunch? 1
⑤Breakfast in Bed? Or Lunch or Brunch? 2
⑥Our Perspective Are Different 1
⑦Our Perspective Are Different 2
⑧Wait! There Are Things to Say 1
⑨Wait! There Are Things to Say 2
⑩Don't Forget - I'm Also Just a Girl 1
⑪Don't Forget - I'm Also Just a Girl 2
⑫Where's the Press Conference 1
⑬Where's the Press Conference 2
⑭映画『Notting Hill』の鑑賞（前半）
⑮映画『Notting Hill』の鑑賞（後半）
　まとめ・レポート提出

教育原論Ａ

【担当】藤井　奈津子
【開講】前期　月１

■サブタイトル
子ども期の再発見
■講義概要
かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ､大人とともに遊び･働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは、近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Aでは、まず後者のロマン主義的子ども観の流れに沿って、大人とは異なる〈子ども〉特有の生のありようについて考えていきたい。文学作品や映画に描かれた子どもを手がかりに、議論を進めていく予定である。
■到達目標
近代における子ども期の発見の歴史と、そこで見出された子ども特有の生のありようについて理解することによって、現代の教育を考えていく上で重要な子ども観を養う。
■講義方法
板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。ビデオ視聴の際には、ビデオ内容についての感想を小レポートとして提出してもらう。
■系統的履修
できれば教育原論Bも受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし。
■成績評価の方法
レポート（40%）小レポート４回
定期試験（60%）期末試験
■テキスト
テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。
■参考文献
Ph. アリエス 『〈子供〉の誕生―アンシャン・レジーム期の子供と家庭生活』 みすず書房　5,200円
森田伸子 『テクストの子ども―ディスクール・レシ・イマージュ』 世織書房　2,600円
本田和子 『映像の子どもたち―ビデオという覗き窓』 人文書院　1,900円
■講義計画
①オリエンテーション
②子ども期の発見
③子どもの時間（1）―ロマン主義的子ども観
④子どもの時間（2）―〔映画視聴〕
⑤子どもの時間（3）―映画解説―子どものリアリティ
⑥子どもと秘密（1）―子どもの秘密と大人の秘密
⑦子どもと秘密（2）―〔映画視聴〕
⑧子どもと秘密（3）―映画解説―禁止への侵犯
⑨子どものイニシエーション（1）―イニシエーションとは何か
⑩子どものイニシエーション（2）―〔映画視聴〕
⑪子どものイニシエーション（3）―映画解説―子どもから大人へ
⑫大人の生における子ども期の意味（1）―子ども期とは何か
⑬大人の生における子ども期の意味（2）―J.S.ミルの事例から
⑭大人の生における子ども期の意味（3）―里山学校の実践
⑮まとめ

教育原論Ａ

【担当】広川　義哲
【開講】前期　月２

■サブタイトル
子ども・学校・社会
■講義概要
教育をめぐる動向がさまざまな変貌をとげ、教育をめぐるさまざまな言説が競合しているなかで、あらためて、教育について考えたい。子どもが「育つ」ときには、どんな風景がそこに広がっているのか。子どもが「学ぶ」学校とは、どのような場所なのか。そして、教育の思想は社会のあり方をどのように説明し、教育の歴史はどのように展開してきたのか。こうした問いを立てつつ、本講義では、教育の歴史や思想および今日的な状況を、子ども・学校・社会の三つの大きなテーマに配分して解説していく。
■到達目標
教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。
■講義方法
毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に適宜、指示します。
■成績評価の方法
レポート（20%）毎回の講義時に提出してもらう小レポート。
定期試験（80%）学期末の筆記試験。
■テキスト
講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。
■参考文献
西平　直 『教育人間学のために』 東京大学出版会
矢野智司 『ソクラテスのダブル・バインド』 世織書房
高橋　勝 『文化変容のなかの子ども』 東信堂
柴田義松編 『新・教育原理』 有斐閣
これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。
■講義計画
①イントロダクション
②教育学の基礎的な概念と枠組み
③育つ子ども：人間の発達と教育の理念
④遊ぶ子ども：フレーベルと遊びの思想
⑤子どもと教育の歴史①：近代日本の学力論争と学びの思想
⑥子どもと教育の歴史②：近代西洋の教育史と自己形成の思想
⑦学校と教育①：学校と教室の変容
⑧学校と教育②：経験の場所としての学校
⑨学校と教育③：子ども期の発見
⑩学校と教育④：近代における学校の成立史と学校像の変動
⑪教育をめぐる現状と課題①：学校化する社会
⑫教育をめぐる現状と課題②：教育と公共性の思想
⑬教育をめぐる現状と課題③：教育と社会化
⑭教育をめぐる現状と課題④：教育と社会の理念
⑮まとめ

教育原論B

【担当】大野　僚
【開講】後期　月1

■サブタイトル
教育の再考
■講義概要
これまで教育を受けてきた人が、人に教える立場になったとき、どのような教育観が必要となってくるのか。少なくとも、自分が受けてきた「教育」が、教育のすべてであると思うのはあまりに偏った見方である。この講義では、体験や経験だけで教育を考えるのではなく、教育を対象化できる思考方法を身につけることを目的として、教育に関する歴史や制度を紹介していく。
■到達目標
各自が抱く自明の「教育観」を、教育学の基礎的な思考方法によって再検討できるようにする。
■講義方法
講義形式を基本とするが、小規模でのグループ学習を行ったり、視聴覚教材等を用いる場合もある。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義内容を整理し、日ごろから考えることを重点においた理解をしておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）ミニッツペーパー
小テスト（90%）小テスト
講義時間内に小レポート（複数回）を課す場合があるので、注意すること。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし

■講義計画
①「教育」のイメージ
②教育に関する最近の動向（1）　現在までの推移
③教育に関する最近の動向（2）　教育改革の方向性
④教育に関する最近の動向（3）　学力論にみる教育のあり方
⑤教育学の思考方法としてのモデル論
⑥教育モデル論の類型
⑦近代教育学の特質
⑧子どもの発達観
⑨近代学校教育の成立
⑩日本の戦後教育の理念
⑪戦後「新教育」の特徴
⑫学習指導要領の変遷
⑬戦後教育のパラダイムシフト
⑭教育基本法の改正と教員養成制度
⑮まとめ

教育原論B

【担当】広川　義哲
【開講】後期　月2

■サブタイトル
教育の歴史と理論
■講義概要
本講義では、学校が制度的に整備されてきた歴史的な背景や子どもを表象する仕方の変容、そして、家庭が教育の場所として機能し、家族が教育する役割を担ってきた歴史を説明する。さらに、近代以降、教育学が学問として成立してきた歴史をたどり、最後に、大人と子ども、教師と生徒、あるいは友人や恋人との関わりなど、さまざまに彩られる人間関係の諸相から教育を読み解いてゆく。
■到達目標
教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。
■講義方法
毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に適宜、指示します。
■成績評価の方法
レポート（20%）毎回の講義時に提出してもらう小レポート。
定期試験（80%）学期末の筆記試験。
■テキスト
講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。
■参考文献
原聰介ほか編　『近代教育思想を読みなおす』　新曜社
高橋勝・広瀬俊雄編　『教育関係論の現在』　川島書店
これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。

■講義計画
①イントロダクション
②教育の歴史①：学校の成立史
③教育の歴史②：子どもへの眼差しの変容
④教育の歴史③：家庭／家族という問題
⑤教育の歴史④：身体の技法・体育の構想
⑥近代の教育思想①：ルソー
⑦近代の教育思想②：ペスタロッチ
⑧近代の教育思想③：ヘルバルト
⑨近代の教育思想④：デューイ
⑩近代の教育思想⑤：シュプランガー
⑪関係から教育を読む①：自己形成の物語
⑫関係から教育を読む②：公共性への通路
⑬関係から教育を読む③：ライフサイクルと人間形成
⑭関係から教育を読む④：教育関係の理論
⑮まとめ

経済学入門

【担当】藤田　和孝
【開講】前期　水４

■サブタイトル
マクロ経済学の基礎を学ぶ

■講義概要
日々、デフレ不況、円高、金融緩和などの経済ニュースを新聞などで目にすることが多い。マクロ経済学、マクロ経済政策の基礎を学ぶことで、日本政府の様々な経済政策が、どのような期待の下で導入されているのか、そしてどのような結果を導いたのか、さらに日本経済の何が問題で政府が何を悩んでいるのか、そして何をどのような視点で考えるべきなのかが分かる。
経済学の価値観や思考法を身に付けるためには、ミクロ経済学から学び始めるべきかもしれないが、本講義は経済学部の専門科目ではないのでマクロ経済学から始める。

■到達目標
現在のわが国の景気動向や経済政策についての理解を深めることができ、マスコミや政治家の意見に左右されず、日本の経済政策について自分の意見をしっかり持てるよう考え方を鍛える。

■講義方法
講義形式で、テキストに沿って進める。
日本を代表する経済学者によるコンパクトな入門書を約３か月で読破する。各自でしっかり読み込んでほしい。

■授業時間外における予・復習等の指示
テキストは、一般向けに易しく書かれているので、講義に合わせて最後まで読破してほしい。とにかく教科書を隅々まで読む込むこと。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）授業への参加度/貢献度を考慮する場合がある。集中して話を聞くこと。
レポート（80%）講義中に４回のレポート提出を課す。
出席は一切評価しないし、出題の趣旨を理解していないレポートも評価しない。

■テキスト
岩田規久男 『マクロ経済学を学ぶ』 ちくま新書

■参考文献
岩田規久男 『景気ってなんだろう』 ちくまプリマー新書
岩田規久男 『デフレと超円高』 講談社現代新書
岩田規久男 『インフレとデフレ』 講談社学術文庫

■履修上の注意・担当者からの一言
本講義で取り上げるテーマは、いずれも社会科学系の学部で学ぶ内容であるが、卒業後、他学部出身者と対等に競争していかなければならない国際文化学部の学生にとって重要なものばかりである。

■講義計画
①マクロ経済学とは何か－名目GDPと実質GDP－［第１章］
②新古典派経済学とケインズモデル
③総需要と景気変動［第２章］
④市場経済の不安定性と雇用
⑤財政政策－公共投資は景気対策として有効か－［第３章］
⑥金融市場の仕組みと機能［第４章］
⑦金融と総需要－金利と民間設備投資－
⑧貨幣の需要・供給と金利［第５章］
⑨金融政策のメカニズム－日銀の役割－［第６章］
⑩不況対策としての金融政策
⑪為替レートとマクロ経済－経常収支決定のメカニズム－［第７章］
⑫外国為替の仕組みと為替レートの変動要因
⑬財政金融政策と為替レート－変動相場制の下での金融政策－
⑭経済成長の諸要因－日本はなぜ高い経済成長を達成することができたか－［第８章］
⑮日本経済の現状－世界最強の日本経済－

経済学入門

【担当】長命　洋佑
【開講】前期　金5

■サブタイトル
われわれは、予想どおりに不合理な行動をとる

■講義概要
経済学は日常生活の中で全く役に立たないものだと思っていませんか?
実は、経済学は日常生活に密接に結びついています。
あなたは、「なぜ、大学に行くのでしょう?」
あなたは、「なぜ、お金を出して、生協でご飯をたべるのでしょう?」
あなたは、「なぜ、アルバイトをするのでしょう?」
・・・そして、あなたは、「なぜ、このシラバスをみているのでしょう・・・?」
意識的に「なぜ?」と考えると、「これまで、考えたことがなかったな」と思うことがたくさんあるのではないかと思います。
日常生活の裏側には、経済学の考え方があり、その考えは、人間の心理と非常に密接しています。
本講義では、経済学・心理学の視点から、日常生活における経済行動について、少し違った視点で考えていきたいと思います。
本講義では、そうした「なぜ?」に対し、経済学の視点からわかりやすく説明することを心がけます（初めて経済学に触れる学生大歓迎です）。

■到達目標
経済学的な考え方を日常生活のなかで、活かせるようになる。

■講義方法
講義形式による。また、学生の意見・考え方を講義に反映させたいので、意見・考え方を取り入れられるような工夫を試みる

■授業時間外における予・復習等の指示
日常生活の中で、自分の行動を見直す。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）

■テキスト
受講生に合わせて、テキストを紹介するが、基本的には配布資料によって講義を行う。
ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
「経済学」はお金のことばかり扱う学問と思われがちですが、実際は、日常生活に非常に密接した学問です。経済学を学ぶことによって、これまでとは少し違った日常生活が送れるようになるかもしれません。
なお、他の学生になるような非常識な行為（私語・携帯）は慎むようお願いします。私語が多い場合は、退出をお願いしております。

■講義計画
①オリエンテーション
②日常生活における経済とは?
③経済・心理のお話①：価値とは何か?
④経済・心理のお話②：満足とは何か?
⑤経済・心理のお話③：右向け右！右向け左！
⑥経済・心理のお話④：自分でもわからない金銭的価値と心理的価値
⑦経済・心理のお話⑤：あなたの（時間的）価値とは何か?
⑧これまでの復習
⑨経済行動のお話①：なぜ、われわれは不合理な行動をとるのか?
⑩経済行動のお話②：なぜ、となりのレジに並び変えようとするのか?
⑪経済行動のお話③:払ってしまったお金のことは忘れよう！
⑫経済行動のお話④：騙す方が悪い?騙されるほうが悪い?
⑬世界と日本のお話①：風が吹けば桶屋が儲かる!?
⑭世界と日本のお話②:よりよい社会･日常生活のために･･･。
⑮これまでの復習

経済学入門

【担当】李　復屏
【開講】後期　月１

■サブタイトル
暮らしの中の経済学
■講義概要
この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、高い価格は強欲のせいなのか、汚染権を売買してもいいのか、政府は何をしているのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。
■到達目標
経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。
■講義方法
視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。授業中の練習問題がよくある。
なお、ナマの時事経済を取り入れて解説することもある。
■系統的履修
なし。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業関連の資料や予・復習の具体的な内容は、すべてネットで配布するので、それにしたがって予・復習を行いなさい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
定期試験（50%）
■テキスト
N･グレゴリー･マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社　3,200円
■参考文献
授業内容に応じて、授業中に適宜提示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生の皆さんにとって、経済学はよく分からない学問のようだが、そもそも学ぶとは、分からないことを分かるように努力することなので、分かるように「多少」努力してほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは月２。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。
■講義計画
①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
③経済学者らしく考える②：大学進学の機会費用はいくらか
④取引と貿易：なぜ取引するのか
⑤取引と貿易：取引において誰が得するか
⑥需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
⑦需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
⑧価格の役割：市場が語る時
⑨外部性：市場は失敗することがあるよ
⑩公共部門：政府も失敗するさ
⑪GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
⑫GDPとは②：何がGDPを決めるか
⑬貨幣システム：お金とはなにか
⑭復習：練習問題
⑮もう一度、経済学とは：人間は合理的か

経済学入門

【担当】李　復屏
【開講】後期　月３

■サブタイトル
暮らしの中の経済学
■講義概要
この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、高い価格は強欲のせいなのか、汚染権を売買してもいいのか、政府は何をしているのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。
■到達目標
経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。
■講義方法
視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。授業中の練習問題がよくある。
なお、ナマの時事経済を取り入れて解説することもある。
■系統的履修
なし。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業関連の資料や予・復習の具体的な内容は、すべてネットで配布するので、それにしたがって予・復習を行いなさい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
定期試験（50%）
■テキスト
N･グレゴリー･マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社　3,200円
■参考文献
授業内容に応じて、授業中に適宜提示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生の皆さんにとって、経済学はよく分からない学問のようだが、そもそも学ぶとは、分からないことを分かるように努力することなので、分かるように「多少」努力してほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは月２。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。
■講義計画
①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
③経済学者らしく考える②：大学進学の機会費用はいくらか
④取引と貿易：なぜ取引するのか
⑤取引と貿易：取引において誰が得するか
⑥需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
⑦需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
⑧価格の役割：市場が語る時
⑨外部性：市場は失敗することがあるよ
⑩公共部門：政府も失敗するさ
⑪GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
⑫GDPとは②：何がGDPを決めるか
⑬貨幣システム：お金とはなにか
⑭復習：練習問題
⑮もう一度、経済学とは：人間は合理的か

言語学入門

【担当】泉　文明
【開講】前期　月2

■サブタイトル
日本語学と対照言語学
■講義概要
世界にはどれくらいの言語があるのでしょうか。また、言語はどのようにグループ分けできるのでしょうか。そして、その中で日本語はどのように位置づけられているのでしょうか。諸外国語を知ることで、日本語のカタチが分かってくるでしょうし、日本語がしっかり分かっていなければ諸外国語の姿・生態もつかめません。認知言語学や計量言語学の紹介も行います。
■到達目標
国語としての日本語の知識と外国語としての英語や中国語の知識を活用しながら、言語を見つめる客観的な態度を身に付ける。
■講義方法
基本的には講義方式をとるが、場合によっては演習方式をとることもありうる。
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストと講義計画を見れば、予習のポイントが分かるので、それを参考にして予習すること。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（70%）
定期試験が大きな割合を占めるが出席も重視するし、毎回の予習は念入りにして臨むこと。
■テキスト
玉村文郎編 『日本語学を学ぶ人のために』 世界思想社　2,300円
■参考文献
玉村文郎編 『日本語学を学ぶ人のために』 世界思想社　1,893円
■講義計画
①言語学とは何か
②言語研究の歴史
③世界の言語（1）
④世界の言語（2）
⑤世界の言語（3）
⑥世界の言語（4）
⑦小テスト
⑧小テストの解説
⑨日本語の姿（1）
⑩日本語の姿（2）
⑪表現（1）
⑫表現（2）
⑬表現（3）
⑭その他の言語研究
⑮まとめ

言語学入門

【担当】磯江　源
【開講】前期　木3

■サブタイトル
理論言語学と比較言語学
■講義概要
言語学にもさまざまな分野があるが、本講においては、言語の成り立ち（構造）と、英語と関係の深い、いくつかの言語の比較を取り扱う。まず、ことばを構成している、文、単語、形態素、音素などを理解し、その研究方法を概観する。そののち、フランス語、ドイツ語が、どのように英語に類似し、影響を与えてきたかを見て、言語の比較研究について考える。英語の名詞句の構造、修飾の方法、動詞の形など、その理解には現代の英語を分析するだけでは不十分な現象は多い。この点についてのわかりやすい解説を並行して行なう予定です。昨今は実用知識としての英語ばかりが強調されていますが、英語そのものの知識を含む、教養として英語の知識を少しでも習得することをめざします。
■到達目標
なじみの深い学校文法を、より分析的に見る場合などには、新しい概念を理解する必要がある。提示される問題について、積極的に考え、言語に一般的な性質を探る態度を身に付けよう。
■講義方法
始めに理論言語学の基礎的な概念を解説して、その方法を理解していただく。この知識を活用して、比較言語学の成果を学習していく。
■授業時間外における予・復習等の指示
受講した講義の内容をよくまとめて復習し、次の講義がよく理解できるようにすること。
■成績評価の方法
小テスト（100%）複数回の小テストを実施して、学期中のコンスタントな学習を促す。
課外活動、龍谷祭などを理由とする欠席を予定する人は、よく小テストの日程を注意すること。小テストは、欠席すれば、０点となり、直接成績に反映される。２回以上小テストを欠席すれば、単位取得は、不可能になる可能性が高い。また、出席していないと、解答は大変困難な問題である。持ち込み不可。
■テキスト
特になし
■参考文献
J.C. Catford 『Fundamental Problems in Phonetics』 Midland Book
John Lyons 『Introduction to Theoretical Linguistics』 Cambridge University Press
Charles Barber 『The English Language』 Cambridge University Press
■オフィスアワー・教員への連絡方法
火曜日昼休み。そのほかは、授業の前後に相談してください。
■講義計画
①言語学の各分野
②音声学
③英語の音声（1）
④英語の音声（2）
⑤英語の音声（3）
⑥英語の音声（4）
⑦音素と異音
⑧英語の語構造（1）
⑨英語の語構造（2）
⑩英語の歴史（1）
⑪英語の歴史（2）
⑫ドイツ語と英語
⑬フランス語と英語
⑭ラテン語と英語
⑮まとめと復習

コリア語ＩA

【担当】孫　才喜
【開講】前期　水3

■サブタイトル
韓国語の基礎
■講義概要
1．韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2．韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語の文字（ハングル）を正確に発音するようにする。
3．韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。
■到達目標
1．日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
2．韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3．一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。
■講義方法
教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだ文法や単語の暗記。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、授業中質問と対答、読み、暗記
小テスト（30%）宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）
■テキスト
入佐信宏、文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』
白帝社　2,500円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
1．外国語として韓国語を週 1 回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2．積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。
■講義計画
①言語の意味や歴史と文化との関係
②韓国語の起源とハングルの創制－母音と子音
③母音,子音+母音の単語
④子音+母音+子音の単語
⑤あいさつ、自己紹介
⑥日本語カナのハングル表記
　発音規則－連音化
⑦主格助詞、イだ（이다）動詞
⑧肯定文（表現）と疑問文（表現）
⑨国籍の表現
　発音規則－鼻音化
⑩疑問詞の活用と答え
⑪親戚の呼び方
⑫存在の表現と答え
⑬動詞の原型と活用
⑭数字の表現－基数、序数
⑮数字の表現の暗記

コリア語ＩB

【担当】孫　才喜
【開講】後期　水3

■講義概要
1．韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2．韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語（ハングル）を正確に発音するようにする。
3．韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。
4．韓国語の数字の使い方を学ぶ。
■到達目標
1．日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
2．韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3．一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。
■講義方法
教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだ文法や単語の暗記。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、授業中質問と対答、読み
小テスト（30%）宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）
■テキスト
入佐信宏、文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』
白帝社　2,500円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
1．外国語として韓国語を週 1 回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2．積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
paku@world.ryukoku.ac.jp
■講義計画
①日常生活、習慣に関する表現－１
　動詞の不定形ー質問、対答
②日常生活、習慣に関する表現－２
　動詞の不定形ー質問、対答
③物の状態に関する表現－１　－形容詞の原型、変形
④物の状態に関する表現－２　－形容詞の原型、変形
⑤趣味の表現、種類
⑥数字の表現、読み方－日、月、時間、番号
⑦毎日生活に関する表現－日、月、時間、番号、曜日
⑧過去表現
⑨未来表現
⑩買い物の表現－単位、数え方、お金－１
⑪買い物の表現－単位、数え方、お金－２
⑫韓国の歌
⑬韓国の映画
⑭韓国のドラマ
⑮韓国語と文化の係わり

コリア語ＩC

【担当】朴　炫国
【開講】前期　木3

■講義概要
1．韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2．韓国語と日本語の発音差を認識して正確に発音するようにする。
3．韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。

■到達目標
1．日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
2．韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3．一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法
教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだ文法や単語の暗記。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、授業中質問と対答、読み、暗記。
小テスト（30%）宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）

■テキスト
延世大学校韓国語学堂 『初めの韓国語の読み方』 延世大学校出版部
教科書は授業時紹介

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
1．外国語として韓国語を週１回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2．積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
paku@world.rykoku.ac.jp、研究室４号館331、077.543-7881、(月、金曜日以外の昼ご飯の時間、会議の可能性あり、前以て電話必要)

■講義計画
①人間と言語,言語と文化
②韓国語の起源とハングルの製作
③韓国語の母音と子音
④母音の単語－音、書き方、読み方
⑤子音の単語－音、書き方、読み方－１
⑥子音の単語－音、書き方、読み方－２
⑦子音の交替　平音、硬音、濃音　パチム（終声）
⑧あいさつ　発音練習－連音化
⑨自己生活　発音練習－鼻音化１
⑩勉強　発音練習－硬音化
⑪家族　発音練習－鼻音化２
⑫図書館　発音練習－濃音化１
⑬昼ご飯　発音練習－７終声
⑭友達　発音練習－濃音化２
⑮買い物　発音練習－激音化

コリア語ＩD

【担当】朴　炫国
【開講】後期　木3

■講義概要
1．韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2．韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語（ハングル）を正確に発音するようにする。
3．韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。
4．韓国語の数字の使い方について学ぶ。

■到達目標
1．日常生活で使われる基本語彙を暗記して活用するようにする。
2．韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3．一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法
教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだ文法や単語の暗記。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席、授業中質問と対答、読み、暗記.
小テスト（30%）宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）

■テキスト
延世大学校韓国語学堂 『初めの韓国語の読み方』 延世大学校出版部
教科書は授業時紹介

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
1．外国語として韓国語を週１回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2．積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
paku@world.rykoku.ac.jp、研究室４号館331、077.543-7881、(月、金曜日以外の昼ご飯の時間、会議の可能性あり、前以て電話必要)。

■講義計画
①人間と言語、言語と文化、
②韓国語の起源とハングルの製作
③韓国語の母音と子音　韓国の歌
④母音の単語－音、書き方、読み方
⑤子音の単語－音、書き方、読み方－１　韓国のドラマ
⑥子音の単語－音、書き方、読み方－２
⑦子音の交替　平音、硬音、濃音　パチム（終声)、韓国の映画１
⑧あいさつ　発音練習－連音化
⑨自己生活、発音練習－鼻音化１　韓国の映画２
⑩勉強　発音練習－硬音化
⑪家族、発音練習－鼻音化２　韓国の食べ物
⑫図書館　発音練習－濃音化１
⑬昼ご飯　発音練習－７終声
⑭友達、発音練習－濃音化２韓国の観光
⑮買い物の表現　激音化

コリア語セミナーA

【担当】柳　綏美
【開講】前期　水３

■サブタイトル
韓国語
■講義概要
韓国語の丁寧表現や否定の表現、数字の使い方などを扱う。
■到達目標
基礎的な文型と日常会話能力を身に着ける。
■講義方法
講義や練習による授業
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回扱う文法事項や単語などを復習し覚えること
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）
■テキスト
入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語』 白帝社
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
毎回、ペアー或いはグループで会話練習を行うので積極的に参加すること。

■講義計画
①ヘヨ体（名詞文）
②漢語系数詞
③年月日の言い方
④ヘヨ体（存在詞）
⑤電話番号の言い方
⑥固有語系数詞
⑦時間の言い方
⑧ヘヨ体の作り方（動詞）
⑨助詞「～から」「～まで」
⑩否定形１、曜日
⑪ヘヨ体の練習（形容詞）
⑫不規則活用１
⑬不規則活用２
⑭否定形２
⑮助詞「場所＋から」
⑯期末テスト

コリア語セミナーB

【担当】柳　綏美
【開講】後期　水３

■サブタイトル
韓国語
■講義概要
過去形や用言の不規則活用を主に扱い、状況や場面別の会話練習を行う。
■到達目標
基礎的な文型と日常的な会話能力を身に着ける。
■講義方法
講義と練習による授業
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回習った文法や進出語彙を覚えること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）
■テキスト
入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語』 白帝社
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
毎回、ペアー或いはグループで会話練習を行うので積極的に参加すること。

■講義計画
①買い物
②食堂
③過形の作り方
④過去形の運用
⑤過去の状態・様子に関する表現
⑥過去の状態の否定
⑦勧誘の表現
⑧動作の目的を表す表現
⑨不規則活用３
⑩勧誘の表現２
⑪意志の表現
⑫願望の表現
⑬願望の表現２
⑭指示に関する表現
⑮依頼に関数r表現
⑯期末テスト

社会学入門

【担当】渡辺　めぐみ
【開講】前期　木3

■サブタイトル
社会学とはどのような学問なのか
■講義概要
社会学という学問について、さまざまな事象から解説していきます。
そして、現代の社会問題について、社会学の視点から考えていきます。
■到達目標
社会現象について論理的に思考しよう。
現代の社会問題について自ら考えよう。
■講義方法
原則として講義形式。パワーポイントを使用します。映像資料の上映もあります。
■授業時間外における予・復習等の指示
次のテキストで自習することをおすすめします。講義の理解に役立ちます。
浅野智彦編著『考える力が身につく社会学入門』中経出版　2010年
■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回ミニレポート提出
定期試験（70%）配付資料、自作ノートは持ち込み可
■テキスト
特になし
■参考文献
アンソニー・ギデンズ 『社会学』 而立書房　3,780円
そのほか、講義中に指示します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレスを講義中に配布します。

■講義計画
①社会学とは何か
②教育について考える　その１
　－学校とは何か
③教育について考える　その２
　－学校と社会のつながり
④家族について考える　その１
　－家族の「当たり前」を見直す
⑤家族について考える　その２
　－ジェンダーとは
⑥家族について考える　その３
　－親子とは
⑦家族について考える　その４
　－結婚とは
⑧セクシュアリティについて考える　その１
　－セクシュアルマイノリティの基礎知識
⑨セクシュアリティについて考える　その２
　－世界のパートナーシップ
⑩労働について考える　その１
　－働く人の権利とは
⑪労働について考える　その２
　－組織について考える
⑫「貧困」について考える
⑬マスメディアについて考える
⑭ナショナリズムについて考える
⑮グローバル化について考える

社会学入門

【担当】渡辺　めぐみ
【開講】後期　木3

■サブタイトル
社会学とはどのような学問なのか
■講義概要
社会学という学問について、さまざまな事象から解説していきます。
そして、現代の社会問題について、社会学の視点から考えていきます。
■到達目標
社会現象について論理的に思考しよう。
現代の社会問題について自ら考えよう。
■講義方法
原則として講義形式。パワーポイントを使用します。映像資料の上映もあります。
■授業時間外における予・復習等の指示
次のテキストで自習することをおすすめします。講義の理解に役立ちます。
浅野智彦編著『考える力が身につく社会学入門』中経出版　2010年
■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回ミニレポートの提出
定期試験（70%）配付資料、自作ノート持ち込み可
■テキスト
特になし
■参考文献
アンソニー・ギデンズ 『社会学』 而立書房　3,780円
そのほか、講義中に指示します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレスを講義中に配布します。

■講義計画
①社会学とは何か
②教育について考える　その１
　－学校とは何か
③教育について考える　その２
　－学校と社会のつながり
④家族について考える　その１
　－家族の「当たり前」を見直す
⑤家族について考える　その２
　－ジェンダーとは
⑥家族について考える　その３
　－親子とは
⑦家族について考える　その４
　－結婚とは
⑧セクシュアリティについて考える　その１
　－セクシュアルマイノリティの基礎知識
⑨セクシュアリティについて考える　その２
　－世界のパートナーシップ
⑩労働について考える　その１
　－働く人の権利とは
⑪労働について考える　その２
　－組織について考える
⑫「貧困」について考える
⑬マスメディアについて考える
⑭ナショナリズムについて考える
⑮グローバル化について考える

社会思想史入門

【担当】村澤　真保呂
【開講】前期　水2

■サブタイトル
現代社会を理解するための思想史入門
■講義概要
私たちのいる社会は、一朝一夕にできあがったものではありません。人類が誕生して以来、多くの試行錯誤と経験を重ねて、いまの社会の姿ができあがっています。とくに市民革命以降の近代社会は、宗教や王権から解放された人々が、自分たちの理念や理想を掲げてつくりだされたものです。つまり「社会はどのようにあるべきか」という思想にもとづいて社会のさまざまな仕組みが考案されてきたのです。そのような社会の歴史を知るためにも、また社会をつくりあげてきたさまざまな理想の歴史を知るためにも、社会思想史を知ることはきわめて有益であるだけでなく、今後の社会のあり方を考えるために不可欠と言えるでしょう。とりわけ福島原発事故後の日本社会の目も覆うばかりの状況を乗り越えるためにも、今後の社会のあり方を若い人たちが考えていく必要に迫られています。
この授業では、古代ギリシアにはじまる西欧の社会思想の歴史を、その時代の社会的・文化的背景の歴史とかさねあわせて理解することをつうじて、現代社会の課題を学生ひとりひとりが自分自身で考察できるようにすることを目的にしています。なお、シラバスに書かれているのはあくまで予定であり、実際には学生諸君の理解度や関心にあわせて内容を変更することがあります。
■到達目標
社会のあり方と思想の関連について理解する。
■講義方法
講義形式を基本としつつ、必要におうじて映像資料や音声資料を利用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に指示。
■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）
評価基準はあくまで予定であり、授業のなかで学生との対話をつうじて最適な評価方法を決定する。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語や居眠り、途中入室などの授業妨害にたいしては、受講資格の取り消しをはじめ、厳しい処置をとる。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中に指示する。
■講義計画
①人間と自然：正義の根拠
②古代ギリシア：プラトンとアリストテレス
③古代ギリシア：プラトンとアリストテレス（2）
④中世神学とミクロコスモス：トマス・アキナス
⑤ルネサンスと宗教改革：ルター、エラスムス、トマス・モア
⑥国際法の構想：グロティウスとカント
⑦近代精神と新しい社会（1）：デカルトとホッブス
⑧近代精神と新しい社会（2）：スピノザとライプニッツ
⑨近代国家の構想（1）：ルソー
⑩近代国家の構想（2）：ロック、モンテスキュー
⑪市場の理論：ベンサムからアダム・スミスへ
⑫近代社会の矛盾（1）：マルクス
⑬近代社会の矛盾（2）：社会学と社会主義
⑭現代社会の課題：ポスト近代の理論
⑮まとめと補足

社会思想史入門

【担当】森　元斎
【開講】後期　水2

■サブタイトル
現代社会を理解するための思想史入門
■講義概要
私たちのいる社会は、一朝一夕にできあがったものではありません。人類が誕生して以来、多くの試行錯誤と経験を重ねて、いまの社会の姿ができあがっています。とくに市民革命以降の近代社会は、宗教や王権から解放された人々が、自分たちの理念や理想を掲げてつくりだされたものです。つまり「社会はどのようにあるべきか」という思想にもとづいて社会のさまざまな仕組みが考案されてきたのです。そのような社会の歴史を知るためにも、また社会をつくりあげてきたさまざまな理想の歴史を知るためにも、社会思想史を知ることはきわめて有益であるだけでなく、今後の社会のあり方を考えるために不可欠と言えるでしょう。とりわけ福島原発事故後の日本社会の目も覆うばかりの状況を乗り越えるためにも、今後の社会のあり方を若い人たちが考えていく必要に迫られています。
この授業では、古代ギリシアにはじまる西欧の社会思想の歴史を、その時代の社会的・文化的背景の歴史とかさねあわせて理解することをつうじて、現代社会の課題を学生ひとりひとりが自分自身で考察できるようにすることを目的にしています。なお、シラバスに書かれているのはあくまで予定であり、実際には学生諸君の理解度や関心にあわせて内容を変更することがあります。
■到達目標
社会のあり方と思想の関連について理解する。
■講義方法
講義形式を基本としつつ、必要におうじて映像資料や音声資料を利用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に指示。
■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）
評価基準はあくまで予定であり、授業のなかで学生との対話をつうじて最適な評価方法を決定する。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語や居眠り、途中入室などの授業妨害にたいしては、受講資格の取り消しをはじめ、厳しい処置をとる。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中に指示する。
■講義計画
①人間と自然：正義の根拠
②古代ギリシア：プラトンとアリストテレス
③古代ギリシア：プラトンとアリストテレス（2）
④中世神学とミクロコスモス：トマス・アキナス
⑤ルネサンスと宗教改革：ルター、エラスムス、トマス・モア
⑥国際法の構想：グロティウスとカント
⑦近代精神と新しい社会（1）：デカルトとホッブス
⑧近代精神と新しい社会（2）：スピノザとライプニッツ
⑨近代国家の構想（1）：ルソー
⑩近代国家の構想（2）：ロック、モンテスキュー
⑪市場の理論：ベンサムからアダム・スミスへ
⑫近代社会の矛盾（1）：マルクス
⑬近代社会の矛盾（2）：社会学と社会主義
⑭現代社会の課題：ポスト近代の理論
⑮まとめと補足

心理学入門

【担当】松島　恵介
【開講】前期　月1

■サブタイトル
心理学諸理論の体系的理解
■講義概要
心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテイメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。
■到達目標
心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。
■講義方法
口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
単位には授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。
■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
テキストは使用しない。（必要に応じて講義内で資料を配布する）
■参考文献
宝島編集部編　『心理学・入門』　宝島社
大橋ら著　『心理学者、裁判と出会う』　北大路書房
松島著　『記憶の持続　自己の持続』　金子書房
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①「心」概念とその認識の在り方を巡って
②科学的方法論と心理学との関係性
③心理学的測定論
④主観性／客観性という二元論を巡って
⑤モチベーションに関する諸理論
⑥行動主義の心理学
⑦条件付けと行動療法
⑧認知心理学概説
⑨神経心理学概説
⑩発達心理学概説
⑪臨床心理学概説
⑫フロイト／ユングの理論
⑬人格心理学概説
⑭社会性と自己との関係性を巡って
⑮総括

心理学入門

【担当】松島　恵介
【開講】後期　月1

■サブタイトル
心理学諸理論の体系的理解
■講義概要
心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテイメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。
■到達目標
心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。
■講義方法
口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
単位には授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。
■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
テキストは使用しない。（必要に応じて講義内で資料を配布する）
■参考文献
宝島編集部編　『心理学・入門』　宝島社
大橋ら著　『心理学者、裁判と出会う』　北大路書房
松島著　『記憶の持続　自己の持続』　金子書房
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①「心」概念とその認識の在り方を巡って
②科学的方法論と心理学との関係性
③心理学的測定論
④主観性／客観性という二元論を巡って
⑤モチベーションに関する諸理論
⑥行動主義の心理学
⑦条件付けと行動療法
⑧認知心理学概説
⑨神経心理学概説
⑩発達心理学概説
⑪臨床心理学概説
⑫フロイト／ユングの理論
⑬人格心理学概説
⑭社会性と自己との関係性を巡って
⑮総括

心理学入門

【担当】破田野　智美
【開講】前期　月1

■講義概要
初学者にとっての心理学のイメージは、一面的でしかないことが多い。しかし実際の心理学の対象は広く、デザインや購買行動、学習、家族、テストなどなど、われわれにとって日常的な事柄に密接に関連している。
そこでこの授業では、日常的話題と結びつけながら、できるだけ広い範囲の「心理学」について概説する。またテーマに合わせ、授業内で極簡単な実験を行い、心理学の研究手法にも触れる。受講者の一人一人が心理学の全体像を把握し、基礎的な知識を確実に身につけられる講義としたい。

■到達目標
人のこころや行動を科学的に捉えようとする心理学の考え方を理解し、今後自らが課題に向き合ったときに、心理学の知識や考え方を自分のものとして運用できるようになることを目標とする。

■講義方法
基本的に自作の資料に基づき講義形式で進める。また各テーマの理解の促進のために授業内で簡単な作業や心理データ収集の実習を行う。このため授業内レポートの提出を求めることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示
特に重要な点は授業内で強調するので、用語や意味を確実に理解してほしい。講義を受けた上で不明な点は、質問時間に解決すること。また関連文献を紹介するので、ぜひ読んで理解を深めてほしい。なお資料の一部は事前に公開する。

■成績評価の方法
定期試験（90%）
そ の 他（10%）
原則として定期試験に基づいて評価するが、授業内レポートなど授業への参加の程度を総合して加点する。

■テキスト
特になし

■参考文献
松田隆夫・八木保樹・土田宣明・福原浩之・藤健一・星野裕司・柴田直峰　『心理学概説―心と行動の理解』　培風館　1,900円
小川捷之・椎名健　『心理学パッケージ１－６』　ブレーン出版

■講義計画
①心理学の課題と考え方
②視る心理学１
③視る心理学２
④聴く心理学
⑤嗅ぐ・味わう心理学
⑥触れる・痛みの心理学
⑦記憶の心理学１
⑧記憶の心理学２
⑨思考心理学
⑩学習心理学
⑪発達心理学
⑫教育心理学
⑬社会心理学
⑭臨床心理学
⑮心理学の研究方法

スポーツ技術学Ａ

【担当】種目・開講曜講時による
【開講】学科により異なる

■講義概要
現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。
1）スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
2）スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
3）自己の体力を分析し、改善策を探る。
スポーツ技術学は、一年次の履修で、前・後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標
1.スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2.自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法
より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、1）1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。2）ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカー、ニュースポーツ、バレーボールの7種目の中から指定された種目を履修する。3）登録方法は、①予備登録およびＷｅｂ登録、②たて3㎝よこ2.5㎝の写真（出席カード用）2枚を準備し、最初の授業時間（体育館メインフロア）に持参する。なお最初の授業時にはトレーニングウエアは不要である。

■授業時間外における予・復習等の指示
オリエンテーションの時に指示する

■成績評価の方法
平 常 点（70%）出席と授業参加
レポート（30%）体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
○スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
○体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画
①オリエンテーション（体育館メインフロアに集合、更衣の必要なし）
②各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑫体力測定①
⑬体力測定②（体育館に集合）
⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については、講義時に指示）

スポーツ技術学B

【担当】種目・開講曜講時による
【開講】学科により異なる

■講義概要
現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。
1）スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
2）スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
3）自己の体力を分析し、改善策を探る。
スポーツ技術学は、一年次の履修で、前･後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標
1.スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2.自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法
より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため､板書､資料配布､視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、1）1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。2)ソフトボール､卓球､バスケットボール､テニス､ミニサッカー､ニュースポーツ、バレーボールの7種目の中から指定された種目を履修する。

■授業時間外における予・復習等の指示
オリエンテーションのときに指示する。

■成績評価の方法
平 常 点（70%）出席と授業参加
レポート（30%）体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
○スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
○体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画
①各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
②各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑫体力測定①
⑬体力測定②（体育館に集合）
⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については､講義時に指示）

生活の中の化学

【担当】中沖　隆彦、糟野　潤
【開講】後期　木3

■講義概要
私たちが現代社会で生活していく上で、化学物質の使用や化学反応は日常いたるところで見られます。普段何気なく使っていて、どうしてこうなるのか?と不思議に思ったことはないでしょうか?本講義では生活に密着した身近なところで見られる化学に関する話や実際の化学製品について化学の知識があまりなくても平易に解説します。例えば毎日身に付けている洋服の素材は?いい香りがするのはなぜ?環境問題はどうなっているの?といったことをとりあげます。

■到達目標
身の回りのいたるところに見られる「化学」を身近に感じてもらい、化学に対する関心と知識が深まります。

■講義方法
１回の講義でトピックを決めて話をします。演示実験や適宜パワーポイント等の視覚的な教材も使用します。

■授業時間外における予・復習等の指示
復習に力を入れてください（講義の内容を意識しながら、身の回りにある「化学」を再度見つめて欲しい)。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回小エッセーを授業の終わりに書いてもらいます
定期試験（70%）語句説明や論述式問題から評価します。
定期試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
化学の話を肩ひじ張らずにします。講義内容はビギナー向けですので化学の知識がなく化学式が苦手という人でも大歓迎です。より高度な内容を望む学生は他の講義を選択してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業が終わったあと研究室で行います。

■講義計画
①グリーンケミストリー
②合成繊維
③界面活性剤
④空が青いのは?－色の化学－
⑤ゲルの化学－砂漠の緑化に役立つ吸水性高分子－
⑥香りの化学
⑦最先端ディスプレイ－液晶orプラズマ?－
⑧中間テスト
⑨植物のつくるエネルギー－光合成－
⑩微生物発酵でつくられる酒、味噌
⑪コスメの化学
⑫水の不思議
⑬原子力エネルギー
⑭ゴムの化学
⑮電池の歴史

生活の中の数学

【担当】國府　宏枝、山岸　義和
【開講】前期　水３

■サブタイトル
現代数学のアイデア
■講義概要
高校まではみんなが数学を学んできましたが、大学では縁遠くなってしまう人が多いかもしれません（統計は使う専攻が多そうですね）。これはとても残念なことで、もう少し進んだ数学には、高校までで出会ったのとは全然違う、新しいアイデアがたくさん出てくるんです。また、数学は入試以外に役立たない、と思っている人もいるかもしれませんが、そんなことはありません。数学は世の中の現実の問題に深く関わっています。
この講義では、高校までで学ばなかったような数学のいろいろな新しいアイデアを、数学が作られてきた動機にもどって、直観のはたらく現実世界を舞台として解説します。この講義に参加して、数学の美しさの一端を感じるとともに、数学が実際に役立つ（こともある）ことを実感しましょう。
なお、この科目では、特定の専攻分野のための数学の基礎知識の準備のためのものではありません。
■到達目標
数学の各分野独特の考え方や方法論の一端を感じることで頭が柔らかくなるかもしれません。また、現実の問題で、数学を利用して解決できそうかちょっと考えてみるモード、が自分の頭の中に生まれるかもしれません。
■講義方法
担当教員が内容を説明しつつ、講義の参加者に実際に問題を考えてもらいます。その結果を、ときどき、eラーニングシステムで教員に返してもらい、その結果をもとにさらに参加者とともに考えます。
■系統的履修
この科目の前に履修しておくべき科目は特にありません。高校の数学を復習しながら使います。事前にこの科目を履修しておかないと履修できない科目もありませんが、この科目で統計学に興味を持った人には「生活の中の統計技術」や「統計入門」、論理に興味を持った人には「論理学入門」、コンピュータに興味を持った人には「情報社会とメディア」や「情報と人間」が教養教育科目の中でお奨めです。
■授業時間外における予・復習等の指示
eラーニングシステムを利用します。
■成績評価の方法
その他（100%）
前半の成績評価と後半の成績評価を合算する。
前半は、レポートと、小テストに基づいて評価する予定。
後半は、レポートと、期末試験に基づいて評価する予定。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
到達目標になるべく近づけるように、講義計画や講義方法の詳細は、受講者数やそこまでの授業の状況に応じて変更することがあります。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
瀬田1号館5階501。
■講義計画
①安上がりな高速道路整備－グラフ理論と最小シュタイナー木
②一筆書きできる図形できない図形－グラフ理論
③コーヒーカップ=ドーナツ－トポロジー
④アンサーを変えるのと変えないのどっちが得?－確率のパラドクス
⑤バーコードのお話－誤り訂正符号
⑥すべてのクレタ人は嘘つき－論理とパラドクス
⑦お天気予報とカオス－力学系
⑧小テストと解説
⑨正方形のタイリングと三平方の定理
⑩ひまわりの葉序と螺旋タイリング
⑪ファレイ数列、フィボナッチ数列、黄金比、連分数
⑫葉序の折り紙
⑬結び目
⑭ペンローズタイル
⑮後半のまとめと解説

生活の中の統計技術

【担当】樋口　三郎
【開講】後期　水３

■サブタイトル
使える統計！
■講義概要
インターネットや携帯電話の通信記録、株価や為替レートの変動、通販サイトの購買履歴など、世の中には大量のデータがありますが、そこからデータの性質を読み取って役立てることは簡単ではありません。この科目では、これらのための技術の集合体である統計を学びます。
授業は数学のりです。高等学校1年程度の数学の予備知識を期待します。統計の予備知識は前提としません。統計ではPC特にExcelなどの表計算ソフトやその他の統計ソフトがよく利用されますが、この授業では、授業形式の制約から、ソフトウェアの使用方法についてはごく限られた範囲しか説明できません。
■到達目標
１変数または２変数の統計データを理解するためにグラフを描いたり平均や分散や相関係数などの量を求めたりすることができる。データ全体からその一部分だけをサンプルとして抽出して調べ、全体の性質を推定することができる。
■講義方法
週に１回の講義からなる授業です。授業時間内に演習を、授業時間外にeラーニングシステムを利用した学習を行うことがあります。
■系統的履修
本科目は、統計入門、社会統計学、数量的方法入門、確率統計・演習、確率・統計、統計学概論などの科目と内容が重なります。これらの科目の大部分よりも、本科目は初等的な範囲にとどまります。これらの科目を履修済、あるいは履修予定の方は、本科目の履修を思いとどまった方がいいかもしれません。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回自主的に復習を行うことを期待します。
必要な予習は、授業時間内および授業サポート hig3.net で直前の回に指示します。
特に必要な復習は、eラーニングシステム上で行います。授業サポート hig3.net にリンクがあります。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）予習復習、授業時間内の演習、アンケートやquizへの反応などの合計です。
小テスト（30%）プチテストとよんでいます。１回。
定期試験（50%）ファイナルトライアルとよんでいます。1回。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
授業の情報は授業サポート hig3.net で提供しています。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業サポート hig3.net を参照してください。
■講義計画
①データの分布（記述統計）
②データを代表する値
③データのちらばりを表す値
④標準得点と偏差値
⑤２変量データの分布
⑥回帰分析
⑦確率
⑧プチテスト
⑨離散的な確率分布
⑩連続的な確率分布
⑪正規分布
⑫中心極限定理
⑬母集団と標本・点推定
⑭区間推定
⑮比率の推定

生活の中の統計技術

【担当】香川　文庸
【開講】前期　木3

■サブタイトル
統計数値に騙されないようになろう！

■講義概要
新聞、TV、書物、インターネットなど様々なメディアにおいて統計数値およびそれを加工した統計指標が活用されている。我々はそうした統計数値や統計指標を無批判に信じたり、そこから誤ったイメージをくみ取ったりしがちである。この講義では、①統計とはいかなるものであり、どのようなプロセスで作成されているのかを理解することから出発し、②各種の統計数値やそれを用いた分析結果に惑わされないようするにはどうしたらよいのか、③統計を活用する際にはどのような点に留意せねばならないのか、について簡単な数値例を用いながら解説する。

■到達目標
(1) 統計と統計学の概念や歴史を知る。
(2) 統計資料の作成プロセスを知り、その段階に含まれる問題点について理解する。
(3) 社会環境の変化と統計数値の意味の関係について理解する。
(4) 統計指標、統計数値のグラフ化、統計数値を用いた予測などに潜む問題点について学ぶ。

■講義方法
口述による講義を中心としますが、出席代わりに、その授業の内容に関する練習問題を解いて提出していただくことがあります。そのためルート(√)キー付きの電卓を必ず持参するようにしてください。

■授業時間外における予・復習等の指示
各回の内容は連続性を持っています。前の回の授業を復習してから講義に出席するようにしてください。講義時に資料をプリントとして配布する予定ですが､欠席した方は次の回までに自助努力で（友人などから）入手し、目を通しておくようにしてください。また、新聞やニュースで数字が語られるときには、それに何か「裏」はないのか考えてみてください。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
小テスト（20%）
定期試験（40%）

■テキスト
特にありません。プリント等を配布します。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
統計学＝数学というイメージを持つ方が多いのですが、必ずしもそれは正しくありません。実際、この講義で使うのは、加減乗除と√計算だけです。将来、社会に出ていくみなさんにとって、世間一般でいわれていることを「少し斜めから見る」という態度も必要です（いつもそうでは困りますが）。なお、他の学生の聴講を妨げる行為をした方については退席をお願いすることがありますので、注意してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義開始時に通知します。

■講義計画
①ガイダンス・オリエンテーション
②統計とは何か：統計と統計学の歴史、統計体系（古代の人も統計を作った）
③統計はどう作られているか：統計調査のプロセス（誰が、どうやって作っている?）
④統計数値は信用できるのかⅠ：調査段階の問題（日本人とは誰ですか?）
⑤統計数値は信用できるのかⅡ：社会環境の変化と統計数値（交通事故の死者は本当に減っているのですか?）
⑥記述統計の基礎Ⅰ：代表値とバラツキ（「平均」は平均ではない?）
⑦記述統計の基礎Ⅱ：データの分布（ゾウの体重とネズミの体重ではどちらがよりバラバラなのか?）
⑧ここまでの復習（小テスト：予定）
⑨統計指標の信頼性：日本の食料自給率がずっとぴったり40%なのですが・・・
⑩数値のグラフ化と印象操作：新聞によって同じ数字に基づく報道内容が違うのは何故?
⑪確率の基礎Ⅰ：3割バッターは4打席あれば最低1本はヒットを打つか?
⑫確率の基礎Ⅱ：宝くじを買うことは合理的か?
⑬関係性を疑う：相関係数（ジャンクフードで子どもはキレるのか?）
⑭予測の信頼性：回帰分析（このままいくと何千年後かに最後の日本人が死ぬらしい）
⑮まとめと試験実施要領の解説

生活の中の物理

【担当】石崎　俊雄
【開講】後期　月2

■サブタイトル
身の回りの物理と科学技術

■講義概要
身の回りの科学技術に限っても、その進歩は著しく、益々高度になると共に複雑になり、その仕組みを理解して使うことは益々難しくなっている。それ故に、その基本的な仕組みを知って、正しく使うのみならず、人類の将来に貢献する科学技術の推進のさせ方がより強く求められている。この講義では、誰もが恩恵に浴している科学技術に使われている物理的仕組みを、身の回りの物理現象に注目することから、平易に理解することを目的としている。毎回、話題を一つ取り上げ、ビジュアルな資料提示の手段を採り入れたりすることにより、その物理的現象に興味を持ち注目することから始めて、その物理的仕組みについて理解していく。文科系、理科系の履修にかかわらず、身の回りの物理現象に対する直観的な理解を促進し、科学に対する興味を刺激するようなわかり易い講義を行う。

■到達目標
身の回りの物理現象ならびに科学技術の仕組みと理屈に強く関心を持つようになる。同時に、物理は数少ない基本法則から、論理的に物理現象を解明したり説明したりすること、さらに応用として人に役立つ便利で確実に動作する機械を作るところに特長があるとわかることが講義目標とも言える。

■講義方法
授業計画に示すように、毎回一つのテーマについて、身の回りの自然としての物理現象または科学技術としての物理学の応用例について、直観的な理解が深まるような授業を行う。

■系統的履修
一般に物理関係の科目を受講すると効果的であるはずであるが、論理的に考えることを訓練する科目はすべて役に立つ。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義計画に示したテーマについて、講義の前後に関連する資料（本、新聞・雑誌、インターネットなど何でも可）でもっと詳しく調べて、自分の興味を膨らませていくこと。

■成績評価の方法
平常点（100%）講義を頭と耳と目を使って聴いているか、さらに講義内容を理解しているかを問う小テストにより評価する。原則として毎回実施する。
平常点を小テストで評価することの意味をよく認識してください。講義を聴いて考えているか努力しているか、その度合い、即ち平常点を、小テストで調べます。能力テストではありません。従って、問いに対して、講義内容を用いて自分の言葉で回答してはじめて評価されます。理由が何であれ、講義を聴いていないのですから、遅刻者は小テストを受ける資格はありません。注意する必要はないと思いますが、代筆等の不正行為に対しては関係した者全員が不合格になります。

■テキスト
講義において、主としてPowerPointにより示す内容、さらに他のマルチメディアを使って示す内容

■参考文献
藤城敏幸　『生活の中の物理』　東京教学社　1,800円
広く科学分野の出版物、書籍から科学雑誌、大手の新聞の科学欄の記事に関心を持って読んでください。

■履修上の注意・担当者からの一言
出席しても、耳を貸すだけでは修得できません。教壇で説明していることをしっかり見ながら聞くことが必須です。さらに、その場で考えることが要求されます。また、理解した内容を、説明に適した簡単なスケッチ図やグラフを添えて、的確な文章で表現する努力が評価されます。なお、高等学校で物理を学んでいることを前提にすることはありません。講義の時間に学ぶ基本概念と法則から理解ができるはずと考えてください。勿論、そのためには小中学校で教わった理科と算数と、大学生レベルの日本語と、勉学の努力は前提になります。さらに、成績評価の方法の項に記載した内容に注意してください。

■講義計画
①振り子の原理…位置エネルギーと運動エネルギー
②てこの原理…支点、力点、作用点
③ロケットの仕組み…アポロからスペースシャトル、はやぶさまで
④引力と遠心力…人工衛星の話（宇宙ステーションから静止衛星まで）
⑤モータと発電機…電気はどこで作られる。電車の話。
⑥電波の利用…ラジオ、テレビの話
⑦電子レンジの原理…なぜ温まるか、おいしい冷凍食品
⑧楽音の周波数の規則、音階、和音…十二平均率音階、純正調音階、和音
⑨ギターの絃の振動、たいこの皮の振動…波の伝搬と反射の話
⑩温度と熱…物の温まり方、熱の伝わり方
⑪トランジスタと半導体…エレクトロニクスの話
⑫粒子と波動の２重性…量子力学と特殊相対性理論
⑬地球と宇宙…気候変動、オーロラの話
⑭電話とインターネット、コンピュータの話
⑮携帯電話・スマートホンの仕組みと中身

政治学入門

【担当】山崎　充彦
【開講】前期　木3

■サブタイトル
議会制と選挙制度、その歴史と現実

■講義概要
今日、我が国の議会制度は、「熱狂」と「無関心」という相反する問題点を抱えている。今は昔となったとはいえ、「小泉劇場」と称され、いわゆる「小泉チルドレン」（幼稚な名称！）なるものの誕生に始まる「大衆的熱狂」傾向（これはいわゆる「ハシズム」問題へと続いているが）と、反面、棄権者50％近くという低投票率に象徴される「政治的無関心」とが同時進行の状態にある。特定の人気政治家の演説に熱狂しつつも、同時に、国会の現状に失望感と幻滅を抱く国民は少なくない。だが、我々国民を失望させている国会議員たちを選び出したのは他ならぬ、我々国民自身であるという点も忘れてはならない。「一国の政治の現状は、その国民のレヴェルを如実に反映する」、「国民の知的レヴェルを超えた政治など持ち得ない」、としばしば指摘される。つまり、失望させられる政治像・政治家像もまた、我々自身の姿という面を否定できない。選挙運動期間中に性犯罪を犯し、後にそれに因り辞職し有罪判決を受けた破廉恥なタレントに200万を超える票を投じ、知事の座につけたのは誰であったのか、考えてみられたい。「国会で所信表明演説を行った直後に辞意表明するようなお粗末な総理大臣」（当該人物はまたもや首相になってしまった！）、「マンガのみを愛読し中学生程度の漢字読解力すら欠如した総理大臣」（当該人物は今度は副総理になってしまった！）を選んだのはどこの国の国会議員たちであったのか、その国会議員を選んだのは誰であったのか！
この講義では、現代民主主義にとって不可欠な制度となった議会制を主たる対象とし、議会制にとって不可欠な制度である選挙制度の原理や歴史、そして現代日本の政治の現状について考える。我が国の主権者たる国民は、本人の専攻・社会的立場に関わりなく選挙に際して等しく１票を有する。そうした国民有権者が、政治に参加するに際して最小限知っておくべき知識・判断規準の伝授を目標とする。

■到達目標
この講義では、龍谷大学建学の理念の一たる「共生」の精神に則り、その精神を体現しつつ、政治におけるいかなる「タブー」も打破することを念頭においている。特定の政党・団体だけを支持・宣伝あるいは非難・攻撃することは無いのはもちろんだが、同時に、特定の政党・団体に遠慮することもない。政治に関わるすべての組織について、忌憚のない批評・批判を行い、時として内幕暴露も行う。一国民たる我々は、権力を持つ者たちに対して、常に「批判的精神」を抱くことが絶対に必要であるからだ。
仮に、講義の内容に関して、特定政党・団体に関係する学生諸君から苦情が呈せられるような事態が生じるにせよ、決して門前払いなどにはせず、当該学生諸君らとの「共生」をめざし、相互寛容の精神を以て、冷静かつ真摯な姿勢で対話を行うであろう。370年の歴史と伝統を有する龍谷大学において、共生の精神に基づき、いかなる圧力にも屈することなく、「学問の自由」「言論の自由」「思想信条の自由」擁護を貫徹し、政治上、如何なる立場にも左右されることのない、「タブー打破」を掲げた講義とする。
様々な考え方を持つ者が「共生」すること、こうした相互の寛容さこそが、政治世界のみならず現代社会に求められるものであり、それこそが龍谷大学建学の理念である。意見が異なる者であっても、非難・抗議・敵視・排除するのではなく、互いに寛容の精神を持ち、「共生」することが龍谷大学人として望ましい姿であろうし、そうした姿勢こそが卒業後、一般社会人として高い評価を受けることにもなると考える。"Nobody is Right"！

■講義方法
通常の講義（口述）形式で行う。講義で話したことを、各自、頭で整理しつつノートをとってもらいたい。高校の授業とは違って、講義内容のすべてを板書するわけではないことに留意されたい。
尚、シラバスは一つの目安であり、必要に応じて入れ替えなど、状況によって最適と思われる形で講義を運営する方針であることを事前了解してもらいたい。

■系統的履修
法学入門、日本国憲法など

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に指示する

■成績評価の方法
定期試験（100%）論述式試験。
例年、受講生多数につき、出席調査などは不可能である。従って、出席点加算や講義中の小テスト、レポート提出などは一切行わない。

■テキスト
特になし

■参考文献
必要に応じて、講義中に紹介する。但し、「これ１冊ですべて理解可能」といったような安直な本など存在しないことに留意されたい。

■履修上の注意・担当者からの一言
私語、居眠り、マンガなどを読むことなど絶対厳禁。携帯電話・メールの使用も絶対に認めない。教壇上から見渡せば、使用している姿は一目瞭然であり、注意を受ける前にあらかじめ電源を切っておくこと。態度の悪い者には、退室を命じることもあるので、あらかじめ留意の上、登録履修されたい。

■講義計画
①はじめに～講義内容の説明・講義方針と「諸注意事項」の伝達
②議会制や選挙制度の基本原理、さまざまな矛盾点など
③参議院の選挙制度①～過去：全国区
④参議院の選挙制度②～過去：拘束名簿式比例代表制
⑤参議院の選挙制度③～現在：非拘束名簿式比例代表制
⑥衆議院の選挙制度①～過去：中選挙区制
⑦衆議院の選挙制度②～現在：小選挙区比例代表並立制
⑧戦後日本の政治体制～「五五年体制」の成立とその意味
⑨「五五年体制」の実態
⑩「五五年体制」の功罪～自民党長期政権の光と影
⑪連立政権時代の到来とその特質
⑫自民党政権の崩壊と民主党政権の成立　－政権交代
⑬民主党政権の功罪、民主党政権崩壊の要因
⑭衆参両院のいわゆる「ねじれ」状態について
⑮まとめ－現代日本政治の諸問題

政治学入門

【担当】山崎　充彦
【開講】後期　木3

■サブタイトル
議会制と選挙制度、その歴史と現実

■講義概要
今日、我が国の議会制度は、「熱狂」と「無関心」という相反する問題点を抱えている。今は昔となったとはいえ、「小泉劇場」と称され、いわゆる「小泉チルドレン」（幼稚な名称！）なるものの誕生に始まる「大衆的熱狂」傾向（これはいわゆる「ハシズム」問題へと続いているが）と、反面、棄権者50％近くという低投票率に象徴される「政治的無関心」とが同時進行の状態にある。特定の人気政治家の演説に熱狂しつつも、同時に、国会の現状に失望感と幻滅を抱く国民は少なくない。だが、我々国民を失望させている国会議員たちを選び出したのは他ならぬ、我々国民自身であるという点も忘れてはならない。「一国の政治の現状は、その国民のレヴェルを如実に反映する」、「国民の知的レヴェルを超えた政治など持ち得ない」、としばしば指摘される。つまり、失望させられる政治像・政治家像もまた、我々自身の姿という面を否定できない。選挙運動期間中に性犯罪を犯し、後にそれに因り辞職し有罪判決を受けた破廉恥なタレントに200万を超える票を投じ、知事の座につけたのは誰であったのか、考えてみられたい。「国会で所信表明演説を行った直後に辞意表明するようなお粗末な総理大臣」（当該人物はまたもや首相になってしまった！）、「マンガのみを愛読し、中学生程度の漢字読解力すら欠如した総理大臣」（当該人物は今度は副総理になってしまった！）を選んだのはどこの国の国会議員たちであったのか、その国会議員を選んだのは誰であったのか！
この講義では、現代民主主義にとって不可欠な制度となった議会制を主たる対象とし、議会制にとって不可欠な制度である選挙制度の原理や歴史、そして現代日本の政治の現状について考える。我が国の主権者たる国民は、本人の専攻・社会的立場に関わりなく選挙に際して等しく１票を有する。そうした国民有権者が、政治に参加するに際して最小限知っておくべき知識・判断規準の伝授を目標とする。

■到達目標
この講義では、龍谷大学建学の理念の一たる「共生」の精神に則り、その精神を体現しつつ、政治におけるいかなる「タブー」も打破することを念頭においている。特定の政党・団体だけを支持・宣伝あるいは非難・攻撃することは無いのはもちろんだが、同時に、特定の政党・団体に遠慮することもない。政治に関わるすべての組織について、忌憚のない批評・批判を行い、時として内幕暴露も行う。一国民たる我々は、権力を持つ者たちに対して、常に「批判的精神」を抱くことが絶対に必要であるからだ。
仮に、講義の内容に関して、特定政党・団体に関係する学生諸君から苦情が呈せられるような事態が生じるにせよ、決して門前払いなどにはせず、当該学生諸君らとの「共生」をめざし、相互寛容の精神を以て、冷静かつ真摯な姿勢で対話を行うであろう。370年の歴史と伝統を有する龍谷大学において、共生の精神に基づき、いかなる圧力にも屈することなく、「学問の自由」「言論の自由」「思想信条の自由」擁護を貫徹し、政治上、如何なる立場にも左右されることのない、「タブー打破」を掲げた講義とする。
様々な考え方を持つ者が「共生」すること、こうした相互の寛容さこそが、政治世界のみならず現代社会に求められるものであり、それこそが龍谷大学建学の理念である。意見が異なる者であっても、非難・抗議・敵視・排除するのではなく、互いに寛容の精神を持ち、「共生」することが龍谷大学人として望ましい姿であろうし、そうした姿勢こそが卒業後、一般社会人として高い評価を受けることにもなると考える。"Nobody is Right"！

■講義方法
通常の講義（口述）形式で行う。講義で話したことを、各自、頭で整理しつつノートをとってもらいたい。高校の授業とは違って、講義内容のすべてを板書するわけではないことに留意されたい。
尚、シラバスは一つの目安であり、必要に応じて入れ替えなど、状況によって最適と思われる形で講義を運営する方針であることを事前了解してもらいたい。

■系統的履修
法学入門、日本国憲法など

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に指示する

■成績評価の方法
定期試験（100%）論述式試験
例年、受講生多数につき、出席調査などは不可能である。従って、出席点加算や講義中の小テスト、レポート提出などは一切行わない。

■テキスト
特になし

■参考文献
必要に応じて、講義中に紹介する。但し、「これ１冊ですべて理解可能」といったような安直な本など存在しないことに留意されたい。

■履修上の注意・担当者からの一言
私語、居眠り、マンガなどを読むことなど絶対厳禁。携帯電話・メールの使用も絶対に認めない。教壇上から見渡せば、使用している姿は一目瞭然であり、注意を受ける前にあらかじめ電源を切っておくこと。態度の悪い者には、退室を命じることもあるので、あらかじめ留意の上、登録履修されたい。

■講義計画
①はじめに～講義内容の説明・講義方針と「諸注意事項」の伝達
②議会制や選挙制度の基本原理、さまざまな矛盾点など
③参議院の選挙制度①～過去：全国区
④参議院の選挙制度②～過去：拘束名簿式比例代表制
⑤参議院の選挙制度③～現在：非拘束名簿式比例代表制
⑥衆議院の選挙制度①～過去：中選挙区制
⑦衆議院の選挙制度②～現在：小選挙区比例代表並立制
⑧戦後日本の政治体制～「五五年体制」の成立とその意味
⑨「五五年体制」の実態
⑩「五五年体制」の功罪～自民党長期政権の光と影
⑪連立政権時代の到来とその特質
⑫自民党政権の崩壊と民主党政権の成立　－政権交代
⑬民主党政権の功罪、民主党政権崩壊の要因
⑭衆参両院のいわゆる「ねじれ」状態について
⑮まとめ－現代日本政治の諸問題

生命と科学

【担当】宮武　智弘
【開講】前期　金１

■講義概要
生体の中に含まれる様々な化学物質は生命活動において重要な役割を果たしている。私たちはそれら生体物質の構造と機能を理解し生活の向上のために巧みに利用しており、物質生産や医療など様々な分野で生体に由来する材料が利用されている。一方で、こうした分子生物学の進歩はクローン技術など生命倫理に関わる問題も引き起こしている。本講義では生体内で活躍している分子のすがたを解説し、それらと私たちの生活との関わりについても紹介したい。

■到達目標
生体物質についての知識を得ることによって、それらが私たちの生活に与える影響について考えることができるようになる。

■講義方法
参考書の内容に準じながら、適時資料を配布する。

■授業時間外における予・復習等の指示
生命科学に関する基礎的な知識を積み上げ式に講義するので、参考書やその他の生物化学の書籍を用いながら復習することが重要である。また、次週の講義内容についても講義の最後に指示するので、関連する内容を予習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
柳田充弘、佐藤文彦、石川冬木編　『生命科学』　東京化学同人　2,400円

■履修上の注意・担当者からの一言
生体に含まれる化学物質は複雑なものが多いが、できるだけ平易に説明するよう努めたい。よって、高校や大学で化学を履修していなくとも、生物に興味がある学生の受講を薦める。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室　瀬田学舎　１号館２０７号室
オフィスアワー（月）５講時、（木）４講時

■講義計画
①生命と化学物質
②生命科学と私たちの生活
③アミノ酸とタンパク質
④タンパク質のはたらき
⑤酵素のはたらき
⑥遺伝子とDNA
⑦遺伝情報の伝達
⑧細胞と生殖
⑨生命倫理
⑩バイオテクノロジー
⑪脂質と脂肪
⑫糖質の科学
⑬生命科学と環境
⑭光合成と生命のエネルギー
⑮まとめ

中国語ＩＡ

【担当】張　健同
【開講】前期　月１

■講義概要
中国語ＩＡは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生は学習者の発音の誤りや表現をなおします。

■系統的履修
中国語ＩＢ、ＩＣとＩＤ及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）
そ の 他（10%）宿題、授業態度、出席及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著　『超入門中国語』　晃洋書房

■参考文献
※授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＡ

【担当】韓　正愛
【開講】前期　水３

■講義概要
中国語ＩＡは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生は学習者の発音の誤りや表現をなおします。

■系統的履修
中国語ＩＢ、ＩＣとＩＤ及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業への出席状況、宿題、授業態度
小テスト（70%）

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献
※授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＢ

【担当】張　健同
【開講】後期　月１

■講義概要
中国語ＩＢは、中国語ＩＡを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標
ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修
中国語ＩＡ、ＩＣとＩＤ及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）
そ の 他（10%）宿題、授業態度、出席及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献
※授業中に提示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＢ

【担当】韓　正愛
【開講】後期　水３

■講義概要
中国語ＩＢは、中国語ＩＡを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標
ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修
中国語ＩＡ、ＩＣとＩＤ及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業への出席状況、宿題、授業態度
小テスト（70%）

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献
※授業中に提示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＣ

【担当】張　健同
【開講】前期　水３

■講義概要
中国語ＩＣは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《１冊めの中国語（会話クラス）》という教材を使います。それにより基本的な文法と簡単な日常会話を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習と宿題をしっかりやってください。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
出席（10％）、宿題（20%）、小テスト（70％）合計100点満点で評価します。

■テキスト
劉穎 （ほか）『１冊めの中国語（会話クラス）』 白水社
2,415円

■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①発音１
②発音２
③発音３
④第一課：１、人称代詞；２、“是”；３、“不是”；４、副詞 “也” “都” “不”
⑤第二課：５、指示代詞－中国語の「こそあど」；６、“吗” 疑問文；７、反復疑問文
⑥第三課：８、形容詞文；９、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
⑦第四課：12、“的”（日本語の「の」）；13、“的” 後の名詞省略；14、親族呼称；15、“的” が省略される条件
⑧第五課：16、前置詞 “在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
⑨第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞 “儿”；22、“呢”
⑩第七課：23、モノを数える；24、“有”（動詞「もつ」）；25、“二” と “两”
⑪第八課：26、“有”（動詞「ある／いる」）；27、“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
⑫第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么” と “那么”
⑬まとめ１
⑭まとめ２
⑮まとめ３

中国語ＩＣ

【担当】韓　正愛
【開講】前期　水４

■講義概要
中国語ＩＣは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることを目標としています。

■講義方法
講義毎にテーマを設定し、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生が学習者の発音の誤りや表現を直す法式をとります。
ショーテストも実施しますが、実施日時は講義中にお知らせします。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）授業への出席状況、宿題、授業態度
定期試験（50%）

■テキスト
内田慶市ほか 『中国語への道』 金星堂　2,380円

■参考文献
特になし

■講義計画
①ピンイン母音
②ピンイン子音
③第１課　会話と要点
④第１課　練習
⑤第２課　会話と要点
⑥第２課　練習
⑦第３課　会話と要点
⑧第３課　練習
⑨第４課　会話と要点
⑩第４課　練習
⑪第５課　会話と要点
⑫第５課　練習
⑬第６課　会話と練習
⑭第６課　練習
⑮まとめ

中国語ＩＣ

【担当】張　健同
【開講】前期　水４

■講義概要
中国語ＩＣは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《１冊めの中国語（会話クラス）》という教材を使います。それにより基本的な文法と簡単な日常会話を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習と宿題をしっかりやってください。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
出席（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。

■テキスト
劉穎（ほか）『１冊めの中国語（会話クラス）』白水社　2,415円

■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①発音１
②発音２
③発音３
④第一課：１、人称代詞；２、“是”；３、“不是”；４、副詞 “也” “都” “不”
⑤第二課：５、指示代詞－中国語の「こそあど」；６、“吗” 疑問文；７、反復疑問文
⑥第三課：８、形容詞文；９、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
⑦第四課：12、“的”（日本語の「の」）；13、“的” 後の名詞省略；14、親族呼称；15、“的” が省略される条件
⑧第五課：16、前置詞 “在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
⑨第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞 “儿”；22、“呢”
⑩第七課：23、モノを数える；24、“有”（動詞「もつ」）；25、“二” と “两”
⑪第八課：26、“有”（動詞「ある／いる」）；27、“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
⑫第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么” と “那么”
⑬まとめ１
⑭まとめ２
⑮まとめ３

中国語ＩＤ

【担当】張　健同
【開講】後期　水３

■講義概要
中国語ＩＤは中国ＩＣの引き続きです。
■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。
■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。
■授業時間外における予・復習等の指示
予習と宿題をしっかりやってください。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
出席（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。
■テキスト
劉穎（ほか）『１冊めの中国語（会話クラス）』白水社　2,415円
■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。
■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①中国語ＩＣの復習
②第十課：32、進行の表し方；33、三つの“在”；34、前置詞；35、助動詞Ｉ
③第十一課：36、連動文；37、使役の表し方；38、兼語文；39、“给”
④第十二課：40、“不”と“没”；41、二重目的語；42、様態補語
⑤第十三課：43、助動詞Ⅱ「できる」；44、助動詞Ⅲ「したい」；45、“了”；46、“几”と“多少”
⑥第十四課：47、中国語のアスペクト；48、“着”－持続；49、「过」－経験
⑦第十五課：50、「実現」の“了1”leと語気助詞の“了2”le；51、「経験」の“过1”と「終結」の“过2”
⑧第十六課：52、自然現象の表し方；53、比較；54、「少し」の種々相；55、“快要…了”
⑨第十七課：56、結果補語；57、受け身の表し方
⑩第十八課：58、動詞の重ね方；59、“一下”；60、“把”構文
⑪第十九課：61、趨向補語；62、結果補語、趨向補語の可能形；63、“越来越…”
⑫第二十課：64、疑問詞の呼応文型；65、複文の意味関係；66、「動詞＋目的語」構造の文
⑬まとめ１
⑭まとめ２
⑮まとめ３

中国語ＩＤ

【担当】韓　正愛
【開講】後期　水４

■講義概要
中国語ＩＤは、会話や文章の表現を中心に学びます。発音の練習はもちろん、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も取り入れていきたいと思います。また、自己紹介文の書き方も学ぶことができます。
■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、日常会話、そして特に自己紹介の仕方を身につけることを目標としています。
■講義方法
講義毎にテーマを設定し、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生が学習者の発音の誤りや表現を直す法式をとります。
ショーテストも実施しますが、実施日時は講義中にお知らせします。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）授業への出席状況、宿題、授業態度
定期試験（50%）
■テキスト
内田慶市ほか　『中国語への道』　金星堂　2,380円
■参考文献
特になし

■講義計画
①第７課　会話と要点
②第７課　練習
③第８課　会話と要点
④第８課　練習
⑤第９課　会話と要点
⑥第９課　練習
⑦第10課　会話と要点
⑧第10課　練習
⑨第11課　自己紹介文の書き方
⑩第11課　自己紹介文の読み方
⑪第12課　会話と要点
⑫第12課　練習
⑬第13課　会話と要点
⑭第13課　練習
⑮まとめ

中国語ＩＤ

【担当】張　健同
【開講】後期　水４

■講義概要
中国語ＩＤは中国ＩＣの引き続きです。
■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。
■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。
■授業時間外における予・復習等の指示
予習と宿題をしっかりやってください。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
出席（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。
■テキスト
劉穎（ほか）『１冊めの中国語（会話クラス）』白水社　2,415円
■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。
■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①中国語ＩＣの復習
②第十課：32、進行の表し方；33、三つの“在”；34、前置詞；35、助動詞Ｉ
③第十一課：36、連動文；37、使役の表し方；38、兼語文；39、“给”
④第十二課：40、“不”と“没”；41、二重目的語；42、様態補語
⑤第十三課：43、助動詞Ⅱ「できる」；44、助動詞Ⅲ「したい」；45、“了”；46、“几”と“多少”
⑥第十四課：47、中国語のアスペクト；48、“着”－持続；49、「过」－経験
⑦第十五課：50、「実現」の“了1”leと語気助詞の“了2”le；51、「経験」の“过1”と「終結」の“过2”
⑧第十六課：52、自然現象の表し方；53、比較；54、「少し」の種々相；55、“快要…了”
⑨第十七課：56、結果補語；57、受け身の表し方
⑩第十八課：58、動詞の重ね方；59、“一下”；60、“把”構文
⑪第十九課：61、趨向補語；62、結果補語、趨向補語の可能形；63、“越来越…”
⑫第二十課：64、疑問詞の呼応文型；65、複文の意味関係；66、「動詞＋目的語」構造の文
⑬まとめ１
⑭まとめ２
⑮まとめ３

中国語セミナーA

【担当】李　愛華
【開講】前期　水３

■講義概要
初級中国語を学んだ学生を対象とします。正しい発音の復習を重視しながら中国語の聴く、話す、読む、書く、訳す能力を養います。それに会話、スピーチなどの口頭表現力を向上していきます。必要に応じてDVDなどの映像を通して中国及び中国文化に対する理解を深めます。
■到達目標
簡単な作文、スピーチできること。
■講義方法
演習方式
■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に指示します
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）授業の進め状況による変えることがある。
■テキスト
劉　穎　　栄　森『２冊めの中国語購読クラス』白水社　2,300円
■参考文献
共同編集　『中日辞書』　北京商務印刷館　小学館　7,000円
■講義計画
講義中で指示します

中国語セミナーB

【担当】李　愛華
【開講】後期　水３

■講義概要
初級中国語を学んだ学生を対象とします。正しい発音の復習を重視しながら、中国語の聴く、話す、読む、書く、訳す能力を養います。それに会話、スピーチなど口頭表現力を向上していきます。必要に応じてDVDなどの映像を通して中国及び中国文化に対する理解を深めます。

■到達目標
簡単な作文、スピーチ。

■講義方法
演習方式

■授業時間外における予・復習等の指示
講義中で指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）授業進む状況による変えることがある。

■テキスト
劉　頴　　栄　森『２冊めの中国語購読クラス』白水社　2,300円

■参考文献
共同編集　『中日辞典』　北京商務印刷館　小学館　7,000円

■講義計画
講義中で指示します。

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】前期　月３

■サブタイトル
倫理観の根を求めての序章

■講義概要
哲学は自然、人間、社会を考えるうえでの一貫した道筋を見いだそうと、模索を続けながら受け継がれてきた、二千数百年以上の歴史をもつ営為である。難解で日常生活に関係ないイメージをもたれがちであるが、実は人間の生き方を問うていくことに直結するものでもある。「どう生きていくか」を問うことは「よく生きること」、つまりわれわれがよって立つ「倫理観」の根を求めることである。「倫理観の根を求めて」問いを発し、筋道立てて考える、そうした訓練の「序章」に本講座がなれればいいと考える。一人一人がただ受動的に聞くだけでなく、「自ら考える」姿勢をもって積極的に参加してほしい。

■到達目標
答をすぐに求めるのでなく、問いを立てて考える姿勢を身につけてほしい。

■講義方法
講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布するが、詳細講義資料はホームページに掲載する【サイト名：せたなべ哲学／ GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。詳細資料を読み上げ、補足する形で講義を進めるが。詳細資料は配布しないので、各自必要に応じてダウンロードやプリントアウトしておくことが望ましい。また期間中三回、講義時間中に各自の考えをまとめて書くミニレポートを実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料には目を通しておいてほしい。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）講義中に実施するミニレポートの評価／詳細は講義中に指示する。
レポート（50%）学期末に提出を求めるメインレポート／詳細は講義中に指示する。
ミニレポートのテーマは実施当日に講義中で伝えるが、実施に先立ち前週の木曜日にホームページにも公開する。レポート実施当日にやむを得ず参加できない場合、ホームページでテーマ、提出要項を確認のうえ最終締切日までに提出すること。

■テキスト
特になし

■参考文献
各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp
添付ファイル（所定ファイルはホームページからダウンロードすること）でのレポート提出→7_7@moon-the.biz[受取確認が自動返信メールで来ます。自動返信メールが来ない場合は上記Yahooメールアドレスに送信しなおしてください。]

■講義計画
①導入／哲学とは?
②変わらないものを求めて／タレス～原子論
③ソフィストとソクラテス
④快楽と幸福／古代ギリシアおよびヘレニズム期の哲学
⑤ミニレポート①
⑥性格の責任は自分にある?／アリストテレス
⑦究極の自由／プロティノス～アウグスティヌス
⑧ルネサンスから近代へ／機械論的自然観の形成
⑨ミニレポート②
⑩カントと純粋理性
⑪カントと道徳
⑫ニーチェと永劫回帰
⑬ミニレポート③
⑭私の成功は私の力?／ロールズ
⑮まとめ

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】後期　月３

■サブタイトル
倫理観の根を求めての序章
■講義概要
哲学は自然、人間、社会を考えるうえでの一貫した道筋を見いだそうと、模索を続けながら受け継がれてきた、二千数百年以上の歴史をもつ営為である。難解で日常生活に関係ないイメージをもたれがちであるが、実は人間の生き方を問うていくことに直結するものでもある。「どう生きていくか」を問うことは「よく生きること」、つまりわれわれがよって立つ「倫理観」の根を求めることである。「倫理観の根を求めて」問いを発し、筋道立てて考える、そうした訓練の「序章」に本講座がなれればいいと考える。一人一人がただ受動的に聞くだけでなく、「自ら考える」姿勢をもって積極的に参加してほしい。
■到達目標
答をすぐに求めるのでなく、問いを立てて考える姿勢を身につけてほしい。
■講義方法
講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布するが、詳細講義資料はホームページに掲載する【サイト名：せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。詳細資料を読み上げ、補足する形で講義を進めるが。詳細資料は配布しないので、各自必要に応じてダウンロードやプリントアウトしておくことが望ましい。また期間中三回、講義時間中に各自の考えをまとめて書くミニレポートを実施する。
■授業時間外における予・復習等の指示
各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料には目を通しておいてほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）講義中に実施するミニレポートの評価／詳細は講義中に指示する。
レポート（50%）学期末に提出を求めるメインレポート／詳細は講義中に指示する。
ミニレポートのテーマは実施当日に講義中で伝えるが、実施に先立ち前週の木曜日にホームページにも公開する。レポート実施当日にやむを得ず参加できない場合、ホームページでテーマ、提出要項を確認のうえ最終締切日までに提出すること。
■テキスト
特になし
■参考文献
各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp
添付ファイル（所定ファイルはホームページからダウンロードすること）でのレポート提出→7_7@moon-the.biz[受取確認が自動返信メールで来ます。自動返信メールが来ない場合は上記Yahooメールアドレスに送信しなおしてください。]
■講義計画
①導入／哲学とは?
②変わらないものを求めて／タレス～原子論
③ソフィストとソクラテス
④快楽と幸福／古代ギリシアおよびヘレニズム期の哲学
⑤ミニレポート①
⑥性格の責任は自分にある?／アリストテレス
⑦究極の自由／プロティノス～アウグスティヌス
⑧ルネサンスから近代へ／機械論的自然観の形成
⑨ミニレポート②
⑩カントと純粋理性
⑪カントと道徳
⑫ニーチェと永劫回帰
⑬ミニレポート③
⑭私の成功は私の力?／ロールズ
⑮まとめ

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】前期　水３

■サブタイトル
自然観を中心として
■講義概要
哲学は二千数百年以上の昔より、自然万物の根源について思いをはせてきた。自然というものは「環境」というわれわれをとりまくものとしてもとらえられるが、われわれもその一部であり、われわれの生き方のモデルを提供しうるものでもあるだろう。われわれの生き方を探る視点と併せて自然というものを今一度とらえ直してみてはどうだろうか。環境問題や自然科学にも目を向けながら、受講者自らも考える機会を提供するひとときとしていきたい。
■到達目標
答をすぐに求めるのでなく、問いを立てて考える姿勢を身につけてほしい。
■講義方法
講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布するが、詳細講義資料はホームページに掲載する【サイト名：せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。詳細資料を読み上げ、補足する形で講義を進めるが。詳細資料は配布しないので、各自必要に応じてダウンロードやプリントアウトしておくことが望ましい。また期間中三回、講義時間中に各自の考えをまとめて書くミニレポートを実施する。
■授業時間外における予・復習等の指示
各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料には目を通しておいてほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）講義中に実施するミニレポートの評価／詳細は講義中に指示する。
レポート（50%）学期末に提出を求めるメインレポート／詳細は講義中に指示する。
ミニレポートのテーマは実施当日に講義中で伝えるが、実施に先立ち前週の木曜日にホームページにも公開する。レポート実施当日にやむを得ず参加できない場合、ホームページでテーマ、提出要項を確認のうえ最終締切日までに提出すること。
■テキスト
特になし
■参考文献
各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp
添付ファイル（所定ファイルはホームページからダウンロードすること）でのレポート提出→6_6@moon-the.biz[受取確認が自動返信メールで来ます。自動返信メールが来ない場合は上記Yahooメールアドレスに送信しなおしてください。]
■講義計画
①導入／哲学とは?
②古代原子論の挑戦
③プラトンの自然観
④アリストテレスの自然観
⑤ミニレポート①
⑥ストア派の自然観
⑦自由と必然をめぐって／プロティノス～アウグスティヌス
⑧ルネサンスの自然観
⑨ミニレポート②
⑩西洋近代の自然観（デカルト・ニュートン）
⑪カントの自然観
⑫カント的道徳法則にのっとりエコロジーを考える
⑬ミニレポート③
⑭ニーチェとインド思想
⑮まとめ

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】後期　水３

■サブタイトル
自然観を中心として
■講義概要
哲学は二千数百年以上の昔より、自然万物の根源について思いをはせてきた。自然というものは「環境」というわれわれをとりまくものとしてもとらえられるが、われわれもその一部であり、われわれの生き方のモデルを提供しうるものでもあるだろう。われわれの生き方を探る視点と併せて自然というものを今一度とらえ直してみてはどうだろうか。環境問題や自然科学にも目を向けながら、受講者自らも考える機会を提供するひとときとしていきたい。
■到達目標
答をすぐに求めるのでなく、問いを立てて考える姿勢を身につけてほしい。
■講義方法
講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布するが、詳細講義資料はホームページに掲載する【サイト名：せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。詳細資料を読み上げ、補足する形で講義を進めるが。詳細資料は配布しないので、各自必要に応じてダウンロードやプリントアウトしておくことが望ましい。また期間中三回、講義時間中に各自の考えをまとめて書くミニレポートを実施する。
■授業時間外における予・復習等の指示
各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料には目を通しておいてほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）講義中に実施するミニレポートの評価／詳細は講義中に指示する。
レポート（50%）学期末に提出を求めるメインレポート／詳細は講義中に指示する。
ミニレポートのテーマは実施当日に講義中で伝えるが、実施に先立ち前週の木曜日にホームページにも公開する。レポート実施当日にやむを得ず参加できない場合、ホームページでテーマ、提出要項を確認のうえ最終締切日までに提出すること。
■テキスト
特になし
■参考文献
各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp
添付ファイル（所定ファイルはホームページからダウンロードすること）でのレポート提出→6_6@moon-the.biz[受取確認が自動返信メールで来ます。自動返信メールが来ない場合は上記Yahooメールアドレスに送信しなおしてください。]
■講義計画
①導入／哲学とは?
②古代原子論の挑戦
③プラトンの自然観
④アリストテレスの自然観
⑤ミニレポート①
⑥ストア派の自然観
⑦自由と必然をめぐって／プロティノス～アウグスティヌス
⑧ルネサンスの自然観
⑨ミニレポート②
⑩西洋近代の自然観（デカルト・ニュートン）
⑪カントの自然観
⑫カント的道徳法則にのっとりエコロジーを考える
⑬ミニレポート③
⑭ニーチェとインド思想
⑮まとめ

ドイツ語ＩＡ

【担当】青山　豊
【開講】前期　月２

■サブタイトル
ドイツを知るための第一歩
■講義概要
ドイツ語というヨーロッパの言語を学ぶことによって、日本語や英語による表現や発想に基づくものとは異なる文化があることを実感し、ドイツ語圏の国々に対する視野を広げ理解を深めることを目標とする。このＩＡの授業では、ことばの学習の第一歩である発音と日常の挨拶からはじめて、さまざまな場面におけるやり取りや自己紹介、状況の説明、さらには平易なドイツ語文の理解へと進めていく。この段階では文法的なポイントにはあまりこだわらず、ドイツ人が普段の生活で話しているなまのことばとしてのドイツ語をそのまま受け入れればよい。授業ではドイツ語を聞き、それを真似て発音することに重きを置く。特に表現力をつけるためにドイツ語ＩＣを併せて履修することを強くすすめる。
■到達目標
「ことば」を学ぶうちに、ドイツ人の生活や文化にも目が向くようになり、現代のドイツやヨーロッパに対する認識もあらたなものとなるだろう。
■講義方法
テキストの音声を毎回聞きながら授業を進める。
■系統的履修
ドイツ語ＩＣ（特にドイツ語を総合的に理解するために、この科目との同時履修が望ましい。）
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回短時間でも予習と復習をすること。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席を重視する
小テスト（50%）
■テキスト
小野寿美子　他『クロイツング　ネオ』朝日出版社　2,500円
■参考文献
辞書等については授業中に説明する。
■履修上の注意・担当者からの一言
ＣＤを用いてドイツ語を聞き取る努力をしてほしい。質問や相談事がある場合には遠慮なくどうぞ。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp
■講義計画
①アルファベート
②綴りと発音
③自己紹介
④国名
⑤趣味は漫画
⑥職業
⑦フランクフルト中央駅で
⑧小テスト
⑨家族
⑩エコ先進国
⑪チューリヒの町で
⑫ホテルに宿泊
⑬文法の補足
⑭同上
⑮小テスト

ドイツ語ＩＡ

【担当】呉　春吉
【開講】前期　月３

■講義概要
この授業は、初めてドイツ語を学習する人を対象とし,ドイツ語のアルファベットの読み方、発音、簡単な挨拶というような基礎的なことから始めます。テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味のもてる内容のテキストがバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。

■到達目標
「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法
各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。ドイツに関するビデオなども観る予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）
出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による平常点（40%）と期末試験（60%）を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト
小野寿美子 『クロイツングネオ』 朝日出版社
辞書等については授業中に紹介します。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画
①ドイツ語の発音アウトライン
②挨拶表現
③動詞の現在人称変化
④sein とhaben
⑤名詞の性、冠詞
⑥定冠詞と名詞の格変化
⑦不定冠詞と名詞の格変化
⑧不規則動詞の現在人称変化
⑨人称代名詞の格変化
⑩命令形
⑪名詞の複数形
⑫不定冠詞類、定冠詞類
⑬前置詞の格支配
⑭分離動詞
⑮前期のまとめ

ドイツ語ＩＢ

【担当】青山　豊
【開講】後期　月２

■サブタイトル
ドイツを知るための第一歩

■講義概要
ドイツ語をとおしてドイツ語圏および周辺諸国に目を向けられるようになるための手段、またEUの時代をむかえた新しいヨーロッパに対する理解への手がかりとしてこのＩＢの授業を位置付ける。この授業では内容的にはＩＡを引き継ぎながらも、たとえばワク構造や副文といったドイツ語らしい文の構造を学ぶことによって、日本語や英語とは異なる思考のあり方に気づくことになる。またそれと同時に、辞書をひきながらドイツ語の文章を読み解いていく知的な喜びを味わうこともできるようになる。特に表現力をつけるためにドイツ語ＩＤを併せて履修することを強くすすめる。

■到達目標
「ことば」を学ぶうちに、ドイツ人の生活や文化にも目が向くようになり、現代のドイツやヨーロッパに対する認識もあらたなものとなるだろう。

■講義方法
テキストの音声を毎回聞きながら授業を進める。

■系統的履修
ドイツ語ＩＤ（特にドイツ語を総合的に理解するために、この科目との同時履修が望ましい。）

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回短時間でも予習と復習をすること。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席を重視する
小テスト（50%）

■テキスト
小野寿美子　他『クロイツング　ネオ』朝日出版社　2,500円

■参考文献
辞書等については授業中に説明する。

■履修上の注意・担当者からの一言
ＣＤを用いてドイツ語を聞き取る努力をしてほしい。質問や相談事がある場合には遠慮なくどうぞ。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画
①映画を見に行きたい
②ドイツ映画の現在
③大学の教室で
④私の願い
⑤食べ物
⑥昨日　今日　明日
⑦ドイツ人とパン
⑧小テスト
⑨負の遺産
⑩オペラ鑑賞
⑪音楽
⑫ホテル
⑬数詞
⑭文法の補足
⑮小テスト

ドイツ語ＩＢ

【担当】呉　春吉
【開講】後期　月３

■講義概要
この授業は、ドイツ語Ⅱで習得した知識を踏まえた上で、さらに様々な動詞表現、時制等を学びます。テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味のもてる内容のテキストがバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。

■到達目標
「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法
各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。ドイツに関するビデオなども観る予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）
出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による平常点（40%）と期末試験（60%）を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト
小野寿美子 『クロイツングネオ』 朝日出版社　2,500円
辞書等については授業中に紹介します。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画
①前期の復習
②話法の助動詞
③従属接続詞と副文
④形容詞の格変化
⑤zu不定詞
⑥動詞の３基本形（1）
⑦動詞の３基本形（2）
⑧現在完了形（1）
⑨現在完了形（2）
⑩過去形
⑪再帰代名詞と再帰動詞
⑫形容詞、副詞の比較
⑬関係代名詞（1）
⑭関係代名詞（2）
⑮総復習

ドイツ語ＩＣ

【担当】青山　豊
【開講】前期　月３

■サブタイトル
ドイツ語文法

■講義概要
文法とドイツ語による表現を学ぶ。文法の学習というと無味乾燥というイメージを持つかもしれないが、外国語をマスターするにはこれが早道であり合理的でもある。授業では、必要最小限の文法規則を繰り返し学習することによって自分のものとしたうえで、受講生各自が、それを用いて自分の思うところをドイツ語で表現できるようにしたい。

■到達目標
まとまった内容のドイツ語文が正確に読めるようになる。

■講義方法
受講生の理解度を確認しながら、ゆっくり進めていく。

■系統的履修
ドイツ語ＩＡ

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回少しずつでも予習復習をすること。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席を重視する
小テスト（50%）

■テキスト
清野智明 『ドイツ語の時間＜話すための文法＞改訂版』 朝日出版社　2,200円

■参考文献
授業中に説明する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画
①文字と発音
②同上
③動詞の現在人称変化
④名詞の格変化
⑤規則動詞
⑥不規則動詞
⑦前置詞
⑧小テスト
⑨副文
⑩再帰動詞
⑪人称代名詞
⑫冠詞類
⑬分離動詞
⑭補足
⑮小テスト

ドイツ語ＩＣ

【担当】永井　達夫
【開講】前期　水３

■サブタイトル
テキスト、インターネット、ＤＶＤなどを使って、多角的に学習するドイツ語、文法編（前半部分）

■講義概要
語学を本気で学ぼうと思えば、文法的な理解は欠かせません。この講義ではドイツ語の文法を最初歩から順を追って積み上げていきます。ドイツ語は、ドイツのほか、オーストリア、スイスでも話されています。それらの国のこともDVDなどを使って学んでいきましょう。ドイツ語圏の音楽、映画なども取り上げたいと思っています。

■到達目標
ドイツ語文法の基礎を身につけます。文法のための文法ではなく、いわゆる使える文法を習得します。

■講義方法
一人一台のＰＣが使えるCALL教室で授業をする予定です。講義の進行は教科書に従っていきます。映像教材は提出するレポートの資料となるのでしっかり見るようにしてください。

■系統的履修
必修ではありませんが、平行して開講されるドイツ語の授業を取るのが理想的です。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に随時指示します。

■成績評価の方法
小テスト（70%）中間テストを５月に、期末テストは７月に、ともに授業中に実施します
レポート（30%）３回の小レポートがあります。これが平常点になります
総得点で60％以上が合格です。３分の２以上の出席が必要です。遅刻２回につき欠席１回に換算しますので、注意してください。

■テキスト
清野智昭　『ドイツ語の時間 改訂版』　朝日出版社　2,200円

■参考文献
必要があれば、授業のなかで紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
ほんとうにドイツ語が身につく講義にしていくつもりです。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
開講時に連絡方法を言います。

■講義計画
①イントロダクション ＤＶＤによるドイツへの仮想旅行１
②Lektion 1　動詞の人称代名詞／ドイツへの仮想旅行２
③Lektion 1　語順／ドイツへの仮想旅行３
④Lektion 2　名詞の性と格変化／ドイツへの仮想旅行４
⑤Lektion 2　重要な動詞／もう一つの大国オーストリア１
⑥Lektion 3　不規則動詞／もう一つの大国オーストリア２
⑦Lektion 3　複数形／もう一つの大国オーストリア３
⑧中間テストを予定
⑨Lektion 4　前置詞／もう一つの大国オーストリア４
⑩Lektion 4　副文／ドイツ語圏の文化１
⑪Lektion 5　人称代名詞／ドイツ語圏の文化２
⑫Lektion 5　再帰代名詞／ドイツ語圏の文化３
⑬Lektion 5　名詞の２格／ドイツ語圏の文化４
⑭Lektion 6　冠詞類／前期の総復習
⑮学期末テストを予定

ドイツ語ＩＤ

【担当】青山　豊
【開講】後期　月３

■サブタイトル
ドイツ語で表現する

■講義概要
ドイツ語文を正確に読むためには最小限のしっかりした文法規則を自分のものにしなければならない。この授業ではできるだけ負担を感じることなく文法的に正確に読み書きができるようにしたい。

■到達目標
文法規則に従ってドイツ語文を読んで理解し、さらにドイツ語で表現できるようになること。

■講義方法
受講生の理解度に合わせてゆっくり進める。

■系統的履修
ドイツ語ＩＢ

■授業時間外における予・復習等の指示
少しずつでも毎回予習と復習をしてほしい。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席を重視する
小テスト（50%）

■テキスト
清野智明　『ドイツ語の時間＜話すための文法＞改訂版』　朝日出版社　2,200円

■参考文献
授業中に説明する

■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画
①話法の助動詞
②過去形
③現在完了形
④受動態
⑤形容詞の格変化
⑥比較
⑦関係代名詞
⑧小テスト
⑨命令形
⑩接続法
⑪同上
⑫補足
⑬同上
⑭同上
⑮小テスト

ドイツ語ＩＤ

【担当】永井　達夫
【開講】後期　水３

■サブタイトル
テキスト、インターネット、ＤＶＤなどを使って、多角的に学習するドイツ語、文法編（後半部分）
■講義概要
ドイツ語ＩＣの続きです。授業の概要はＩＣと同じです。以下は繰り返しになります。
「語学を本気で学ぼうと思えば、文法的な理解は欠かせません。この講義ではドイツ語の文法を最初歩（ＩＣの続き）から順を追って積み上げていきます。ドイツ語は、ドイツのほか、オーストリア、スイスでも話されています。それらの国のこともDVDなどを使って学んでいきましょう。ドイツ語圏の音楽、映画なども取り上げたいと思っています。」
■到達目標
引き続き、ドイツ語文法の基礎を身につけます。文法のための文法ではなく、いわゆる使える文法を習得します。
■講義方法
講義の進行は教科書に従っていきます。映像教材は提出するレポートの資料となるのでしっかり見るようにしてください。
■系統的履修
必修ではありませんが、平行して開講されるドイツ語の授業を取るのが理想的です。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に随時指示します。
■成績評価の方法
小テスト（70%）中間テストを11月に、期末テストは１月に、ともに授業中に実施します
レポート（30%）３回の小レポートがあります。これが平常点になります
総得点で60%以上が合格です。３分の２以上の出席が必要です。遅刻２回につき欠席１回に換算しますので、注意してください。
■テキスト
清野智昭　『ドイツ語の時間 改訂版』　朝日出版社　2,200円
■参考文献
必要があれば、授業のなかで紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
後期になって学習の速度が少し上がりますが、予習復習をしっかりしてついてきてください。ドイツ語ＩＣを履修せずにこの講義を取る学生は、開講時までに自分で前期の範囲を学習しておくことが前提となります。後期も引き続きレポートなどの課題をたくさん出します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
開講時に連絡方法を言います。
■講義計画
①前学期の復習／スイス１
②Lektion ７　zu 不定詞／スイス２
③Lektion ７　分離動詞／スイス３
④Lektion ７　話法の助動詞／スイス４
⑤Lektion ８　過去形／ハイディ１
⑥Lektion ８　完了形／ハイディ２
⑦Lektion ８　受動態／ハイディ３
⑧中間テストを予定
⑨Lektion ９　形容詞の格変化／ハイディ４
⑩Lektion ９　比較級／リヒテンシュタイン侯国
⑪Lektion 10　関係代名詞／ドイツのクリスマス
⑫Lektion 10　命令形／ DVDで見る世界遺産１
⑬Lektion 11　接続法／ DVDで見る世界遺産２
⑭Lektion 11　接続法、続き／後期の総復習
⑮学期末テストを予定

ドイツ語セミナーA

【担当】青山　豊
【開講】前期　月４

■サブタイトル
ドイツ語力アップ
■講義概要
これまでに学んだドイツ語の知識を整理確認して、次のステップへ進む。取り組みやすい平易なドイツ語のテキストを用いて読解力や表現力を養成する。
■到達目標
インターネットなどのドイツ語情報を正しくキャッチできるようになる。
■講義方法
マンツーマンの対話的授業にしたい。
■系統的履修
ＩＡ　ＩＢ　ＩＣ　ＩＤのいずれかを履修済みであることが受講の条件。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の予習と復習が必要。
■成績評価の方法
平常点（50%）
その他（50%）
平常点（50%）と授業への熱意（50%）を総合して評価する。
■テキスト
橋本政義　『フィール　シュパース＜Ver.３＞』　郁文堂　2,400円
■参考文献
ＩＡ　ＩＢ　またはＩＣ　ＩＤ　で使用したテキストを授業に持参するとよい。
■履修上の注意・担当者からの一言
ＩＡ　ＩＢ　ＩＣ　ＩＤ　のうち1単位以上修得済みであることを受講の条件とするが、授業の内容は初級から中級への橋渡しである。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp
■講義計画
①ベルリン大好き
②ワールドサッカー
③ビール一杯
④ドイツ人とパン
⑤グリム童話
⑥アウトバーン
⑦環境保護
⑧小テスト
⑨人気バンド　Tokio Hotel
⑩色で表すドイツの政治
⑪手紙
⑫再生可能エネルギー
⑬補足
⑭補足
⑮小テスト

ドイツ語セミナーB

【担当】青山　豊
【開講】後期　月4

■サブタイトル
「ことば」からみたドイツの文化と日常生活
■講義概要
ドイツ語ＩA・ＩB、ＩC・ＩＤ またはセミナーAで修得した知識を整理確認した上で、聞き話すという会話的要素をベースに日常的ドイツ語にふれながら、現代ドイツの文化を考察する。テキストとしてはドイツ人の生活情報や異文化をテーマにしたものを使用する。
■到達目標
ドイツ語検定試験も視野に入れて、日常生活に必要なレベルの読解力とドイツ語による表現力を身につける。
■講義方法
少人数クラスになると思われるので、対話的授業にしたいと考えている。できれば学術書に取り組む意欲もひきだしたい。
■系統的履修
ドイツ語ＩA　ＩB　ＩC　ＩＤ　またはセミナーAのいずれかを履修済みであることが受講の条件。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の予習と復習は必要である。
■成績評価の方法
平常点（50%）
その他（50%）
平常点（50%）と授業への熱意（50%）を総合的に評価する。
■テキスト
様々なテーマを扱ったテキストをコピーして使用する予定。
■参考文献
ＩA　ＩB　またはＩC　ＩＤで使用したテキストを授業に持参するとよい。
■履修上の注意・担当者からの一言
ドイツ語ＩA、ＩB、ＩC、ＩＤのうち1単位以上修得済みであることを受講の条件とするが、基本的にはＩA、ＩB、ＩC、ＩＤ、セミナーAに続くドイツ語運用能力の向上をもめざす授業であるので、堅苦しく考えずに参加して欲しい。授業には必ず辞書を持参のこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp
■講義計画
①受講生の興味と実力に合わせた内容のテキストを読み進めながら、表現力を磨く。（プリントを使用）
②同上
③同上
④同上
⑤同上
⑥同上
⑦同上
⑧小テスト
⑨同上
⑩同上
⑪同上
⑫同上
⑬同上
⑭同上
⑮小テスト

統計入門

【担当】李　復屏
【開講】前期　月1

■サブタイトル
数字に弱い人のための統計学
■講義概要
世界は数字でできている。世の中を知るには、経済学より、まず統計学である。この講義は、世の中を知りたいという意欲を持っている（いわゆる､統計の利用者としての）学生を対象とし、新聞や報告書を読み解くに必要な統計学の基本概念を理解することを目的とする。単にいかに「数をかみ砕き､答えを吐き出す」かを教えるだけではない。それはあなたのパソコンがやることである。身近な例に､知っておくと役立つ話を織り交ぜながら､統計学のエッセンスを会得していただきたい。
■到達目標
新聞や報告書などを読むとき、そこにどのような統計が含まれていようとも、その要点を理解できるようになる。
■講義方法
授業中、時々受講生にちょっとした問題を解いてもらうことがあるので、ルートキー（√）付きの電卓を用意すること。
■授業時間外における予・復習等の指示
統計学は積み重ねの学問である。基礎概念を一つ一つ順を追って議論していくため、次の授業に進む前に、前の授業内容を復習してしっかり理解してくる必要がある。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）
授業中の練習問題は30%、期末試験は70%の割合で評価する。
■テキスト
D. ロウントリー著　加納悟訳 『新・涙なしの統計学』 新世社　1,600円
■参考文献
鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社　2,233円
ダレル・ハフ著　高木秀玄訳 『統計でウソをつく法』 講談社　880円
神永正博 『ウソを見破る統計学』 講談社　900円
カイザー・ファング著　矢羽野薫訳 『ヤバイ統計学』 阪急コミュニケーションズ　1,900円
■履修上の注意・担当者からの一言
計算ではなく、統計学的な考え方を理解していただくのが本講義の目的であるため、可能な限りに、式を使わず図で説明しようとするが、努力なしの統計学というつもりは毛頭ない。むしろ、統計学を理解するために一所懸命努力していただきたい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは月２です。この時間帯に来れない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまで相談してください。
■講義計画
①統計学とは
②標本の収集
③標本の記述
④データの中心的傾向
⑤データのばらつき尺度
⑥正規分布
⑦標本平均の標本分布
⑧母平均の推定
⑨t分布と母平均の推定
⑩Ｘ二乗分布と母標準偏差の推定
⑪仮説検定
⑫相関分析
⑬回帰分析
⑭復習①
⑮復習②

統計入門

【担当】長命　洋佑
【開講】後期　金5

■サブタイトル
数字に騙されるな！アレルギーを克服しよう！

■講義概要
新聞、テレビ、インターネットなどさまざまなメディアを通して日常生活の中から得られるデータ、社会現象の調査や自然現象の観察・実験などを通して得られるデータなど多種多様なデータが我々のまわりに溢れています。
そうした大量の情報が氾濫している現代社会において、「何が正しく、何が誤っているか」を自分自身で判断する力がないと思わぬ落とし穴に陥ることになります。最悪、「騙されたっ！」という状態になりかねません。
また、数値（データ）の持つ意味を理解していないと「数字に振り回される」ことにもなります。
社会では、こうした数字を使い、巧みに人を騙す人もいます。その逆で、騙される人もいます。
　この講義では、そうした数字（データ）を正しく理解する力を養い、数字（データ）に振り回されないように、生きていくためのコツについて学びます（ギャンブルなどに関する心理的トラップなどについてもお話いたします）。
講義では、日常生活の中の現象（経済・心理の関連）を例に取り上げ講義を行います。
数学の知識がなくても（＋－×÷で充分です）、世の中の様々なことが見えてくるようになると思います。
この講義では、皆さんが近い将来、必要となる（身につけておくと大きな力となる）客観的なモノの見方について一緒に学んでいけたらと思います。

■到達目標
新聞、テレビ、インターネット、調査や実験などの数値（データ）の意味が理解できるようになる。
日常生活において、数値への恐怖心（アレルギー）がなくなる。

■講義方法
日常生活の中の話を題材に講義形式で行います。また、簡単な例題も解きながら、統計を学んでいただけるよう心がけます。

■授業時間外における予・復習等の指示
日常生活のなかで、数字の意味について考えてみる。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）

■テキスト
特になし。
講義資料を配布します。
ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
統計学は数字を扱い、数式などもでてくるため、毛嫌いされる部分があります。しかし、日常生活を見渡してみると数字を見ない日なんてないと思います（一部除く）。そうした数字の意味がわかりだしてくると「おっ！そーゆうことか。なかなかオモロイな～」と思うようになってくると思います。統計は、毛嫌いする人が多いからこそ、逆に身につければ大きな武器となると思います。
授業中、私語が多い場合、他の学生の迷惑になりますので退出をお願いいたします。

■講義計画
①オリエンテーション
②記述統計①：日常生活の中でみる統計
③記述統計②：分布とその特性①（集団の特性を知ろう）
④記述統計③：さまざまな指標がもたらす日本社会の現状（騙す図を描くには）
⑤記述統計④：分布と特性②（偏差値の恐怖からの開放）
⑥記述統計⑤：これまでの復習
⑦確率①：確率の基本（コイン投げで５回連続「表」がでたら、次は・・・?）
⑧確率②：期待値とは?（直感と実際のズレ）
⑨確率③：母集団と標本（賭け事で負けないようにするには?）
⑩確率④：これまでの復習（勝ち逃げするためには）
⑪日常の中の統計①：当たり前を当たり前のように疑う
⑫日常の中の統計②：人間の感覚とは・・・
⑬日常の中の統計③：われわれは意図的に誘導されている?（アンケートのお話）
⑭日常の中の統計④：統計のその後・・・（統計を使った分析のお話）
⑮これまでの復習

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】前期　木３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
１回生は受講できない。１回生は後期の日本国憲法（月・１、月・３、木・３）を受講すること。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第６版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成25年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　月１

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第６版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成25年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　月３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第６版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成25年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　木３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第６版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成25年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

発達と教育Ａ

【担当】松島　恵介
【開講】前期　水１

■サブタイトル
児童期～青年期における発達と教育について
■講義概要
子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。
■到達目標
児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。
■講義方法
口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
「発達と教育Ｂ」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育Ｂ」を履修することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。
■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。
※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業において適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①発達とは何か（序論）
②発達論にみられる児童期～青年期の様相（総論）
③発達と自我、それをめぐる教育について
④対人関係と自己の発達
⑤子どもの生活世界／学校とは何ものか
⑥ピアジェの発達理論・概説
⑦ヴィゴツキーの発達理論・概説
⑧発達と教育の接点
⑨学習・日常認知
⑩知能とは何か
⑪敢えて「教えない」ことのもつ意味をめぐって
⑫発達と現代の諸問題（1）～人間関係、とりわけ家族をめぐる問題について
⑬発達と現代の諸問題（2）～様々な病理をめぐって
⑭発達と現代の諸問題（3）～教育のあるべき姿とは
⑮まとめと今後の課題・質疑応答（総括的議論）

発達と教育Ａ

【担当】松島　恵介
【開講】前期　水２

■サブタイトル
児童期～青年期における発達と教育について
■講義概要
子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。
■到達目標
児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。
■講義方法
口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
「発達と教育Ｂ」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育Ｂ」を履修することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。
■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。
※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業において適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①発達とは何か（序論）
②発達論にみられる児童期～青年期の様相（総論）
③発達と自我、それをめぐる教育について
④対人関係と自己の発達
⑤子どもの生活世界／学校とは何ものか
⑥ピアジェの発達理論・概説
⑦ヴィゴツキーの発達理論・概説
⑧発達と教育の接点
⑨学習・日常認知
⑩知能とは何か
⑪敢えて「教えない」ことのもつ意味をめぐって
⑫発達と現代の諸問題（1）～人間関係、とりわけ家族をめぐる問題について
⑬発達と現代の諸問題（2）～様々な病理をめぐって
⑭発達と現代の諸問題（3）～教育のあるべき姿とは
⑮まとめと今後の課題・質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】松島　恵介
【開講】後期　水1

■サブタイトル
児童期～青年期における発達と教育について
■講義概要
子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。
■到達目標
児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。
■講義方法
口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくことが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。
■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。
評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。
※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業において適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①発達と教育を学ぶ意義（序論）
②自己意識と発達課題
③学習と自律性
④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
⑤論理構成力と発達過程
⑥社会的問題行動
⑦遊びと発達・教育
⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
⑨学校文化と発達
⑩隠れたカリキュラムをめぐって
⑪個性化の教育
⑫教育と現代的諸問題
⑬発達と現代的諸問題
⑭まとめと今後の課題
⑮質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】松島　恵介
【開講】後期　水2

■サブタイトル
児童期～青年期における発達と教育について
■講義概要
子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。
■到達目標
児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。
■講義方法
口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくことが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。
■成績評価の方法
その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。
※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業において適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①発達と教育を学ぶ意義（序論）
②自己意識と発達課題
③学習と自律性
④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
⑤論理構成力と発達過程
⑥社会的問題行動
⑦遊びと発達・教育
⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
⑨学校文化と発達
⑩隠れたカリキュラムをめぐって
⑪個性化の教育
⑫教育と現代的諸問題
⑬発達と現代的諸問題
⑭まとめと今後の課題
⑮質疑応答（総括的議論）

仏教の思想

「仏教の思想Ａ・Ｂ」

龍谷大学は、「一切の人間が平等に真実心を与えられているという親鸞精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養とをもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想Ａ・Ｂ」は龍谷大学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義は、龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己をふりかえり、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とします。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想Ａ・Ｂ」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。

この「仏教の思想Ａ・Ｂ」を平易に理解していただくために、以下に教育目標と講義の主な内容を掲げておきます。

講義の教育目標

１．人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。

真実の宗教は、その思想と文化を通して、人間に二つの働きをもっている。一つは、自己の存在意味や人生の根本的な方向性を指し示すという働きである。もう一つは、日々の生活の中で直面する苦しみや悲しみを乗りこえさせるという働きである。仏教は、この二つの働きをもって、自己中心的に生きようとする人間が、あるべき理想の人間に向かって、脱皮、成長していくことをめざしている。

２．倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。

仏教は一つの学問である。高校では、公民科「倫理」や地歴科「世界史」「日本史」の教科で、仏教を学習する。それを踏まえ、「仏教の思想」の教育目標に、次の点を掲げる。

① 青年期における人間が、自ら歩んできた道・人生をあらためて見つめ直し、人間として生きる意味を考える。

② 学生が過去の人々の思想や生き方を学び、また現代社会の諸問題を考えることを通して、人間としての生きる意味や目的を探求する。

③ 仏教は、人類が継承してきた一つの智慧であり、世界の各地で、人々の心の依りどころとなっている。この歴史を学ぶことを通して、ものの見方を豊かにし、人生への思索を深める。

３．人間学として「仏教の思想」を学ぶ。

宗教は民族宗教と世界宗教に大きく分類されるが、世界宗教としての仏教の特質には次のような点があげられる。

・創造主なる神を想定しない

・人間を含むあらゆるいのちに重きを置く

仏教がめざしたのは生きとし生けるものの幸せ・平等・平和である。講義を通して自己を内省し、悲しみや苦しみに立ち向かう勇気と、他者に対する慈愛と感謝と寛容さを培う。

４．広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。

一つの固定的なものの見方を離れ、柔軟で、幅広い考え方や生き方が開かれるように、「仏教の思想」を学ぶ。

５．現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。

戦争・差別・貧困・犯罪など、世界の各地で現実に起きている問題と向きあい、どのように解決したらよいかについて考える。

６．いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。

いのちに関わる現代の諸問題－生命倫理や地球環境など－を積極的に見つめる。仏教は、一つひとつの存在が無限の意味と尊さをもって輝いていると伝えてきた。さまざまな執着や偏見をとりはらい、相手の幸せを願い、相手の痛みをともに分かちあおうとする共感を養う。

７．「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

龍谷大学は、シルクロードコレクションなどの世界的に貴重な古典籍を有する大学である。1639 年創設以来からの、龍谷大学の仏教の先進性と歴史的伝統を、建学の精神を学ぶことを通して理解し、龍谷大学を愛する学生を育てる。

講義の概要

「仏教の思想 A」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアム、研究展示施設パドマの展示や視聴覚教材を活用して講義を展開します。

「仏教の思想Ａ」では、釈尊の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

人間と宗教――カルトや原理主義・宗教の意義

神々と仏――民族宗教・世界宗教（キリスト教・イスラム教・仏教）

あるがままに見る眼――智慧・如実知見・四諦・三法印

いのちあるものすべてへの慈愛――慈悲・非暴力

自己中心的に考える人間存在――煩悩・我執・四苦八苦

支えあってつながっている宇宙――縁起の理法・空・無我

仏教の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している「仏教の思想と文化」に関する現物資料を教材として授業を行う予定です。講義とともに展示を観覧することで講義内容の理解を深めます。詳細については、講義の中でお知らせします。

仏教の思想Ａ

【担当】道元　徹心
【開講】前期　水２

■講義方法
特にテキストは定めず、毎回配布するレジュメに沿って授業を進める。また適宜視聴覚教材を使用する。受講生は担当者が講義時に示したテーマについてのコメントシートを提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に紹介した参考文献を読む。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席状況と受講態度
定期試験（50%）

■テキスト
特に定めない。

■参考文献
講義時に随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養っていってほしい。

■講義計画
①龍谷大学の沿革と建学の精神
②宗教の意義
③釈尊以前のインド
④釈尊の生涯－誕生から出家
⑤釈尊の生涯－苦行から成道
⑥釈尊の生涯－伝道から入滅
⑦釈尊の思想－煩悩と苦
⑧釈尊の思想－四諦
⑨釈尊の思想－四法印
⑩釈尊の思想－縁起の理法
⑪部派仏教とその思想
⑫大乗仏教の興起とその理念
⑬大乗仏教の思想－経典
⑭仏教の伝播
⑮総括

仏教の思想Ａ

【担当】乗山　悟
【開講】前期　水２

■講義方法
板書による講義形式を主とする。
視聴覚教材を用いる場合もある。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に紹介された書籍等をなるべく読んでおくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席（遅刻・早退・中座などは原則として出席と認めない）
定期試験（70%）
授業の撮影や録音は事前に承諾した場合を除き禁止する。
授業日数の2/3以上の出席がない受講者は、定期試験の受検資格を失うものとする。遅刻・中座・早退の場合、合計2回目までは50%の出席とするが、3度目以降は欠席扱いとする。ただし特別な事情があり証明書などを提出した場合は個別に配慮する。
授業中の私語、飲食、メールの作成・送受信、ツイッター・ラインなどへのアクセスといったような受講マナーに反する行為があった場合、出席を取り消すとともに受講態度不良者として減点の対象とする。あえて警告などは行わないので十分に注意されたし。

■テキスト
特になし

■参考文献
参考文献は、講義中に随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
仏教をはじめとする宗教について関心をもち、さらに正しい理解を身につけてほしい。
これは特定の宗教を信じることとは全く別のことである。
また龍谷大学で行われる宗教行事などにも自主的に参加していただくことを強く希望する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業の前後に申し出てください。個別に対応します。

■講義計画
①龍谷大学の沿革と建学の精神
②インド史概観と仏教史の時代区分
③仏教以前－固有信仰とインドアーリヤンの宗教
④初期仏教（仏陀の生涯と思想）①－家系と誕生
⑤　〃　②－求道の日々
⑥　〃　③－成道
⑦　〃　④－最初の説法（初転法輪）
⑧　〃　⑤－布教伝道と弟子たち
⑨　〃　⑥－晩年と入滅
⑩中期仏教①－部派仏教とその思想
⑪　〃　②－大乗仏教の出現
⑫　〃　③－大乗仏教の理念
⑬　〃　④－大乗経典の思想（1）般若系経典など
⑭　〃　⑤－大乗経典の思想（2）浄土経典の思想
⑮仏教の伝播とアジア諸地域の仏教

講義の概要

「仏教の思想 B」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアム、研究展示施設パドマの展示や視聴覚教材を活用して講義を展開します。

「仏教の思想 B」では、親鸞の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

鎌倉仏教の位置と特質――法然・親鸞・道元・日蓮・一遍

真実の探求――老少善悪を問わず・易行・わけへだてのない安らぎの道

自己を徹底的に見つめる――悪人正機・煩悩具足の凡夫・罪悪深重

現実世界への凝視と安らぎへの願い――火宅無常の世界・欣求浄土・世のなか安穏なれ

あるがままで受け容れられる世界――摂取不捨・阿弥陀仏の本願・自力と他力

あらゆるものは輝いている――白色白光・御同朋御同行・他者の尊重

親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している「仏教の思想と文化」に関する現物資料を教材として授業を行う予定です。講義とともに展示を観覧することで講義内容の理解を深めます。詳細については、講義の中でお知らせします。

仏教の思想B

【担当】道元　徹心
【開講】後期　水2

■講義方法
特にテキストは定めず、毎回配布するレジュメに沿って授業を進める。また適宜視聴覚教材を使用する。受講生は担当者が講義時に示したテーマについてのコメントシートを提出する。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に紹介した参考文献を読む。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席状況と受講態度
定期試験（50%）
■テキスト
特に定めない。
■参考文献
講義時に随時紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養っていってほしい。

■講義計画
①大乗仏教の広がり
②中国仏教①
③中国仏教②
④聖徳太子の仏教
⑤日本の浄土教①
⑥日本の浄土教②
⑦法然の生涯と思想
⑧親鸞の生涯①
⑨親鸞の生涯②
⑩親鸞の思想①
⑪親鸞の思想②
⑫親鸞の思想③
⑬歎異抄
⑭歎異抄
⑮総括

仏教の思想B

【担当】乗山　悟
【開講】後期　水2

■講義方法
板書による講義形式を主とする。
視聴覚教材を用いる場合もある。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に紹介された書籍等をなるべく読んでおくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席（遅刻・早退・中座などは原則として出席と認めない）
定期試験（70%）
授業の撮影や録音は事前に承諾した場合を除き禁止する。
授業日数の2/3以上の出席がない受講者は、定期試験の受検資格を失うものとする。遅刻・中座・早退の場合、合計2回目までは50%の出席とするが、3度目以降は欠席扱いとする。ただし特別な事情があり証明書などを提出した場合は個別に配慮する。
授業中の私語、飲食、メールの作成・送受信、ツイッター・ラインなどへのアクセスといったような受講マナーに反する行為があった場合、出席を取り消すとともに受講態度不良者として減点の対象とする。あえて警告などは行わないので十分に注意されたし。
■テキスト
特になし
■参考文献
参考文献は、講義中に随時紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
仏教をはじめとする宗教について関心をもち、さらに正しい理解を身につけてほしい。
これは特定の宗教を信じることとは全く別のことである。
また龍谷大学で行われる宗教行事などにも自主的に参加していただくことを強く希望する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業の前後に申し出てください。個別に対応します。
■講義計画
①オリエンテーション
「親鸞」を学ぶにあたって
②中国仏教史概観と中国浄土教①
③　〃　②
④　〃　③
⑤　〃　④
⑥日本仏教史概観と日本浄土教①
⑦　〃　②
⑧　〃　③
⑨親鸞の生涯と思想①
⑩　〃　②
⑪　〃　③
⑫　〃　④
⑬　〃　⑤
⑭本願寺教団の発展
⑮まとめ

フランス語ＩＡ

【担当】佐々木　香理
【開講】前期　水３

■サブタイトル
すぐに使えるフランス語
■講義概要
この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげ、同時に初歩的な文法を学びます。教科書には日本のポップカルチャーがフランスで人気を集めている様子が紹介されていますので、身近な話題を通してフランス語学習を行うことができます。また様々な教材を用いてフランスの文化についても解説し、多様な広がりを持つ授業としていきます。
■到達目標
平易なフランス語が理解できるようになること。
■講義方法
文法事項を解説し、視聴覚教材を利用して発音練習を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
小テストや課題の提出等がありますので、教員の指示に従って十分に準備すること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）課題の提出等
小テスト（20%）
定期試験（60%）
■テキスト
藤田裕二　『パリのクール・ジャパン（Le Japon, c'est cool!）』
朝日出版社　2,500円
■参考文献
仏和辞典の購入は義務ではありませんが、希望者には次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。
■講義計画
①オリエンテーション
②第０課
③第１課
④第２課
⑤第３課
⑥第３課
⑦第４課
⑧第４課
⑨第５課
⑩第５課
⑪第６課
⑫第６課
⑬第７課
⑭第７課
⑮まとめと復習

フランス語ＩＢ

【担当】瓜生　濃世
【開講】後期　水３

■サブタイトル
すぐに使えるフランス語
■講義概要
フランス語ＩＡの内容を引き継ぎます。この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげ、同時に初歩的な文法を学びます。教科書には日本のポップカルチャーがフランスで人気を集めている様子が紹介されているので、身近な話題を通してフランス語学習を行うことができます。また様々な教材を利用してフランスの文化についても解説を行い、多様な広がりを持つ授業としていきます。
■到達目標
平易なフランス語が理解できるようになること。
■講義方法
文法事項を解説し、視聴覚教材を利用して発音練習を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
小テストや課題の提出等がありますので、教員の指示に従って十分に準備すること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）課題の提出等
小テスト（20%）
定期試験（60%）
■テキスト
藤田裕二　『パリのクール・ジャパン（Le Japon, c'est cool!）』
朝日出版社　2,500円
■参考文献
仏和辞典を入手する場合は、次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。
■講義計画
①前期の復習
②第８課
③第９課
④第９課
⑤第10課
⑥第10課
⑦第11課
⑧第11課
⑨第12課
⑩第12課
⑪第13課
⑫第13課
⑬第14課
⑭第14課
⑮まとめと復習

フランス語ＩＣ

【担当】森部　卓
【開講】前期　月２

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得
■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには、日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。
■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。
■講義方法
パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法･発音･語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席点
定期試験（50%）受講者数により、小テストに変更する場合あり。
■テキスト
藤田裕二 『パスカル・オ・ジャポン』 白水社　2,000円
■参考文献
辞書等、授業中に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。このソフトは日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。
■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成を提示
②フランスとフランス語に親しむ
③挨拶する
④発音と綴り字の説明
⑤名前、国籍、職業を言う
⑥年齢を言う、家族を語る
⑦好きなものを言う
⑧持ち物を言う
⑨友達について話す
⑩疑問詞を使ってたずねる
⑪近い未来、近い過去のことを言う
⑫時間、天候を言う
⑬数量を表す
⑭パリで出会う日本文化
⑮レストランに行く

フランス語ＩＣ

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】前期　月３

■サブタイトル
さらに楽しいフランス語
■講義概要
フランス語IA、IBは基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIC、IDは、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習の場としたいと思います。同時に多くの視聴覚教材を利用して、フランスの文化と歴史について、幅広い解説をしていきます。さらに、盛りだくさんの内容を誇るコンピュータ教材を用いることで、発音練習なども深めていく予定です。
■到達目標
口頭練習を数多く取り入れることで、実践的なコミュニケーション能力を習得することを目指します。
■講義方法
CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。
■系統的履修
前期完結の授業ですが、つづけてフランス語IDも受講し、通年で学習することを目指してください。
■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の内容は授業時間内に完結しますが、付録のＣＤ教材などを通じて自宅での復習を繰り返し行えば効果的です。また、CALL教室が自習用に開放されるときには、学習用ソフトウェアによる自習が可能です。
■成績評価の方法
平 常 点（80%）出席を重視します。
定期試験（20%）
■テキスト
中川努、中井珠子、曽我祐典 『フランス語2020』 白水社　2,415円
■参考文献
仏和辞典を使用します。次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社)、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社)、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『クラウン』には電子辞書版が、『プチ・ロワイヤル』には電子辞書版とiPhone版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。
■講義計画
次の教材を併用していきます。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。
Tell Me More（Auralog）
その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語ＩＣ

【担当】森部　卓
【開講】前期　木3

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得
■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。
■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。
■講義方法
パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法･発音･語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席点
定期試験（50%）受講者数により、小テストに変更する場合あり。
■テキスト
藤田裕二 『パスカル・オ・ジャポン』 白水社　2,000円
■参考文献
辞書等、授業中に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。
■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成を提示
②フランスとフランス語に親しむ
③挨拶する
④発音と綴り字の説明
⑤名前、国籍、職業を言う
⑥年齢を言う、家族を語る
⑦好きなものを言う
⑧持ち物を言う
⑨友達について話す
⑩疑問詞を使ってたずねる
⑪近い未来、近い過去のことを言う
⑫時間、天候を言う
⑬数量を表す
⑭パリで出会う日本文化
⑮レストランに行く

フランス語ＩＤ

【担当】森部　卓
【開講】後期　月2

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得
■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はＩＣの続きです。
■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。
■講義方法
パソコンソフト “Tell me more” の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席点
定期試験（50%）受講者数により､小テストに変更する場合あり。
■テキスト
藤田裕二 『パスカル・オ・ジャポン』 白水社　2,000円
■参考文献
辞書等、授業中に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ＩＣの続きですが、９月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。
■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成の提示
②一日を語る
③頼む、命令する
④店で買い物をする
⑤未来のことを語る
⑥過去のことを語る（直説法複合過去）
⑦バカンスに行く
⑧フランス語でメールを出す
⑨人や物について語る
⑩美術館に行く
⑪大人気のジャパン・エキスポ
⑫フランス留学と学生生活について
⑬乗り物に乗る
⑭感情を表現する
⑮日仏文化交流の昨今

フランス語ＩＤ

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】後期　月３

■サブタイトル
さらに楽しいフランス語
■講義概要
フランス語IA、IBは基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIC、IDは、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習の場としたいと思います。後期はとくにコンピュータ教材、インターネットによる演習の比率を増やしていく予定です。
■到達目標
きれいな発音による、役立つフランス語の習得。
■講義方法
CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。
■系統的履修
後期完結の授業ですが、前期に開講されるフランス語ICもできれば受講しておいてください。
■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の内容は授業時間内に完結しますが、付録のＣＤ教材などを通じて自宅での復習を繰り返し行えば効果的です。また、CALL教室が自習用に開放されるときには、学習用ソフトウェアによる自習が可能です。
■成績評価の方法
平 常 点（80%）出席を重視します。
定期試験（20%）
■テキスト
中川努、中井珠子、曽我祐典 『フランス語2020』 白水社
2,415円
■参考文献
仏和辞典を使用します。次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『クラウン』には電子辞書版が、『プチ・ロワイヤル』には電子辞書版とiPhone版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。
■講義計画
次の教材を併用していきます。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。
Tell Me More（Auralog）
その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語ＩＤ

【担当】森部　卓
【開講】後期　木３

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得
■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はＩＣの続きです。
■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。
■講義方法
パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席点
定期試験（50%）受講者数により､小テストに変更する場合あり。
■テキスト
藤田裕二 『パスカル・オ・ジャポン』 白水社　2,000円
■参考文献
辞書等、授業中に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ＩＣの続きですが、９月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。
■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成の提示
②一日を語る
③頼む、命令する
④店で買い物をする
⑤未来のことを語る
⑥過去のことを語る（直説法複合過去）
⑦バカンスに行く
⑧フランス語でメールを出す
⑨人や物について語る
⑩美術館に行く
⑪大人気のジャパン・エキスポ
⑫フランス留学と学生生活について
⑬乗り物に乗る
⑭感情を表現する
⑮日仏文化交流の昨今

フランス語セミナーA

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】前期　木4

■サブタイトル
フランス語を楽しく深める
■講義概要
１年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテクストとＣＡＬＬ教材を併用して、前年の学習内容を復習しつつ、その上に新しい知識を付け加えて、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。教科書では、フランス各地の食文化が詳しく紹介されています。そうした文化学習にも力を入れていきます。
■到達目標
平易なフランス語の文章が読めるようになるまでの文法の知識、基本語彙の習得。
■講義方法
CALL教室で、視聴覚教材を用いると同時に、教科書を講読しながら、文法を学びます。
■系統的履修
前期完結の授業ですが、つづけてフランス語セミナーＢも受講されることをすすめます。
■授業時間外における予・復習等の指示
テクストの講読を中心に宿題を課します。
■成績評価の方法
平 常 点（80%）出席を重視します。
定期試験（20%）内容については受講生と相談の上決定します。
■テキスト
藤田裕二　『彼女は食いしん坊！２フランス美味探訪の旅』
朝日出版社　2,500円
■参考文献
仏和辞典を持つことが望ましい。次の２点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的な参加を望みます。
■講義計画
教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More（Auralog）を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書はフランス各地の文化や料理を平易なフランス語で紹介するものです。

フランス語セミナーB

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】後期　木4

■サブタイトル
フランス語・フランス文化の理解を楽しく深める。
■講義概要
１年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテクストとＣＡＬＬ教材を併用して、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。セミナーＢでは、コンピュータ教材を利用して、会話練習をする一方、フランス映画から数本を選んで学生諸君に事前学習をしてもらい、フランスの歴史・文化について学ぶことに重点を置きます。
■到達目標
フランス語応用のための基礎的な語学力、現代のフランス文化についての知識を身に付ける。
■講義方法
CALL教室を利用します。引き続き中級文法を学ぶと同時に、視聴覚教材を通じてフランスの文化・歴史を学びます。また、希望により実用フランス語検定受験のための学習も用意します。
■系統的履修
後期完結の授業ですが、内容的にはフランス語セミナーＡと共通しています。継続した受講を勧めます。
■授業時間外における予・復習等の指示
テクストの講読を中心に宿題を課します。
■成績評価の方法
平 常 点（80%）出席を重視します。
定期試験（20%）内容については受講生と相談の上決定します。
■テキスト
藤田裕二　『彼女は食いしん坊！２フランス美味探訪の旅』
朝日出版社　2,500円
■参考文献
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的な参加を望みます。
■講義計画
教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More（Auralog）を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書はフランス各地の文化や料理を平易なフランス語で紹介するものです。

文学入門

【担当】大槻　志郎
【開講】前期　水３

■サブタイトル
物語の誘惑

■講義概要
ある物語が面白く感じられ、ある言葉が魅力的に思えるのはなぜなのか。おそらくこれまでは漠然と文学に接してきた学生諸君に、文学を理解するための諸々の知的枠組みを紹介し、それによって新たな目で文学を捉え、より深く面白く味わえるようにするのが狙い。その過程で、道具となる考え方はもちろん、ときに専門用語も導入し、また例として学生にとって面白いのではないかという諸作品をも紹介したい。対象は日本文学に限らず広く翻訳も含める。詩も取り上げるものの、何よりも物語の魅力を焦点とするため、ジャンルとしては主に小説を扱う。映画など、文学以外の物語形式にも多く言及することになる。

■到達目標
文学作品を、より知的に、より深く、より楽しく、味わうためのノウハウを身につける
文学という広く豊かな世界への意識を養う

■講義方法
受講者数にもよるが、授業計画に基づく理論的な講義と、実際に文学作品を読み解く作業とを併せて取り入れたい。細かいレベルで考えられるように、作品は短編を中心に扱う。出欠状況の確認も兼ねて、毎回講義の最初にミニクイズ、終わりに感想、質問などを書いてもらうほか、作品分析などで課題の提出を求めることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示
次回講義で解説予定の作品等をあらかじめ配るので、指示に従って自分なりに読んで考えてみること。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）講義末に書いてもらうコメントや課題の提出状況と内容
定期試験（60%）講義内容に関する選択問題、論述問題など
試験と平常成績を総合的に評価する。３分の１以上欠席の場合は原則として期末試験の受験資格を失うものとし、結果的に単位は認められないことになる。

■テキスト
使用せず。適宜プリント配布。

■参考文献
中条省平 『小説の解剖学』 筑摩書房（ちくま文庫） 798円
廣野由美子 『批評理論入門―「フランケンシュタイン」解剖講義』 中央公論社（中公新書） 780円

■履修上の注意・担当者からの一言
文学の世界をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいだけの人には向かない。よく話を聞いて、じっくり考え深く味わって欲しい。なお、物語についての講義となると、取り上げる小説などについての、いわゆる「ネタばれ」は多少とも避けられない。なるべく配慮はするが、あらかじめ了解の上受講のこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画
①序説―文学は死んだか?
②詩の言葉、言葉の詩
③ジャンル・タイプ・intertextuality
④幻想という名の真実
⑤言葉の裏を読む
⑥象徴の成立
⑦構造と対立
⑧アイロニー
⑨作者・作品・読者
⑩曖昧と解釈の問題
⑪文学と時間
⑫名前の文化論
⑬旅のモチーフ
⑭実践分析批評１
⑮実践分析批評２
＊以上は、講義項目の流れを示したもので、必ずしも回毎の内容というわけではない。1-13の項目に14,15を絡めてゆくのが基本スタイルである。

文学入門

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】前期　木3

■サブタイトル
ブンガクはなぜあんなにつまらないか?あるいはなぜこんなに面白いか?
■講義概要
宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくらでもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか?それもよりによってブンガクだなんて！しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。
■到達目標
ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。
■講義方法
毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業で採り上げた文学作品を、できるだけ自ら読んでみることを薦める。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席による
レポート（80%）1600～2000字程度
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。
■講義計画
本年度は作家別に授業を編成する。以下の作家を予定する。（順不同）
①ダニエル・キイス
②谷崎潤一郎
③宮部みゆき
④小松左京
⑤筒井康隆
⑥ジェイムズ・ジョイス
⑦松本清張
⑧山田風太郎
⑨村上春樹
⑩コナン・ドイル
⑪舞城王太郎
⑫奥泉光
⑬吉増剛造
⑭入澤康夫
⑮谷川俊太郎

文学入門

【担当】坂本　輝世
【開講】後期　水4

■サブタイトル
モチーフとメタファーで読む古典
■講義概要
「文学」なんて読まない人、「文学」って何の役に立つんだと思っている人、「文学」は理解できないと敬遠している人、－それでも、「物語」は好きですか?それとも、「文学」は好きなんだけど読書感想文は苦手、どう書いたら「面白かった」気持ちが伝わるのかわからない... ですか?このクラスでは、英文学の古典といわれる作品の中から３つ（17世紀初頭の『ハムレット』、19世紀半ばの『ジェイン・エア』、19世紀末の『闇の奥』）を中心に、短編小説や詩にも触れながら、「ことば」の面白さと「物語」の力について考えます。とくに、文学を楽しみ、他の人と分かち合うためのツールの一つとして、神話や昔話にも使われてきた「モチーフ」と「メタファー」という概念を理解してもらいたいと思います。
■到達目標
「文学」とは何かについて、自分なりの理解をする。あるいは理解を深める。古典とされる作品を読むことで、大学生に相応しい教養の一部を身につける。「モチーフ」と「メタファー」について理解し、文学を読み、論じるための手段の一つとして使えるようになる。
■講義方法
毎週、その週の宿題の内容についてコメントを書いてもらいます。学期中に３回、小レポートの提出があります。また、学期末にレポートを提出してもらいます。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業内で指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎回のクラスで、読んできたテキストについてのコメントなどを書いてもらいます。
レポート（40%）授業で取り上げたトピックに基づいて、期末レポートを書いてもらいます。
その他（30%）『ハムレット』、『ジェイン・エア』、『闇の奥』それぞれについての小レポートを出してもらいます。
一学期を通してかなりの量を読み、課題も数回提出することになるので、その覚悟をして受講すること。
■テキスト
ウィリアム・シェイクスピア 『新訳ハムレット』 角川書店 500円
シャーロット・ブロンテ 『ジェイン・エア（上・下）』 光文社 1,780円
ジョゼフ・コンラッド 『闇の奥』 光文社 620円
■参考文献
授業内で指示する。
■講義計画
①はじめに
②『ハムレット』(1)
③『ハムレット』(2)
④『ハムレット』(3)
⑤『ハムレット』(4)
⑥『ジェイン・エア』(1)
⑦『ジェイン・エア』(2)
⑧『ジェイン・エア』(3)
⑨『ジェイン・エア』(4)
⑩『闇の奥』(1)
⑪『闇の奥』(2)
⑫『闇の奥』(3)
⑬『闇の奥』(4)
⑭「湿原で」
⑮まとめ

文学入門

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】後期　木3

■サブタイトル
ブンガクはなぜあんなにつまらないか?あるいはなぜこんなに面白いか?

■講義概要
宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくらでもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか?それもよりによってブンガクだなんて！しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。

■到達目標
ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。

■講義方法
毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で採り上げた文学作品を、できるだけ自ら読んでみることを薦める。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席による
レポート（80%）1600～2000字程度

■テキスト
特になし

■参考文献
授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。

■講義計画
本年度は作家別に授業を編成する。以下の作家を予定する。（順不同）
①ダニエル・キイス
②谷崎潤一郎
③宮部みゆき
④小松左京
⑤筒井康隆
⑥ジェイムズ・ジョイス
⑦松本清張
⑧山田風太郎
⑨村上春樹
⑩コナン・ドイル
⑪舞城王太郎
⑫奥泉光
⑬吉増剛造
⑭入澤康夫
⑮谷川俊太郎

法学入門

【担当】時本　義昭
【開講】前期　月1

■サブタイトル
日常生活と法

■講義概要
わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといってよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといっても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標
基本的な法的思考を身につけること

■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験

■テキスト
※特に指定しない。

■参考文献
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成25年版』 三省堂
※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画
①基礎知識（法の種類）
②日本国憲法の基本原理
③日本国憲法の保障する人権
④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
⑦日常生活とアクシデント
⑧雇用と法
⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
⑩家族関係Ⅱ（相続）
⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
⑬行政と法
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

法学入門

【担当】時本　義昭
【開講】前期　月３

■サブタイトル
日常生活と法

■講義概要
わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといってよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといっても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標
基本的な法的思考を身につけること

■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要であれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法
定期試験（100%）学期末の定期試験

■テキスト
※特に指定しない。

■参考文献
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成25年版』　三省堂
※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画
①基礎知識（法の種類）
②日本国憲法の基本原理
③日本国憲法の保障する人権
④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
⑦日常生活とアクシデント
⑧雇用と法
⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
⑩家族関係Ⅱ（相続）
⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
⑬行政と法
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

倫理学入門

【担当】菊地　建至

【開講】前期　水３

■サブタイトル

現代社会の倫理学入門

■講義概要

●「倫理学入門」担当の菊地建至です。はじめまして。各授業の「講義概要」の説明に入る前に話しておきたいことがあります。ただし字数制限のためここには書けないから、「履修上の注意・担当者からの一言」に書きます。先に、よく読んでください。

●「倫理（道徳）」に関心のある学生に「倫理学の基本知識」をわかりやすく解説する。

●わたしたちの社会は、科学技術・医療への大きな期待と信頼をもっている。その反面、それらに関する決定をほんとうに専門家・政治家・公務員だけに任せてよいのかという疑問ももっている。「科学技術によってできるようになること（利用できる選択肢が増えること）」にはよい面があるが、「なんでも、なんの制限もなく、できるようになってよいか」、「ひと（人間）が科学技術・医療の進展に期待して生きることにはどのような長所と問題点があるか」など、ていねいに考えなければならないことがたくさんある。わたしは、これらのことは、受講者が「倫理学入門」でどのようなことを学ぶのがよいかということにとって重要だと思う。

●この倫理学入門では、とくに「こどもを生むことにかかわる医療・技術（たとえば体外受精、代理出産、治療にとどまらない増強・強化（エンハンスメント）を含む遺伝子操作など）の倫理問題」に注目し、そこから「倫理の基礎的な諸問題（自由、尊重、規制、幸福など）」にも取り組む。また、「ひと（人間）と自然環境のかかわりに関する倫理学的考察」の一端にも触れる予定です。

●「倫理学なんてほとんど知らないから、不安だ」、「わたしは〈文系〉だから、科学技術に関する授業は不安だ」など、このシラバスを読みながら思っているひともいるだろう。わたしは、学生が楽しく学び、よく考えられるように工夫することを約束するから、「興味はある」、「おもしろそうだ」、「挑戦しよう」などの肯定的なきもちがあれば、積極的に参加してください。

●この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらにあなたが授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について（他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど）考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。

●この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことがらか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きっと、「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、あなたの身近な日常のできごとやさまざまな社会問題について「倫理学的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標

●現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理学的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。

■講義方法

●「講義」形式だが、多くの授業のなかで「（映画を中心とする）映像資料」や「読書資料」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。君は、「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。

●配布する読書資料はときに、簡単に読めるものではないこともあるだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにアドバイスするから、君にやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大学で求められる読書のトレーニング」にもなると前向きに理解するといいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の復習・課題提出が求められる機会は少なくないだろう。

■成績評価の方法

平常点（50%）積極的な授業参加、小テスト（確認テスト）、比較的短い論述（レポート）などで評価する

定期試験（50%）

■テキスト

特になし

■参考文献

授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言

●わたしが担当する倫理学入門は、2013年度も、三種類あります（水曜日３時限・前期、水曜日3時限・後期、水曜日５時限・後期）。毎年、どの授業も、参加者が多数になり、多人数授業だから「講義中心」になります。しかし、わたしは学生が「倫理に関して自分（たち）で考えること」を重視するから、学生が「自分で考える、そしてその思考を表現する」きっかけになる工夫に力を入れます（たとえば、授業のなかでの映像資料の活用、質問について考えて書くワークの多用など）。

●また、あなたは上記の（三種の）倫理学入門の「どれかひとつだけに」登録することができます。曜日・時間だけでなく「内容」や「授業の進め方」も異なる部分があるように授業計画するから、ぜひ「内容や進め方を理解し」、あなたが「積極的に」授業参加したいと思うものを選んで登録してほしいと思います。

＊参考までに言うと、2012年度の受講者数は、水曜日３時限・前期は約200人、水曜日３時限・後期は約300人、水曜日５時限・後期は約120人でした。そして、毎回の授業で出席をとり、それを平常成績に反映したのは（受講者数120人の）水曜日５時限・後期だけでした。逆に言えば、受講者多数のため出席をとらない授業では、平常成績を明確にするために、授業期間内の課題や小テスト（確認テスト）の回数が多くなる傾向にあります。出席確認がなくとも積極的に授業参加し、理解を進め、（たびたびあるだろう）その成果を示す機会にしっかり取り組むことが求められると言えるでしょう。

●継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、（知的に）楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■講義計画

１回目	「ガイダンス」
２～３回目	（映画などの）映像資料を用いて、生殖医療・技術の倫理問題の広がりを理解しよう
４回目	生殖医療・技術の歴史と現在の整理
５～６回目	代理出産について「倫理学的に」考える
７回目	調整日
８～９回目	「自由」、「優秀さ」、「受け入れること」、「規制」、「幸福」など、わたしたちの人生のなかでもたびたび使われる重要語について、その「倫理的な」意味を考える
10～11回目	（映画などの）映像資料を用いて、遺伝子診断などの予知医療と生殖技術の組み合わせについて「倫理学的に」考える
12～13回目	ひと（人間）と自然環境のかかわりに関する「倫理学的」考察
14～15回目	授業で取り上げた範囲であなたがもっとも関心のある「科学技術・医療の倫理の問題」について、徹底的に考えよう

以上、順不同。

倫理学入門

【担当】菊地　建至
【開講】後期　水５

■サブタイトル
現代社会の倫理学入門

■講義概要
●「倫理学入門」担当の菊地建至です。はじめまして。各授業の「講義概要」の説明に入る前に話しておきたいことがあります。ただし字数制限のためここには書けないから、「履修上の注意・担当者からの一言」に書きます。先に、よく読んでください。
●現代社会において、「個人の自由」や「多様な価値観」は重視されていると言えるだろう。しかし、「自由に生きるなんて結局無理なことだから」や「自由といっても結局ひとそれぞれだから」といった態度も、根強い。そういう状況において「自由を考えること」や「自由に生きること」に無関心を決め込むのでなく、それなら「自由について」一度徹底的に取りくんでみよう、そう思うひとが参加するのが、この「水曜日5時限の倫理学入門」です。
●また、この「水曜日５時限の倫理学入門」は「インターネットなど情報技術の進展がいちじるしい現代社会において、自由というテーマに加えて、政治（とくにデモクラシー）や倫理はどうあるべきか」ということにも取り組みます。「現代社会の自由の問題には、倫理学の視点でどのような特徴があるか」と「倫理学的なアプローチは自由の問題にどのような提案をすることができるか」、これら両方の問いを意識し、「現代社会の主要な倫理問題」について、具体的かつ理論的にていねいに授業を進めることを約束します。
●この「水曜日５時限の倫理学入門」は、わたしが担当する倫理学入門のなかで唯一「テキストを使用する」授業です。そういう意味では読書の予習・復習の機会は少なくありません。そういう自習はしたくないというひとは、この授業に向かないでしょう。もちろん、ただ本を順番に読むだけといったものではなく、さまざまな（映画など）映像資料やワークも活用し、学生が「楽しく、能動的に」取り組める工夫もたくさんあります。
●この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらにあなたが授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について（他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど）考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。
●この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことがらか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きっと、「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、あなたの身近な日常のできごとやさまざまな社会問題について「倫理学的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標
●現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理学的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。
●世界で長きにわたって「繰り返し読まれてきた」価値ある本（こういうものを古典と呼びます）の一冊に集中的に取り組み、「読むこと」や「伝えること・表現すること」について理解を深める。

■講義方法
●「講義」形式だが、多くの授業のなかで「（映画を中心とする）映像資料」や「テキスト」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。君は、「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。
●テキストはときに、簡単に読めるものではないこともあるだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにアドバイスするから、君にやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大学で求められる読書のトレーニング」にもなると前向きに理解するといいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容の復習やテキストの自習（予習・復習を含む）が求められる機会は少なくないだろう。

■成績評価の方法
平常点（50%）積極的な授業参加、小テスト（確認テスト）、比較的短い論述（レポート）などで評価する
定期試験（50%）

■テキスト
ミル『自由論』光文社　1,048円
J.S.ミルは1806年に生まれ1873年に死んだ。活動の時期からすれば、およそ150~200年前のひとです。しかし、たんに昔の有名人というのではなく、「これまでの自由な社会」の基礎となる考えのいくつかを示し、「これからの自由な社会」を開く力にもなるひとだと言えます。
この『自由論』の読書を通して、あなたは、「個人と社会はどうかかわるのが正しいか」、「自分の意見をもちそれを表明する自由や少数意見が聞かれるということは、わたしの人生にとって、また、人間の社会にとって、どういうものか」、「個性の発展は、わたしの人生にとって、また、人間の社会にとって、どういうものか」、「なぜ、世論や多数意見や自信満々の主張がほんとうに確かなものかどうかを検討することが重要なのか」、「他者に危害を与える行為と自分自身を害する（本人のためにならない）行為は、おなじように規制されてよいか」、「個人の自由の限界は、どういうものか」など、さまざまに徹底的に考えるきっかけをもつだろう。

■参考文献
授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言
●わたしが担当する倫理学入門は、2013年度も、三種類あります（水曜日３時限・前期、水曜日３時限・後期、水曜日５時限・後期）。毎年、どの授業も、参加者が多数になり、多人数授業だから「講義中心」になります。しかし、わたしは学生が「倫理に関して自分（たち）で考えること」を重視するから、学生が「自分で考える、そしてその思考を表現する」きっかけになる工夫に力を入れます（たとえば、授業のなかでの映像資料の活用、質問について考えて書くワークの多用など）。
また、あなたは上記の（三種の）倫理学入門の「どれかひとつだけに」登録することができます。曜日・時間だけでなく「内容」や「授業の進め方」も異なる部分があるように授業計画するから、ぜひ「内容や進め方を理解し」、あなたが「積極的に」授業参加したいと思うものを選んで登録してほしいと思います。
＊参考までに言うと、2012年度の受講者数は、水曜日３時限・前期は約200人、水曜日３時限・後期は約300人、水曜日５時限・後期は約120人でした。そして、毎回の授業で出席をとり、それを平常成績に反映したのは（受講者数120人の）水曜日５時限・後期だけでした。逆に言えば、受講者多数のため出席をとらない授業では、平常成績を明確にするために、授業期間内の課題や小テスト（確認テスト）の回数が多くなる傾向にあります。出席確認がなくとも積極的に授業参加し、理解を進め、（たびたびあるだろう）その成果を示す機会にしっかり取り組むことが求められると言えるでしょう。
●継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、（知的に）楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■講義計画
1回目　ガイダンス
2～3回目　（映画などの）映像資料とテキストを用いて、「自由」について考える－1
4～5回目　（映画などの）映像資料を用いて、「情報社会の倫理や政治の問題の広がり」を理解しよう
6回目　テキストを用いて「自由」について考える
7回目　友人どうしのあいだでも正しくないこととは、どのようなことか
8回目　（映画などの）映像資料とテキストを用いて、「自由」について考える－2
9～10回目　「平等と正義のちがい」、「多数決が重視されるデモクラシーの特長と問題点」について理解を深めよう
11～13回目　（映画などの）映像資料とテキストを用いて、「自由や倫理の問題」について考える
14～15回目　授業で取り上げた範囲であなたがもっとも関心のある「自由や倫理の問題」について、徹底的に考えよう
以上、順不同

歴史入門

【担当】西村　昌洋
【開講】前期　水３

■サブタイトル
歴史を知る、歴史で楽しむ、歴史から考える
■講義概要
歴史とは、過去に起こった出来事や遠い時代を生きた人々の生き方・考え方のこと、あるいはそれらについて調べることである。歴史を学ぶことにはどのような意味があるのだろうか。会社での業務に役立つわけではないし、実際に製品を生み出すわけでもないから、別に必要ではないと思うかもしれない。だが歴史を学ぶこととは、遠い昔、はるかかなたに離れた世界について知ることであり、それは私たちの想像力を広げてくれるし、それ自体楽しいものである。同時に、歴史を学ぶこととは今とは違う社会について知ることであり、それは必然的に今私たちが生きているこの社会について考え直すことを迫る。その結果、今の私たちの社会や生活についてもっと鋭い感覚を持つことができ、自分自身について考える視点を養うことができる。またそれは、今の「当たり前」とは別の様々な可能性を意識し模索する手段をも与えてくれるのである。
この「歴史入門」では入門編として、過去という見知らぬ世界での生き方について、歴史を書くという営みについて、そして、民主主義や「グローバル化」のような現代世界と深いかかわりのある事柄の起源について、取り上げてみたい。もちろんここで取り上げる事柄は歴史の内のある側面なのだが、この講義を通して「歴史的にものを考える」ことの意味や面白さを理解してもらえれば幸いである。
■到達目標
過去を知ることで、自分たち自身の生きている社会の枠組みや約束事を相対的にとらえる。
今の社会のあり方や問題点､そして今後何をすべきかということを、歴史的に考える感覚を身につけ、
それを自分の言葉で的確に説明できるようになる。
■講義方法
基本的には、プリント資料を配布しつつ講義形式で行うが、授業の進行状況に応じて柔軟に対応する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業の進行状況に応じて予習や復習の課題を出すことがある。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）授業中に小課題を出すことがある。
レポート（30%）講義期間中に読書レポートを課す。
定期試験（50%）論述式の試験を行う。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業中、授業の進行を妨げる行為、他の出席者の迷惑となる行為は、絶対にしないでください。
授業で扱った事柄について興味を持ったなら、自分で本を探して読んでみてください。
■講義計画
①イントロダクション：歴史とは
②過去は見知らぬ国なのか（1）：中世日本の性モラル
③過去は見知らぬ国なのか（2）：近世パリの猫殺し
④歴史を書く（1）：ヘロドトスとトゥキュディデス
⑤歴史を書く（2）：『史記』と『漢書』
⑥歴史を書く（3）：『古事記』と『日本書紀』
⑦民主主義の来し方（1）：古代アテネのラディカル・デモクラシー
⑧民主主義の来し方（2）：フランス革命と社会的デモクラシー
⑨ヨーロッパとアジア（1）：「自由貿易」の帝国
⑩ヨーロッパとアジア（2）：「朝貢貿易」の帝国
⑪ヨーロッパとアジア（3）：「グローバル化」と世界
⑫「国民」とは何か（1）：ブリティッシュ意識
⑬「国民」とは何か（2）：フランスとドイツ
⑭「国民」とは何か（3）：オーストリア＝ハンガリー
⑮予備日（予定通りに授業が進まない場合を考慮して調整用に設ける、予定が遅れなかった場合でも休講にはしない）

歴史入門

【担当】佐野　東生
【開講】後期　金２

■サブタイトル
西アジアの歴史と文化
■講義概要
西アジアは多様な民族・宗教・文化が交流する地域として長い歴史を有している。この講義では、史料を主体とした歴史学の基礎を理解した上で、古代から近現代に至る西アジア史について概観する。まず、古代オリエント文明を基としたギリシア・ペルシア文明のあり様について述べ、その後のヘレニズム文化の成立と仏教にも影響を与えた発展について理解を深める。次いで中世イスラーム世界の､アフリカからインド･中国にいたる大規模な交流について解説する。最後に、近現代史について西洋の進出とそれへの対応の視野から概観し、現代のグローバル化する世界の中でいかなる変貌を遂げているか考察する。
■到達目標
中東とも呼ばれる西アジア地域の現代の情勢を考察する上で、歴史的理解の必要性を認識すること。
■講義方法
講義形式で、日本語に訳された史料を配布し、講読する。ビデオなど視覚教材を適宜使用。
■授業時間外における予・復習等の指示
配布された史料を批判的に評価できるように復習すること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）質問票（出席票にもなる）を数回提出。
小テスト（20%）１回実施する。
定期試験（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
前嶋信次 『イスラムの時代』 講談社学術文庫　1,365円
■履修上の注意・担当者からの一言
西アジア史に関する書籍は多いので、講義とともに読む習慣を身に着けてもらいたい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義中に指示
■講義計画
①歴史学の方法１
②歴史学の方法２
③古代の西アジア１
④古代の西アジア２
⑤古代の西アジア３
⑥古代の西アジア４
⑦中世イスラーム史１
⑧中世イスラーム史２
⑨中世イスラーム史３
⑩近代１
⑪近代２
⑫現代１
⑬現代２
⑭現代３
⑮まとめ

論理学入門

【担当】中谷　隆雄
【開講】前期　月３

■サブタイトル
練習して身につく論理学
■講義概要
講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまの形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。
■到達目標
弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。
■講義方法
推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけではなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。
■授業時間外における予・復習等の指示
特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
評価は主として定期試験によって評価する。定期試験約80点（80%）、平常点約20点（20%）
■テキスト
飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂　2,000円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。
■講義計画
①論理とは何か
②推論の最小単位としての命題（文）・命題を否定する語（ない）
③命題と命題を結ぶ語（そして）
④命題と命題を結ぶ語（あるいは）
⑤命題と命題を結ぶ語（ならば）
⑥命題と命題を結ぶ語（双条件）
⑦常に真な命題；表による判定
⑧常に真な命題；図による判定
⑨推論の妥当性；表による判定
⑩推論の妥当性；図による判定（その基本）
⑪推論の妥当性；図による判定（その応用）
⑫ルールによる推論の証明（1）（そして）
⑬ルールによる推論の証明（2）（ならば）
⑭ルールによる推論の証明（3）（ない）
⑮総復習

論理学入門

【担当】中谷　隆雄
【開講】後期　月３

■サブタイトル
練習して身につく論理学
■講義概要
講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまの形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。
■到達目標
弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。
■講義方法
推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけではなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。
■授業時間外における予・復習等の指示
特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
主として定期試験によって評価する。定期試験約80点（80%）、平常点約20点（20%）
■テキスト
飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂　2,000円
改定の予定があるので、テキストは後期になってから購入すること
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。
■講義計画
①論理とは何か
②推論の最小単位としての命題（文）・命題を否定する語（ない）
③命題と命題を結ぶ語（そして）
④命題と命題を結ぶ語（あるいは）
⑤命題と命題を結ぶ語（ならば）
⑥命題と命題を結ぶ語（双条件）
⑦常に真な命題；表による判定
⑧常に真な命題；図による判定
⑨推論の妥当性；表による判定
⑩推論の妥当性；図による判定（その基本）
⑪推論の妥当性；図による判定（その応用）
⑫ルールによる推論の証明（1）（そして）
⑬ルールによる推論の証明（2）（ならば）
⑭ルールによる推論の証明（3）（ない）総復習
⑮総復習

教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）

（総　合　科　目）

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
ア	アジアの文化	徐　光輝	前期	木４	81
	アジアの文化	松井　智子	後期	水３	81
	アジアの文化	舟橋　健太	後期	木４	82
オ	欧米の文化	瀧口　順也	前期	月４	82
	欧米の文化	嶋﨑　陽一	前期	水１	83
	欧米の文化	大槻　志郎	後期	水３	84
	欧米の文化	サルズ・ジョーナ・Ｉ	後期	木４	85
カ	科学技術史	林　久夫	前期	月１	86
	科学技術史	岩本　太郎	後期	月３	87
	環境と人間Ａ	竺　文彦	前期	月４	88
	環境と人間Ａ	山崎　達雄	後期	月４	88
	環境と人間Ｂ	西江　仁徳	前期	水１	89
	環境と人間Ｂ	鈴木　滋	後期	水２	89
	環境と倫理	柿本　佳美	前期	木４	90
キ	教養教育科目特別講義Ａ（里山学入門）／共同開講科目特別講義	宮浦　富保／近藤　倫生／鈴木　龍也／須藤　護／田中　滋／帖地　孝人／朴　炫国／丸山　徳次／遊磨　正秀／横田　岳人	前期	月３	90
	教養教育科目特別講義Ｂ（西洋近現代史入門）	福島　千穂	前期	月２	91
	教養教育科目特別講義Ｂ（西洋近現代史入門）	福島　千穂	後期	水３	91
	教養教育科目特別講義Ｃ（アジアの映画）	李　相哲	前期	月３	92
	教養教育科目特別講義Ｄ（アジアの歴史と社会）	野呂　靖	前期	水３	92
	教養教育科目特別講義Ｄ（アジアの歴史と社会）	野呂　靖	後期	水３	93
	教養教育科目特別講義Ｆ（現代社会と栄養）	石井　和子	前期	木３	93
	教養教育科目特別講義Ｆ（現代社会と栄養）	土居　幸雄	後期	月２	94
	教養教育科目特別講義Ｇ（雑草学）	古本　強	後期	水３	94
ケ	健康とスポーツ	渡辺　英児	後期	月１	95
	現代社会と宗教	辻　虎志	前期	月３	95
	現代社会と宗教	辻　虎志	後期	月３	96
	現代社会とスポーツ	辻　延浩	前期	月４	96
	現代社会と福祉	岡野　英一	前期	木３	97
	現代社会とマス・メディア	中野　有	前期	木４	97
	現代社会とマス・メディア	中野　有	後期	木４	98
	現代社会とマス・メディア	西村　敏雄	後期	月４	98
	現代の技術	吉川　恒夫／池田　昌彦	後期	月３	99
コ	国際社会と日本Ａ	池尾　靖志	前期	水１	100
	国際社会と日本Ｂ	佐藤　一進	後期	水１	101
	国際社会と日本Ｃ	川村　覚文	前期	木４	101

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
シ	ジェンダー論	堀江　有里	前期	火５	102
	ジェンダー論	堀江　有里	後期	火５	102
	ジェンダー論	高橋　慎一	後期	金５	103
	自然観察法	宮浦　富保／遊磨　正秀	前期	金２	103
	情報社会とメディア	外村　佳伸／三浦　雅展	前期	月３	104
	情報社会とメディア	外村　佳伸／三浦　雅展	後期	木３	104
	情報と人間	小堀　聡	後期	木３	105
	情報倫理	野村　竜也／芝原　努	前期	月４	105
	人権論Ａ	稲田　七海／本岡　拓哉	前期	月２	106
	人権論Ａ	中川　ユリ子	前期	月２	106
	人権論Ａ	稲田　七海／本岡　拓哉	前期	月３	107
	人権論Ａ	中川　ユリ子	前期	月３	107
	人権論Ａ	金　光敏	前期	水３	108
	人権論Ａ	岸　衛	前期	水３	108
	人権論Ａ	金　光敏	前期	水４	109
	人権論Ａ	矢野　亮	前期	木３	109
	人権論Ｂ	稲田　七海	後期	月２	110
	人権論Ｂ	中川　ユリ子	後期	月２	110
	人権論Ｂ	稲田　七海	後期	月３	111
	人権論Ｂ	中川　ユリ子	後期	月３	111
	人権論Ｂ	金　光敏	後期	水３	112
	人権論Ｂ	岸　衛	後期	水３	112
	人権論Ｂ	金　光敏	後期	水４	113
	人権論Ｂ	矢野　亮	後期	木３	113
ス	スポーツ文化論	松下　唯夫	前期	水３	114
セ	世界の福祉	太谷　亜由美	前期	水３	114
	生活の中の宗教	辻　虎志	前期	月２	115
	生活の中の宗教	辻　虎志	後期	月２	115
	生命と共生	田村　公江	前期	木３	116
	生命と共生	柿本　佳美	後期	木３	116
タ	歎異抄の思想Ⅰ	殿内　恒	前期	水２	117
	歎異抄の思想Ⅱ	殿内　恒	後期	水２	117
ニ	日本の文化	泉　文明	前期	月３	118
	日本の文化	泉　文明	前期	木５	118
	日本の文化	泉　文明	後期	木５	119
	人間と社会と法	時本　義昭	前期	木４	119
ヘ	平和学入門	清水　耕介	前期	木３	120
	平和学入門	宮﨑　寛	後期	木３	120
メ	メディアにみる福祉	高田　敏司	後期	月２	121
	メディアにみる福祉	幸重　忠孝	後期	木３	121

アジアの文化

【担当】徐　光輝
【開講】前期　木4

■サブタイトル
中国歴史文化概説
■講義概要
考古学発掘調査によれば、中国文明のあけぼのは遅くとも5000年前の新石器時代後期にさかのぼる。畑作や水田稲作に代表される農耕文化の発展に伴って、各地に城郭都市の原型が現われ、地域初期国家の胎動が注目を浴びており、従来疑われてきた「三皇五帝」などの文献資料の虚実が再検討されるようになった。
　このような先史文明を土台に、夏・商（殷）・周のような古代国家が各地で興亡を繰り返し、春秋戦国時代を経て、秦漢帝国が登場した。とりわけ城郭都市、文字、百家思想、金属器（青銅器、鉄器）文化、郡県制度が注目される。
　後漢末に起きた「黄巾の乱」を経て、魏、蜀、呉といった三国時代に入るが、西晋王朝によって再び統一された。南北朝時代の民族大融合のなかで、地域文化交流が活発になり、絢爛たる六朝文化、北朝文化が栄え、朝鮮半島や日本列島との文化交流を裏付ける考古発見も多い。
　隋唐時代には東西文化交流が更に盛んになり、科学技術、経済、文化、芸術などの分野において大きく発達した。朝鮮半島や日本列島との文化交流も頻繁に行われた。
■到達目標
隋唐時代に至る中国歴史文化の主な流れを知り、また朝鮮半島や日本列島との比較研究の一助になってほしい。
■講義方法
時代順に概説するが、パワーポイント、ビデオなどによる映像資料を常に使う。
■系統的履修
アジアの歴史文化に関する科目を多く履修してほしい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中適宜指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）出席率や受講態度等を重視する
小テスト（20%）点数により評価する
レポート（20%）内容により評価する
定期試験（50%）点数により評価する
■テキスト
特になし
■参考文献
尾形勇・岸本美緒編 『中国史（新版世界各国史３）』 山川出版社　1998　3,500円
小澤正人・谷豊信・西江清高著 『中国の考古学（世界の考古学７）』 同成社　1999　3,200円
■講義計画
①はじめに
②中国文明のあけぼの（黄河流域）
③中国文明のあけぼの（長江、淮河流域）
④中国文明のあけぼの（西遼河流域）
⑤考古学上の夏王朝、夏文化の実体
⑥殷周王朝と都城遺跡の考古発見
⑦春秋戦国時代の百家思想
⑧秦の統一と始皇帝陵の考古発見
⑨漢王朝と長安城、洛陽城の考古発見
⑩魏晋王朝と陳寿の『魏志倭人伝』
⑪南北朝時代の民族大融合
⑫宗教文化の発展と伝播
⑬隋唐帝国の成立と繁栄
⑭隋唐時代の文化交流
⑮まとめ

アジアの文化

【担当】松井　智子
【開講】後期　水3

■サブタイトル
タイの文化と社会
■講義概要
「アジアの文化」を分析するいくつかの理論を学んだ上で、タイの文化と社会に関する代表的研究を取り上げ、理解を深める。授業の前半では、「アジアの文化」を捉える理論として、『想像の共同体』、『オリエンタリズム』等を学ぶ。後半では、前半で学んだ「ナショナリズム」や「オリエンタリズム」等の概念を援用しながら、タイの文化と社会に関する代表的研究を検討し、その特徴と限界を解説する。
■到達目標
「アジアの文化」を分析する文献の読解を通じて、文化と権力との関係について理解する。また、タイの文化と社会を多面的に学ぶことを通じて、タイを始めアジアに対して、ステレオタイプにとらわれない公平な見方ができるようになることを目指す。
■講義方法
ハンドアウトによる講義。映像資料等も使用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
赤木攻『タイの政治文化』は必ず読んでくること。その他の課題文献も読んでくることが望ましい。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）
■テキスト
特になし
■参考文献
梅棹忠夫 『文明の生態史観』 中公文庫　780円
ベネディクト・アンダーソン 『定本　想像の共同体―ナショナリズムの起源と流行』 書籍工房早山　2,100円
E.W.サイード 『オリエンタリズム（上）』 平凡社ライブラリー　1,631円
E.W.サイード 『オリエンタリズム（下）』 平凡社ライブラリー　1,631円
赤木攻 『タイの政治文化―剛と柔（復刻版）』 エヌ・エヌ・エー　2,100円
平井京之介 『村から工場へ―東南アジア女性の近代化経験』 NTT出版　2,415円
赤木攻『タイの政治文化』は必ず読んでくること。その他の課題文献も読んでくることが望ましい。
■履修上の注意・担当者からの一言
無遅刻・無欠席が原則。
■講義計画
①ガイダンス
②梅棹忠夫『文明の生態史観』を読む（1）―文明論の試み
③梅棹忠夫『文明の生態史観』を読む（2）
④B.アンダーソン『想像の共同体』を読む（1）―国民国家と文化
⑤B.アンダーソン『想像の共同体』を読む（2）
⑥E.W.サイード『オリエンタリズム』を読む（1）―帝国主義と文化
⑦E.W.サイード『オリエンタリズム』を読む（2）
⑧映画『アンナと王様』とオリエンタリズム批判
⑨赤木攻『タイの政治文化』を読む（1）―入門「タイの文化」論
⑩赤木攻『タイの政治文化』を読む（2）
⑪赤木攻『タイの政治文化』を読む（3）
⑫平井京之介『村から工場へ』（1）―現代タイ女性の近代化経験
⑬平井京之介『村から工場へ』（2）
⑭平井京之介『村から工場へ』（3）
⑮まとめ

アジアの文化

【担当】舟橋　健太
【開講】後期　木４

■サブタイトル
インド社会と「カースト」
■講義概要
南アジア社会、とりわけインドを代表的に表象するものとして、「カースト」が挙げられることが多い。伝統的・固定的ととらえられがちな「カースト制度」について、その歴史的背景から成り立ち、制度の概要・内容、そして現代における変化まで、幅広く取り上げて講義を行っていく。人びとの生活に密接に関わるものとして、人びとの暮らしとカーストのありように焦点を当てて、多角的観点から講義を進めていく。また、社会・文化の実際の様相をヴィヴィッドに把握するため、映像・画像を積極的に使用し、視聴覚に効果的に訴えて理解の深化を図る。
■到達目標
インド社会における「カースト」を中心に、当該地域の社会と文化ならびにそこに住まう人びとについて学び考察することから、一面的で先入的な価値判断を脱して、「異文化」を理解すること、さらには了解することの必要性と重要性について認識し、「他者」と接する際の視角のありようについて、受講生が自省的に思考することを目標とする。
■講義方法
基本的に講義形式で行うが、受講生の人数や希望に応じて、受講生の発表の場や、ディスカッションの場を設けていく。
■系統的履修
文化人類学
■授業時間外における予・復習等の指示
各自で諸媒体を有効に用いて、毎回の授業のテーマについて振り返るとともに、次回テーマについて予備的知識を得ておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席、ならびに、コメントやレポートなどの内容を考慮する。
定期試験（60%）論述形式で行う。詳細は講義において通達。
出席（原則として無遅刻・無欠席）、ならびに、質疑や討議といった面での積極的な参加を高く評価する。
■テキスト
特にテキストは指定しないが、必要に応じて、適宜資料を配布する。
■参考文献
金 基淑（編著）『カーストから現代インドを知るための30章』 明石書店　2,100円
田中 雅一・田辺 明生（編）『南アジア社会を学ぶ人のために』 世界思想社　2,520円
辛島 昇 他（監修）『新版 南アジアを知る事典』 平凡社　9,450円
その他、講義ごとに、テーマに沿った参考文献を提示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
インド社会（あるいは「異文化」というもの）への関心を有する方々の受講、ならびに、質疑・討議という点からの講義への積極的な参加を期待する。
また、記載の講義計画は、進行具合や受講生の関心の度合い等に従い、若干の変更が生じることがある。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
基本的に、電子メール（アドレス：kfunama43@ybb.ne.jp）でのコンタクトとする。
■講義計画
①イントロダクション
②「カースト」とは何か
③「カースト制度」の歴史的形成・展開過程①
④「カースト制度」の歴史的形成・展開過程②
⑤「カースト」をめぐる議論①
⑥「カースト」をめぐる議論②
⑦「不可触民」とされる人びと①
⑧「不可触民」とされる人びと②
⑨M. K. ガンディーとB. R. アンベードカルの「カースト」認識と解釈
⑩反カースト運動／不可触民解放運動／ダリト運動
⑪「カースト」と家族・親族関係
⑫「カースト」と女性～インドのジェンダー問題
⑬「カースト」をめぐる政治～現代インド社会における「カースト」
⑭「カースト」を考える
⑮「異文化」を学ぶということ

欧米の文化

【担当】瀧口　順也
【開講】前期　月４

■サブタイトル
文化を学ぶまなざし－西洋文化史
■講義概要
本講義は、「文化史」というアプローチを用いて欧米圏および日本のさまざまな文化の成り立ちと変容を考察します。現在のわれわれが日常で経験・体験している行為の多くは、近現代に誕生し異文化との接触や異なる地域に伝播されるなかで変化を遂げてきました。
本講義が扱う「文化」の領域は、物質文化、芸術文化、身体文化、日常文化と、きわめて幅広いものです。
普段の生活で何気なく接している行為や言葉にも、由来があり歴史があります。講義で扱う事例の多くは欧米圏のものですが、それらの多くは日本の文化様式にも影響及ぼしています。それぞれのキーワードとトピックを軸に、われわれの現在への理解を深め、これからを考えるための手掛かりとして、文化の歴史を紐解く試みです。
■到達目標
１．「文化史」の視点や方法論への理解を深める。
２．21世紀の現代に行われている様々な文化様式の変遷を知り、現代文化を洞察する見識を養う。
３．欧米圏と日本の文化接触への知見を深め、日本文化への理解を促進させる。
■講義方法
パワーポイントを用いて講義を進める。適宜プリントを配布する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業時に多くの参考文献や映像資料を紹介します。ひとつでも多くの本や映画・ドキュメンタリーなどに触れ、歴史を体感するように心掛けて下さい。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）
レポート（30%）学期中のレポート
そ の 他（60%）学期末レポート
二度（中間・学期末）のレポートにより評価します。
■テキスト
特になし
■参考文献
ピーター・バーク 『文化史とは何か』 法政大学出版局
個別のトピックについては、講義内で随時紹介します。「文化史」への総体的な理解を深めるものとして、上記の文献を挙げておきます。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
第一回講義時に指示します。
■講義計画
①イントロダクション：「文化史」というアプローチ
②食物と消費文化Ⅰ：砂糖
③食物と消費文化Ⅱ：塩
④食物と消費文化Ⅲ：茶、タバコ、酒
⑤スポーツと現代文化Ⅰ：フットボール
⑥スポーツと現代文化Ⅱ：ボクシング
⑦スポーツと現代文化Ⅲ：オリンピック
⑧集合的記憶Ⅰ：『未来予想図』とベル・エポック
⑨集合的記憶Ⅱ：オスタルギー、昭和ノスタルジー
⑩集合的記憶Ⅲ：ノスタルジーの克服
⑪儀礼と国家Ⅰ：権力の表象
⑫儀礼と国家Ⅱ：「全体主義国家」と儀礼
⑬テクストと身体Ⅰ：書物と出版
⑭テクストと身体Ⅱ：監視と規律
⑮まとめ：文化の歴史と現代文化

欧米の文化

【担当】嶋﨑　陽一
【開講】前期　水1

■サブタイトル
ヨーロッパ近現代の歴史思想を知る

■講義概要
近代ヨーロッパの成立について教科書的な記述に終わらない光をあて、生きた人間たちが作り上げた文化・歴史について紹介する。本年度は特に古代ギリシャに始まるユートピア思想の変遷とその実現の試みの歴史を主たるテーマとする。

■到達目標
近代西洋の礎となる思想・思考について理解を深める。

■講義方法
書籍、絵画、ビデオなどさまざまな教材を使って講義形式ですすめる。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に指示する文献をできるだけ読むようにすること。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）ただし、講義に出席した上での理解度を問う試験となるので、授業には積極的に参加されたい。

■テキスト
特になし

■参考文献
授業中に指示する。

■講義計画
1～3回目　古代ギリシャ・ローマのユートピア思想
4回目　トマス・モアの『ユートピア』
5回目　ユートピアの実践：トマソ・カンパネッラと『太陽の都市』
6回目　ユートピアの実践：パラグアイのイエズス会運動
7～8回目　ユートピアの実践とフランス革命
9回目　ロバート・オーウェンの協同組合
10回目　サン＝シモンの社会思想
11回目　サン＝シモンの影響
12回目　シャルル・フーリエのファランステール
13回目　反ユートピア文学の展開
14～15回目　18世紀啓蒙思想の展開

欧米の文化

【担当】大槻　志郎
【開講】後期　水３

■サブタイトル
テーマで斬る欧米文化

■講義概要
「文化を学ぶ」ということの意味は必ずしも明確ではない。したがって文化についての講義も、文化研究の最先端に触れるものから、観光ガイドに近いものまで、その振幅は広い。この講義は、特定の国や地域に限定せず、広く欧米文化を理解するためのテーマをいくつか設定して考察しながら、欧米を考え直す機会を提供しようとするものである。その際、歴史をはじめ、世界の状況に関する基本的な知識が土台となるが、そうした知識は日本の教育からしばしば欠落しているのが現状である。したがってこの講義では、時間の制約はあるものの、基本的な事項についても簡単な解説をする他、小テスト、課題などで補強的な学習を求めたい。

■到達目標
未知の世界としての異文化を、単純化せず、固定観念を持たずに、さまざまな角度、視点から考察する態度を養う。
欧米についての基礎知識をより多く身につける。

■講義方法
授業計画に基づく講義。出欠の確認も兼ねて、毎回講義の最初に、欧米の基礎知識についての小テスト、終わりに講義についての簡単なコメントを書いてもらう。課題として特定の問題について調べてもらうことがある。

■授業時間外における予・復習等の指示
とくに最初の西洋史通史の段階では、たとえば参考文献などを講義の前後によく読んで、西洋史についての基礎知識を身に付けておくことが望ましい。また講義中いろいろ新しい概念、用語などを示すので、なるべくその日のうちに内容を思い起こして自分なりに整理しておくとよい。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）小テスト、講義末に書いてもらうコメント、他の課題の提出と内容。
定期試験（60%）講義内容を理解できているかどうかについて、選択問題、論述などの筆記試験。小テストから一部出題。
試験と平常成績を総合的に評価する。３分の１以上欠席の場合は原則として定期試験の受験資格を失うものとし、したがって単位も認められないことになる。

■テキスト
特になし

■参考文献
綿引弘 『一番大切なことがわかる「世界史」の本』 三笠書房（知的生きかた文庫） 619円
講義内容の土台となる西洋史の知識をサポートする副読本として好適。西洋史の基礎知識が不足としている場合は、講義前に一度通読し、講義期間中も折にふれて読むことが望ましい。
その他文献も講義中に紹介。

■履修上の注意・担当者からの一言
欧米の文化をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいだけの人には向かない。しっかり話を聞いて、未知の内容はちゃんと学び、問題を掘り下げるつもりでいろいろ考えてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜４講時。但しいずれも会議の場合を除く。２-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画
①「欧米」の誕生（西洋史通史１）
②「欧米」の誕生（西洋史通史２）
③聖書と神話
④時間をめぐる話
⑤移動としての歴史
⑥風土と文化
⑦旅の物語の伝統
⑧土地と家族の問題
⑨労働と階級
⑩理性と野性、文明と自然
⑪言語の歴史、言葉の重さ
⑫言葉、シンボル、数字
⑬人間主義、個人主義
⑭名前と個人主義
⑮総合
＊以上は、講義項目のおおまかな流れを示したもので、必ずしも回数毎の内容ではない。

欧米の文化

【担当】サルズ・ジョーナ・Ｉ
【開講】後期　木４

■サブタイトル
映画で見るアメリカの現代社会
Contemporary　American Society through Film

■講義概要
アメリカ映画はその初期から大衆芸術としてあり、劇的な場面や生き生きとした見せ場を通して、同時代のさまざまな問題に取り組んできた。なかには議論を呼ぶような深いテーマを扱う映画もあり、それらは重要な文化的イコンとなったり、各世代のアイデンティティや心性を探るための窓となっているものもある。
この講義は、映画を通して1980年代以降のアメリカの主要な社会問題について議論することを目的とする。具体的には、人種差別や「アメリカン・ドリーム」という根強い神話、フロンティアの開拓者たち、青年セクスと暴力、孤高の人物やアウトサイダーたち、資本主義の危機に関する問題である。これらの映画は、同時代の社会問題をどの程度正確に反映しているのだろうか?　そして、これらの映画が与えた影響は、アメリカ人の自己へのまなざしや世界の見方をどのように変えたのだろうか?

■到達目標
この講義では、過去30年間にアメリカで生じた社会的・政治的な問題を取り上げる。

■講義方法
毎週、まず有名なハリウッド映画又テレビ番組（英語版、日本語字幕付き）を１本取り上げて、その物語の戦略と問題点を紹介する。次に、映画の受容とその影響について議論する。その後、授業内にその映画を鑑賞して、感想の意見交換する。授業で鑑賞する作品の多くは、映画の道を切り開いてきたものである。たとえば、物語の構成方法は、暗示的なメッセージと同様に影響を及ぼしている。講義では、こうした先駆的な映画制作のテクニックを論じていく。

■系統的履修
アメリカのの社会と政治文化、メディア共通テーマを探る。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義での映画の関連、延長線として他のアメリカの映画たくさん鑑賞する事。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）参加程度
小テスト（30%）感想リポート　（毎週の課題）
レポート（20%）作品の比較分析リポート　（授業で見た映画以外のアメリカ映画の文化としての分析）
定期試験（30%）授業で見た映画の内容について又はエッセイ
レポートでは、授業中に鑑賞した映画作品以外のアメリカの作品を感想、「アメリカの文化のメッセジ」を探る
剽窃と判明した際、０点にする。

■テキスト
なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。

■参考文献
井上 一馬 『ブラック・ムービー―アメリカ映画と黒人社会（講談社現代新書）』（新書）
八尋 春海 『映画の中の星条旗―厳選映画100本で見る現代アメリカ社会 by』
鈴木 透 『性と暴力のアメリカ―理念先行国家の矛盾と苦悶』　中央公論新社
図書館、Tsutayaなどで現代のアメリカ（他の国も道論！）文化を描いている映画沢山みてみましょう。

■履修上の注意・担当者からの一言
なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。
授業での作品はすべて英語で（字幕付け）ですが、英語を聞き取れない場合各自で振替版を又見に来なさい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
jonahATworld.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①映像の基本の見方
　アメリカ社会の最近20年
②『GranTorino』『グラン　トリノ』
③『Gran Torino』『グラン　トリノ』
④『GranTorino』『グラン　トリノ』
⑤『The Simpsons』１ テレビと暴力
⑥『Bowling for Columbine』『ボウングフォー・コロンバイン』:
　アメリカの銃への欲望
⑦『Bowling for Columbine』
⑧『Bowling for Columbine』
⑨『Juno』ー 少女妊娠コメディー
⑩『Juno』
⑪『Juno』
⑫『The Simpsons』『ザ・シンプソンズ』２　日本の　イメジー
⑬『真実の噂：Wag the Dog』
⑭『真実の噂：Wag the Dog』
⑮まとめ

科学技術史

【担当】林　久夫
【開講】前期　月1

■サブタイトル
将来の科学技術を客観的に考えるために

■講義概要
20世紀は科学技術の時代と言われた。石炭･石油をエネルギー源として、18世紀から産業革命が始まり、高度な物質文明を築き上げてきた。しかし、同時にこのことが、地球環境問題を引き起こしている。石器時代から人類は道具を作り始めたが、ギリシア時代にものや現象に対する科学的な思考を始め、中世を経て近代の科学技術を基礎とした社会を作り上げてきたと言える。本講では、ギリシア・ローマ時代の科学技術、アラビアの科学、中世の錬金術、12世紀ルネッサンス、産業革命以降の近代科学技術の発展について概観する。また、とくに物理学の分野においてはエネルギー観の変遷に、化学の分野においては物質観の変遷に着目し、これらの分野における先駆者たちの発見のきっかけや思考過程について、科学者たちのエピソードなども交えて解説する。この講義を受講することによって、現在私たちが教育によって当然と考えている科学の基本的な概念の成り立ちを理解し、今後の科学技術の発展に対して客観的な判断が下せるようになることを期待する。

■到達目標
科学技術の発展を５つ程度の時代に分け、それぞれの発達した地域・国家を説明できる。
各時代の科学技術の特性を、それぞれ３人程度の科学哲学者の業績と関連付けて説明できる。
各時代の科学技術の相互関係を、経済的・政治的・宗教的背景と関連付けて説明できる。

■講義方法
プリント、DVD、PowerPointなどの視覚的教材を活用しながら、視覚に訴え、興味の持てる授業にしたい。

■授業時間外における予・復習等の指示
配布資料のPowerPointなどの視覚的教材は未完成なので、授業中に完成させたものを用いて予習と復習を行うこと。推薦・指定DVDなどは、締め切り間際には混雑するので、時間の余裕を持って視聴すること。

■成績評価の方法
小テスト（40%）
定期試験（30%）
そ の 他（30%）中間試験

■テキスト
特になし

■参考文献
渋谷一夫ら 『科学史概論』 ムイスリ出版　2,400円
八杉龍一 『図解　科学の歴史』 東京教学社　2,000円

■講義計画
①環境問題と科学技術
②古代の科学技術
③ギリシアの宇宙観
④ギリシアの物質観
⑤ローマの科学技術
⑥アラビアの科学
⑦中世の科学技術
⑧ガリレオ、デカルト、ニュートン
⑨錬金術と元素観
⑩フロギストン仮説の崩壊
⑪原子論の復活
⑫永久機関への夢
⑬産業革命と熱機関
⑭近代科学技術
⑮持続可能な社会のための科学技術と技術者倫理

科学技術史

【担当】岩本　太郎
【開講】後期　月３

■講義概要
現在の科学や技術は過去の長い期間にわたる真理の追及や技術改良の限りない努力の上に成り立っている。科学技術の発展の歴史を学ぶことは、現代の科学技術をより深く理解し、次への発展の手掛りを得ることにつながる。たとえば、製鉄の技術は文明の発展に寄与した。蒸気機関の発明は産業革命を推進し、近代文明への発展のきっかけを作った。現代の便利な社会はコンピュータの発明の恩恵を多大に受けていることは言うまでもない。数多くの技術が相互に影響を与えながら発展してきたのであるが、時系列的に見て科学技術の発展に大きな影響を与えた要素を大づかみする一方、個々の技術について注目し、その技術の発展について論述する。科学技術史は人と時と技術で構成されている。この講義では技術の内容に立ち入り、それがどう変わっていったのかを中心に、それに関わった人のエピソードを交えながら話をしたい。私の専門の関係から、内容が機械に偏ると思われるが、その点はご容赦願いたい。

■到達目標
社会に大きな変革を及ぼした主要な科学技術について説明ができ、その技術内容のポイントについてもある程度説明ができる。

■講義方法
パワーポイントを主体的に使用し、補足的に配布資料を使用する。パワーポイントなので全てをメモすることはできないが、キーワードや主要点はメモすることが望ましい。

■系統的履修
直接関連する科目は無いが、時代背景を理解するために世界史/日本史をおさらいしておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義の後、当日の講義内容の要点をまとめておくこと。興味のある点、さらに詳しく知りたい点についてはインターネットや図書館で調べておくこと。このようにして作成したノートが学習の成果になる。

■成績評価の方法
小テスト（60%）出席確認と学習効果の把握を兼ねる。小テストの評価は合計して評価に用いる。
レポート（40%）学習が進んだ段階で、課題を出す。オリジナリティを重視し、他人のコピーは人数分の１にする。

■テキスト
特になし

■参考文献
山崎正勝他 『科学技術史概論』 ムイスリ出版　1,995円
中山秀太郎 『機械発達史』 大河出版　2,100円
三津間秀彦他 『新・機械技術史』 日本機械学会　2,800円
L・T・C・ロルト著、磯田浩訳 『工作機械の歴史』 平凡社　3,600円
ここに書ききれないが、参考図書はたくさんあり、記述内容もさまざまである。気に入ったものを探して読んでみるとよい。

■履修上の注意・担当者からの一言
講義は落語ではない。受け身でなく、自ら知識を学び取っていく姿勢で臨むこと。疑問点があれば授業中あるいは授業後に聞くこと。ただ漫然と聞き流すことなく、重要な点はノートに書き留めておくこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは定めないが、基本的に在室時は質問等に応じる。１号館315号室の扉に予定表を掲げている。参考図書を試読したいときは申し出ること。

■講義計画
①科学技術史総論（古代）
②科学技術史総論（中世）
③科学技術史総論（近世）
④科学技術史総論（近代）
⑤科学技術史総論（現代）
⑥製鉄の歴史
⑦紡績・織布産業の歴史
⑧工作機械の歴史
⑨動力の歴史
⑩蒸気機関車の歴史（世界）
⑪蒸気機関車の歴史（日本）
⑫日本の鉄道の歴史
⑬自動車の歴史
⑭電気の歴史
⑮計算機の歴史

環境と人間Ａ

【担当】竺　文彦
【開講】前期　月４

■サブタイトル
環境をいかに学び、いかに対処するか。
■講義概要
かつては、公害問題が環境問題であったが、公害問題については、法的な対応や行政的な対応によって、一応社会的には対応がなされたといえる。しかし、その後、ダイオキシン問題などの微量汚染物質が問題となったり、地球温暖化というような社会のエネルギーの使用を根本的に考え直さなければならないような大きな環境問題が出現してきている。これらのさまざまな環境問題の実態について知識を深め、今後どのように対処していかなければならないかについて、説明する。
■到達目標
さまざまな環境問題を理解し、基本的な考え方を確立する。
■講義方法
テキストおよびパワーポイント等を使用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
テキストを用いるので、テキストによる予習、復習を行うこと。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
石川宗孝　『環境読本』　電気書院　2,500円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
広く世界の環境の問題に目を向けてほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室を訪問してほしい。

■講義計画
①環境と社会づくり
②大気、水圏、土壌、森林
③地球温暖化、オゾン層
④酸性雨、森林破壊、砂漠化
⑤大気汚染
⑥水質汚濁
⑦廃棄物
⑧大気汚染防止技術
⑨水質汚濁防止技術
⑩化学物質、車社会
⑪温暖化、エネルギー
⑫CSR
⑬環境マネジメント、環境会計
⑭グリーン購入、LCA
⑮生活と環境

環境と人間Ａ

【担当】山崎　達雄
【開講】後期　月４

■サブタイトル
環境の問題を通じて、人間社会を考える。
■講義概要
人間は、長い歴史の中で育んできた知恵と文化を生かして、環境問題にも取り組んできたが、その歩みをふりかえりながら、持続可能な社会にむけて、現代の環境問題について考える。
　ごみ問題を中心に、地球温暖化やエネルギー、トイレや水環境、更には環境を柱としたまちづくりなど、幅広く、いろいろな問題をとりあげる。
■到達目標
社会においてどんな環境問題が生まれているのか関心を持つとともに、身近な環境問題について、自分で考え、行動できる基礎的な知識を学ぶ。
■講義方法
授業毎にレジメを用意する。
テーマによっては、ＮＰＯで実際に環境問題に取り組んでいる人から話を聞きながら授業を進める。
■授業時間外における予・復習等の指示
新聞等を読み、社会においてどんな環境問題が生じているのか、理解に努める。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席
レポート（50%）期末に与えられたテーマについてレポートを提出
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義時間前後の直接連絡
■講義計画
①授業の狙い、履修上の注意事項、身近な環境問題としてごみ問題を考える
②私達が毎日排出しているごみの行方
③ごみのリサイクルを考える
④循環型を考える－ごみゼロは実現できるのか－
⑤トイレを考える
⑥公害・環境問題の歴史から何を学ぶのか
⑦水の問題を考える
⑧アスベスト等、大気の問題を考える
⑨地球温暖化の問題を考える
⑩環境とエネルギーの関係を考える
⑪子どもたちは、環境の問題をどう考えているのか
⑫人間は環境を制御することはできるのか
⑬持続的社会に向けて、環境を学ぶ
⑭環境への取り組みを通じて、まちづくりを進める
⑮授業のまとめ、レポートの提出

環境と人間B

【担当】西江　仁徳
【開講】前期　水1

■サブタイトル
ヒトの進化史からみた人間と自然の関係
■講義概要
生態人類学的な観点から人と自然の相互関係について探求する。具体的には、
1. 霊長類の特徴と人類の進化について学ぶ。
2. 狩猟採集民社会を中心にさまざまな民族や文化を概観し、人間社会の多様性を理解する。
■到達目標
人類学的な視点を習得するとともに、グローバル・ローカルの双方向から人と自然の関係を考える力を養う。
■講義方法
パワーポイントのスライドを用いた講義形式で進める。必要に応じてビデオを利用する。
■系統的履修
環境と倫理、環境と人間A
■授業時間外における予・復習等の指示
講義で紹介する参考文献などに目を通して、講義内容を復習することが望ましい。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）講義に対する質問や意見
レポート（60%）期末レポート１回
■テキスト
特になし
■参考文献
講義の中で適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
受講者からの質問やコメントにもとづき、受講者の興味と理解度に合わせて柔軟に内容を変更する。
平常点が評価の一定の割合を占めるので、積極的に参加する意欲のない人、簡単に単位を取得したい人には向いていない。
■講義計画
①講義ガイダンス：環境とはなにか?
②霊長類としてのヒト：進化論的視点から
③人類の進化１：初期人類
④人類の進化２：ホモ属の出現と出アフリカ
⑤人類の進化３：現生人類の起源
⑥人種と環境
⑦生活史からみたヒト
⑧人口問題
⑨狩猟採集生活①
⑩狩猟採集生活②
⑪農耕のはじまり
⑫農耕民の暮らし
⑬牧畜民の暮らし
⑭映像鑑賞
⑮まとめ：人間と自然の共生

環境と人間B

【担当】鈴木　滋
【開講】後期　水2

■サブタイトル
自然と人間の関係の人類史
■講義概要
環境問題に関心のある学生は多いが、人間が自然環境に依存して生きていくとはどういうことか、具体的な理解はごくかぎられている。この授業では、生態人類学的な視点を中心に、ヒトという動物の特徴を、人類進化史から抽出し、人間と環境の基本的な関係を概観する。ヒトと霊長類の比較や、人類史の99%以上を占める狩猟採集生活についての研究成果をもとに、人間の環境利用の特徴を検討する。そして、狩猟採集や農耕などの生業活動が自然環境にもたらした影響を、進化史的かつ人類学的に考察する。また、人口増加や農耕と森林をめぐる問題を中心として、ヒトによる持続的な環境の利用のあり方を検討する。この授業で扱う環境とは、森林や動物などの自然をおもに対象としており、地球環境問題についての授業ではない。
■到達目標
環境問題の根源として、ヒトという生物の特徴と時代や生業や環境との関連を見渡す視点。
有史以前の人類と環境のかかわりの基本論点を説明できる。
■講義方法
パワーポイントのスライドで資料を提示しながら講義をする。
ビデオも利用し、スライド資料はWEBで公開する。
情報メディアセンターの携帯による出欠確認システムを利用予定。
授業時間中に小テストを実施し、また宿題レポートの提出をもとめる。
■系統的履修
環境と倫理、環境と人間A
■授業時間外における予・復習等の指示
授業スライドの資料をダウンロードして予復習に活用すること。
わからなかった用語・事項などをウェブや文献で調べること。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）携帯出欠確認システムによる質問や意見
小テスト（40%）授業時間中の小テスト
レポート（50%）授業期間中に提出する課題レポート
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
この授業をきっかけに、人間と自然に対する根本的な興味をもってもらいたい。そのために、自分で調べ、考えるレポートなどの課題を重視する。よって簡単に単位をとりたい学生には向いていない。
■講義計画
①人類学からみる環境の視点
②霊長類の多様性とヒト
③人類の進化と環境
④ヒト化と出アフリカ
⑤新人の起源と世界進出
⑥人種と環境
⑦生活史
⑧人口
⑨中間まとめと小テスト
⑩狩猟採集生活１
⑪狩猟採集生活２
⑫農耕の起源と帰結
⑬環境の収容力と持続性
⑭里山と環境の持続性
⑮日本の環境利用の持続性

環境と倫理

【担当】柿本　佳美
【開講】前期　木4

■サブタイトル
科学技術と社会
■講義概要
人間は、生命をつなぐ食料や生活を豊かにする道具の素材を、自然環境において生み出されるものから得てきました。現在も、工学や生命科学をはじめとする科学技術は、エネルギーをはじめ多くのものを自然環境から得ています。
しかしながら、科学技術の発展は、人間の生を豊かにする一方で、公害や希少な生物種の絶滅といった深刻な環境破壊も引き起こしてきました。環境をめぐるさまざまな問いは、福島第一原発事故に代表されるように、私たちに、科学技術の社会的効用と、その発展に伴う環境へのリスクのバランスをどのように取るかという問いでもあるのです。
ところで、環境倫理学は、問題となる自然環境に関わるさまざまな当事者の利害を考慮し、予測される環境破壊の予防と、それによって不利益を受けるであろう人々の権利や自然生物の生を守るシステムの構築を目指す領域です。
そこで、この授業では、環境に関わる基礎理論を学び、人間の福利と科学技術という点から環境をめぐるさまざまな問題を取り上げ、そのなかにある倫理的な課題について考えていきます。
■到達目標
環境倫理の基礎理論を学び、環境問題について知ることで、多角的な思考ができる。尊重すべき原則と客観的な根拠に基づき、自らの見解をまとめることができる。
■講義方法
プリントを使用し、講義形式で行う。数回のミニレポートあり。これをもとに授業を進めることもある。
■系統的履修
「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に取り上げる文献については、予習または復習として読んでおくこと。環境問題に関する新聞等による報道に注意し、環境に関わる記事については必ず目を通しておくこと。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
通算欠席数が授業回数の３分の１以上欠席した場合は履修放棄と見なします。
■テキスト
加藤尚武編　『環境と倫理（新版）』　有斐閣アルマ　1,890円
■参考文献
関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求著　『環境の社会学』　有斐閣アルマ　1,900円
上記のほか、参考となる文献については授業中に挙げます。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業の途中であってもかまいませんので、分からないと思ったらすぐに質問してください。
授業開始30分以降の入室はお断りすることがあります。
受講者の関心によって授業内容を一部変更することがあります。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
木曜日13:00 ～ 13:30、講師室
■講義計画
①はじめに：科学技術と社会
②環境問題のはじまり：公害と環境汚染権利という視点
③環境倫理のキーワード：世代間倫理
④環境倫理のキーワード：環境的正義
⑤環境倫理のキーワード：環境アセスメントと企業の責任
⑥環境倫理のキーワード：「自然」「動物」に権利はあるか?
⑦環境資源と人間：水
⑧環境資源と人間：琵琶湖と暮らし
⑨環境資源と人間：大気
⑩環境資源と人間：土地
⑪生活のなかの環境問題：自然保護は誰のため?
⑫生活のなかの環境問題：里山と持続可能な発展
⑬エネルギー問題と環境：持続可能な社会とは?
⑭エネルギー問題と環境：原発と代替エネルギー
⑮まとめ：技術発展と未来世代

教養教育科目特別講義A（里山学入門）（2008年度以降入学生）／共同開講科目特別講義（2003～2007年度入学生）

【担当】宮浦　富保、近藤　倫生、鈴木　龍也、須藤　護、田中　滋、帖地　孝人、朴　炫国、丸山　徳次、遊磨　正秀、横田　岳人
【開講】前期　月3

■サブタイトル
里山学入門　　地域の自然と文化
■講義概要
里山は、人間が長期にわたって手を入れ、自然と多様な形で関わり、自然と共生することによって、人間同士の共存を可能にしてきた場所であった。日本の生物の多様性の一部は里山の存在によって維持されてきたということも明らかになりつつある。ところがエネルギー革命と農業革命のため里山は放置され、都市の膨張とともに開発のターゲットにされてきた。生物多様性を維持し、人間の生活を支え、日本文化の形成にも密接に関連していたと考えられる里山が失われようとしている。「里山学入門」では、里山の環境、動植物、歴史、里山と文化・制度との関わりなどについて、複数の教員が講義する。
■到達目標
里山といわれる環境について、その歴史や現状を理解する。里山を代表とする身近な自然環境と人間との関係について、自分自身の意見を持つ。
■講義方法
複数教員によるチェーンレクチャーであり、それぞれの教員ごとにいろいろな方法で講義する。
■授業時間外における予・復習等の指示
ほぼ毎回、レポートを課す。人間と自然の関係についての自分の考えを整理すること。
■成績評価の方法
レポート（100%）
■テキスト
講義時間内に教員ごとに指示する。
■参考文献
丸山徳次・宮浦富保　『里山学のすすめ』　昭和堂　2,310円
丸山徳次・宮浦富保　『里山学のまなざし』　昭和堂　2,310円
講義時間内に教員ごとに指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
チェーンレクチャーであるので、すべての講義時間に出席しないと、里山学の全体を理解することができない。
■講義計画
①４月１５日　里山の歴史と現状
②４月２０日　里山の自然と恵み
③４月２２日　里山の環境倫理
④５月　６日　里山の生物多様性１　動植物の多様性
⑤５月１１日　里を歩く
⑥５月１３日　水辺環境と里山
⑦５月２０日　環境社会学からみた里山
⑧５月２７日　里山と天の神＜中国編＞
⑨６月　３日　里山と山の神＜韓国編＞
⑩６月１０日　里山の保全
⑪６月１５日　里山の保全体験
⑫６月１７日　人と自然の関係～森からの思想
⑬６月２４日　里山の生物多様性２　多様性のメカニズム
⑭７月　１日　里山の所有と利用
⑮７月　８日　総合考察

教養教育科目特別講義Ｂ（西洋近現代史入門）

【担当】福島　千穂
【開講】前期　月２

■講義概要
近代以降、良くも悪くも全世界に多大な影響を及ぼしてきた欧米の歴史は、もちろん現代日本の我々にとっても無関係ではない。この講義では近世から世界大戦にいたるまでの西洋世界の歴史を概観し、ヨーロッパ諸国に共通の歴史的経験、そして彼らとヨーロッパ外の世界との関わりについて学ぶ。様々な視角・論点に言及しつつ、原則的に時系列に沿って話を進める。

■到達目標
年号や固有名詞にとらわれる必要はなく、あくまでも全体的な流れを把握してもらいたい。また歴史的背景とあわせ地理的な知識も深めてもらいたい。

■講義方法
教科書は特に指定せず、パワーポイントと配布資料に則して授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
特になし

■成績評価の方法
平 常 点（40%）授業に対し意欲的に取り組んでいるかどうか
定期試験（60%）記述式の試験により、理解の度合いをはかる

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義の前後に質問を受けつけます。

■講義計画
①序論：ヨーロッパとは何か
②ヨーロッパ世界の拡大（1）：大航海時代
③ヨーロッパ中世の普遍主義の終わり：宗教改革
④宗教戦争と主権国家体制の成立
⑤絶対王政の時代
⑥近代化について
⑦産業革命と市民革命
⑧ナポレオン支配とウィーン体制
⑨国民国家の形成（1）：ネイションとエスニシティ
⑩国民国家の形成（2）：ナショナリズムの時代
⑪多民族帝国の統治（1）：ロシア帝国
⑫多民族帝国の統治（2）：ハプスブルク帝国
⑬ヨーロッパ世界の拡大（2）：植民地帝国
⑭ヨーロッパと海外植民地
⑮世界大戦へ

教養教育科目特別講義Ｂ（西洋近現代史入門）

【担当】福島　千穂
【開講】後期　水３

■講義概要
近代以降、良くも悪くも全世界に多大な影響を及ぼしてきた欧米の歴史は、もちろん現代日本の我々にとっても無関係ではない。この講義では近世から世界大戦にいたるまでの西洋世界の歴史を概観し、ヨーロッパ諸国に共通の歴史的経験、そして彼らとヨーロッパ外の世界との関わりについて学ぶ。様々な視角・論点に言及しつつ、原則的に時系列に沿って話を進める。

■到達目標
年号や固有名詞にとらわれる必要はなく、あくまでも全体的な流れを把握してもらいたい。また歴史的背景とあわせ地理的な知識も深めてもらいたい。

■講義方法
教科書は特に指定せず、パワーポイントと配布資料に則して授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
特になし

■成績評価の方法
平 常 点（40%）授業に対し意欲的に取り組んでいるかどうか
定期試験（60%）記述式の試験により、理解の度合いをはかる

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義の前後に質問を受けつけます。

■講義計画
①序論：ヨーロッパとは何か
②ヨーロッパ世界の拡大（1）：大航海時代
③ヨーロッパ中世の普遍主義の終わり：宗教改革
④宗教戦争と主権国家体制の成立
⑤絶対王政の時代
⑥近代化について
⑦産業革命と市民革命
⑧ナポレオン支配とウィーン体制
⑨国民国家の形成（1）：ネイションとエスニシティ
⑩国民国家の形成（2）：ナショナリズムの時代
⑪多民族帝国の統治（1）：ロシア帝国
⑫多民族帝国の統治（2）：ハプスブルク帝国
⑬ヨーロッパ世界の拡大（2）：植民地帝国
⑭ヨーロッパと海外植民地
⑮世界大戦へ

教養教育科目特別講義Ｃ（アジアの映画）

【担当】李　相哲
【開講】前期　月３

■サブタイトル
映画で語るアジアの歴史と文化
■講義概要
映画はその国の歴史や時代を背景にしている。また、その空間に生きる人々の生活を題材にしている。映画は我々に過去の出来事を再現し、未知の世界を見せてくれたり、想像の世界を作り出すこともある。
この講義は、アジアの映画を通してアジアの近現代の出来事を映像でみながら、映画に映し出される場所、人物、物語が、その国の歴史や文化、人々の普通の生活とどうつながるのかを考えながら、映画に取り上げられた国について理解を深めていく。
■到達目標
東アジアの歴史や文化を理解する。この授業は映画という芸術を理解するためのものではない。映画に映し出されるアジアの国々の歴史、生活、文化を理解し、歴史の見方を身につける。
■講義方法
講義形式；映画を見る、解説を聞く、関連書物を読む、という形式。日・中・韓の歴史と関連のある映画、人々の生活を題材にした映画を鑑賞、映画に取り上げられた時代、空間、登場人物についての解説を聞くと同時にテキストを読む。
■系統的履修
アジアの文化、欧米の文化
■授業時間外における予・復習等の指示
その都度指示する
■成績評価の方法
平 常 点（10%）講義中に取り上げる映画をみたか、テキストを読んだか
レポート（60%）映画に関する感想文、テキストに関する感想文
定期試験（30%）
指定のテキストをしっかり読んで欲しい。
■テキスト
李相哲　『東アジアのアイデンティティ』　凱風社　2,300円
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー：水曜日12時30分～ 13時30分
連絡方法：cieli@soc.ryukoku.ac.jp
■講義計画
①スケジュール､講義方法を知ってもらう（必ず出席すること）
②現代韓国の文化事情について
③分断国家の悲劇を知る
④韓国の文化を知る
⑤韓国人の家族愛、映画芸術の今を知る
⑥韓国の歴史を知る
⑦アジアの中の韓国の位置づけを知る
⑧現代中国の文化事情について
⑨現代中国を理解する
⑩中国の近代を知る
⑪中国の現代を知る
⑫中国の現在を知る
⑬日本の映画は中国、韓国映画とどう違うか
⑭現代アジアの家族、アジア的英雄像
⑮アジア映画にみる日中韓の文化

教養教育科目特別講義Ｄ（アジアの歴史と社会）

【担当】野呂　靖
【開講】前期　水３

■サブタイトル
近江（滋賀）の仏教文化
■講義概要
豊かな水をたたえた琵琶湖や、古来より続く主要な街道を有する近江（滋賀県）の地。その風景は多くの歌に詠まれるなど､日本文化の中心地の一つとされてきました｡また近江には、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在し、さまざまな仏像や絵画、文献など多くの文化財が現在にまで伝わっています。
この講義では、歴史とともに紡がれてきた近江の豊かで固有の文化を、宗教・仏教との関連のなかで紐解き、近江の魅力に迫ります。
■到達目標
近江の歴史と文化を宗教との関わりのなかで総合的に理解することを目標とします。
■講義方法
毎講義時に配布するプリント、板書、映像資料により講義を行います。また、滋賀県内の古寺社や博物館などでの現地実習を予定しています（受講者数により変更となる場合があります。詳細は初回講義時に説明)。
■授業時間外における予・復習等の指示
各自、講義時に紹介した参考文献の通読、博物館の拝観などにより理解を深める必要があります。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席状況・受講態度・毎講義時に提出を求めるコメントカードにより総合的に評価する。
レポート（50%）講義時に指示したテーマにもとづくレポートの内容により評価する。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に随時、紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある滋賀県には、どのような文化と歴史があるのでしょうか。仏教との関わりを見ることで、滋賀県の魅力がより一層明らかになってきます。
■講義計画
①ガイダンス
②近江の歴史と宗教①　古代
③近江の歴史と宗教②　中世
④比叡山の仏教―天台宗の歴史―
⑤比叡山の修行―いまに生きる回峰行―
⑥比叡山の神と仏―山王神道の世界―
⑦園城寺の歴史と文化
⑧石山寺の歴史と文化
⑨戦国武将たちの仏教信仰①
⑩戦国武将たちの仏教信仰②
⑪近江の観音信仰と西国巡礼
⑫近江の修験道と甲賀の忍者伝承
⑬仏教説話に登場する近江
⑭現地実習（時期は未定。滋賀県内の寺社や博物館等を予定）
⑮まとめ

教養教育科目特別講義D（アジアの歴史と社会）

【担当】野呂　靖
【開講】後期　水3

■サブタイトル
近江（滋賀）の仏教文化

■講義概要
豊かな水をたたえた琵琶湖や、古来より続く主要な街道を有する近江（滋賀県）の地。その風景は多くの歌に詠まれるなど､日本文化の中心地の一つとされてきました｡また近江には、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在し、さまざまな仏像や絵画、文献など多くの文化財が現在にまで伝わっています。
この講義では、歴史とともに紡がれてきた近江の豊かで固有の文化を、宗教・仏教との関連のなかで紐解き、近江の魅力に迫ります。

■到達目標
近江の歴史と文化を宗教との関わりのなかで総合的に理解することを目標とします。

■講義方法
毎講義時に配布するプリント、板書、映像資料により講義を行います。また、滋賀県内の古寺社や博物館などでの現地実習を予定しています（受講者数により変更となる場合があります。詳細は初回講義時に説明)。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自、講義時に紹介した参考文献の通読、博物館の拝観などにより理解を深める必要があります。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席状況・受講態度・毎講義時に提出を求めるコメントカードにより総合的に評価する。
レポート（50%）講義時に指示したテーマにもとづくレポートの内容により評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
講義時に随時、紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある滋賀県には、どのような文化と歴史があるのでしょうか。仏教との関わりを見ることで、滋賀県の魅力がより一層明らかになってきます。

■講義計画
①ガイダンス
②近江の歴史と宗教①　古代
③近江の歴史と宗教②　中世
④比叡山の仏教―天台宗の歴史―
⑤比叡山の修行―いまに生きる回峰行―
⑥比叡山の神と仏―山王神道の世界―
⑦園城寺の歴史と文化
⑧石山寺の歴史と文化
⑨戦国武将たちの仏教信仰①
⑩戦国武将たちの仏教信仰②
⑪近江の観音信仰と西国巡礼
⑫近江の修験道と甲賀の忍者伝承
⑬仏教説話に登場する近江
⑭現地実習（時期は未定。滋賀県内の寺社や博物館等を予定）
⑮まとめ

教養教育科目特別講義F（現代社会と栄養）

【担当】石井　和子
【開講】前期　木3

■講義概要
現代社会と健康を考えるに当たり、栄養は人体を構成する重要な要素である。栄養に関する正しい知識の取得を目標とする。本講義では、平均寿命と死因、生体成分と栄養素およびエネルギー代謝、食生活と健康（生活習慣病と食事の関連）について学ぶ。

■到達目標
健康な生活を維持する条件として、栄養の果たす役割の重要性について

■講義方法
講義形式を基本とするが、履修人数により小グループによるデイスカッションや作業を行う場合がある

■授業時間外における予・復習等の指示
講義の時に指示する

■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席の有無
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①オリエンテーション
②食を通して見えるもの①
③食を通して見えるもの②
④食を通して見えるもの③
⑤栄養素とは何か
⑥食べ物の消化・吸収と代謝
⑦何をどれだけ食べたら良いのか①
⑧何をどれだけ食べたら良いのか②
⑨青年期・妊娠期の食事
⑩生活習慣病と食事①
⑪生活習慣病と食事②
⑫生活習慣病と食事③
⑬生活習慣病と食事④
⑭最近の栄養疫学研究
⑮まとめ

教養教育科目特別講義Ｆ（現代社会と栄養）

【担当】土居　幸雄
【開講】後期　月２

■サブタイトル
現代の食を巡る諸問題を知り、健康な食生活を考える

■講義概要
従属栄養生物であるヒトは様々な生き物（動植物、微生物）を食物として摂取するが、食物には生命の維持に不可欠な栄養素がバランス良く含まれなければならない。食を巡る様々な問題が社会を騒がす現代、食と栄養に関する基本的知識を持つことは、健康な生活を確保する大切な一歩である。本講義では、健康で豊かで食生活を送るために、我々が何を知らなければならないのか、広い視野に立って身近な問題から考えてゆきたい。始めに、食を巡る現代の課題を知り、食の安全について考えてゆく。次に、ヒトが摂取しなければならない栄養素について基本を学び、健康と食事の関連について考える。

■到達目標
食物と栄養について広い視点から捉えて学び、健康な食生活に必要な情報を選び取る能力を養う

■講義方法
講義形式を基本とする。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義の時に指示する

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（0%）
レポート（10%）
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①食を巡る諸問題
②世界の食料事情と日本
③食品の安全性
④食品の安全性
⑤食品の表示
⑥食品の栄養成分
⑦栄養素の消化・吸収・代謝
⑧栄養素の摂り方
⑨栄養素の摂り方
⑩国民衛生の動向と健康日本21
⑪生活習慣病
⑫生活習慣病と食事
⑬食品の機能性
⑭食育基本法
⑮まとめ

教養教育科目特別講義Ｇ（雑草学）

【担当】古本　強
【開講】後期　水３

■サブタイトル
雑草のくらしを学ぶ

■講義概要
雑草はヒトの活動と切っても切れない関係にある。定義も曖昧で、たとえば「雑草のようにたくましやつ」などの文学的な用法から作物の栽培に害をなす植物を指す農学的用法などが混在している。さまざまな定義があるということは、善くも悪くもそれだけヒトの生活に密着していることを示している。
本講義では、雑草のくらしを中心に、生理的・生態学的観点などから解説するとともに、農業上の問題やどのように管理されているかなど、江戸時代の農学書に記載されている内容から最先端の農薬開発事情まで含めて解説する。
身近な植物についてこぼれ話なども折々に紹介する。

■到達目標
作物とは違う雑草のくらしへの理解を通して、道ばたに生える植物に想いをはせることができるようになること。

■講義方法
パワーポイント等を用いた講義を行う。資料は基本的に配布する。理解を促すために課題を求めることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示
シラバスを参考に講義中の指示に従って予習すること

■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席状況をみて判断する
小テスト（20%）講義中に行う小テストの結果を評価する
レポート（20%）折々に出すレポート課題への取り組みを評価する
定期試験（40%）試験評価

■テキスト
特になし

■参考文献
甲斐信枝 『雑草のくらし』 福音館　2,300円
この本は、絵本である。しかし、その内容はとても深い、授業では繰り返し使用するつもりである。

■履修上の注意・担当者からの一言
身近な植物に興味があればおもしろく感じるように講義したい。

■講義計画
①概念１－くらしに着目する－
②概念２－農業と雑草－
③概念３－外来植物－
④生理－繁殖生理－
⑤生理－光合成生理－
⑥生理－栄養生理－
⑦生理－アレロパシー－
⑧生理－形態－
⑨防除の考え方－生物防除－
⑩防除の考え方－物理防除－
⑪防除の考え方－化学防除－
⑫遺伝子組換え技術での防除
⑬ヒトによる利用－救荒植物－
⑭ヒトによる利用－作物の起源－
⑮まとめ

健康とスポーツ

【担当】渡辺　英児
【開講】後期　月1

■講義概要
テクノロジーの急速な発展は人類に多大な恩恵をもたらした一方で、運動不足などによる生活習慣病などの発生率が年々高くなってきている。そこで、本講義は、現代社会における健康とスポーツ・運動の役割をスポーツ科学の観点から以下の項目について紹介する。
(1) 現代社会におけるスポーツ・運動と健康
(2) スポーツ・運動と身体的な健康
(3) スポーツ・運動と心の精神的健康
(4) 食生活とスポーツ

■到達目標
現代社会における運動やスポーツの重要性を科学的な観点から理解することを目標とする。

■講義方法
講義形式で、担当教員が講義する。受講人数が少なければ実際にトレーニングセンターを使って運動を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業時間外に講読できる文献を講義の時に紹介する。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）授業参加状況を総合的に判断する
定期試験（80%）大学が定める定期試験中に試験を実施する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
スポーツや運動に興味のある学生の履修を期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
最初の講義で紹介する。

■講義計画
①健康、スポーツ、運動、身体活動とは
②①スポーツや運動への参加状況
②運動は寿命を長くするか。
③スポーツ・運動不足と生活習慣病について
④健康に関する体力要素
⑤エネルギー供給システムの違いについて
⑥①運動処方について
②運動によるウェートコントロール
⑦レジスタンストレーニング
⑧①ストレスと運動
②行動パターンと運動
⑨①スポーツ・運動と精神的健康
②運動の実践による心理的効果
⑩①運動により心理的効果のメカニズム
②運動の実践による自己概念の向上
⑪スポーツ・運動を継続させるための心理的方策
⑫スポーツ栄養学について
⑬スポーツの実践によるライフスキルの獲得
⑭スポーツ科学の基礎知識
⑮まとめ

現代社会と宗教

【担当】辻　虎志
【開講】前期　月3

■講義概要
現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修
生活の中の宗教

■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（60%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。

■講義計画
①はじめに　―　現代における宗教
②宗教と物語　(1)
③宗教と物語　(2)
④宗教と原理主義　(1)
⑤宗教と原理主義　(2)
⑥宗教と悪　(1)
⑦宗教と悪　(2)
⑧宗教と寛容　(1)
⑨宗教と寛容　(2)
⑩宗教と生命　(1)
⑪宗教と生命　(2)
⑫宗教と死刑　(1)
⑬宗教と死刑　(2)
⑭宗教と死刑　(3)
⑮まとめ

現代社会と宗教

【担当】辻　虎志
【開講】後期　月３

■講義概要
現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。
■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。
■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。
■系統的履修
生活の中の宗教
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。

■講義計画
①はじめに　―　現代における宗教
②宗教と物語　(1)
③宗教と物語　(2)
④宗教と原理主義　(1)
⑤宗教と原理主義　(2)
⑥宗教と悪　(1)
⑦宗教と悪　(2)
⑧宗教と寛容　(1)
⑨宗教と寛容　(2)
⑩宗教と生命　(1)
⑪宗教と生命　(2)
⑫宗教と死刑　(1)
⑬宗教と死刑　(2)
⑭宗教と死刑　(3)
⑮まとめ

現代社会とスポーツ

【担当】辻　延浩
【開講】前期　月４

■サブタイトル
現代のスポーツ文化
■講義概要
現代社会におけるスポーツの社会的・文化的な役割について、スポーツ固有の魅力や楽しみ方、スポーツと地域社会のかかわりなどをふまえながら考えていきます。また、スポーツのメディア化･ビジネス化･グローバル化という３つの視点から、現代スポーツのあり方を批判的に検討し、これからのスポーツと社会との関係について考えていきます。
■到達目標
スポーツと社会の関係を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむための楽しみ方を見いだそうとする。現代スポーツの社会的問題点を考察し、これからの社会とスポーツのかかわりについて考え､実践の視点を見つけることができる。
■講義方法
プレゼンソフトによる講義、プリントの配布、ビデオ（DVD、VHS）を使用。
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席状況および受講態度
小テスト（20%）毎授業後のプリント
レポート（20%）中間試験。講義内容(前半)をもとに出題する。記述式。
定期試験（40%）講義内容（後半）を中心に出題する。記述式。
出席は毎回とる。授業後に小プリントを配布し、記述を求める。
■テキスト
受講生は講義内容をもとに独自のノートを作成すること。積極的な意見や質問を期待する。
■参考文献
井上俊・亀山佳明編 『スポーツ文化を学ぶ人のために』 世界思想社　2,415円
■履修上の注意・担当者からの一言
授業プリントは一人１枚受け取ること。枚数に限りあり。

■講義計画
①オリエンテーション：講義の概要、成績評価の方法、授業計画、履修上の注意事項などについて説明します。「スポーツ」「SPORT」「体育」「武道」「レクリエーション」「レジャー」「遊び」などの用語について理解を深めます。
②スポーツの起こりと発展について、陸上競技の技術史をもとに学びます。
③競技スポーツと生涯スポーツの魅力について、多角的に学びます。また、スポーツの楽しみ方を「する」「みる」「かたる」「ささえる」の観点からとらえます。
④ホイジンガとカイヨワのプレイ論を視座にして、スポーツの楽しさについて学びます。
⑤教育としてのスポーツについて、学習指導要領の変遷、体育科（保健体育科）の目標と内容を中心に考えます。
⑥総合型地域スポーツクラブについて、ヨーロッパの事例をもとに運営形態や経営努力、課題について学びます。
⑦中間試験
⑧人間のからだの適応性について、運動の種類、強度、時間などの要因によって異なる変化の様相について理解を深めます。
⑨「メディアと競技スポーツの商品化」、「勝利至上主義とドーピング」、「競技スポーツと環境問題」、「スポーツの大衆化と環境問題」をテーマとして、現代スポーツが抱える問題点について考えます。
⑩これからの社会とスポーツと題して、ニュースポーツやユニセックスのスポーツ、民族スポーツについて学びます。
⑪スポーツとライフマネジメントについて、子どもの体力・運動能力や生活行動の調査データをもとにして考えます。
⑫現代社会における健康問題に対する食事の重要性について学びます。
⑬24時間型社会がもたら睡眠への影響を実態調査結果をもとに理解するとともに、睡眠は脳とからだをつくるをキャッチフレーズとして、最近の睡眠の科学的知見を学びます。
⑭健やかなからだを育むことを目的として、睡眠６か条および補足６か条を理解するとともに、自己の睡眠生活を見つめ直し、その改善方法について考えます。
⑮「表現することは生きている証」をキャッチフレーズに展開されている表現運動のビデオを通して、表現することの意義や価値について考えます。
⑯定期試験

現代社会と福祉

【担当】岡野　英一
【開講】前期　木3

■サブタイトル
現代社会における福祉とは何なのか
■講義概要
現代社会における福祉とはどういうものか、経済社会的視点、歴史的視点、実戦的視点から考察を行います。
■到達目標
私たちの生活の中で、福祉とはどのような働きを持っているものなのかを理解できることを目指します。
■講義方法
基本テキストに沿って、計画的に講義を進めます。
■系統的履修
でき得れば地域福祉論の履修を勧めます。
■授業時間外における予・復習等の指示
基本テキストの内容について、予習を求めます。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（20%）前期中間時に実施します。
定期試験（50%）記述式テストを実施します。（テキスト、プリントのみ持込可）
■テキスト
成清美治、加納光子 『現代社会と福祉』 学文社　2,500円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
できるかぎり質問を受け付けます。そこから意見交換をしたいと思います。
■講義計画
①現代社会と福祉との関係および、福祉の構造とその意義について考察します。
②今日の福祉を形成する元となった理論と哲学について学びます。
③今日の福祉について、その歴史から学びます。
④我が国の高齢者福祉の概要を学び、その課題を考えます。
⑤我が国の児童福祉の概要を学び、その課題を考えます。
⑥我が国の障碍者福祉の概要を学び、その課題を考えます。
⑦我が国の生活保護制度の概要を学び、その課題を考えます。
⑧我が国の地域福祉の概要を学び、国際比較を通して、その課題を考えます。
⑨論述式筆記試験を行います。
⑩福祉政策の意味と考え方、及びその進め方を捉えます。
⑪我が国福祉政策の概要を学び、国際比較等を通じて課題を考えます。
⑫福祉政策における市民協働の在り方について考えます。
⑬福祉問題を解決するのに必要な関連領域との協働について学びます。
⑭福祉専門職としての現代ソーシャルワカーの在り方について学びます。
⑮少子高齢社会を突き進んでいく我が国。これからの福祉の在り方を展望します。

現代社会とマス・メディア

【担当】中野　有
【開講】前期　木4

■サブタイトル
メディア・リテラシー、
■講義概要
マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。
最新の情報をベースにマスメディアの本質を考える。
テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に接しながら考える能力を向上させる。
国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。
■到達目標
メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。自分の頭で考え（Think）し、発表する能力を養う。
■講義方法
時勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。
毎回、講義のレジュメを配布する。ハーバード大学のサンデル教授の「白熱教室」のような学生との対話形式の講義を目指す。
毎回の講義で確実にスマートになる講義を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）毎回の講義で約10分間の小レポートを作成。
レポート（30%）講義で習得したことを1400字でまとめる。最終講義かその前の講義時にレポートを提出。
■テキスト
李相哲、小黒純他 『超入門ジャーナリズム101の扉』 晃洋書房　1,575円
オリエンテーションにて説明。
■参考文献
参考文献はオリエンテーションにて説明する。
■履修上の注意・担当者からの一言
世界に通用する教養を楽しく学ぼう。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室
email nakanoassociate@yahoo.co.jp
■講義計画
①オリエンテーション
②マス・メディアとは
③マス・メディアのエッセンス
④メディアはメッセージである
⑤メディア・リテラシーとは
⑥Think,Learn,Lead　自分の頭で考える
⑦哲学的思想
⑧近代史を語る
⑨国際情勢の変化を解読
⑩外交・安全保障とマス・メディア
⑪グローバル・イングリッシュの習得
⑫国際経済を解読
⑬ソーシャル・メディアの役割
⑭総括
⑮総括

現代社会とマス・メディア

【担当】中野　有
【開講】後期　木4

■サブタイトル
メディア・リテラシー ,現代社会を解読する

■講義概要
マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。
毎日、メディアに接する時間は平均6時間と言われている。洪水のようにあふれる情報を如何に解読するかが非常に大切である。現代社会、特にグローバル・ソサエティーにおいては、単に学ぶことよりも自分の頭でThinkする能力が求められている。そこで、考えることを学ぶ講義を行う。
テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に触れながら考える能力を向上させる。
国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち、世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。

■到達目標
メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。

■講義方法
時勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。
ハーバード大学のサンデル教授の「白熱教室」のような学生との対話形式の講義を目指す。

■系統的履修
毎週放送しているラジオカフェ・シンクタンクジャーナルをインターネットを通じて聴く。

■授業時間外における予・復習等の指示
新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。

■成績評価の方法
平 常 点（70%）積極的発言を重視､毎回約10分の小レポートを作成。
レポート（30%）講義で習得し分析したことを1400字でまとめる。講義の最終日かその前の講義中に提出。

■テキスト
李相哲、小黒純他 『超入門ジャーナリズム101の扉』 晃洋書房　1,575円
オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■参考文献
オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的かつ真剣に授業に参画して欲しい。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。豊かな人生を謳歌するための教養（リベラル・アーツ）を学ぶことができる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室　email nakanoassociate@yahoo.co.jp

■講義計画
①オリエンテーション
②マス・メディアのエッセンスを習得
③メディアはメッセージである
④鉄のトライアングル（政・官・財）とメディア
⑤哲学思想とメディア
⑥歴史の潮流
⑦近代史とメディア
⑧国際情勢の変化を解読
⑨外交・安全保障とメディア
⑩国際経済とメディア
⑪海外のメディアから学ぶ、ニューヨークタイムズ、BBC,CNN
⑫ソーシャル・メディア
⑬グローバル・イングリッシュ
⑭総括
⑮総括

現代社会とマス・メディア

【担当】西村　敏雄
【開講】後期　月4

■サブタイトル
メディアを監視、メディアの発信する情報から真実を読み取る

■講義概要
情報社会の中で、新聞やテレビ、インターネットなど情報は多様化している。その情報を発信するメディアは「記者や編集者のフィルターがかけられている」。その中からいかに真実を見抜くか。イラク戦争ではアメリカの攻撃する側からの情報が多く、被害者の観点からの報道は少なかった。3・11の東北震災では政府や東電の情報を踊らされた。また、先の選挙では自民党が圧勝したかに見えたが、その背景には。また尖閣諸島を巡る日中の駆け引きの裏側、さらには最近頻発している「冤罪」をめぐる警察や検察など権力の思惑など、その情報から “真実” を見抜く視点を養うことが求められている。こうした「作業」を通じて「人権とメディアのあり方」を基本的に学ぶことにより、より身近な社会、政治、国際、経済問題などの「真実」を見抜いて、「自分なりの意見を持つ」ことが求められている。

■到達目標
いかに多様な情報から「真実」を見つめる視点を養うか。マスコミ志願者にはその心構えを学ぶ機会としたい。

■講義方法
①新聞の読み比べ②大討論会③レジュメに沿った授業の3形式で行う。
ビデオを鑑賞しながら「知らなかった世界」を発見して、「自分の視点」を養う。
毎回、授業の終わりに、感想文や意見などを書いてもらう→出席票の代わりでもある。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業の前には前週の新聞やテレビを通して何が世の中で起きているかを考えてくること。

■成績評価の方法
平 常 点（70%）欠席は3回まで､4回になると自動的に受講資格なしになる。
小テスト（30%）授業の節目に小レポートを3回（各800～1000字）

■テキスト
『超ジャーナリズム入門』 晃洋書房　2,100円
毎回、レジュメを作成して渡す。

■参考文献
『メディアコントロール』 集英社新書

■履修上の注意・担当者からの一言
欠席は4回で授業の受講資格を失うので注意。忌引きや病気などは必ず連絡すること

■オフィスアワー・教員への連絡方法
toshi_bozu_1949@yahoo.co.jpのパソコンに連絡する。

■講義計画
①授業の進め方
①この授業の意義②レジュメの内容③採点④受講生に求めるもの。
②メディア・リテラシーの意義
③新聞が読者に届くまで
記者の一日
④ジャーナリズムの役割や使命
⑤戦争とメディア
⑥ビデオ・ベトナム戦争「これは正義の戦いか」を鑑賞する。
⑦ビデオ・イラク戦争をベトナム戦争と比較してそれを取材するマスコミの違いを検証する。
⑧冤罪事件
「痴漢冤罪」の恐怖
⑨冤罪事件
「足利事件」のDNA科学を信用し、誤審なった菅谷さんの失われた17年の人生を考える。
⑩冤罪事件
「松本サリン事件」での被害者が、権力やマスコミによって「犯人」に仕立てられていく危険性を検証する。
⑪日本軍「従軍慰安婦」に関するマスコミの対応や日韓の政治の思惑を検証する。
⑫「戦争とメディア」
教員と受講生との意見交換
⑬「冤罪とメディア」
教員と受講生との意見交換
⑭授業を振り返っての大討論会
⑮14回分の授業の確認

現代の技術

【担当】吉川　恒夫、池田　昌彦
【開講】後期　月３

■サブタイトル
現代社会を支える先進技術

■講義概要
本講義の前半では、現代社会を支える基盤技術の概要について講義する。その内容は以下の通りである。まず技術の歴史を手短に紹介した上で、現代技術の概要を解説する。ついで現代技術の代表的分野の中から、コンピュータ技術、輸送技術、エネルギー技術、微細技術、ロボット技術などを取り上げ、これらの分野における基礎的知識、技術の現状、および今後の課題などについてわかりやすく講述する。

後半の講義は明治以後の産業技術論が中心である。現在の日本の多くの産業・技術の源は約150年前のわずか約50年の間に立ち上げられたものである。本講義では明治初期の技術シーズが如何に構築され社会ニーズに対応したか、明治50年間での広い産業技術分野での発展過程とその背景を整理する。その中で、環境・公害問題それに伴う企業理念や技術者理念の変化の背景をも見ることができる。これからのポスト産業主義時代に求められているパイ型人間（多くの分野に判断できる能力を有する人）の１つの要件は、知識の整理と社会に対しての行動力である。本講義は社会と産業技術の関連を解析し行動するための技術論である。　さらに実例として第２次世界大戦後の社会ニーズに対応した最近の分析装置・技術の開発での体験も交え講義を行う。

■到達目標
現代社会を縁の下で支えている先端技術の現状と課題について理解を深め、今後のあるべき姿あるいは方向性を考えるための基礎知識を修得する。また、科学技術の進歩とそれらの恩恵について知り、21世紀において、20世紀にもたらされた地球環境の悪化に対する対策を講じながら、持続的発展をいかに続けていくかを理解することが到達目標である。

■講義方法
プリントを配布し、それに準じて講義する。

■系統的履修
「生活の中の物理」（教養教育科目）

■授業時間外における予・復習等の指示
現代技術に関する新聞、ＴＶなどの報道記事に関心を持つことが好ましい。

■成績評価の方法
レポート（10%）
定期試験（50%）
そ の 他（40%）中間試験
前半は、授業途中で課すレポートの成績（10点満点）と中間試験の成績（第８回目授業時に実施、40点満点）によって評価する（合計50点満点）。
後半は定期試験（100%）を50点とする。
前半と後半の点数を足し合わせて総計100点とする。

■テキスト
特定の教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
私語は他人に迷惑となるので慎むこと。目に余る者は退出または減点する。
中間試験は持込み不可。定期試験も持ち込み不可。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
特に設けない。

■講義計画
①現代技術序論（技術略史、現代技術概説）
②コンピュータ技術（アナログとデジタル, 計算機の歴史、計算機の応用）
③輸送技術（自動車、鉄道、飛行機、ロケット）
④エネルギー技術（エネルギー概説、各種発電法、地球環境問題）
⑤微細技術（マイクロマシン、ナノ技術）
⑥ロボット技術１（ロボット技術の歴史、産業用ロボット）
⑦ロボット技術２（ヒューマノイドロボット、ロボット技術の将来）
⑧中間試験・復習
⑨幕末・明治への科学技術情報と社会構造の変化
⑩明治政府の産業基盤整備・殖産興業政策と富国強兵
⑪産業各論　１（化学、造船）
⑫産業各論　２（機械、通信・鉄道）
⑬産業各論　３（金属・電力・その他）
⑭分析機器の発展と社会ニーズ
（環境高感度無機計測技術）
⑮まとめ

国際社会と日本A

【担当】池尾　靖志
【開講】前期　水1

■サブタイトル
沖縄の視点から見た日米安保体制

■講義概要
ふたたび、自民党政権に戻り、普天間飛行場の移設条件であった、名護市辺野古沖への新基地建設が問題となってきた。
世界で唯一のジャングル訓練センター（北部訓練場）では、オスプレイの配備に伴い、新たなヘリパッド建設が着々と進められてきている。
この講義では、沖縄の視点から、日米安保体制について考える。沖縄の人たちは、本土の人たちが沖縄の問題に無関心であることに、いまや、憤っている。そのことを踏まえ、ぜひ、沖縄の視点から日米安保体制の矛盾を捉え、日本の政治のありようを考えてみよう。

■到達目標
1）社会の出来事を自分の問題と受け止めることができるようになる。
2）情報リテラシーの力をみにつける。

■講義方法
視聴覚教材視聴をふくめた、講義方式。

■系統的履修
平和学入門を履修するといい。

■授業時間外における予・復習等の指示
e-ラーニングシステムを活用して、ディスカッションに積極的に加わるとともに、レポート課題にも取り組むこと。
テキストや、講義中に指示する参考文献に目を通すこと。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）e-ラーニングシステムを用いたレポート課題を、講義の進捗状況に応じて課す。出席はとらない。
定期試験（90%）論述２問。自分の考えた「プロセス」を論述形式で評価する。

■テキスト
池尾靖志 『自治体の平和力』 岩波書店　820円
テキストは、沖縄の現状、日本外交のオルタナティブの１つの手がかりを示したもので、講義全体をカバーするものではない。このため、講義中に指示される参考文献や新聞記事の切り抜き（ネット検索を含む）、板書やパワーポイントをメモするためのノート作りが必須である。

■参考文献
池尾靖志 『平和学をつくる』 晃洋書房
池尾靖志ほか 『地域から平和をきずく』 晃洋書房

■履修上の注意・担当者からの一言
出席はとらないが、授業に積極的にのぞむと同時に、新聞・テレビなどのニュースにも幅広く目を通し、講義の理解を深めるように努力すること。
この講義用のノート（ルーズリーフでかまわない）を用意すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
担当者のHPに書いてあるメールアドレスにメールしてくること。

■講義計画
①「標的の村」をみる
②国際関係の分析レベル
③少女暴行事件と県民大会、代理署名拒否
④SACO合意
⑤名護市民投票と辺野古への新基地建設
⑥高江へのヘリパッド建設
⑦安全保障のジレンマ
⑧米軍は本当に日本を守ってくれるのか?
⑨集団的自衛権とは?
⑩同時多発テロの衝撃
⑪イラク戦争と自衛隊の海外派遣
⑫改憲論の動き
⑬いわゆる15年戦争と日本の戦争責任
⑭アジア太平洋地域の安全保障
⑮日本のこれからを考える
⑯定期試験

国際社会と日本B

【担当】佐藤　一進
【開講】後期　水1

■サブタイトル
思想課題としての「西欧近代」と日本

■講義概要
本講義では「西欧近代」を日本にとっての思想課題としてとらえ、その衝撃によって生じた葛藤について政治、経済、社会、科学、芸術などの側面から思想的な分析と考察を行ないます。東日本大震災と原発事故を経た日本は多くの困難を抱えていますが、それらの起源をたどれば黒船来航以来、日本がつねに葛藤してきた「近代性」の問題へといたります。日本にとって国際化とは何よりもまず「近代化」であり、それはすなわち「西欧化」を意味してきました。しかし近代化の問題と限界は現在、いっそう切迫した状況としてぼくたちの眼前に広がっています。したがって、日本社会に山積する数々の問題を克服していくことはただ政策的、技術的なテーマなのではなく、「西欧近代」を支える思想と対峙しながら、いかにして日本は日本であろうとするのかという思想的な問いを問うことにほかなりません。

■到達目標
・「西欧近代」と「近代性」の原理をつかむ。
・「西欧近代」との出会いのなかで日本が経験した葛藤について知る。
・現代的な諸問題を展望するための思想的な視座を築く。

■講義方法
基本的に講義形式で行ないますが、状況に応じてディスカッションの形式をとることもあります。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に取ったノートを整理してください。講義で示した文献にもできるだけアクセスしてください。

■成績評価の方法
定期試験（100%）論述形式をとります。
試験への持ち込みは自筆ノートのみ認め、書籍や他人のノートのコピー、ワープロ入力した文書を印刷したものなどは持ち込み不可とします。

■テキスト
特になし

■参考文献
講義中に適宜指示します。

■講義計画
①はじめに
②「国際化」と「グローバル化」
③西欧近代とは何か（1）
④西欧近代とは何か（2）
⑤西欧近代とは何か（3）
⑥西欧近代とは何か（4）
⑦西欧近代とは何か（5）
⑧近代性の三つの波（1）
⑨近代性の三つの波（2）
⑩近代性の三つの波（3）
⑪明治維新と武士道
⑫文明開化と個人主義
⑬近代美術と東洋の美
⑭「近代の超克」と太平洋戦争
⑮おわりに

国際社会と日本C

【担当】川村　覚文
【開講】前期　木4

■講義概要
本講義では、「日本文化」がどのように国際社会とのかかわりにおいて構築されてきているのか、ということを問題にします。私たちは、「日本文化」という超歴史的で実体的なものが、あたかもそれだけで独立して存在しているかのように錯覚しがちですが、実はそうではありません。むしろ、「日本文化」とは「日本」と国際社会との絶えざる接触において形成されてきた、「構築物」であるといえます。言い換えれば、「日本」の外部において抱かれているイメージを参照することで、「日本文化」なるものは構築されてきているのです。そしてこれは、近代において「日本人」という国民的アイデンティティを立ち上げるために、要請されてきたものであるといえるでしょう。以上のことを理解することで、普段あたりまえのように「日本文化」や「日本人」の存在を前提にしてなされている議論に対し、批判的に向き合えるようになる、というのが本講義のねらいです。

■到達目標
1.日本文化という概念は、国際社会との関係において構築されて来たものであることを理解する
2.日本文化を巡る議論は政治的なものと密接なかかわりのあるものであることを理解する
3.上記を達成するために必要な諸理論について理解する

■講義方法
基本的にレクチャー形式で授業を進めますが、適宜ディスカッションの形式も取りたいと思います。また、パワーポイントなどの視覚資料も用います。

■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメなどは配布しない予定ですので、各自でしっかりとノートを取ってください。

■成績評価の方法
定期試験（100%）持込み可

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①イントロダクション
②近代日本とアイデンティティの構築史
③日本人論の系譜１（戦前から戦中）
④日本人論の系譜２（戦後から現代）
⑤オリエンタリズムと日本文化１
⑥オリエンタリズムと日本文化２
⑦クール・ジャパンと日本文化１
⑧クール・ジャパンと日本文化２
⑨クール・ジャパンと日本文化３
⑩アジアと日本文化１
⑪アジアと日本文化２
⑫欧米と日本文化１
⑬欧米と日本文化２
⑭欧米と日本文化３
⑮まとめ

ジェンダー論

【担当】堀江　有里
【開講】前期　火5

■サブタイトル
ジェンダー入門
■講義概要
ジェンダーとは、社会的･文化的につくられた性差（女らしさ･男らしさ）のことである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」を”つがう”ものとして認識する社会規範もあわせもっている（「異性愛主義」）。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在する、これらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ないたい。
■到達目標
ジェンダーとは何か、また性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれてきたのか、維持されてきたのかを考察する視点を身につけることを目指す。
■講義方法
講義形式にて進める。また、適宜、映像資料などを用いる。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義内に指示する。また、わからないことがあったら、その都度、図書館等で調べるようにすること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席状況およびミニレポート
定期試験（80%）論述試験
■テキスト
特になし
■参考文献
高橋準 『ジェンダー学への道案内（三訂版）』 北樹出版 2,000円
田中雅一・川橋範子 『ジェンダーで学ぶ宗教学』 世界思想社 1,995円
堀江有里 『「レズビアン」という生き方』 新教出版社 2,100円
その他、講義内に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語等、講義妨害行為には厳しく対処しますので各自注意して受講登録をしてください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
非常勤講師（パートタイム）のため、講義時間にのみ出講しています。講義後に声をかけてください。
■講義計画
①イントロダクション：講義概要の紹介等
②ジェンダーとは何か?（1）：概念説明、性差別の存在
③ジェンダーとは何か?（2）：マスメディアのなかのジェンダー
④フェミニズムの思想と実践（1）：女性解放運動と市民権
⑤フェミニズムの思想と実践（2）：「家父長制」という慣習
⑥労働とジェンダー（1）：賃金格差と職場・法
⑦労働とジェンダー（2）：セクシュアル・ハラスメント
⑧家族とジェンダー（1）：近代家族の成り立ち
⑨家族とジェンダー（2）：家族の多様性
⑩性暴力の諸問題（1）：軍事・基地とジェンダー
⑪性暴力の諸問題（2）：軍隊「慰安婦」問題
⑫ジェンダーとセクシュアリティ（1）：性の多様性
⑬ジェンダーとセクシュアリティ（2）：性自認と越境
⑭ジェンダーとセクシュアリティ（3）：性的指向／同性愛と異性愛
⑮宗教とジェンダー

ジェンダー論

【担当】堀江　有里
【開講】後期　火5

■サブタイトル
ジェンダー入門
■講義概要
ジェンダーとは、社会的･文化的につくられた性差（女らしさ･男らしさ）のことである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」を”つがう”ものとして認識する社会規範もあわせもっている（「異性愛主義」）。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在する、これらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ないたい。
■到達目標
ジェンダーとは何か、また性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれてきたのか、維持されてきたのかを考察する視点を身につけることを目指す。
■講義方法
講義形式にて進める。また、適宜、映像資料などを用いる。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義内に指示する。また、わからないことがあったら、その都度、図書館等で調べるようにすること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席状況およびミニレポート
定期試験（80%）論述試験
■テキスト
特になし
■参考文献
高橋準 『ジェンダー学への道案内（三訂版）』 北樹出版 2,000円
田中雅一・川橋範子 『ジェンダーで学ぶ宗教学』 世界思想社 1,995円
堀江有里 『「レズビアン」という生き方』 新教出版社 2,100円
その他、講義内に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語等、講義妨害行為には厳しく対処しますので各自注意して受講登録をしてください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
非常勤講師（パートタイム）のため、講義時間にのみ出講しています。講義後に声をかけてください。
■講義計画
①イントロダクション：講義概要の紹介等
②ジェンダーとは何か?（1）：概念説明、性差別の存在
③ジェンダーとは何か?（2）：マスメディアのなかのジェンダー
④フェミニズムの思想と実践（1）：女性解放運動と市民権
⑤フェミニズムの思想と実践（2）：「家父長制」という慣習
⑥労働とジェンダー（1）：賃金格差と職場・法
⑦労働とジェンダー（2）：セクシュアル・ハラスメント
⑧家族とジェンダー（1）：近代家族の成り立ち
⑨家族とジェンダー（2）：家族の多様性
⑩性暴力の諸問題（1）：軍事・基地とジェンダー
⑪性暴力の諸問題（2）：軍隊「慰安婦」問題
⑫ジェンダーとセクシュアリティ（1）：性の多様性
⑬ジェンダーとセクシュアリティ（2）：性自認と越境
⑭ジェンダーとセクシュアリティ（3）：性的指向／同性愛と異性愛
⑮宗教とジェンダー

ジェンダー論

【担当】高橋　慎一
【開講】後期　金5

■講義概要
ジェンダー（gender）とは、社会の中で男性が女性に対して力をふるう図式、を明らかにするものの見方である、と私は考えます。誰と一緒に住むのか、誰を愛するのか、誰とともに子を生み育てているのか、誰とともに働くのか、病気や障害をもった人の介護をするのは誰なのか。そのとき、男性と女性は何を考え、どのようにふるまうのか。現代の日本社会においても、男性と女性が期待される役割は異なります。男性が得をして女性が損をする、損をしていることにさえ女性が気づきにくい仕組みがあります。ジェンダーというものの見方や感じ方を学ぶことで、知らず知らすに私たちが「男性が女性を支配する」図式に陥っていく謎にアプローチします。

■到達目標
この講義は男性と女性の客観的な知識や情報を伝えることだけを目標にしていません。私も含めて講義に参加する人が、私はどうなのかあなたはどうなのか、と自分自身の条件を深く問うものになればと思います。考え表現するきっかけを獲得することを目標とします。

■講義方法
基本的には講義形式です。講義内では、映像資料も多用して、参加者に議論してもらう時間ももうけます。また、ジェンダーの視点をもちながら地域で活動している方を、ゲストスピーカーとして呼ぶ場合もあります。

■授業時間外における予・復習等の指示
必要に応じて適宜指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）講義内で少し長めの感想を４回書いてもらい、出席点とします。
定期試験（60%）自筆ノートと配布資料の持ち込みは可です。

■テキスト
講義内で適宜指示します。

■参考文献
講義内で適宜指示します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
適宜可能な範囲で調整します。

■講義計画
①イントロダクション
②一人で暮らすこと、誰かと暮らすこと（1）
③一人で暮らすこと、誰かと暮らすこと（2）
④産まないこと、産むこと、育てること（1）
⑤産まないこと、産むこと、育てること（2）
⑥働くこと（1）
⑦働くこと（2）
⑧性を売ること、性を買うこと（1）
⑨性を売ること、性を買うこと（2）
⑩性暴力について（1）
⑪性暴力について（1）
⑫ジェンダーと教育（1）
⑬ジェンダーと教育（2）
⑭マイナーであること（1）
⑮マイナーであること（2）

自然観察法

【担当】宮浦　富保、遊磨　正秀
【開講】前期　金2

■講義概要
瀬田学舎の近くには比較的豊かな自然環境が残されています。この講義では、瀬田学舎周辺で観察できる植物や動物を主な題材として、身近な自然を観察するポイントを学習します。身近な動植物の名前を知るのみでなく、行動や生態、進化的な観点から、観察し、記録し、簡単な分析を行う方法を学びます。

■到達目標
身近な自然環境を観察するための基本的な項目を体得する。

■講義方法
スライドや板書による講義とともに、実際にキャンパス内外の身近な自然を観察し、記録、分析する方法を体験学習する。

■系統的履修
なし

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時間中に学習した観察手法を、身近な環境で実践することにより、確実に身につけるとともに、自然の多様な側面を理解していただきたい。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）３回以上の欠席で不合格とする
レポート（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①野外における観察とは（ガイダンス）
②地形図の見方と野外での観察記録
③自然の恵み
④覚えよう身近な樹木
⑤「昆虫の飛び方を探る」（チョウやハチの飛翔）
⑥田圃の生き物
⑦植物と動物の関係
⑧ホタルの観察
⑨動物の餌探し
⑩生物による造形（巣作り）
⑪生物の形の数理
⑫「生き物のだましを見抜こう」（擬態）
⑬カワニナの観察
⑭樹木の形
⑮まとめ

情報社会とメディア

【担当】外村　佳伸、三浦　雅展
【開講】前期　月３

■講義概要
本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。
我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標
・メディアの基本的な特性と役割を理解している。
・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。
・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法
主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示
復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画
①現代情報化社会：　情報社会の問題点と背景
②生活とメディア：　ディジタルな生活考
③コミュニケーション・メディア論：　電話からつぶやきまで
④ビジネスとメディア：　ビジネス・モデルはメディアと共に
⑤文化とメディア：　日本文化、アーカイブ
⑥安心・安全社会とメディア：情報化時代のリスク論
⑦社会秩序とメディア：ネット時代の生き方
⑧情報の基本概念：情報・メディア・伝達
⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
⑩情報システムと情報ネットワーク
⑪メディアの諸相（1）：音メディアが伝える情報
⑫メディアの諸相（2）：映像メディアが伝える情報
⑬メディアの諸相（3）：感情・感動を伝えるメディア
⑭人間によるメディア処理：視覚と聴覚によるメディア処理
⑮芸術とメディア：　デジタルアート、デザイン

情報社会とメディア

【担当】外村　佳伸、三浦　雅展
【開講】後期　木３

■講義概要
本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。
我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標
・メディアの基本的な特性と役割を理解している。
・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。
・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法
主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示
復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画
①現代情報化社会：　情報社会の問題点と背景
②生活とメディア：　ディジタルな生活考
③コミュニケーション・メディア論：　電話からつぶやきまで
④ビジネスとメディア：　ビジネス・モデルはメディアと共に
⑤文化とメディア：　日本文化、アーカイブ
⑥安心・安全社会とメディア：情報化時代のリスク論
⑦社会秩序とメディア：ネット時代の生き方
⑧情報の基本概念：情報・メディア・伝達
⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
⑩情報システムと情報ネットワーク
⑪メディアの諸相（1）：音メディアが伝える情報
⑫メディアの諸相（2）：映像メディアが伝える情報
⑬メディアの諸相（3）：感情・感動を伝えるメディア
⑭人間によるメディア処理：視覚と聴覚によるメディア処理
⑮芸術とメディア：　デジタルアート、デザイン

情報と人間

【担当】小堀　聡
【開講】後期　木３

■講義概要
我々の社会生活に不可欠な「情報」というものを、主として科学・技術的な側面から学習する。まず、情報の性質や特徴を明らかにするとともに、コンピュータ、インターネットのしくみを学ぶ。また、情報という観点から、人間の特質、機械と人間の違いなどにも触れ、情報と人間の関係や情報社会のしくみや在り方を考える。そこから、人間にとって情報とは何なのかを導き出す。

■到達目標
情報の表現や伝達方法、通信、コンピュータ、インターネットのしくみとこれを利用するのに必要な知識を習得することを目標とする。

■講義方法
原則としてパソコンによる提示と板書にそって講義を進める。

■系統的履修
なし

■授業時間外における予・復習等の指示
講義ノートは本授業のサイトで公開しているので、PDFを各自ダウンロードして予習･復習に活用すること。なお､講義ノートはプリントアウトして授業に持参すること。

■成績評価の方法
小テスト（100%）
授業中の筆記テスト（100点満点）の成績により評価する。

■テキスト
なし

■参考文献
川合 慧 『情報』 東京大学出版会　1,900円
回陽 博史 『情報と人間』 オーム社　2,200円
その他の参考書などについては、授業の中で随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
本講義で学ぶ情報、メディア、コンピュータ、インターネットに関する知識は、文系、理系を問わず、これからの社会を生き抜くには必要不可欠の知識です。好き嫌いではなく、大学生の基礎知識として理解し、習得してください。単に授業に出てノートを取るだけでなく、自分でよく考えながら講義を聴くようにしてほしいと思います。
なお、本科目は瀬田学舎の全学部・全年次を対象としたものですが、理工学部の学生には推奨しません。本来、理工学部固有の科目において学習すべき内容（と理工学部生として当然身につけているはずの教養）を講義するからです。すでに学習した内容、もしくは今後学習する内容を聴くことになるので、本科目により新たな知識を得ることはないと思います。教養教育科目の総合科目については、他の科目（理工系でない科目）を受講することを強く推奨します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
理工学部電子情報学科の教員の週間予定については、学科のWebサイトで参照することができます。スケジュールを確認して、１号館４階の研究室を訪問してください。

■講義計画
①情報とは何か
②情報の表現と性質１
③情報の表現と性質２
④情報の伝達と通信
⑤問題の表現と解き方
⑥コンピュータのしくみ
⑦インターネットのしくみ
⑧まとめ
⑨感覚系と記憶系
⑩脳の情報処理
⑪遺伝子と進化
⑫インタフェース
⑬情報技術と社会
⑭筆記テスト
⑮まとめと質疑応答

情報倫理

【担当】野村　竜也、芝原　努
【開講】前期　月４

■サブタイトル
情報社会における心理・技術・法

■講義概要
情報化に伴う社会の変化により、倫理や規範の問題についても、これまでの議論の枠組みとは異なる視点からの再検討が必要になっていると考えられる。例えば、従来の知的財産権法制は情報社会において有効な行動指針たりうるのか、新たな形態の反社会的行動に対する対策はいかにありうるのか、人と人の間の対話のあり方はどのように変容していくのか等、問題は多岐に渡り、社会や個人の様々な側面に関係している。本講義では、こうした課題を法制・関連IT技術・個人の心理面の３テーマから整理し、情報倫理の問題を多面的に検討していくことを目指す。

■到達目標
人がインターネット等で活動する際に直面する問題はどのようなものか、そうした問題を予防し、またはこれに対処する行動指針とはどのようなものかを理解する。

■講義方法
講義計画に沿ってレジュメと資料を配布し、それに基づき講義形式で進める。可能な限り視聴覚教材も利用する。

■授業時間外における予・復習等の指示
インターネット上での心理に関連する新聞コラム、事件報道等に常に注目しておくこと。講義内容を理解する上で必須かつ有用。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（10%）
レポート（40%）
定期試験（30%）

■テキスト
特になし

■参考文献
A.N.ジョインソン 『インターネットにおける行動と心理』 北大路書房　2,800円
Deborah G. Johnson 『コンピュータ倫理学』 オーム社　2,500円
名和小太郎 『情報の私有・共有・公有　ユーザーからみた著作権』 NTT出版　2,500円

■講義計画
１～５回目　インターネットにおける行動と心理
６～９回目　コンピュータウイルス、セキュリティ対策、ネットワークサービスと開発者倫理
10回目　確認のための小テスト
11～14回目　関連法律、現行法の問題点および今後の動向
15回目　総括

人権論Ａ

【担当】稲田　七海、本岡　拓哉
【開講】前期　月２

■サブタイトル
流動社会における人権
■講義概要
本講義では、雇用、貧困、生活保護、ホームレスなどの社会問題を通して、流動社会における労働や生活のあり方について考えることを目的とします。雇用の流動化による格差の拡大や貧困問題が深刻化する現在､「働き方」や「生活」をめぐっては、私たちにとってもっとも身近で重要な課題となっています。労働や生活をとおして見えてくる貧困・格差をめぐる問題と、それらに対応する社会保障や社会政策、そしてそれらを補完する民間の実践プロセスを通して、人権について議論していきます。
■到達目標
本講義では、私たちに身近な労働や生活のあり方をとおして、「働くこと」や「生活すること」をめぐる自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持つことを到達目標とします。
■講義方法
教科書は指定しませんが､各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料）などを活用しながら講義を進めていきます。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する予定です。
■講義計画
①イントロダクション：「働くこと」「生活すること」と人権
②多様化する「働き方」と生活
③高度経済成長期における労働と生活１
④高度経済成長期における労働と生活２
⑤労働と社会保障１
⑥労働と社会保障２
⑦労働の空間と生活の空間１
⑧労働の空間と生活の空間２
⑨労働の空間と生活の空間３
⑩流動化とライフコース１
⑪流動化とライフコース２
⑫流動化とライフコース３
⑬セーフティネットと地域１
⑭セーフティネットと地域２
⑮これまでの総括

人権論Ａ

【担当】中川　ユリ子
【開講】前期　月２

■サブタイトル
現在の被差別部落・入門
■講義概要
日本で人権ということばが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。
　本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて､同和対策事業が大々的に行われ､多くの部落は確かに大きく変わった。時代とともに全体として裕福にもなった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとは言い難い。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。
　大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。
　差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。
■到達目標
たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。
■講義方法
初回から４、５回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は､個々人がその現実とどういう関係性をもっているのかが理解できるような題材を用いて、講義を行う。
■系統的履修
特にない。
■授業時間外における予・復習等の指示
社会問題に興味を向け、現在の問題を知るように心がけること
■成績評価の方法
定期試験（100%）
基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて､答える（文章を作る）という形をとる。ただし､講義の進捗状況によっては､レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。
■テキスト
教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。
■参考文献
読んで欲しい本、興味をひかれるだろう本等は、講義時に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
連絡用のemailを講義時に知らせることを考えている。
■講義計画
①部落問題とは何か
②今日の差別事象－－結婚差別を考える
③被差別部落の実態－－統計資料より
④被差別部落の実態－－統計資料より
⑤同和対策事業が部落にもたらしたもの
⑥古い問題、新しい問題
⑦部落の新しい世代
⑧ある唄から部落を見る①
⑨ある唄から部落を見る②
⑩賤民の歴史－中世・近世
⑪部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑫部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑬部落の人々が語ること
⑭部落とは何か
⑮予備日（ビデオの上映など）

人権論Ａ

【担当】稲田　七海、本岡　拓哉
【開講】前期　月３

■サブタイトル
流動社会における人権
■講義概要
本講義では、雇用、貧困、生活保護、ホームレスなどの社会問題を通して、流動社会における労働や生活のあり方について考えることを目的とします。雇用の流動化による格差の拡大や貧困問題が深刻化する現在､「働き方」や「生活」をめぐっては、私たちにとってもっとも身近で重要な課題となっています。労働や生活をとおして見えてくる貧困・格差をめぐる問題と、それらに対応する社会保障や社会政策、そしてそれらを補完する民間の実践プロセスを通して、人権について議論していきます。
■到達目標
本講義では、私たちに身近な労働や生活のあり方をとおして、「働くこと」や「生活すること」をめぐる自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持つことを到達目標とします。
■講義方法
教科書は指定しませんが､各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料）などを活用しながら講義を進めていきます。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する予定です。
■講義計画
①イントロダクション：「働くこと」「生活すること」と人権
②多様化する「働き方」と生活
③高度経済成長期における労働と生活１
④高度経済成長期における労働と生活２
⑤労働と社会保障１
⑥労働と社会保障２
⑦労働の空間と生活の空間１
⑧労働の空間と生活の空間２
⑨労働の空間と生活の空間３
⑩流動化とライフコース１
⑪流動化とライフコース２
⑫流動化とライフコース３
⑬セーフティネットと地域１
⑭セーフティネットと地域２
⑮これまでの総括

人権論Ａ

【担当】中川　ユリ子
【開講】前期　月３

■サブタイトル
現在の被差別部落・入門
■講義概要
日本で人権ということばが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。
　本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて､同和対策事業が大々的に行われ､多くの部落は確かに大きく変わった。時代とともに全体として裕福にもなった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとは言い難い。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。
　今、大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。
　差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。
■到達目標
たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。
■講義方法
初回から４、５回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は､個々人がその現実とどういう関係性をもっているのかが理解できるような題材を用いて、講義を行う。
■系統的履修
特にない。
■授業時間外における予・復習等の指示
社会問題に興味を向け、現在の問題を知るように心がけること
■成績評価の方法
定期試験（100%）
基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて､答える（文章を作る）という形をとる。ただし､講義の進捗状況によっては､レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。
■テキスト
教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。
■参考文献
読んで欲しい本、興味をひかれるだろう本等は、講義時に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
連絡用のemailを講義時に知らせることを考えている。
■講義計画
①部落問題とは何か
②今日の差別事象－－結婚差別を考える
③被差別部落の実態－－統計資料より
④被差別部落の実態－－統計資料より
⑤同和対策事業が部落にもたらしたもの
⑥古い問題、新しい問題
⑦部落の新しい世代
⑧ある唄から部落を見る①
⑨ある唄から部落を見る②
⑩賤民の歴史－中世・近世
⑪部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑫部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑬部落の人々が語ること
⑭部落とは何か
⑮予備日（ビデオの上映など）

人権論A

【担当】金　光敏
【開講】前期　水3

■サブタイトル
社会の扉として人権
■講義概要
社会問題との接点に積極的な姿勢を持ち、自らの進路とも関連付けながら、人権をどのように生かすのかについて考えていきます。社会のありよう、政府、国家について多角的な評価を加え、批判的視覚を培うことはすべての学問、社会、企業活動に有意義なことです。ひとつの事柄を固定的に捉えるのではなく、多面的に捉える訓練を重ね、事実だとされているその裏側や背景をたどりながら、再評価することで自らと社会との関係性の中に多様性を担保してほしいと考えます。そのことを通して、自らの進路選択の幅を広げてほしいと考えています。
メディアや政治に対するリテラシーを培い、溢れる情報化社会の中で、自分自身にとって必要な情報とは何かを主体的に見つけ出して行く視点としての「人権論」の役割に期待し、そこから学び取ってほしいと思います。
■到達目標
この授業では、国際化社会の到来を受け、多様な背景を持つ人々が共生していくために必要なアプローチとは何で、溢れる情報の時代に一面的ではなく、多面的な社会考察の力を育む『リテラシー』を重視します。
■講義方法
講義では、プリント、新聞、映像などを活用して、「人権」、「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのような対話が行われ、どのような対論が存在しているのかを見ていきます。
授業終了前に「意見カード」を書いてもらいます。
■授業時間外における予・復習等の指示
特になし
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（40%）全授業終了後に試験を実施します。
そ の 他（20%）授業中に取り上げた内容に基づいて意見カードが記載されているのかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意識を見せているのかを評価したいと思います。
■テキスト
藤木美奈子　『傷つけあう家族』　講談社　600円
■参考文献
授業ごとに関連資料を印刷配布します。
■履修上の注意・担当者からの一言
大学生として知って欲しい社会の動きについて、授業では積極的に取り上げたいと思います。
■講義計画
①意思表明することの大切さ
　この授業のねらいとガイダンス
②夫婦別姓は賛成か、反対か①
　～家族観をめぐる対論～
③夫婦別姓は賛成か、反対か②
　～女性の社会進出をめぐる現実～
④定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か～憲法判断をめぐって～
⑤定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か～基礎となる地域社会に国籍のちがいは重要か～
⑥高校無償化、朝鮮高級学校排除は賛成か反対か
⑦沖縄に対する差別の現実
　～押し付けられる米軍基地と日米関係～
⑧上方落語「代書」はなぜ演じられなかったか
⑨日本映画の中の在日コリアン
⑩日本映画の中の在日コリアン
⑪公権力による人権侵害の実態
⑫メディアによる人権侵害の実態①～警察発表を鵜呑みする報道～
⑬メディアによる人権侵害の実態②～電子空間における人権侵害～
⑭生きることが重んじられる社会とは? ～労働と人権～
⑮生きることが重んじられる社会とは? ～子どもの目線から見た社会～

人権論A

【担当】岸　衛
【開講】前期　水3

■サブタイトル
自分をみつめ・差別をみつめ・世間をみつめる
■講義概要
1　社会心理学的に自分と他人の関係をみつめる。
2　民俗学や社会史・文化史の観点から、差別問題、差別する心をみつめる。
3　「世間」とは、何か。社会とは違う「世間」の構造をみつめる。
■到達目標
＊今の「世の中」を見る目を身につける。
＊自分との関係でものをとらえる習慣を身につける。
＊本を読む習慣を身につける。
■講義方法
受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。
■系統的履修
人権論B
■授業時間外における予・復習等の指示
次回の講義内容を予告し、あらかじめ「自分の考え・意見」をまとめておく。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）講義ごとのコミュニケーションカードの提出
レポート（20%）講義の中でテーマを課し、レポートを提出する
定期試験（50%）
■テキスト
岸　衛　『自分・差別・世間　第２版』　反差別国際連帯解放研究所しが　700円
■参考文献
遠藤周作　『ほんとうの私を求めて』　集英社文庫　457円
阿部謹也　『「教養」とは何か』　講談社現代新書　750円
■講義計画
①オリエンテーション
②知ってもらいたい「自分」
③「まなざし」と差別
④まとめ：「自分を見つめる」
⑤人は「なぜ、差別するのか」
⑥畏れながら遠ざける「差別」
⑦賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて①
⑧賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて②
⑨日本人の「原風景」と差別
⑩結婚をめぐって
⑪まとめ：「部落差別の根底にあるもの」
⑫世間とは何か
⑬世間の中の「自分」
⑭「世間」の中でどう生きるか
⑮まとめ：「自分・差別・世間」

人権論A

【担当】金　光敏
【開講】前期　水4

■サブタイトル
社会的スキルとしての人権アプローチ
■講義概要
「人権」「人権問題」とは、とかく堅苦しいものとのイメージがあります。あるいは人権問題と聞いた場合、同和問題、在日問題、障害者問題など特定の課題をイメージして語られることも少なくありません。果たして「人権」とは、「人権問題」とは、特定の人々の、特定の課題をさすものなのでしょうか。
「人権」が重要な価値として広く認識されるようになったのは、第二次世界大戦後です。そこには最大の人権侵害が戦争であるとの認識があり、二度と繰り返してはならないという反省がありました。国際社会が取り組むべき共通の課題として明文化されたのが、国連による1948年の「世界人権宣言」の採択でした。「世界人権宣言」は日本国憲法の中にも生かされており、そこでは「人権」が特定の人々の、特定の課題ではなく、すべての人々に保障されるべきものだと語られています。
この授業では、「人権」「人権問題」の基礎理解をもとにし、新しい視点からの接近を考えています。「人権」「人権問題」に取り組むことが日常生活の何に生かされ、生かされるべきかをエピソード加えながら、進めて行く予定です。
■到達目標
この授業では、国際化と情報化社会を意識し、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない社会的スキルとしての「対話力」を着目し、「人権」「人権問題」へのアプローチが社会的スキル向上にどのように生かされるべきかを考えます。また、「人権」課題への接近が、社会変革にどのような可能性を持つのかについても考えます。
■講義方法
講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像、音楽などを活用し、社会が「人権」「人権問題」をどのように捉えているのかを問題提起した上で、意見交換したいと思います。
授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（40%）全授業終了後に試験を実施します。
そ の 他（20%）授業中に取り上げたキーワードを授業終了時の意見カードに正しく記載されているかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを総合的に評価したいと思います。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業と関連する文献について、その都度紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
社会生活を送る際の参考してほしいと思っています。生きて行く上で役に立つこと満載の授業にしたいと思います。
■講義計画
①この授業のねらいとガイダンス
②国際人権①～戦争と人権～
③国際人権②～世界人権宣言～
④性差別の現実①～セクシャルハラスメントは我慢すべきか～
⑤性差別の現実②～女性は家事、子育てに専念すべきか～
⑥性差別の現実③～夫婦別姓は賛成か反対か～
⑦在日外国人の人権①～在日外国人の現状から見る日本社会の多様性～
⑧在日外国人の人権②～在日コリアンの人権と共生社会～
⑨在日外国人の人権④～在日ブラジル人と多文化共生のいま～
⑩日本映画の中の在日コリアン
⑪日本映画の中の在日コリアン
⑫働くことと人権～非正規雇用の現実～
⑬ハンセン病元患者らの記憶
⑭人権をテーマとした社会変革の可能性
⑮しめくくり～試験～

人権論A

【担当】矢野　亮
【開講】前期　木3

■サブタイトル
生活のなかにある「人権」
■講義概要
私たちはすでに「人権」と関わる日常生活世界を生きています。にもかかわらず、「人権」と聞くと、ある特定の差別や排除を被った「当事者（たち）」の問題だと括って（限定して）考えてしまいがちです。
本講義では、身近な生活場面において生起する人権侵害に関する具体的事例を取り上げ、それらの対応策について検討することを通じて、人権について議論していきます。その際、「当事者」を理解することにとどまらず、「当事者」を取り巻く社会政策や社会運動の歴史的展開過程についても視野に入れて考え議論していきます。
■到達目標
本講義では、身近な生活場面における事例検討を通して、自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持つことを到達目標とします。
■講義方法
教科書は指定しません。各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料等）を活用しながら講義を進めていきます。
■系統的履修
人権論B
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①ガイダンス
②私と（の）人権――部落問題から――
③「生活」の捉え方
④生活のなかにある人権①児童
⑤生活のなかにある人権②保育・教育
⑥生活のなかにある人権③恋愛・結婚
⑦生活のなかにある人権④労働
⑧生活のなかにある人権⑤老い
⑨生活のなかにある人権⑥障がい
⑩生活のなかにある人権⑦住宅
⑪生活のなかにある人権⑧家族
⑫生活のなかにある人権⑨地域
⑬生活のなかにある人権⑩国家
⑭生活のなかにある人権⑪国際
⑮まとめと振り返り

人権論B

【担当】稲田　七海
【開講】後期　月2

■サブタイトル
居住と人権
■講義概要
本講義では、居住福祉の観点から人権について考えることを目的とします。近年、ホームレスやネットカフェ難民などの住居を持たない人々や、無縁化や孤立化によって無届の福祉施設などを転々する困窮高齢者など、安定した居場所を持たずに都市空間の中を漂流する人たちの存在が社会問題化しています。労働が流動化し、家族のあり方や人とのつながり方が大きく変化する現在、所与のものとして存在した住宅のあり方は変化し、人々の「居住する権利」が脅かされる場面も少なくありません。本講義では、「住宅とは福祉の基礎である」という居住福祉の観点から、「住まうこと」と人権について議論していきます。
■到達目標
「住まうこと」は、人が生きていくために不可欠な条件です。本講義では、自らの居住する権利について知り、居住をめぐる多様なあり方への理解を深めることを目標とします。
■講義方法
テーマに沿って、参考資料（映像資料、調査報告書、審議会資料など）を活用しながら講義を進めていきます。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する予定です。
■講義計画
①イントロダクション
②居住福祉とは何か?
③居住福祉をめぐるさまざまな動向
④ホームレスと居住問題１
⑤ホームレスと居住問題２
⑥都市空間と不法占拠１
⑦都市空間と不法占拠２
⑧貧困と居住福祉１
⑨貧困と居住福祉２
⑩無縁化と居住福祉１
⑪無縁化と居住福祉２
⑫若者の仕事と居住１
⑬若者の仕事と居住２
⑭まちづくりと居住福祉
⑮これまでの総括

人権論B

【担当】中川　ユリ子
【開講】後期　月2

■サブタイトル
「生」と「性」
■講義概要
女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった・・・そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と、何の疑問も持たずに言う大人たちも、多く存在する。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、その言葉に違和感を感じる人は必ずいるに違いない。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。
　現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。
「らしさ」の呪縛から解き放たれるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。
■到達目標
常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。
■講義方法
まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。
■授業時間外における予・復習等の指示
テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられる性に関する問題に興味を向け、自分で考える時間を設ける。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10 ～ 15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。
■テキスト
教科書は使用しない。プリントを配布する。
■参考文献
おもしろい本などは、講義時に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
希望があればemailを使用する。
■講義計画
①差別問題を考える意味
②世間は女と男をどう扱うのか
③新聞で気付くこと
④女の子、男の子はつくられる――性の認識
⑤どこで「らしさ」を学んだのか――絵本
⑥どこで「らしさ」を学んだのか――学校
⑦どこで「らしさ」を学んだのか――学校
⑧どこで「らしさ」を学んだのか――TVのCM、アニメ、漫画など
⑨どこで「らしさ」を学んだのか――TVのCM、アニメ、漫画など
⑩どこで「らしさ」を学んだのか――抗議の歴史
⑪常識を疑え！
⑫女人禁制――伝統をどう考えるか
⑬多様な性のあり方――同性愛
⑭多様な性のあり方――同性愛
⑮まとめ （ビデオ鑑賞など）

人権論B

【担当】稲田　七海
【開講】後期　月3

■サブタイトル
居住と人権
■講義概要
本講義では、居住福祉の観点から人権について考えることを目的とします。近年、ホームレスやネットカフェ難民などの住居を持たない人々や、無縁化や孤立化によって無届の福祉施設などを転々する困窮高齢者など、安定した居場所を持たずに都市空間の中を漂流する人たちの存在が社会問題化しています。労働が流動化し、家族のあり方や人とのつながり方が大きく変化する現在、所与のものとして存在した住宅のあり方は変化し、人々の「居住する権利」が脅かされる場面も少なくありません。本講義では、「住宅とは福祉の基礎である」という居住福祉の観点から、「住まうこと」と人権について議論していきます。
■到達目標
「住まうこと」は、人が生きていくために不可欠な条件です。本講義では、自らの居住する権利について知り、居住をめぐる多様なあり方への理解を深めることを目標とします。
■講義方法
テーマに沿って、参考資料（映像資料、調査報告書、審議会資料など）を活用しながら講義を進めていきます。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示します。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に紹介する予定です。
■講義計画
①イントロダクション
②居住福祉とは何か?
③居住福祉をめぐるさまざまな動向
④ホームレスと居住問題１
⑤ホームレスと居住問題２
⑥都市空間と不法占拠１
⑦都市空間と不法占拠２
⑧貧困と居住福祉１
⑨貧困と居住福祉２
⑩無縁化と居住福祉１
⑪無縁化と居住福祉２
⑫若者の仕事と居住１
⑬若者の仕事と居住２
⑭まちづくりと居住福祉
⑮これまでの総括

人権論B

【担当】中川　ユリ子
【開講】後期　月3

■サブタイトル
「生」と「性」
■講義概要
女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった・・・そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と何の疑問も持たずに言う大人たちは、多く存在する。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、違和感を感じる人は必ずいるに違いない。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。
　現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。
　「らしさ」の呪縛から解き放たれるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。
■到達目標
常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。
■講義方法
まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。
■授業時間外における予・復習等の指示
テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられる性に関する問題に興味を向け、自分で考える時間を設ける。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10 ～ 15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。
■テキスト
教科書は使用しない。プリントを配布する。
■参考文献
おもしろい本などは、講義時に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
希望があればemailを使用する。
■講義計画
①差別問題を考える意味
②世間は女と男をどう扱うのか
③新聞で気付くこと
④女の子、男の子はつくられる――性の認識
⑤どこで「らしさ」を学んだのか――絵本
⑥どこで「らしさ」を学んだのか――学校
⑦どこで「らしさ」を学んだのか――学校
⑧どこで「らしさ」を学んだのか――TVのCM、アニメ、漫画など
⑨どこで「らしさ」を学んだのか――TVのCM、アニメ、漫画など
⑩どこで「らしさ」を学んだのか――抗議の歴史
⑪常識を疑え！
⑫女人禁制――伝統をどう考えるか
⑬多様な性のあり方――同性愛
⑭多様な性のあり方――同性愛
⑮まとめ （ビデオ鑑賞など）

人権論B

【担当】金　光敏
【開講】後期　水3

■サブタイトル
対論の中からさぐる人権

■講義概要
人権をめぐる対論に視野を向けたいと思います。社会の多様化にともなって、起こった出来事をめぐる多角的な討論が繰り広げられるようになりました。特に、メディアではものごとの賛成派と反省派に分かれて論じ合う場面が、繰り返し報道されています。賛否の立場に立つ人々が、それぞれの立場から論じ合うことは、民主主義の根幹であり、とても大切な社会合意へのプロセスです。
　こうした賛否の議論で取り上げられたさまざまな討論課題の中で、人権問題がどのように取り上げられたのかを考察し、社会が「人権」をどのように捉え、どのように扱っているのかに接近したいと思います。
　一方、私たちが暮らす社会において、メディアが持つ影響力は多大なものです。現代人の価値観や社会観に大きな影響を及ぼし、メディアによって発せられた情報が社会そのものを大きく変動させたケースも多く見られます。メディアは第4の権力とも呼ばれ、情報化社会が進めば進むほど、メディアの役割を多角的に検証する役割が求められます。「人権論」の視点からメディアリテラシーの重要性についても考えてみたいと思います。

■到達目標
この授業では、国際化と情報化社会を迎えて、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない「対話力」を重視し、「人権」「人権問題」へのアプローチを通して、社会を批判的に捉えることと、常にオルタナティブにたどり着くための努力に焦点をあてたいと思います。

■講義方法
講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像などを活用して、実際に行われている対論を見てもらい、「人権」「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのように賛否がわかれているのかを見てもらい、その上で意見交換したいと思います。
授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（40%）全授業終了後に試験を実施します。
そ の 他（20%）授業中に取り上げたキーワードが意見カードに正しく記載されているかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを評価したいと思います。

■テキスト
特になし

■参考文献
授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
社会生活を送る際の参考にしてほしいと思っています。社会を創造的に切り開いて行けるヒントになるような授業にしたいと思います。

■講義計画
①意思表明することの大切さ
　この授業のねらいとガイダンス
②夫婦別姓は賛成か、反対か?①～家族観をめぐる対論～
③夫婦別姓は賛成か、反対か?②～女性の人権をめぐって～
④定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か①～住民の権利とは何かをめぐって～
⑤定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か②～多文化共生をめぐって～
⑥高校無償化、朝鮮高校排除は賛成か反対か①～なにが問題視されたのか～
⑦普天間基地の辺野古移転、賛成か反対か～沖縄と戦争、基地～
⑧上方落語『代書』はなぜ放送されなかったのか
⑨日本映画の中の在日コリアン
⑩日本映画の中の在日コリアン
⑪公権力による人権侵害
⑫日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか?②～メディアスクラムの恐怖～
⑬日本のメディアは人権ををどのように扱ってきたか?③～記者クラブ制度は必要か～
⑭しめくくり～試験～
⑮人権と社会
　人権論の授業を締めくくりながら

人権論B

【担当】岸　衛
【開講】後期　水3

■サブタイトル
－　ライフストーリー・インタビューへの招待　－

■講義概要
1　ライフストーリー・インタビューは、文字として記録には残らなかったけれども「あった」ひとり一人の生活を聞き取る作業である。インタビューから得られた滋賀県内での20年間に渡る「語り」を紹介する。
2　差別の「今」を明らかにする。

■到達目標
＊今の「世の中」を見る目が身につく。
＊自分との関係でものをとらえる習慣が身につく。
＊本を読む習慣が身につく。
＊「いかに生きるか」を問う姿勢ができる。

■講義方法
受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。
実際の聞き取り調査にもとづく映像や写真、資料も紹介しながら、進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
テキストの次章を、事前に読み込んでくる。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）講義ごとにコミュニケーションカードを提出する
レポート（35%）講義の中で課した章ごとのまとめをするためのノートをつくる。
定期試験（50%）全体から、提出する

■テキスト
岸　衛・桜井厚著『差別の境界をゆく』せりか書房　2,300円

■参考文献
桜井厚『境界文化のライフストーリー』せりか書房　2,500円
桜井厚・岸衛　編　『屠場文化…語られなかった世界…』　創土社　2,520円
反差別国際連帯解放研究所しが編　『語りのちから』　弘文堂　2,415円

■講義計画
①ライフストーリーインタビューとは何か
②宮本常一の世界
③柳田国男の仕事
④Ⅰ　戦中・戦後を生きる　生活のための仕事
⑤差別経験の語り方
⑥Ⅱ　「太鼓の里」から東京へ　皮革の「技」をもって
⑦皮革業の変化と差別観
⑧Ⅲ「伝統の技」に生きる　靴職人の世界
⑨「嫁盗み」の物語　「はしり」
⑩「屠場文化」　屠畜をめぐって
⑪Ⅳ「部落」を伝える　親と子の苦悩　「部落」の語りがたさ
⑫Ⅴ差別の「はざま」で　結婚・子育ての中で
⑬差別を越えて　若者たちの「自己認識」
⑭Ⅵ　アイデンティティを問う　若者たちの自己認識
⑮アイデンティティ形成の困難

人権論B

【担当】金　光敏
【開講】後期　水4

■サブタイトル
対論の中からさぐる人権

■講義概要
人権をめぐる対論に視野を向けたいと思います。社会の多様化にともなって、起こった出来事をめぐる多角的な討論が繰り広げられるようになりました。特に、メディアではものごとの賛成派と反省派に分かれて論じ合う場面が、繰り返し報道されています。賛否の立場に立つ人々が、それぞれの立場から論じ合うことは、民主主義の根幹であり、とても大切な社会合意へのプロセスです。
　こうした賛否の議論で取り上げられたさまざまな討論課題の中で、人権問題がどのように取り上げられたのかを考察し、社会が「人権」をどのように捉え、どのように扱っているのかに接近したいと思います。
　一方、私たちが暮らす社会において、メディアが持つ影響力は多大なものです。現代人の価値観や社会観に大きな影響を及ぼし、メディアによって発せられた情報が社会そのものを大きく変動させたケースも多く見られます。メディアは第4の権力とも呼ばれ、情報化社会が進めば進むほど、メディアの役割を多角的に検証する役割が求められます。「人権論」の視点からメディアリテラシーの重要性についても考えてみたいと思います。

■到達目標
この授業では、国際化と情報化社会を迎えて、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない「対話力」を重視し、「人権」「人権問題」へのアプローチを通して、社会を批判的に捉えることと、常にオルタナティブにたどり着くための努力に焦点をあてたいと思います。

■講義方法
講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像などを活用して、実際に行われている対論を見てもらい、「人権」「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのように賛否がわかれているのかを見てもらい、その上で意見交換したいと思います。
授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（40%）全授業終了後に試験を実施します。
そ の 他（20%）授業中に取り上げたキーワードが意見カードに正しく記載されているかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを評価したいと思います。

■テキスト
特になし

■参考文献
授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
社会生活を送る際の参考にしてほしいと思っています。社会を創造的に切り開いて行けるヒントになるような授業にしたいと思います。

■講義計画
①意思表明することの大切さ
　この授業のねらいとガイダンス
②夫婦別姓は賛成か、反対か?①～家族観をめぐる対論～
③夫婦別姓は賛成か、反対か?②～女性の人権をめぐって～
④定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か①～住民の権利とは何かをめぐって～
⑤定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か②～多文化共生をめぐって～
⑥高校無償化、朝鮮高校排除は賛成か反対か①～なにが問題視されたのか～
⑦普天間基地の辺野古移転、賛成か反対か～沖縄と戦争、基地～
⑧上方落語『代書』はなぜ放送されなかったのか
⑨日本映画の中の在日コリアン
⑩日本映画の中の在日コリアン
⑪公権力による人権侵害
⑫日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか?②～メディアスクラムの恐怖～
⑬日本のメディアは人権ををどのように扱ってきたか?③～記者クラブ制度は必要か～
⑭しめくくり～試験～
⑮まとめ

人権論B

【担当】矢野　亮
【開講】後期　木3

■サブタイトル
部落問題を事例として

■講義概要
本講義では、戦前、戦中、戦後から現代における「人権」をめぐる言説空間について、部落問題を事例として取り上げることを通じて、いかなる時代状況において、「部落」と「人権」が人々にいかに語られ問題化されてきたのかを考えたい。また、それらの問題化のプロセスを理解すると同時に、各時代における社会事業や社会政策、社会運動や社会活動等の目的と方策、影響力についても理解を深める。

■到達目標
部落問題を事例として、いかなる時代状況のもと、いかなる実践と研究があり、現代にいたる「人権」概念に到達してきたのかを理解することを通じて、身近な人権に関する諸課題の解決策を模索する手掛かりを得ること。

■講義方法
参考資料を使用しながら講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示する。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
講義時に紹介する。

■講義計画
①ガイダンス
②私と人権――部落問題から――
③部落問題をめぐる言説空間――戦前①
④部落問題をめぐる言説空間――戦前②
⑤部落問題をめぐる言説空間――戦時
⑥部落問題をめぐる言説空間――1945年～ 1950年
⑦部落問題をめぐる言説空間――1950年代
⑧部落問題をめぐる言説空間――1960年代
⑨部落問題をめぐる言説空間――1970年代
⑩部落問題をめぐる言説空間――1980年代
⑪部落問題をめぐる言説空間――1990年代
⑫部落問題をめぐる言説空間――2000年代
⑬人権の到達点①
⑭人権の到達点②
⑮まとめ、振り返り

スポーツ文化論

【担当】松下　唯夫
【開講】前期　水３

■サブタイトル
文化人類学の立場から、スポーツは「誰のためのものか」を考え、学ぶ
■講義概要
スポーツは人類の発展史と共にあり、その過去の歴史から、ナショナリズム・プロパガンダ・ビジネス化・アマチュアリズム･人種差別など明らかにしながら「誰のためのスポーツか」を受講学生とともに考える。
■到達目標
スポーツ文化の理解を深める。
■講義方法
板書、配布資料、ビデオ
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に指示する。
■成績評価の方法
その他（100%）
平常点80％（講義中のミニレポート）、期末の課題レポート20％
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①映画「スパルタカス」「ベンハー」から古代スポーツを見る
②　〃
③近代スポーツの発展史（イタリアの古式サッカーと1600年～1900年代のスポーツ事情）
④　〃
⑤日本の戦前・戦後のスポーツ事情
⑥〃　（人見・古橋から学ぶ）
⑦アマチュアリズムとフェアプレー
⑧テレビ支配
⑨ビジネス化
⑩スポーツとプロパガンダ
⑪スポーツの市民参加
⑫イタリア・シエナのパリオ（競馬）とコミュニケーション
⑬まとめ１
⑭まとめ２
⑮まとめ３

世界の福祉

【担当】太谷　亜由美
【開講】前期　水３

■サブタイトル
子供の貧困と子育て支援政策を考える
■講義概要
少子化が進行する日本の状況は、他の先進国と比較すると一層その深刻さが克明となる。やはり、欧米諸国との比較において、日本では子供に関する政策が遅れていることは明白である。少子化対策の必要性が論じられる一方で、他の先進国と比べると、その対策は統計上も不十分である。少子化対策だけでなく、子供に対する支援も見劣りがするのが現状だ。このような日本の少子化の状況は我々の社会にどのような影響を及ぼすのか、またなぜ少子化が進行する要因なのかを、本講義では分析し一緒に考えていきたい。その上で、どのような政策が実現可能か考えていきたいが、日本と同じような経済体制の下、中程度の負担、中程度の福祉を行う、イギリス、ニュージーランド、オーストラリアを取り上げ、こうした国々ではどの程度の負担によって、どの程度の政策が行われているかを考察したい。また、アメリカで見られる子供の貧困についても考え、子供が幸福に暮らせる社会を考えたい。
■到達目標
日本ではあまり詳しく紹介されていない３ヶ国とアメリカの状況を理解し、日本の状況と比較し、どうした政策が望ましいか各受講者が考え、身近な問題として意識づけできように取り組んで頂きたい。
■講義方法
主として、教員による講義とそれを元に受講者に意見を求め、考察して頂く。
■授業時間外における予・復習等の指示
各国の状況と制度について、復習を適宜行っていただきたい。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）出席などの状況を勘案します。
定期試験（90%）論述式筆記試験
リアクション・ペーパーをほぼ毎回、配布し出席をとります。一度も出席のないものは不可といたします。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義中に追って紹介いたします。
■履修上の注意・担当者からの一言
成績評価の方法でも記載しましたが、一度も出席のない受講生は不可と致しますので、ご注意ください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義後、ご質問ください。
■講義計画
①日本の少子化の状況と世界 - OECD加盟各国との比較 -
②日本の子供の貧困、一人親世帯の現状
③日本における実際の子育て支援政策の紹介
④日本の子育て支援政策の問題点
⑤イギリスの子供の貧困と対策
⑥イギリスの実際の子育て支援政策の紹介 1
⑦イギリスの実際の子育て支援政策の紹介 2
⑧講義予備日
⑨ニュージーランドの子供にかんする状況
⑩ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介 1
⑪ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介２
⑫アメリカの子供の貧困の現状
⑬オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介 1
⑭オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介 2
⑮講義予備日

生活の中の宗教

【担当】辻　虎志
【開講】前期　月2

■講義概要
我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。
■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。
■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。
■系統的履修
現代社会と宗教
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（60%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。

■講義計画
①はじめに　―　生活の中の宗教
②宗教とお金　(1)
③宗教とお金　(2)
④宗教と食
⑤宗教と医療　(1)
⑥宗教と医療　(2)
⑦宗教と経済　(1)
⑧宗教と経済　(2)
⑨宗教とアート
⑩宗教と文学
⑪宗教と政治
⑫宗教とインターネット
⑬宗教とおひとりさま
⑭宗教と性愛
⑮まとめ

生活の中の宗教

【担当】辻　虎志
【開講】後期　月2

■講義概要
我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。
■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。
■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。
■系統的履修
現代社会と宗教
■授業時間外における予・復習等の指示
前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）出席
定期試験（60%）
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。

■講義計画
①はじめに　―　生活の中の宗教
②宗教とお金　(1)
③宗教とお金　(2)
④宗教と食
⑤宗教と医療　(1)
⑥宗教と医療　(2)
⑦宗教と経済　(1)
⑧宗教と経済　(2)
⑨宗教とアート
⑩宗教と文学
⑪宗教と政治
⑫宗教とインターネット
⑬宗教とおひとりさま
⑭宗教と性愛
⑮まとめ

生命と共生

【担当】田村　公江
【開講】前期　木３

■サブタイトル
生命倫理の諸問題

■講義概要
医療治術の進歩とともに、延命や治療を至上とする考え方に対して、「それでいいのだろうか?」という疑問が寄せられるようになってきました。たとえば、ガンの治療について考えてみましょう。外科的治療、抗がん剤による治療、放射線による治療、あるいはそれらの組み合わせなど、治療の選択肢はさまざまです。また、発見されたとき、すでに末期の状態だったとしたら、完治をめざすよりも痛みや苦痛をやわらげることが重要となります。
　生命倫理の問題は、生殖技術や臓器移植などの新しい技術についても発生します。新しい技術によって恩恵を受ける人がいるのはとても喜ばしいことです。しかし、「代理母を認めてもよいのか」、「脳死は人の死か」などの問題について、あなたなら、どう考えますか? 「その時はその時だ」と思う人もいるかもしれませんが、生き方の問題として、今から少しずつ考えてみませんか?すぐに答は出ませんし、唯一の正しい答があるわけでもありません。けれども、学習することによって、視野を広げることはできます。
　この授業では、基礎的なことを分かりやすく解説します。基礎を学ぶことによって自分の意見を形作り、自分とは意見の異なる人と対話できる人になりましょう。

■到達目標
生命倫理学のキーワードの意味を理解して、様々な立場の対立点を把握すること。

■講義方法
授業計画に沿って講義形式で進めます。

■系統的履修
教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示
ほぼ毎回、次回のテーマについての予習資料を指示します。
予習資料は主にテキストから選びます。
復習に役立つプリントを配布します。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席状況などで評価する。詳しくは授業内で説明する。
定期試験（50%）

■テキスト
伏木信次・樫則章・霜田求［編］改訂２版 『生命倫理と医療倫理』 金芳堂　2,500円
加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理を学ぶ人のために』 世界思想社　1998　2,300円

■参考文献
欠席遅刻はしないこと。私語をしないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
月曜日と木曜日の昼休み、場所は研究室（２号館300-1）
連絡はメールでしてください。ktamura@soc.ryukoku.ac.jp
件名に「生命と共生の受講生」と書き、本文に名前（フルネーム）と学籍番号を書くこと。

■講義計画
①ガイダンス
　倫理学とは
②生命倫理とは何か
③自分のことは自分で決める―医師と患者の関係―
④人工妊娠中絶に関する基礎知識
⑤人工妊娠中絶の問題点
⑥人工妊娠中絶に関する法律
⑦出生前診断
⑧優生思想と選択的中絶
⑨不妊治療の問題点
⑩臓器移植
⑪脳死は人の死か
⑫臓器移植、脳死判定の問題点
⑬自己決定原理とは
⑭安楽死・尊厳死
⑮安楽死・尊厳死の問題点

生命と共生

【担当】柿本　佳美
【開講】後期　木３

■サブタイトル
生命に関する技術と私達

■講義概要
現在にいたる医療技術の進歩は、さまざまな疾病を治療し、人類が長い間望んでいた健康で長生きするという夢を実現させています。また、体外受精の技術の確立により登場した第三者の配偶子を使った生殖や代理母、脳死した身体からの臓器移植も登場しています。その一方で、現在の医療技術では回復できない場合、自らの意志で延命治療を拒否して死を迎えようとする人も現れています。生と死は、医療技術の発達により、人間の意志を超えた出来事ではなく、各人が自らの意志で判断する対象になりつつあります。生命倫理学は、医療と生命科学に関わるさまざまな問題について、医学・法学・社会学・哲学などさまざまな分野からアプローチする領域です。とはいえ、生命倫理の諸問題は、専門家の間でのみ議論されるべきトピックではありません。皆さんもまた、現代の医療技術の進歩の恩恵を受けている以上、こうした問題のいくつかについては当事者なのです。
そこで、この授業では、生命倫理の主要な理論とキーワードについて解説し、主要ないくつかのトピックをたどりながら、生命技術のあり方について取り上げます。

■到達目標
医療技術・生命科学に関するさまざまな問題について、さまざまな角度から検討することができる。
客観的な根拠に基づき、自らの見解をまとめることができる。

■講義方法
プリントを使用し、講義形式で行います。ミニレポートあり。これをもとに授業を進めることもあります。

■系統的履修
「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に取り上げる文献については、予習または復習として読んでおくこと。
新聞等による報道に注意し、医療・生命科学等に関わる記事については読んでおくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
欠席遅刻はしないこと。通算欠席数が授業回数の３分の１以上欠席した場合は履修放棄と見なします。

■テキスト
加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理学を学ぶ人のために』 世界思想社　2,300円
玉井真理子・大谷いづみ 『はじめて出会う生命倫理』 有斐閣　1,995円

■参考文献
参考文献については、授業中に適宜提示します。
試験に際しては、生命倫理に関する文献のうち１冊を読むように。

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の途中であってもかまいませんので、分からないと思ったらすぐに質問してください。
なお、授業開始30分後以降の入室はお断りすることがあります。
受講者の関心によって、授業内容を一部変更することがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
木曜日13:00 ～ 13:30、講師室

■講義計画
①はじめに：私たちの身近にある生命倫理
②はじめに：生命倫理学とは
③生命倫理のキーワード：「自律」と「尊厳」
④生命倫理のキーワード：インフォームド・コンセントとパターナリズム
⑤生命倫理のキーワード：優生主義
⑥生命倫理の理論：パーソン論
⑦生命倫理の理論：ケアとは
⑧生殖に関する諸問題：中絶
⑨生殖に関する諸問題：出生前診断と選択的中絶
⑩生殖に関する諸問題：第三者提供配偶子の使用と代理母
⑪生命科学と私たち：再生医療と倫理的課題
⑫死に関する諸問題：脳死と臓器移植
⑬死に関する諸問題：安楽死
⑭死に関する諸問題：緩和ケア
⑮まとめ

歎異抄の思想Ⅰ

【担当】殿内　恒
【開講】前期　水2

■サブタイトル
親鸞のことば
■講義概要
『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の前半（第10条まで）に伝えられる親鸞のことばを正確に読んでいき、その真意を把握することを通して、そこに示される親鸞の思想を深く理解していきたい。
■到達目標
誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。
■講義方法
『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。
■系統的履修
「仏教の思想Ａ・Ｂ」の履修を前提とする。
■授業時間外における予・復習等の指示
次回に読むテキストの現代語訳に目を通しておくこと。
■成績評価の方法
その他（100%）
定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。
■テキスト
『歎異抄　現代語訳付き』　本願寺出版社
■参考文献
梯實圓　『聖典セミナー　歎異抄』　本願寺出版社
林智康（他）『歎異抄事典』　柏書房
■履修上の注意・担当者からの一言
龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。
■講義計画
①『歎異抄』とは：伝えられる親鸞の言葉
②第１条：本願のはたらき－摂取不捨－
③第２条：念仏との出会い－往生極楽の道－
④第３条：悪人正機の意味－いわんや悪人をや－
⑤第４条：本当の慈悲とは－浄土の慈悲－
⑥第５条：縁の中にある命－世々生々の父母兄弟－
⑦第６条：仏の前の平等性－弟子一人も持たず－
⑧第７条：信心の行者のあり方－無碍の一道－
⑨第８条：念仏の意味するもの－非行・非善－
⑩第９条：煩悩を持って生きる－浄土は恋しからず－
⑪第10条：他力のあるがまま－無義をもって義とす－
上記は１回又は２回を予定

歎異抄の思想Ⅱ

【担当】殿内　恒
【開講】後期　水2

■サブタイトル
誤解をただす
■講義概要
『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の後半（第11条以降）に示された、親鸞の教えに対する誤解をただす文章を通して、その中で伝えようとされている親鸞の思想を深く理解していきたい。
■到達目標
誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。
■講義方法
『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。
■系統的履修
「仏教の思想Ａ・Ｂ」の履修を前提とする。「歎異抄の思想Ⅰ」も履修していることが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
次回に読むテキストの現代語訳に目を通しておくこと。
■成績評価の方法
その他（100%）
定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。
■テキスト
『歎異抄　現代語訳付き』　本願寺出版社
■参考文献
梯實圓　『聖典セミナー　歎異抄』　本願寺出版社
林智康（他）『歎異抄事典』　柏書房
■履修上の注意・担当者からの一言
龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。
■講義計画
①「異義」とは：親鸞思想への誤解
②第11条：本願と念仏の関係
③第12条：学問の持つ意義
④第13条：人間にそなわる悪
⑤第14条：罪を滅ぼす行い
⑥第15条：この世で開くさとり
⑦第16条：回心するということ
⑧第17条：本願を疑っての往生
⑨第18条：布施の意義と利益
⑩後　序：信心は一つ－たまわりたる信心－
⑪後　序：自身が対象－親鸞一人がため－
⑫後　序：虚仮と真実－念仏のみぞまこと－
上記は１回又は２回を予定

日本の文化

【担当】泉　文明
【開講】前期　月３

■サブタイトル
映像から探求する京都の魅力：京に学ぶ京を学ぶ
■講義概要
皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。
■到達目標
京都の魅力に触れながら、京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。
■講義方法
講義形式を主とするが、口述だけでなく、映像を駆使して、京都の〈姿〉〈カタチ〉を存分に伝える。
■系統的履修
〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。
■授業時間外における予・復習等の指示
休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。
■テキスト
泉　文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房　1,800円
授業時に指示及び配布プリント。
■参考文献
上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
３学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。
■講義計画
①概論
②京都の町のでき方・京都の歴史
③京都を題材とした映画鑑賞１
④前回（第３回）の続編、解説と分析
⑤京都を題材とした映画鑑賞２
⑥前回（第５回）の続編、解説と分析
⑦京都の世界遺産・国宝・重要文化財/小京都と姉妹都市・友好都市
⑧京都を題材とした映画鑑賞３
⑨前回（第８回）の続編、解説と分析
⑩京ことば１/京都人物列伝
⑪京都を題材とした映画鑑賞４
⑫前回（第11回）の続編、解説と分析
⑬京都の伝統工芸・伝統芸能・茶花香道
⑭京都の四大行事/京ことば２
⑮総論

日本の文化

【担当】泉　文明
【開講】前期　木５

■サブタイトル
京都四大行事と歳時記：京に学ぶ京を学ぶ
■講義概要
皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。
■到達目標
京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。
■講義方法
講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。
■系統的履修
〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。
■授業時間外における予・復習等の指示
休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。
■テキスト
泉　文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房　1,800円
授業時に指示及び配布プリント。
■参考文献
上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
３学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。
■講義計画
①概論
②京都の季節感・歳時記
③京の町のでき方・歴史
④京都の四大行事概観
⑤葵祭
⑥お盆行事と五山送り火１
⑦お盆行事と五山送り火２
⑧時代祭
⑨京都の京都の世界遺産・国宝・重要文化財/小京都と姉妹都市・友好都市/京ことば１
⑩京都の伝統工芸・伝統芸能・茶花香道/京ことば２
⑪祇園祭１
⑫祇園祭２
⑬祇園祭３
⑭祇園祭４
⑮総論

日本の文化

【担当】泉　文明
【開講】後期　木5

■サブタイトル
京都学入門
■講義概要
皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は､〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。
■到達目標
京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。
■講義方法
講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。
■系統的履修
〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。
■授業時間外における予・復習等の指示
休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）
平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。
■テキスト
泉　文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房　1,800円
授業時に指示及び配布プリント。
■参考文献
上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
３学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。
■講義計画
①概論
②京都の町のでき方と歴史
③京ことば１（アクセント・イントネーションにも配慮して）/京都の世界遺産・国宝・重要文化財
④京都を題材とした映画鑑賞
⑤京都を題材とした映画鑑賞
⑥前回（第５回）の解説と分析
⑦京ことば２（アクセント・イントネーションにも配慮して）/京都の四大行事１
⑧京ことば３（アクセント・イントネーションにも配慮して）/京都の四大行事２
⑨京ことば４（アクセント・イントネーションにも配慮して）/京都の四大行事３
⑩京ことば５（アクセント・イントネーションにも配慮して）/京都の四大行事４
⑪京都の伝統芸能・茶花香道
⑫京都の伝統工芸
⑬京都人物列伝
⑭小京都と姉妹都市・友好都市
⑮総論

人間と社会と法

【担当】時本　義昭
【開講】前期　木4

■サブタイトル
現代日本における人権
■講義概要
日本国憲法が保障した平等は、法的な身分制度を否定しただけではなく、社会的な階層関係をも破壊した。その結果、一方で、身分制度から解放された国民の活力は高度経済成長と均質な社会を実現したが、他方で、平等意識に基づく無節操な自己主張ははどめを失い無秩序と混乱をもたらした。いずれにしても、日本の社会は憲法制定時からあまりにも変わってしまい、いまや憲法制定者が予想もしなかった利益や自由が人権の名の下に主張されている。そこで本講義では、人権の歴史をふまえたうえで、社会的背景や訴訟理論にもふれつつ、新しい人権について裁判所の判決を中心に検討したい。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること。
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
法学入門か日本国憲法を受講していることを前提として講義を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。
■成績評価の方法
レポート（100%）出席２/３以上の者を対象とする
■テキスト
特に指定しない。
■参考文献
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成25年版』 三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①人権の歴史と分類
②憲法訴訟Ⅰ
③憲法訴訟Ⅱ
④日本国憲法の成立
⑤戦後史Ⅰ
⑥戦後史Ⅱ
⑦戦後史Ⅲ
⑧幸福追求権と新しい人権
⑨プライバシーの権利
⑩知る権利
⑪環境権
⑫自己決定権Ⅰ
⑬自己決定権Ⅱ
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

平和学入門

【担当】清水　耕介
【開講】前期　木3

■サブタイトル
平和学なんて忘れてしまえ！
■講義概要
平和という言葉はとても難しい言葉です。平和が何を意味するのか？戦争の無い状態か、戦争の心配のない状態か、差別やいじめのない安心して生活できる状態か。よく「平和ボケ」という言葉も最近聞きますが、平和は人々を「ボケ」させるのか、そのときの「平和」とは何なのか。本当に「日本」は平和なのか。その平和は誰にとっての平和なのか。平気で「平和ボケ」という言葉を使う事自体「平和」でボケているのではないか。この講義では、様々な側面から「平和」について考えていきたいと思います。具体的に取り上げる事象は時間の関係から、ルワンダ、ホロコーストおよびパレスチナ／イスラエルに限られますが、これらの問題を通して現代の世界における平和について考え始めてもらえればと思います。
大人数の講義になった場合でもできるだけみなさんと直接議論していきたいと思いますが、コミュニケーション・ペーパーも使いながらみなさんとの意思疎通をはかりたいと思います。積極的な参加を期待します。
■到達目標
自分なりの平和概念を持てるようになること、もしくはそのための研究を始めること。
■講義方法
主として講義形式となる予定ですが、映画・ビデオなどの教材をできるだけ使っていくつもりです。
■系統的履修
特にありません。
■授業時間外における予・復習等の指示
いくつかの映像資料については授業で放映しますが、個人的に視聴できる場合には前もって観ておいてください。
■成績評価の方法
小テスト（50%）In-class test
定期試験（50%）穴埋め+記述式
■テキスト
特になし
■参考文献
授業の中で適宜指示します。
■履修上の注意・担当者からの一言
ビデオ教材などを使用する予定です。上映中の出入りは他の受講生の迷惑になる場合もありますので、できるだけ遅刻しないようにしてください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業の中でお知らせします。
■講義計画
①イントロダクション
②「人」の「権利」と平和
③ルワンダ１
④ルワンダ２
⑤暴力１
⑥暴力２
⑦中間試験
⑧ホロコースト１
⑨ホロコースト２
⑩ナチスとアイヒマン裁判
⑪パレスチナとイスラエル
⑫領土問題
⑬領土問題と沖縄
⑭まとめ
⑮まとめ２

平和学入門

【担当】宮﨑　寛
【開講】後期　木3

■サブタイトル
「ここ」と「あそこ」を繋ぐ思考
■講義概要
平和学は様々な学問が重なり合っている分野です。また、何が「平和な状態」であるかについても､統一見解があるわけではありません。本講義では、政治学（政治哲学）・国際関係論・グローバル市民社会論といった視点から平和と暴力について考えていきたいと思います。授業では映画や音楽などの教材も使いながら、核・ヒバクシャ、冷戦、ホロコースト、パレスチナ・イスラエル、イラク戦争などの事象を中心にとりあげていきます。同時に、これらの問題・暴力と私たちの日常生活とがどのような関係にあるのかについてもできる限り受講生のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。さらに、オルタナティブメディアをとりあげつつ多様な視点の可能性についても触れていきます。決まった「答え」がないからこそ、皆さんの自由な思考で自分なりの「平和」概念を磨いてください。
大人数の講義になった場合は、コミュニケーション・ペーパーを通じて皆さんとの意見交換をしていきたいと思います。積極的な参加を期待します。
■到達目標
自分なりの「平和」概念を追究し始めること。普段の会話の中で、授業で扱った題材をはじめ時事問題を意識するようになること。
■講義方法
主として講義形式ですが、時々、映画・音楽などの視聴覚資料も使っていく予定です。
■系統的履修
日本と国際社会A、日本と国際社会Bなど
■授業時間外における予・復習等の指示
授業で扱った内容やニュースで知った内容で気になった点があったら､積極的にメモを書きためてください。気になった点･質問をコミュニケーション・ペーパーやメールなどでお知らせしてもらえれば、できるだけ次の授業などで議論する時間を確保したいと思います。
■成績評価の方法
レポート（50%）1500文字程度
定期試験（50%）論述形式
■テキスト
必要に応じて授業中にお知らせします。
■参考文献
必要に応じて授業中にお知らせします。
■履修上の注意・担当者からの一言
基本的にはリラックスして受講してもらうのが一番です。ただし、多数の受講生が一つの教室を共有しますので、そのことを意識し、他の受講生の学習の妨げとならないような行動・発言を心がけて下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業の中でお知らせします。
■講義計画
①イントロダクション
②ヒバクシャ１
③ヒバクシャ２
④暴力とは何か
⑤冷戦（後）と原子力「平和」利用
⑥暴力と思考
⑦暴力と思考２
⑧一人ひとりの勇気、ミクロな変革
⑨ホロコーストとは何だったのか
⑩ホロコーストとは何だったのか
⑪パレスチナとイスラエル１
⑫パレスチナとイスラエル２
⑬サイード「イラク戦争を語る」
⑭イラク戦争と世界経済
⑮まとめ

メディアにみる福祉

【担当】高田　敏司
【開講】後期　月2

■講義概要
世界に例を見ない長寿化と少子化で、日本は人口の減少が進んでおり、「超高齢・人口減少社会」に突入しています。右肩上がりの経済成長を前提につくられた現在の社会保障制度は抜本的な見直しが迫られています。そこで政治や行政、医療・福祉関係者、住民の中からはさまざまな動きが起こっています。本講義では現場で取材する新聞記者の立場から、社会保障について介護や医療、年金、雇用、少子化対応、地方自治などの観点から時事ニュースなどを例に解説するとともに、どのような課題があるのかも考えます。

■到達目標
福祉など社会保障をめぐる行政、住民、メディアの「いま」の動きを広く知り、社会生活に向けて、最低限は必要な社会保障の教養が身につくようにしたいと考えます。さらには自分の問題として考えられる手がかりを示したいと思っています。

■講義方法
新聞記事やテレビの特集番組などを素材にして講義します。

■授業時間外における予・復習等の指示
できるだけ新聞に目を通し、社会保障関連の動向に関心を持ってください。

■成績評価の方法
定期試験（100%）（人数によってはミニレポートを課すこともあります。その場合は試験90点、ミニレポート10点とします）

■テキスト
特になし

■参考文献
適宜、紹介します

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問あれば、気軽にメールで連絡下さい（taka８@mvd.biglobe.ne.jp）

■講義計画
①超高齢・人口減少社会の到来
②介護保険創設の背景と仕組み
③介護保険の課題
④すすむケアの工夫
⑤障害者福祉の今とこれから
⑥日本の医療の特徴
⑦医師不足の深層
⑧がん医療、先端医療のトピック
⑨患者が医療を変える
⑩年金のいま
⑪生活保護と雇用保険
⑫少子化への対応
⑬福祉の軸となる雇用と教育
⑭負担と給付の選択肢
⑮地域自治と社会保障

メディアにみる福祉

【担当】幸重　忠孝
【開講】後期　木3

■サブタイトル
身近なメディアから福祉を感じる

■講義概要
学生生活を過ごす中で「福祉」を身近に感じることは少ない。しかし、実は私たちの身近なところに福祉の課題や福祉サービスが存在している。この講義では､学生にとって身近なメディア（新聞､テレビ､インターネット、小説、コミックス、映画など）の中で表現されている福祉を題材に、様々な福祉課題や福祉サービスを講義を通して深めていくこととする。

■到達目標
・福祉とは身近なテーマであることを知る
・様々なメディアから福祉課題や福祉サービスを知る
・メディアによる福祉の表現の問題を学ぶ

■講義方法
講義の前半は、各回ごとのメディア教材（映画、ドラマ、コミックス、小説、インターネットなど）を紹介
※過去の講義で活用した題材
映画「誰も知らない」「ジョゼと虎と魚たち」「ウイニング・パス」「青い鳥」
ＴＶドラマ「だいすき!!」「瞳」「どんまい」「僕と彼女と彼女の生きる道」「エンジン」
コミック･自叙伝『リアル』『ヘルプマン』『Flower』『ツレがうつになりまして。』『ホームレス中学生』
他各種ドキュメンタリー番組、新聞記事、ホームページ
講義の後半は、使った教材による福祉課題が何なのかと福祉サービスの解説を行う
講義終了後、課題レポートによって学生自身の考察を深める

■授業時間外における予・復習等の指示
ブログを使い前回のレポートについて他の受講者の意見を知り、それに対しての再レポートを行う。
課題コミック、映画・ドラマの視聴とレポート

■成績評価の方法
レポート（100%）講義時のミニレポートか講義終了後に自宅での課題レポートを選択

■テキスト
特になし

■参考文献
二通諭 『映画で学ぶ特別支援教育』 全国障害者問題研究会　1,785円
講義では使いませんが、講義で使う以外の映画もたくさん紹介解説している文献です。

■履修上の注意・担当者からの一言
１．視覚教材の視聴中に他者への迷惑になる行為を行った場合は退室も含め厳しく対処します。
２．課題で指定された映画やドラマ、コミックなどは各自でレンタルなどをして視聴してもらいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
教員のホームページやブログを活用

■講義計画
①オリエンテーション
②身体障がい
③知的障がい
④精神障がい
⑤高齢者介護
⑥介護従事者
⑦子どもの貧困
⑧子ども虐待
⑨施設で生活する子ども
⑩ひとり親家庭
⑪生活困窮
⑫発達障がい
⑬災害における福祉
⑭若者への福祉
⑮まとめ

学部内共通科目

（数理情報学科）

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
エ	ＭＯＴ演習	長谷　智弘	後期	月１	125
	ＭＯＴ概論	安藤　信行／加藤　正浩／佐藤　研司／神野　友香子／谷口　清志／長谷　智弘	前期	火５	125
カ	化学概論Ⅰ	長澤　佳克	前期	水３	126
	化学概論Ⅱ	堀井　文敬	後期	月１	126
	科学技術英語	飯田　晋司／池田　　勉／宇土　顯彦／國府　宏枝／阪井　一繁／中野　　浩／馬　　青／樋口　三郎／松木平淳太／松本和一郎／森田　善久／山岸　義和／四ツ谷晶二	通年	集中	127
	科学思想史	但馬　亨	前期	月１	127
	環境科学	糟野　潤	前期	月３	128
	学外実習（キャリア実践実習）／学外実習	馬　青	前期	集中	128
キ	技術者倫理	田岡　直規／細谷　陽三	前期	集中	129
	キャリアデザイン	植田　香代子／柳生　利恵	前期	水１	130
	キャリアプランニング	矢野　隆子／山崎　聡子	前期	火１	131
ク	グローバル人材育成プログラムⅠ／海外キャリア実践教育及び実習Ａ	大柳　満之／塩見　洋一	前期	集中	132
	グローバル人材育成プログラムⅡ／海外キャリア実践教育及び実習Ｂ	大柳　満之／塩見　洋一	前期	集中	132
ケ	計算機基礎実習Ⅰ	阪井　一繁	前期	金４･金５	133
	計算機基礎実習Ⅱ	宇土　顯彦	後期	金４･金５	133
コ	工学概論	泉田　信也	前期	木１	134
シ	資源エネルギー論	白神　達也	後期	金２	134
	自然観察実習／生物多様性実習Ｂ	島田　京子／丸山　　敦／山中　裕樹／横田　岳人	前期	水3･水4･水5	135
	情報学概論	杉山　久佳	前期	木５	135
	情報と職業	北林　雅俊	前期	集中	136
セ	生態学概論	丸山　敦／山中　裕樹	後期	月２	137
	生体情報概論	椙崎　弘幸	前期	金２	138
	生物学概論Ⅰ	土井田　幸郎	前期	木１	138
	生物学概論Ⅱ	土井田　幸郎	後期	木１	139
ソ	総合演習	樋口　三郎／中野　　浩 馬　　青／四ツ谷晶二	前期	金３	139
チ	地域環境概論	竺　文彦／遊磨　正秀	前期	木２	140
	地学概論Ⅰ	桑原　希世子	前期	月３	140
	地学概論Ⅱ	塩野　清治	後期	水２	141
	地球環境概論	市川　陽一／宮浦　富保	後期	火１	141
	知的財産概論	藤河　恒生	後期	水３	142
ニ	人間工学	橋本　正治	前期	水１	142
フ	物理実験／理工学基礎実験Ａ	金子　康智	後期	火3･火4･火5	143

ＭＯＴ演習

【担当】長谷　智弘
【開講】後期　月１

■講義概要
本演習は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計および労務・組織、(3) 情報管理、(4) 生産管理などを中心に、演習を通じて応用を重視した実践的なManagement of Technology（MOT：技術経営）教育を身に付ける。

■到達目標
学習・教育目標：C2（◎）
技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法
各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■系統的履修
MOT（技術経営）概論

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（50%）
各講師より出される課題のレポート内容、発表・討論などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
前期開講の「MOT（技術経営）概論」の知識を前提とするため、本科目の履修登録は「MOT（技術経営）概論」の単位合格者に限る。

■講義計画
①総論
②マーケティング・戦略論
③マーケティング・戦略論に関する事例演習（1）概論、ＳＷＯＴ
④マーケティング・戦略論に関する事例演習（2）戦略、戦術
⑤財務・会計および労務・組織
⑥財務･会計および労務･組織に関する事例演習（1）簿記、B/S、P/L
⑦財務・会計および労務・組織に関する事例演習（2）経営分析
⑧情報管理
⑨情報管理に関する事例演習（1）インターネットショッピング
⑩情報管理に関する事例演習（2）ＳＥ
⑪生産管理
⑫生産管理に関する事例演習（1）在庫管理
⑬生産管理に関する事例演習（2）生産計画
⑭ビジネスプランの作成方法
⑮まとめ

学部内共通

ＭＯＴ概論

【担当】安藤　信行、加藤　正浩、佐藤　研司、神野　友香子、谷口　清志、長谷　智弘
【開講】前期　火５

■サブタイトル
技術経営入門

■講義概要
本講義は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計、(3) 労務･組織、(4) 生産管理･情報管理･流通管理など、(5) 法務・知財（特許）・標準化（品質管理など）を、バランス良く総合的に学べる内容になっている。応用を重視した実践的なManagement of Technology（MOT：技術経営）教育プログラムの構成とする。

■到達目標
学習・教育目標：C2（◎）
技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法
各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法
レポート（100%）
講師ごとに出される課題のレポート内容などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
後期開講の「MOT演習」を受講を希望するものは、本科目を受講すること。

■講義計画
①総論
②企業経営理論（1）企業形態・株式会社
③企業経営理論（2）経営計画・マーケティング
④企業経営理論（3）経営戦略
⑤企業経営理論（4）競争戦略
⑥財務・会計（1）概論・会計原則
⑦財務・会計（2）損益計算書・貸借対照表
⑧財務・会計（3）安全性・収益性・生産性分析
⑨財務・会計（4）損益分岐点分析
⑩人事・労務・組織
⑪運営管理：生産・販売・流通・在庫・情報化
⑫法務：会社設立・運営
⑬知的所有権：特許
⑭標準化動向（品質・環境・労務）
⑮まとめ：ビジネスプランの作成方法

化学概論Ⅰ

【担当】長澤　佳克
【開講】前期　水３

■サブタイトル
物質の構造と性質を光でみる
■講義概要
我々は様々な物質からなる材料を利用し、またそれに助けられて生活している。そして今、電子立国という優位性を失いつつある日本において、この材料・素材を開発する技術の維持が生き残る道と言われている。化学は物質の構造、機能、反応を研究する学問であり、日本が優位性を保っている新しい材料を生み出す力の根底にある。この講義では化学物質を構成する原子、分子の概念を学び、物質が吸収または反射、放射する光（電磁波）から見た物質の構造や性質を説明する。また物質の構造や固有の機能・性質を応用した工業製品（発熱体、電池、表示素子等）についてその機能発現の機構と抱えている課題を講義する。
■到達目標
材料が持つ化学的性質を基本から理解する。覚えることではなく疑問をもち、調べ、理解し、他者に説明する力を身につけることを目標とする。
■講義方法
PowerPointを用いた講義。（資料はPDFでシラバスに講義後掲示）学生にとって主体的・能動的な講義にするため、講師から質問をして、共に考える授業とする。
■系統的履修
化学概論Ⅱ
■授業時間外における予・復習等の指示
当番を決め、与えた課題について、講義中に発表してもらう。大きな負荷はかけない。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）課題報告含む
定期試験（50%）
■テキスト
特になし
■参考文献
追って掲示する
■履修上の注意・担当者からの一言
化学を考える授業にする。企業で化学に35年以上にわたって携わった経験を生かして、化学を専攻しない理工系の学生に役立つ化学概論にする。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
e-mail:y-naga2449@hotmail.co.jp
■講義計画
①化学について（私と化学、化学とは?　化学が生み出した材料）
②原子の概念（原子模型の誕生まで）
③原子の概念（波動性、粒子性）
④原子・分子の概念（周期表、原子軌道、分子軌道）
⑤化学結合（イオン結合、共有結合）
⑥化学結合（金属結合、自由電子とバンド理論）
⑦物質の状態（気体、液体、固体）
⑧光と物質の相互作用（透過、反射、吸収、放射）
⑨化学反応（触媒反応）
⑩化学反応（酸化還元反応、電気化学反応）
⑪界面化学、表面科学
⑫材料・素材（発熱体、電池）
⑬材料・素材（半導体、表示素子など）
⑭分析化学（分光分析、リモートセンシング）
⑮分析化学（表面分析、微量分析）

化学概論Ⅱ

【担当】堀井　文敬
【開講】後期　月１

■サブタイトル
環境に優しい日常の化学
■講義概要
「化学概論Ⅰ」に続いて、テキスト「現代の化学」の後半について講義する。すなわち、有機化合物、界面活性剤、化粧品・香料、医薬、天然および合成高分子、ゴム・繊維などの重要なものについて、それらの実際例とともに説明する。また、環境化学として、環境汚染物質、特に大気汚染物質について説明するとともに、バイオエタノールや有機太陽光発電などの新しい発展についても分かりやすく述べる。
■到達目標
本講義は、一言でいうと「デイリーライフ・ケミストリー」すなわち「日常生活の化学」であり、環境・エネルギー問題を意識した実生活に結びついた化学物質の基礎知識を与える。「環境に優しい衣食住の化学」と言い換えてもよいかも知れない。食品、プラスチック、衣料材料、洗剤、化粧品、防腐剤、医薬品、環境汚染物質あるいはエネルギー代替品などについて、より良い生活をするための指針を与える。
■講義方法
配布資料を中心にして講議する。
■系統的履修
化学概論
■授業時間外における予・復習等の指示
区切り区切りで、小テストをしたりあるいは小レポートを提出してもらうので、配布プリントの復習や、関連事項の調査をすること。
■成績評価の方法
定期試験（60%）、平常点・レポート（40%）とする。
■テキスト
特になし
■参考文献
渡辺啓　『現代の化学』　サイエンス社
配布資料を中心に講義する。
■履修上の注意・担当者からの一言
実益と教養を兼ねた話しとして興味を持って聞いて下さい。実生活に重要な基礎知識を与えるとともに、新聞・テレビなどでの最先端の化学情報を理解する力も養えるようにしたく思っています。
■講義計画
①「化学概論Ⅱ」の展望
②化学結合の基礎
③有機化合物Ⅰ（炭化水素、アルコール）
④有機化合物Ⅱ（カルボン酸、エステル、油脂）
⑤有機化合物Ⅲ（芳香族化合物）
⑥洗剤、化粧品
⑦生理活性物質と医薬品
⑧合成高分子Ⅰ（高分子化学の基礎：合成と構造）
⑨合成高分子Ⅱ（ポリエチレン、ナイロン、ポリエステルなど）
⑩繊維、高機能繊維、ゴム
⑪天然高分子（炭水化物：糖、デンプン、セルロース）
⑫生体高分子（タンパク質、ＤＮＡ）
⑬環境化学Ⅰ（大気環境）
⑭環境化学Ⅱ（バイオエタノール、太陽光発電）
⑮まとめ

科学技術英語

【担当】飯田　晋司、池田　勉、宇土　顯彦、國府　宏枝、阪井　一繁、中野　浩、馬　青、樋口　三郎、松木平　淳太、松本　和一郎、森田　善久、山岸　義和、四ツ谷　晶二　【開講】通年　集中

■サブタイトル
実社会で使える英語を

■講義概要
英語で書かれた研究論文や技術資料を通して、論文の読みかたや科学技術英語の読解力を養う。また、英作文やコミュニケーションなどの素養を身につける。

■到達目標
現在のような国際化の時代にあって科学技術英語は不可欠である。この科目では特に実践的な英語力を養う。

■講義方法
担当教員毎に異なる。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。

■成績評価の方法
その他（100%）取り組みの姿勢や課題の達成度を担当教員が評価する。

■テキスト
担当教員毎に異なる。

■参考文献
担当教員毎に異なる。

■講義計画
担当教員毎に異なる。

科学思想史

【担当】但馬　亨
【開講】前期　月1

■サブタイトル
ヨーロッパにおける近代科学・技術の成立と発展についての通史

■講義概要
現代世界において、科学・技術の問題に触れずして人類の知識総体の理解を行うことはまず不可能であろう。しかし、このように強大な影響力は古代の段階においてすでに得られていたのであろうか。当講義では、発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術について、約二千年前のギリシャから遡り解説していく。なお、扱われる対象は近代の数学や物理学を主体としたいわゆる自然科学分野であるが、その他として西洋思想の諸問題についての理解が必須であるため、適宜取り上げる。

■到達目標
学習・教育目標：C2（◎）
各時代ごとの自然科学・技術の様態について適切な歴史的認識を得ること、さらには理論的な科学発展の経過についての理解を得ること。

■講義方法
プリントなどの資料の配布に加えて、映像資料などの学習教材を使って歴史的背景について説明する。

■系統的履修
自然科学の論理

■授業時間外における予・復習等の指示
参考図書等の指示をするが、課題の考察については各自図書館の蔵書等を利用して調査してもらう場合もある。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）小テストと合算で30点
小テスト（15%）平常点と合算で30点
定期試験（70%）授業で扱ういくつかの核となるべきトピックについて、その理解を問う。
テストでは論述が主体となります。

■テキスト
特になし

■参考文献
トーマス・クーン著　中山 茂訳 『 科学革命の構造』 みすず書房　2,730円

■履修上の注意・担当者からの一言
携帯電話や私語などには厳しく対処し、場合によっては単位を取り消す可能性もあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業開始時にe-mailアドレスをお伝えします。

■講義計画
①ガイダンス
②古代ギリシャ（1）：前ソクラテス期
③古代ギリシャ（2）：プラトン以降
④ヘレニズム期と古代精密科学
⑤アラビアと中世の科学
⑥初期近代（1）：万能人の思想
⑦初期近代（2）：印刷術、近代解剖学
⑧前半内容の確認
⑨科学革命の世紀（1）：理論
⑩科学革命の世紀（2）：個別事例
⑪18世紀の科学
⑫19世紀（1）：科学の組織化、制度化
⑬19世紀（2）：近代生物学の誕生
⑭現代の科学：科学の巨大化
⑮総括

環境科学

【担当】糟野　潤
【開講】前期　月３

■講義概要
地球環境問題が大きな社会問題となってきており、これには経済、政治、住民運動など、さまざまな社会要因が関連しているが、基本的には科学・技術の発展を背景とした工業化社会の問題であるといえる。地球環境問題の提起した課題は、石油という膨大なエネルギーを手に入れた人類が、効率や生産性のみを追い求めてきたことにあり、自然システムと調和した生産・生活システムを模索し、確立していくことが求められている。本講義では、これらの問題を理解していくために必要な自然科学的な基礎的事項、環境に関する化学・物理および生物・生態学に関することについて述べる。さらに、これらの問題に対処するための生活様式の検討について言及する。

■到達目標
地球規模での広がりを持って、身の回りの環境問題を考えられるようになる。

■講義方法
教科書および配布資料により講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示
レポート提出や資料収集など、適宜講義中に指示する。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
レポート（10%）
定期試験（80%）

■テキスト
及川紀久雄（編著）『新　環境と生命』 三共出版　2,600円
適宜、資料を配布する。

■参考文献
特になし

■講義計画
①環境問題について
②地球の構成と生物圏
③人間と環境・食料
④水と生命
⑤水環境と保全
⑥大気環境と酸性雨
⑦土壌環境と生態系
⑧中間試験
⑨化学物質の生産と安全管理
⑩地球温暖化
⑪廃棄物処理
⑫エネルギー資源
⑬都市環境
⑭化学物質の分析法
⑮まとめ

学外実習（キャリア実践実習）（2009年度以降入学生）
学外実習（2008年度以前入学生）

【担当】馬　青
【開講】前期　集中

■サブタイトル
インターンシップで自分のキャリアプランを充実！

■講義概要
キャリア教育の一環である選択科目です。3年次のすべての学生に受講を奨めます。
原則として夏期休暇中の約２週間、学外の企業・研究所・公共機関・非営利団体等で、実務を体験するインターンシップを行います。前期授業期間中に、各自のキャリアプランに応じたインターンシップ先の調査・選定・応募、インターンシップ先の実務内容に応じた事前学習を行います。
実習先は担当教員と相談の上で決定します。ただし、龍谷大学協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム、自己応募インターンシップなどに適切なものがあればそちらに応募することを推奨します。

■到達目標
現場でプロフェッショナルとして活動できる。インターンシップの体験を基づいてキャリアプランを築ける。
これまで大学で学んだことを現場で使ってみて理解を深めることができる。

■講義方法
事前学習に続いて企業・研究所・公共機関・非営利団体等でインターンシップを行います。

■系統的履修
１・２年次でキャリアデザイン、キャリアプランニングなどの科目を履修しておくとよいでしょう。履修していない場合も、総合演習（必修科目）で、学外実習の準備をすることができます。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自でインターンシップ先の調査や事前学習の予復習をしっかりやっておきましょう。

■成績評価の方法
実習前の事前学習の実施状況・実習先での取組・実習先に提出する学外実習報告書・学外実習報告会への参加等により総合的に合否を判定します。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
不定期にミーティングを行ったり、担当教員と打ち合わせを行ったりしますので、掲示や電子メールによる連絡に注意してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは追って掲示があります。メールでの連絡の際は、Subject を学外実習とし、本文には学籍番号と氏名を必ず書いてください。

■講義計画
①４月に各種インターンシップの説明会に参加します。事前学習を行います。龍谷大学協定型インターンシップに応募します。
②５月に事前学習を行います。大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムに応募します。
③６月に事前学習を行います。自己応募インターンシップに応募します。理工学部学外実習を希望する人は実習先を決定します。
④７月に事前学習を行います。
⑤原則として８月末から９月初めの２週間、実習に行きます。
⑥９月中旬に行われる学外実習報告会に参加します。学外実習報告書を提出します。

技術者倫理

【担当】田岡　直規、細谷　陽三
【開講】前期　集中

■講義概要
科学技術が人間社会や自然環境に対して与える正負の影響について理解する。また、その中で、専門職である技術者として、倫理に関わる問題に出会った場合にどのように対処すべきか、技術者の倫理、責任について理解する。さらに具体的な事例研究やグループディスカッション等を通じて、公衆の安全、公共の福祉、健康、文化、社会、環境等、様々な観点から価値を総合的に考慮する必要があることを理解し、具体的な問題解決を図る場合の、倫理的判断能力と問題解決能力の向上を図る。

■到達目標
①科学技術が人間社会や自然環境に対して与える正負の影響について理解する、②専門職である技術者として、技術者の倫理、責任について理解する、③専門職である技術者として、具体的な問題解決を図る場合の倫理的判断能力と問題解決能力を持つ、④自ら考える力を身に付ける、ことを目標とする。

■講義方法
講義に事例研究やグループディスカッション等を交えて進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
集中講義（４日間）のため、毎日講義終了時に小テスト、レポート、テストのいずれかを実施する。その際、配布資料、参考図書等持込可とする。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）グループディスカッション、発表等
小テスト（20%）集中講義４日内、１・２日目終了時
レポート（30%）３日目終了時
定期試験（30%）４日目終了時

■テキスト
特になし

■参考文献
田岡直規・橋本義平・水野朝夫編著 『技術者倫理 日本の事例と考察－問題点と判断基準を探る』 丸善出版　3,000円
杉本泰治・高城重厚 『第四版　大学講義 技術者の倫理入門』 丸善　1,700円

■履修上の注意・担当者からの一言
講義に事例研究やグループディスカッション等を交えて進め、専門職である技術者として、具体的な問題解決を図る場合の倫理的判断能力と問題解決能力を持ち、自ら考える力を身に付けることを目標とするため、積極的に参画すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
集中講義のため、講義終了後にオフィスアワーを設ける。場所は原則として講義を行った教室を利用する。

■講義計画
①技術者倫理とは
②企業倫理と技術者倫理
③倫理問題解決の技法。事例討議と演習１
④事例討議と演習２
⑤技術者とは何か
⑥日米学協会倫理規程
⑦環境倫理。事例討議と演習３
⑧事例討議と演習４
⑨科学技術社会と技術者倫理
⑩原子力と技術者倫理
⑪研究倫理。事例討議と演習５
⑫事例討議と演習６
⑬技術者、研究者の行動基準
⑭技術者の継続研鑽
⑮事例討議と演習７
⑯テスト

キャリアデザイン

【担当】植田　香代子、柳生　利恵
【開講】前期　水1

学部内共通

■サブタイトル
willから始める大学生活

■講義概要
キャリアデザインへの1回生からの取り組みが自分のキャリアをつくっていく上で決定的に重要であることを実践的に学ぶ。自らの判断と創造が要求される、つまり責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生には、そこに至る基本的な「考え方」と「知識」を学ぶ必要がある。大学卒業を控えた選職活動に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。このキャリアデザイン論では、自分のキャリアをつくっていく上で、何故、そうしたという「考え方」や「知識」が必要であり、これから君達が自分でつくる学生生活を自分の言葉で語ることが重要であるかを理論的・体験的に学ぶ。
＜理工学部キャリア教育の取り組み＞
http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career_support/index.html

■到達目標
・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが「キャリアデザイン」の第一歩であることを学ぶ
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

■講義方法
授業の中では、積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワークを行いながら解説を試みる。グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分自身で、体験の中から発見・再発見・再認識し、自分の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。また互いの意見を発言、聞く、伝えるスタイルはコミュニケーションの訓練にもなる。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。板書量は多くないが必ずノート記入を要求する。

■系統的履修
キャリアプランニング（２年次・前期）

■授業時間外における予・復習等の指示
講師からの指示により、自己紹介の準備やプレゼンテーション授業時の資料準備がある。
また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

■成績評価の方法
平常点（50%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法で厳しく行う
その他（50%）決められた提出物を何種類か提示する。
試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。
テキストの中にワークシートが組み込まれているため、授業時のテキスト忘れは要注意すること。
平常点に影響する。

■テキスト
東田晋三著 『新自分デザイン・ブック　Ⅰ』 株式会社ドリームシップ　1,600円
生協にて販売。部数品切れの可能性あり、早めに確保すること。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。（並行して、龍子の部屋（カウンセリングルーム）も開室しています。）生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものです。キャリア開発/キャリア教育の基本が自己理解にあるのはそういう理由です。3年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みたい。講義予定は、受講生の反応を見ながら柔軟に進めたい。今年で９年目になるキャリア教育、学生による授業評価は、毎回受講して良かった90%以上と非常に高い評価が出ている。受講学生の積極的な発言を期待している。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
キャリア講師は９名で火曜日・水曜日・木曜日・金曜日に授業を行っている。授業の合間は講師控え室にて待機。

■講義計画
①オリエンテーション（評価の方法、学習のポイント等の解説）
高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
②自己紹介とは何かを考えてみよう
③何のために大学にきたのだろう（目的）
④大学生活がこうなればいいなぁ（目標）
⑤伝えたい（コミュニケーション）
⑥自分を表現しよう
⑦協調性とは何かを知ろう
⑧好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
⑨失敗は成功へ向けての授業料
⑩キャリアマインドをもとう
～２つの軸が君の未来をつくる～
⑪ディスカッションの大切さを学ぼう
⑫勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
⑬プレゼンテーションにチャレンジ
⑭willから始まる大学生活
⑮willから始まる大学生活発表会

キャリアプランニング

【担当】矢野　隆子、山崎　聡子
【開講】前期　火1

■サブタイトル
自らの意志と責任で考え、キャリアを開発しよう。

■講義概要
1年次では、自分の個性や生き方、将来の進路を見つめながら、大学で学ぶ目的・目標を持つことの大切さを学んだ。2年次、キャリアプランニングでは、種をまき、芽を出すことの意識を自らが自覚をしよう。自分らしさを活かして大学生活を充実させる為に、自分は何者か、どこへ行こうとしているのか、そんな自分を見つめる事から、この授業は展開する。その一つの手段として、自己理解及び自己現状把握・分析を行うが、自分の人生を可能な限り自分で納得のいくものにしていく為にも、大切なことは、最終的な目的地やそこにいたる筋道を明確にすることだけではなく、「なぜそこを目指そうとしているのかという理由や自分にとっての意味を明確」にしていくことである。変化の激しい時代であるがゆえに、自分の考えも変わることもあるが、判断に迷った時の拠り所となる「理由や意味」を明確にしていくことは、キャリア開発には欠かせない重要なことである。
その為にも、マニュアル的な発想や行動ではなく、「自分で考える力」や「自分の中身」を鍛える授業とし、これからの大学生活で何を経験しておくべきか、実際に行動を起こす為の具体的計画をたてよう。目標を達成するために自分でプロセスを楽しめる状態に持っていく力、それは、「なぜ」「どうやって」「どうしたら」を考え、答えを出す作業が、その力として身につくものであり、自分の言葉でその経験を熱く語れるようになる。
＜理工学部キャリア教育の取り組み＞
http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career_support/index.html

■到達目標
自分の考えをしっかり持ち、自分の意見を発表することができ、議論ができること。その為に必要な事を考え、気づき、自分の中身が鍛えられ、成長できたと思えること。具体的には、・コミュニケーション能力がつくこと　・課題解決能力がつくこと　・何事も後回しにせず、自発的に取り組める自立心が身に付くこと。

■講義方法
自分のキャリアを考える為のワークやグループでの学習がメインである。今年度より、一人ひとりの学ぶ意欲を引き出し、共に学び合うプロジェクト型学習を取り入れる。プロジェクトチームでの学習や行動する具体的な例として
1．テーマに沿って、達成するための自分たちの考えを出し合う。ブレーンストーミングをする。
2．必要な情報収集や調査を行い、企画書を作成し、プレゼンテーションをする。
3．皆に評価してもらい、実現可能な企画書にするための行動計画をたてる。役割を決める。
4．実際に行動し実行する。管理する。中間報告を行う。
5．更に知恵を出し合い、より良い成果を上げる方法を考え、最終成果報告とする。
6．自らが振り返り、キャリアプランニングへと結びつけて行く。
ワークおよびディスカッションを主に、受け身の講義ではなく自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。
また、授業のなかで複数（3名～5名）の講師による「はたかちカード」を使って、自分の価値観を探っていくワークを行い、自己理解を深めていく。

■系統的履修
1年次キャリア授業：キャリア・デザイン
※1年次のキャリア･デザインを履修していなくても、履修登録は可能である。

■授業時間外における予・復習等の指示
講師からの指示により、宿題及び下調べとしてするべきことや資料準備等がある。（毎回ではない）具体的には
・自己紹介シート作成（随時）
・ワークシート作成（必要授業時に指示）
・グループとしての協同作業（次回授業までに消化しておくべきことの指示）　等がある。
また、授業内ではワークシート作成があり、欠席した者は必ず、次回までに完成しておくこと。（授業について行けなくなるので注意を要します。規律性･責任性を仕事では基本として求められます。そのベースとなることを日常の大学生活でも身に付けることが重要である。）

■成績評価の方法
平常点（30%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法にて厳しく行う
その他（70%）決められた提出物を何種類か提示する。
試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。（どのように対処すべきか自分で考える、大人度をアップさせること）また、7章よりグループで考え･行動することになるので、互いに協調性をもって協力していくことが求められる。（この能力は仕事をするうえで、最も必要とされる能力である）キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。（並行して、龍子の部屋（カウンセリングルーム）も開室しています。）生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をすること、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものです。キャリア開発/キャリア教育の基本が自己理解にあるのはそういう理由です。2年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みたい。

■テキスト
1．授業時に使用する「はたかちカード」の購入。金額は￥400　授業時に徴収。
2．授業計画のテーマに沿ったテキストを配布予定。各人、幅3センチ以上の2穴綴じ仕様のA4サイズバインダーを必ず用意すること。
※特に注意すべきこととして、授業時にワークシートの取り外し等を行う為、押さえ込み式のバインダーは絶対に持参・購入しないことを強く伝えます。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
キャリア教育の基本は、自分の能力を知り、人間性を磨くことから始まる。日頃からの言葉づかい・挨拶・礼儀作法、時間厳守は最低限のマナーとし、身に付けられることが必要である。その基本のもと、自由に発想し自らの信念に基づき主体的に行動し、結果に責任を持つことが求められる。つまり、授業を通して、日常生活や大学生活で大人度をアップさせる行動や態度を常に意識し、大人の常識を身に付け社会性を高めること。このことは、2年後に控えた就職活動に役立ち、就活を左右するものでもある。今年度より導入するプロジェクト型学習で多くのことを学び、働く理由や意味を少しでも明確にできるよう成長した自分になってもらいたい。従って、この授業では、エントリーシートの書き方、模擬面接等、手法を学ぶ授業ではない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
2年次キャリア講師は5名。前期授業は火曜・水曜・木曜・金曜日。授業の合間は、いずれも講師控え室にて待機。

■講義計画
①自分について考える　オリエンテーション
②働くベースとなるものを知る　私の勤労観と職業観
　自分の勤労観・職業観を探り、ベースにあるものに気づき、発展させる。
③自分のことを知ろう　自己理解：能力について
④グループディスカッション
⑤自己分析：価値観について　～はたかちカードワーク その1～
⑥自己理解：価値観について　～はたかちカードワーク その2～
　グループで語ろう
⑦社会を知ろう　働くを知る：考える
　ブレーンストーミング
⑧働くを知る：作成する　目標設定→行動計画書作成
　ビジネスマナー
⑨働くを知る：検討する　行動計画書→実現可能か?
　行動を開始する
⑩働くを知る：調査・行動する　現状・問題把握→解決策検討
　行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
⑪働くを知る：調査・報告する
　行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
⑫働くを知る：調査・まとめる
　行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
⑬働くを理解する　調査結果最終報告
　評価・振り返り
⑭キャリアプラン作成　職種・職業・業界・企業を知る
　やりたいことがわからなければ、やりたくないことから考えてみる
⑮キャリアプランニング発表：プレゼンテーション

グローバル人材育成プログラムⅠ（2011年度以降入学生）
海外キャリア実践教育及び実習A（2009～2010年度入学生）

【担当】大柳　満之、塩見　洋一
【開講】前期　集中

■サブタイトル
海外での実習

■講義概要
社会のグローバル化が進む中、企業の海外進出、海外企業との競争が加速し、企業の新卒採用においてグローバル志向を持った学生を求める傾向にある。しかしながら、日本から海外へ留学する学生減少に見られるように、海外に出たがらない内向きな志向をもつ学生が増加している。そこで、理工学部では、アメリカ・カリフォルニア州にある本学の海外拠点を活用しながら、同州のシリコンバレーやロサンゼルス周辺で事業展開している日系企業の協力を得て、海外での企業研修プログラムを実施する。なお、現地には理工学部の教員も滞在してサポートする。今ではほとんどの企業が海外で事業展開しているので、こうした企業への就職を希望している人は奮って受講すること。
＜日程＞　夏期休暇中のうち、2週間程度
＜募集人数＞　16名
＜費用（予定）＞　25万円程度（主に航空運賃など。航空運賃はサーチャージ等により変動することがあります。）
＜実習先企業（予定）＞　住友電工、United Television Broadcasting Systems、Senju Comtek、Neuro Skyなど
＜応募方法＞　科目の事前登録

■到達目標
学習・教育目標：E2（◎），C1，C2，D3，F1，F3（○）
働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。
海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。

■講義方法
・実習は現地の日系企業にて実施するので、主に日本語での実習となるが、英語を使う場面も当然あり得る。内容は実習先の計画による。
・実習中の滞在はホームステイを基本とする。外国での生活を通じて、生きた英語や異文化に触れることもできる。
・実習中は理工学部教員が現地に滞在してサポートを行う。

■系統的履修
グローバル人材育成プログラムⅡ

■授業時間外における予・復習等の指示
事前学修で身につけたことを実践するとともに、ホームステイでは自分から積極的に英語で話すように心がけること。

■成績評価の方法
平常点（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。
説明会等には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、責任ある行動をとること。

■講義計画
①オリエンテーション・本科目の目的等の説明
②受講希望調査
③選考のための面接
④海外での実習・各実習先による実習内容

グローバル人材育成プログラムⅡ（2011年度以降入学生）
海外キャリア実践教育及び実習B（2009～2010年度入学生）

【担当】大柳　満之、塩見　洋一
【開講】前期　集中

■サブタイトル
事前学修および事後学修

■講義概要
海外での実習に必要な事前研修として、「中小企業研究セミナー」、「ビジネスマナー実践研修」、「英語コミュニケーション向上研修」、「実習での目的設定」などを行う。
また、実習終了後に、「事後研修」、「報告会」を行う。

■到達目標
学習・教育目標：E2（◎），C1，C2，D3，F1，F3（○）
働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。
海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。

■講義方法
【中小企業研究セミナー】
理工学部がこれまで培ってきた地域産業界との連携の実績を活かし、ものづくりの第一線で活躍する経営者・実務家によるチェーンレクチャーを実施し、働くことの意義や産業を支える技術力などについて学修する。
【ビジネスマナー実践研修】
ビジネスマナーの基本についての講義を受講した後、小クラス編成での実践練習を行う。
【英語コミュニケーション向上研修】
ネイティブの講師による英語コミュニケーションの実践的な学修を行う。
【事後学修】
実習の振り返りと受講者全員の報告会を実施。
【報告会】
学外実習（キャリア実践実習）と合同で実施する報告会に参加。
※本科目に関わる説明会、事前事後学修の日程等、その都度掲示を行うので、よく掲示板を確認すること。

■系統的履修
グローバル人材育成プログラムⅠ

■授業時間外における予・復習等の指示
英語自学自習支援のために貸し出した英語学習ソフトとノートパソコンで、自学自習を通して語学力を高めること。

■成績評価の方法
平常点（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。
事前研修および事後研修には必ず参加すること。

■講義計画
①中小企業の経営者・実務家による講義
②ビジネスマナー講座（講義・実技）
③実践英語
④海外での実習での目的等の設定
⑤海外での実習の振り返り
⑥受講者全員による実習報告
⑦学外実習（キャリア実践実習）と合同の報告会

計算機基礎実習Ⅰ

【担当】阪井　一繁
【開講】前期　金４・金５

■サブタイトル
Windows・インターネット・プログラミング入門
■講義概要
計算機（パソコン）を道具として利用するために必要な基本的事項を、実習を通して体得するのがこの科目のねらいです。まずは、Windows の計算機環境やインターネットの基本的な利用法を学び、その後、C言語というプログラミング言語によるプログラミングの基礎を習得します。
■到達目標
計算機の使い方に慣れるとともに、プログラミングを行う上での基本的な考え方が身につく。
■講義方法
毎週、180分（2講時）の授業を、適宜、講義と実習に分けて行います。毎回、実習の時間に課題が出ます。ティーチングアシスタントの助言を得ながら、課題に取り組んでもらいます。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回授業で課される課題は、授業時間内で完成するとは限りません。授業時間以外にも、セルフラーニング室などを利用して自主的に課題に取り組んでください。
■成績評価の方法
その他（100%）自由記載欄を参照して下さい。
期末試験（100点満点）と実習時の課題の出来によって評価します。期末試験が x点、課題の得点率が y% のとき、総合成績は x+（100－x）y/400（端数切り上げ）とします。
■テキスト
特になし
■参考文献
宇土顕彦 『効率よく学ぶCプログラミング』 コロナ社 2,100円
後期の計算機基礎実習Ⅱの教科書です。
■履修上の注意・担当者からの一言
プログラミングを楽しみましょう。とは言え、プログラミングは多くの人にとっては初めての経験なので、自主的な努力を怠ると脱落の危険が大です。セルフラーニング室（情報処理実習室）で自習ができるので大いに活用してください。また、オフィスアワー（授業時に案内します）やチューター制度を利用して、わからないところを放置しないようにしてください。
■講義計画
①Windows の基本操作、電子メール、ワープロの基本操作
②ワープロによる文書作成、著作権入門、WWWと情報検索
③プログラミング言語とは
④Cプログラムの基本、実行の流れと整数の四則演算
⑤変数の宣言、代入、参照
⑥Cプログラムの文、場合分けの処理、プログラムの字下げ
⑦繰り返しの処理
⑧関数、条件の組み合わせ
⑨最小値や最大値の計算、二重の繰り返し
⑩文字列を使った入出力
⑪フラグと繰り返しの途中終了
⑫いろいろな演算子、いろいろな制御構造
⑬大量のデータの格納
⑭プログラミングを楽しもう
⑮全体の復習

計算機基礎実習Ⅱ

【担当】宇土　顯彦
【開講】後期　金４・金５

■サブタイトル
C言語による計算機プログラミング入門
■講義概要
計算機プログラミングの基礎をC言語を用いて学習するとともに、将来において実際的なプログラムの開発を効率良く行うための方法論を習得する。プログラムの基本的制御構造－連接、選択、反復から始めて配列や関数について多くの演習課題に取り組み、構造化プログラミングを体験的に学習し、プログラミングスタイルを身に付ける。
■到達目標
プログラミング能力、論理的思考力を身に付ける。それとともに、「答えは１つとは限らない」ということをいろいろな面で認識できるようになること。
■講義方法
2コマ連続の時間割りの前半を教室での講義とし、そこで説明された内容について後半に演習室で演習問題に取り組む。実習に際しては数名のTAが配置され、個人的な指導を行う。講義では黒板とパワーポイントを併用する。
■系統的履修
計算機基礎実習Ⅰ。プログラミングの全科目につながる。
■授業時間外における予・復習等の指示
教科書を読んで用語を頭に入れておくこと。自由課題にもできるだけ取り組むこと。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）
定期試験（90%）
（1）期末試験の成績（100点）（2）演習課題の評価（12点）を加算（上限100点）。（2）の配点は大きくないが、6回以上欠席すると期末試験を受験できない。
■テキスト
宇土顕彦著 『効率良く学ぶCプログラミング』 コロナ社　2,000円
■参考文献
カーニハン、リッチー著、石田晴久訳 『プログラミング言語C』 共立出版
■履修上の注意・担当者からの一言
出題された課題は、必ず自分の力で解くこと。課題は例のプログラムの考え方に基づいて解くものであり、いきなり演習に取り掛かるのではなく、必ず例のプログラムを入力し、動作を確認することが「急がば回れ」で早道である。
プログラミングの学習については「習うより慣れろ」と言われる。一定の時間を掛けることが必要である。失敗にめげず頑張ってはじめて実力をつけることができるし、そこでは誤った方法が別のプログラムでは有効なこともある。
■講義計画
①Linuxの使い方
②C言語の入門：基本的な出力と変数
③C言語の入門：プログラムの基本と数学関数
④構造化プログラミングとPAD
⑤選択のプログラミング
⑥選択のプログラミング（多分岐）
⑦反復のプログラミング（While, do-while型反復）
⑧反復のプログラミング（パラメータ型反復）
⑨配列の概念
⑩配列に関する基本的な処理
⑪配列を使う基本的な統計処理
⑫関数の概念
⑬配列処理の関数
⑭ポインタ（試験の範囲外）
⑮全体の復習、傾向と対策

工学概論

【担当】泉田　信也
【開講】前期　木1

■サブタイトル
工学概論
■講義概要
世の中の技術革新はめざましく、我々の身の回りに普及し、社会、経済の営みを大きく変えようとしている。技術革新で人々の暮らしは便利になった。しかし、その根底にはエネルギーという大事な問題があることも事実で、一昨年の東日本大震災で身近な問題となった。この講義では、まず電力とエネルギーに関連した工学技術の基礎から始め、次に、主に電気、エレクトロニクスが関係する身近にある技術革新やその原理を紹介する。また、これらの技術は、電気、機械などハード技術だけでなくソフトや材料技術など、いろいろな学問や異なる分野の技術が融合した成果であること、また、ものづくりの現場の絶え間ない開発･改良技術、量産化の技術、低コスト化技術、製品の信頼性を高める技術など、工場の生産技術も非常に重要であることを紹介し、エネルギーや物づくりの重要性を知ってもらう機会を与えることがこの講義の目的である。
■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
何気なく使っている身の回りの製品にも、すごい技術が秘められていることを理解する。現代の工学技術の奥深さを知り、その根底にある電力とエネルギーの重要さを知る。また自分の将来の進路を考える参考とする。
■講義方法
毎回の授業が「読みきり」となる形で、昨今の新しい技術の流れの中の様々な話題を取り上げ、講義を行なう。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義では限られた時間内にいろいろな技術の内容に触れるので、重要な用語（キーワード）などは、あとで自分で調べてみること。それによって自分の知識として身につく。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）各講義の終わりに講義の感想を書いてもらいます。4回以上の欠席(届け出無し)は不合格。
定期試験（70%）
■テキスト
特になし
■参考文献
講義で紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
講義を聞いて理解できなかったことは、あとで質問したり、自分でインターネットや本などで調べること。講義中は私語を慎み、まず、人（講師）の話を聞く。そして疑問、質問あれば遠慮なく質問すること。
■講義計画
①日本が直面している大問題、電力とエネルギーの基礎
②電気とは。電気ができ、家庭に届くまでの仕組み
③太陽電池、太陽光発電の現状
④風力、波力、潮力、電気自動車、クリーンエネルギーの新しい創生と蓄電技術
⑤いろいろな波（光、電波、音波、地震波、津波）の性質、現象、その関連技術
⑥ますます薄くなるディスプレイ、その原理と構造
⑦携帯やデジカメの中はどうなってる?、電子機器の軽薄短小化の技術
⑧ハイテク製品の陰にレアメタルあり。材料による製品の技術革新
⑨現代の通信はどのような原理で成り立っているか、そのしくみと歴史
⑩ランプからＬＥＤ、有機ＥＬ照明まで。光の革命技術
⑪身近なすごい技術、レーザー。ＣＤからレーザー兵器まで、その原理
⑫身の回りのいろいろな電磁気・電磁誘導、その応用技術
⑬家庭に普及したパソコンやインクジェット、その原理と進歩
⑭半導体って何?、どうやって作る?、工場の中は?
⑮まとめ

資源エネルギー論

【担当】白神　達也
【開講】後期　金2

■サブタイトル
22世紀以降も持続可能な社会を目指した技術
■講義概要
われわれの生活を支え、産業を発展させるには資源の消費が不可欠であるが、先進国における大量消費に加えて、近年は中国やインドといったアジアの人口大国での消費量が飛躍的に伸びていて、このままの持続的な社会発展は悲観的な見方が強い。それゆえ資源についてよく知り、その利用について今まで以上に深く考えねばならない。資源はその使用目的により大きく分けて物質資源とエネルギー資源とがある。本講義ではエネルギー資源を中心に、その相互の変換、特に発電についてや、将来伸びていくであろう新エネルギーについて説明する。さらに原発事故を踏まえ、原子力発電とその未来について考察する。また、物質資源としては特に金属資源およびセメントを取り上げ、リサイクルが資源の確保に果たす役割についても述べる。
■到達目標
われわれの生活を支えているエネルギー資源の状況とその将来の動向についての知識。金属資源の循環過程についての理解。
■講義方法
配布プリント、板書、プロジェクタによるパワーポイントや動画を中心に行う。理解を助けるためのレポートを必要に応じて課す。出席は何らかの形で毎回取る。
■授業時間外における予・復習等の指示
レポート課題などを通して、各分野の予習や復習を指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（11%）
レポート（30%）10点×3回
定期試験（59%）上記の得点なしでテストだけ受けても合格しない。
■テキスト
特になし
■参考文献
世羅力 『資源・エネルギー工学要論　第2版』 東京化学同人 2,400円
これらの参考文献はテキストの代わりに使用することがある。
■履修上の注意・担当者からの一言
資源・エネルギーに関する問題が解決しなければ、人類が22世紀まで存続できるかどうかおぼつかない。講義以外に日々発せられる情報にも関心を持ち、その行く末を考えてみて下さい。少々過激ではあるが、目からうろこが落ちる体験が待っているかも?
■講義計画
①エネルギーの基礎
②化石エネルギー（1）－石炭、石油－
③化石エネルギー（2）－天然ガス－
④化石エネルギー（3）－その他－
⑤電力（電気エネルギー）（1）－火力発電－
⑥電力（電気エネルギー）（2）－その他の発電方法－
⑦自然エネルギー（1）－水力、地熱－
⑧自然エネルギー（2）－太陽、風力、バイオマス、その他－
⑨核エネルギー（1）－核分裂反応－
⑩核エネルギー（2）－原子力発電－
⑪核エネルギー（3）－未来の原子力－
⑫省エネルギー
⑬金属資源と精錬・リサイクル
⑭セメントの概要
⑮まとめ

自然観察実習（2007年度以降入学生）　【担当】島田　京子、丸山　敦、山中　裕樹、横田　岳人
生物多様性実習Ｂ（2006年度以前入学生）　【開講】前期　水３・水４・水５

■講義概要
環境科学では野外における自然現象を観察し、その場で生じている事柄や問題を、科学的なデータをもとに明らかにしていく。その最も基本となるのは、自然現象の観察である。この実習では、比較的身近にある自然環境を対象に、主として植物や動物などの生物が織りなす自然現象を対象に、自然観察法の初歩を体験的に幅広く学習する。

■到達目標
学習・教育目標：D1（○）
野外での生物現象の観察の基本を身につける。自然観察に用いる道具類の取り扱いを学ぶ。動植物の関わり合いについて、実際の観察を通じて理解する。

■講義方法
実習は３つの班に分かれ、概ね４回ずつ一つのテーマについて実習を行う。具体的な実習テーマは初回ガイダンス時に示す。基本的に実習内容についての講義の後に実習を行うが、詳細は担当教員毎に異なる。不明な点は初回のガイダンス時に確認すること。

■授業時間外における予・復習等の指示
初回のガイダンス時に、授業時間以外で実施する実習内容について説明するので、指示にしたがうこと。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）実習参加状況
レポート（40%）レポート、スケッチを評価。
そ の 他（20%）積極性、自発性、協調性を総合評価。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
基本的に実習は野外で行う。野外活動できる服装を準備すること。野外での実習には、思いがけない危険が伴う。安全のてびきを熟読し、指導者の指示に従うこと。また、実習内容によって集合時間や場所が変わることがあるので、事前の掲示に十分注意すること。

■講義計画
①実習ガイダンス
②3つのテーマについて４回ずつ実習を行う
③陸上生物を中心にした自然観察（横田岳人）
④水域生物を中心とした自然観察（丸山敦・山中裕樹）
⑤人間生活と自然（島田京子）
⑥博物館（動物園・植物園）での実習
⑦実習まとめ

情報学概論　【担当】杉山　久佳
【開講】前期　木５

■講義概要
コンピュータと情報ネットワークの基礎を解説する。まずコンピュータの発展の歴史を延べ、現代および将来の応用分野を示す。次にコンピュータシステムの基盤となる２進数と論理回路などの諸要素について解説する。情報ネットワークに関しては、その基盤となる符号化とディジタル信号処理などの要素技術を解説する。

■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
コンピュータと情報ネットワークの基礎を理解するとともに、これらを統合した現代社会の基盤技術の全体像を把握することを目標とする。

■講義方法
指定した参考書を中心として進める。授業中に適宜小テストを行うことで理解度をチェックする。

■授業時間外における予・復習等の指示
適宜講義中に指示する。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
三井田他　『情報工学概論』　森北出版　2,100円

■講義計画
①コンピュータの歴史（機械式計算機）
②コンピュータの歴史（電子計算機）
③コンピュータの歴史（パーソナルコンピュータ）
④２進数の基礎
⑤２進数の演算（加減算および乗算）
⑥２進数の演算（計算機内部演算）
⑦小テスト
⑧２進数の内部表現
⑨ブール代数と演算回路（ブール代数の基礎）
⑩ブール代数と演算回路（演算回路設計）
⑪コンピュータの構成（ハードウェア）
⑫コンピュータの構成（ソフトウェア）
⑬ネットワークの基礎
⑭コンピュータネットワーク（インターネット）
⑮コンピュータネットワーク（移動体通信）

情報と職業

【担当】北林　雅俊
【開講】前期　集中

■サブタイトル
情報化の進展が及ぼす社会生活の変容

■講義概要
情報化の進展が社会を発展させ生活を充実させているが、同時に社会に及ぼす影響や課題も生じている。この現状を認識するとともに、情報化の進展が職業や教育に与える影響について考察する。

■到達目標
学習・教育目標：C2（◎）
情報化社会の進展が及ぼす社会生活の変容をふまえ、更に高度化する情報化社会に柔軟にかつ、的確に対応できる能力と態度を育てる。

■講義方法
資料を用いて授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業の終了時に次回の授業に必要な事項について指示するときは、事前に調べて説明できるようにしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（30%）
定期試験（40%）
試験、レポート、学習状況等を総合して評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説　情報編』 開隆堂出版株式会社　221円

■履修上の注意・担当者からの一言
高等教員免許教科「情報」に係る科目です。

■講義計画
①ガイダンス　科目「情報と職業」について
②情報化の進展と学校教育　(1) 情報化の進展
③情報化の進展と学校教育　(2) 情報教育
④情報化の進展と学校教育　(3) 情報科教員に求められる資質・能力
⑤情報化の進展と職業　(1) 情報化社会と情報システム
⑥情報化の進展と職業　(2) 働く環境の変化と労働観
⑦情報化の進展と職業　(3) 企業の情報化と求められる人材の変化
⑧日本の情報通信技術政策（1）（IT国家　IT基本法）
⑨日本の情報通信技術政策（2）（e-japan　IT新改革戦略）
⑩日本の情報通信技術政策（3）（i-japan　情報通新戦略）
⑪企業における情報活用（1）（情報システム　POSシステム）
⑫企業における情報活用（2）（SCM　JIT）
⑬情報化社会における犯罪と法律
⑭情報化社会における危機管理
⑮産業構造の変化と職業　／　情報と職業のまとめ

生態学概論

【担当】丸山　敦、山中　裕樹
【開講】後期　月2

■講義概要
環境問題への関心が高まり、「エコ」の語は世間に溢れる。しかし、生態学（ecology）の理解は必ずしも高いとは言えない。生態学は、生物どうし、および生物と非生物的環境の間の全ての関係を扱う科学分野であり、興味の方向や時空間スケール、研究手法によって多方面に発展している。この学問を概観することで、生態学本来の可能性や、環境問題の本質を理解するための学問的基礎を得られよう。
本講義では、生態学の基礎（共通）概念から始まり、進化生態学、行動生態学、社会生態学、個体群生態学、群集生態学、生態系生態学、応用生態学などについて概説する。重要キーワードの理解に重点をおき、具体的事例の紹介で理解を助ける。また、各分野の視点から、移入種、温暖化、生物多様性損失などの環境問題を考察する。

■到達目標
学習・教育目標：A，B1（○）
生態学全般についての概括的な知識を習得し、生態学の発展諸分野への興味を持つ。環境問題を生態学的に考察する重要性を知る。

■講義方法
プロジェクタを中心に行う。プロジェクタで示す内容はダウンロード可能だが、教科書の購入および事前学習は必須である。随時小テストを行い、習得状況を確認する。

■系統的履修
生物学序論、生物学概論、または高校「生物II」

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。

■成績評価の方法
平 常 点（ 0%）講義終了時の課題に正答すれば計30点まで加算する／資料持込禁止
小テスト（40%）用語の理解度を試す選択式試験を2回実施／資料持込禁止
定期試験（60%）記述式の試験を実施する／教科書（書込可）のみ持込可
そ の 他（ 0%）講義中の発言によって10点まで加算する
小テストを公欠（要証明）の場合、定期試験の得点で埋め合わせる

■テキスト
日本生態学会『生態学入門（第2版）』東京化学同人　2,940円
教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。第1版は内容が変更されているので注意が必要。

■参考文献
日本生態学会 『生態学事典』 共立出版　13,650円
マッキンジー、ボール、バーディー 『生態学キーノート』 シュプリンガー・フェアラーク東京　3,360円
ベゴン、タウンゼント、ハーパー 『生態学ー個体・個体群・群集の科学』 京都大学学術出版会　12,600円

■履修上の注意・担当者からの一言
パワーポイントを併用し、その内容はダウンロード可能にしているが、教科書の購入は正しい理解のために必須である。自学習として毎回、教科書該当部分の予習および復習を求める。講義中に発言や質問を求めることがある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業直後、もしくは環境研究室12（瀬田学舎７号館１階）にて連絡が可能である。

■講義計画
①生態学概観、生物の基礎知識
②進化生態学の基礎
③分子進化と生態学
④生活史の適応
⑤性の意義
⑥生理生態特性の適応
⑦行動の適応
⑧社会の適応、復習テスト
⑨種内競争と個体群
⑩種間競争と個体群
⑪被食・寄生と個体群
⑫種間相互作用と生物群集
⑬生態系と機能
⑭応用生態学
⑮環境変動と生態学、復習テスト

生体情報概論

【担当】椙崎　弘幸
【開講】前期　金2

■サブタイトル
遺伝情報の伝達メカニズム
■講義概要
組換えDNA技術の発展を背景に、塩基配列レベルでの遺伝情報の解析が飛躍的に進展し、細菌等の単細胞生物はもとより、ヒトに代表される高等生物の遺伝情報に対する理解が深まってきた。高次生命現象の研究までもが次々と組換えDNA技術を用いて発展し、新しい概念の確立、既成概念の修正がなされている。本講義では組換えDNA技術の基礎となる原核生物の遺伝情報の伝達メカニズムについての解説から始める。さらに、この技術を用いて解明された真核生物の遺伝情報とその伝達メカニズム、生体機能の発現のメカニズムについて分子レベルで追及した研究成果を紹介する。
■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
遺伝情報の発現と制御のメカニズムを学ぶことにより、細胞内での情報伝達システムの一端を知ることができる。情報科学や物理系の学科を専攻する学生にとっても理解できるように講義を進めていく。
■講義方法
毎回授業計画のテーマに関するプリントを配布し、パワーポイントを用いて講義を進めていく。
プリントの内容はpdfとして提供も可能。
■授業時間外における予・復習等の指示
毎授業開始時に配布するプリントのキーワードについて、授業内容の理解を深めるため復習をしておくこと。
■成績評価の方法
定期試験（100%）筆記試験により成績を評価する。
第1学期試験期間に筆記試験をおこなう。試験に参考資料（本や配布資料など）の持ち込みを許可する。
■テキスト
特になし
■参考文献
J.D. Watson et al. 『遺伝子の分子生物学』 トッパン
B. Alberts et al. 『細胞の分子生物学』 教育社
B. Lewin 『遺伝子第8版』 東京化学同人
いずれの本も旧版ではあるが、本学の図書館に完備されている。一回目の授業時に配布するプリントに遺伝情報の伝達に関する入門書を挙げおく。一読することをを勧める。
■履修上の注意・担当者からの一言
参考文献に挙げた本は高価なので、あえて購入する必要はありません。知識をより深めたいときに、図書館に完備してある参考文献に挙げた図書を利用していただきたい。最初の講義の時に読める本を紹介します。将来生物科学を専攻したいと考えている人は参考文献の一読を薦める。
■講義計画
①遺伝物質の化学的本姓
②遺伝物質の構造
③遺伝物質の自己複製
④遺伝物質の組換え
⑤遺伝情報の発現と制御（1）－原核生物における転写のメカニズム
⑥遺伝情報の発現と制御（2）－真核生物における転写とRNAプロセッシングのメカニズム
⑦蛋白質の構造と機能
⑧遺伝情報の発現と制御（3）－翻訳のメカニズム
⑨遺伝子系の保存
⑩組換えDNAとバイオテクノロジー
⑪トピックス紹介（1）がん遺伝子
⑫トピックス紹介（2）免疫系におけるゲノムの再編成
⑬トピックス紹介（3）シグナル伝達
⑭トピックス紹介（4）細胞周期の制御
⑮トピックス紹介（5）生物の形を決める遺伝情報

生物学概論Ⅰ

【担当】土井田　幸郎
【開講】前期　木1

■講義概要
生物学は生物の特長である生命現象とは何か、生きているとはどういうことかなどといった問題を自然科学の言葉で理解しようとする学問分野である。とはいえ、生きているということを定義することはむずかしい。本講義では、まず生物の基本単位である細胞をとりあげ、細胞が示す普遍的な構造と機能について説明する。以下、生物は生命維持のため、どのように自己複製をし、新しい個体を形成するか。その際、どのようにして、個々の生物は特異性を維持するのか、その物質的背景は何かなどについて、一年を通して論じるので、生物学概論Ⅰ、生物学概論Ⅱ、両方を選択されるのが望ましい。
■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
昨今、生物学、医学の知識は飛躍的に増え、生命体にメスさえ入っているが、ヒトは最小の微生物すら未だに作ることができない。この講義を通じて生物のことを多面的に学んで欲しい。そして、生命という不可思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。
■講義方法
講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして解説する。授業計画の項目によっては複数回にわたる場合がある。講義はオーソドックスな方法で行なうが、トピカルなことも取り上げる。
■系統的履修
状態と変化の科学である生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。
■授業時間外における予・復習等の指示
大学の講義の一時間には二時間の予習と復習の時間が課されている。従って、私は講義時間に大切だと思う出来るだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
石川統編 『生物学　第２版』 東京化学同人社
近年凄まじい勢いで発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、講義中、必要なプリントを配布する。またテキストに記されてない事項についても講義で取り上げる。
■参考文献
その他参考図書は随時講義中に知らせる。また、必要な資料は講義前に配布する。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
私への連絡は、講義終了時、または水曜日（後期のみ）の午後、もしくは、生物学実験の時間中または後にしてください。
■講義計画
①講義に先立って、生物学の学問的位置
②生物の階層構造について
③生体抗生物質１：水、糖質、脂質
④生体抗生物質２：タンパク質、核酸、その他
⑤細胞生物学１：細胞と細胞構造
⑥細胞生物学２：細胞膜の構造と機能
⑦細胞生物学３：リソソーム・ペルオキシソーム
⑧細胞生物学４：ゴルジ体
⑨細胞生物学５：小細胞とタンパク質合成
⑩細胞生物学６：ミトコンドリア・エネルギー代謝
⑪細胞生物学７：葉緑体・光合成
⑫細胞生物学８：細胞骨骼
⑬細胞生物学９：核・核酸の複製と転写
⑭発生生物学１：細胞分裂
⑮発生生物学２：細胞周期

生物学概論Ⅱ

【担当】土井田　幸郎
【開講】後期　木1

■講義概要
生物学概論Ⅰの講義内容に続き、生物個体はどのような調節機構のもとで成体になるのか、また、それぞれの種の生物の形体や機能の特異性や変異性はどのようにして生じ、維持されるのか、その物質的基礎は何か。生物体の恒常性は、どのようなシステムのもとで維持されているのか。生命の誕生とその後の発展はどのようにて起ったと考えられているのか。動物の行動のもつ意義は何かなど、広範な分野について概観し、解説する。

■到達目標
昨今、生物学、医学の知識は飛躍的に増え、生命体にメスさえ入っているが、ヒトは最小の微生物すら未だに作ることができない。この講義を通じて生物のことを多面的に学んで欲しい。そして生命という不可思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法
講義毎にテーマを決め、そのことを中心にして論じる。

■系統的履修
状態と変化の科学である生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■授業時間外における予・復習等の指示
大学の講義の一時間には二時間分の予習と復習の時間が課されている。したがって、私は講義時間身大切だと思う出来るだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
石川統　『生物学　第２版』　東京化学同人社　2,520円
近年凄まじい勢いで発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、講義中、必要なプリントを配布する。またテキストに記されていない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献
その他参考図書は随時講義中に知らせる。また、必要な資料は講義前に配布する。

■履修上の注意・担当者からの一言
授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
私への連絡は、講義終了時、または水曜日（後期のみ）の午後、もしくは、生物学実験の時間中または後にしてください。

■講義計画
①講義に先立って、前期講義のまとめ
②発生生物学３：配偶子形成
③発生生物学４：受精の機構と初期発生
④発生生物学５：初期発生に基づく動物の分類
⑤発生生物学６：情報発現の調節
⑥遺伝生物学１：メンデル遺伝学
⑦遺伝生物学２：集団遺伝学の基礎
⑧遺伝生物学３：形質転換・形質導入・溶原変換
⑨遺伝生物学４：突然変異
⑩遺伝子工学入門
⑪恒常性の維持機構１：神経系の発達・構造・機能
⑫恒常性の維持機構２：内分泌系
⑬恒常性の維持機構３：免疫学
⑭生物進化の考え方
⑮動物の行動の生物学的意識

総合演習

【担当】樋口　三郎、中野　浩、馬　青、四ツ谷　晶二
【開講】前期　金3

■サブタイトル
プロフェッショナルとして今後60年生き延びる方法

■講義概要
大学生活も半分が過ぎました。ここまでに自分が達成したことを再確認して、次のステップの準備を始めましょう。自分は卒業後にどのような立場で社会に参加するか（60年間ぐらい参加し続けるわけですが、とりあえず最初の10年分ぐらいでもいいです）を考え、それに応じて大学生活後半の計画を立てましょう。

■到達目標
自分の専門性・特技・長所を例を挙げて説明できる。各業種の企業・団体およびそこに存在する職種を取り巻く状況を調査・分析し説明することができる。卒業までの1.5年間の活動計画を立てることができる。

■講義方法
担当教員のレクチャーだけでなく、ゲストによるレクチャー、受講者による課題文書の作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどからなります。

■系統的履修
キャリアデザイン、キャリアプランニングと重複する部分がありますが、この科目では学科の専門性を念頭においた考察を行います。この科目は, 学外実習を効果的にするのに役立ちます。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の授業内の指示に従い、授業時間外の作業によって課題を完成する必要があります。

■成績評価の方法
平常点（60%）授業内・外での取り組みや提出した課題の内容を評価します。
その他（40%）総合演習発表会への参加とプレゼンテーションの内容を評価します。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
時間割上は前期金曜日2講時の科目ですが、6,7月の土曜日に3回分、9月中旬（履修指導期間中）に3回分を実施するので、あらかじめスケジュールを調整してください。その回数分の金曜3講時は休講になります。
また、教室も講義室・計算機実習室・その他など、回によって変更されます。最新の予定は授業サポート hig3.net を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業サポート hig3.net を参照してください。

■講義計画
①関心のある業種・職種について知ろう
②自分を知ろう・インターンシップを知ろう
③自己PR文書を作ろう（ワードプロセッサ）
④企業採用情報を分析しよう（表計算）
⑤企業会計情報を分析しよう（表計算）
⑥業種・職種志望理由を説明するスライドを作ろう（プレゼンテーション）
⑦自己PRプレゼンテーション：業種・職種志望理由を語ろう
⑧ゲストレクチャー：ビジネスマナーを知ろう［講義］
⑨ゲストレクチャー：ビジネスマナーを知ろう［実技］
⑩ゲストレクチャー：経営者・採用担当者の考えを知ろう［講義］
⑪企業分析プレゼンテーション：企業分析の結果を説明するスライドを作ろう
⑫企業分析プレゼンテーション：リハーサル
⑬企業分析プレゼンテーション：総合演習発表会
⑭企業分析プレゼンテーション：他の人の分析結果を検討しよう
⑮プレゼンテーションと総合演習を改善しよう（ディスカッション）

地域環境概論

【担当】竺　文彦、遊磨　正秀
【開講】前期　木2

■講義概要
一定の地域における汚濁発生源が水域に流入し、あるいは、廃棄物となって、地域の環境レベルを決定していく。生物においては、これらの無機的環境の中において、動物、植物が、生態系を構成し、総合的な環境が形成されている。これらの地域における無機的環境、生物的環境について述べる。たとえば、琵琶湖においては、流域の様々な汚濁物質、汚染物質が河川を通じて湖に流入し、琵琶湖の水質を形成していくため、陸域の汚濁源が問題となる。これらの琵琶湖に関連する環境を中心に解説していく。

■到達目標
学習・教育目標：B1（◎），A（○）
地域における物理・化学的、生物的環境について基礎的な理解をする。

■講義方法
パワーポイント、プリント等を用いて講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義内容に関連する新聞記事、雑誌記事、ウェブニュースを熟読し、その内容について日常を通じて理解を深める努力をする。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）受講状況等による
定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①地域環境とは何か
②流域における水質汚濁源
③湖への汚濁源流入プロセス
④琵琶湖の水質変化
⑤湖内での水質形成プロセス
⑥地域での有機物発生源
⑦廃棄物処理・循環プロセス
⑧流域における水環境の縦断方向の連続性
⑨流域における水環境の横断方向の連続性
⑩流域における生物多様性（河川）
⑪流域における生物多様性（湖沼）
⑫流域における水環境の連続性と栄養塩回帰
⑬流域における水資源開発（水道用水）
⑭流域における水資源開発（農業用水）
⑮地域環境を科学する

地学概論 I

【担当】桑原　希世子
【開講】前期　月3

■講義概要
人間や社会に歴史があるように、自然界にも長い歴史がある。地学の中でも特に自然界を歴史科学的観点から理解しようとする分野がある。自然史学・古生物学・地史学などの分野がこれに相当する。この講義では原始地球から現在までの自然史を、主に生物進化の跡をたどって概観する。

■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
自然の歴史を概観することで、現在の地球環境をグローバルな視点で考える能力を身につける。
そして人類の産業活動と今後の地球環境保全について、洞察力を高めることを目的とする。

■講義方法
ビデオ教材、パワーポイントを使用して進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
次回の授業部分については、専門用語を調べておくこと。
授業後にノートを見直し、わからなかった点があれば調べ、復習すること。

■成績評価の方法
定期試験（100%）点数を評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
川上紳一・東條文治 『地球史がよくわかる本』 秀和システム 1,900円
丸山茂徳・磯崎行雄 『生命と地球の歴史』 岩波書店 660円
木庭元晴 『宇宙 地球 地震と火山』 古今書院 2,600円
小出良幸 『早わかり地球と宇宙』 日本実業出版社 1,400円
大谷栄治・掛川武 『地球・生命 その起源と進化』 共立出版 2,200円
J.L.パウエル 『白亜紀に夜がくる』 青土社 2,800円
池谷仙之・北里洋 『地球生物学』 東京大学出版会 3,000円

■講義計画
①講義概要の紹介
②編年と相対年代
③数値年代, 古環境の復元方法
④太陽系と地球地球形成のシナリオ
⑤生命の誕生、光合成生物の活動が大気組成を変化させた
⑥スノーボールアース仮説、カンブリア大爆発：多様な動物の爆発的進化
⑦オゾン層の形成と植物・動物の陸上への進出
⑧パンゲア大陸の分裂と生物大量絶滅
⑨恐竜の繁栄
⑩白亜紀の温室地球、石油の形成
⑪中生代／新生代の境界の絶滅のシナリオ
⑫ほ乳類の繁栄
⑬周期的気候変動とミランコビッチサイクル
⑭人類はどのように進化してきたのか
⑮地球環境問題・総まとめ

地学概論Ⅱ

【担当】塩野　清治
【開講】後期　水2

■サブタイトル
変動する地球
■講義概要
2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震の大被害を経験して以降、地震に対する恐怖と防災意識が高まっている。なぜM9.0という超巨大地震が起こったのか。同じような巨大地震が西日本でも起こる危険性はないのか。このような疑問に答えるには、地球の現在と歴史を知る必要がある。この講義では地球の内部構造や誕生してから現在に至る歴史について研究史を交えながら概観したのち、ヴェーゲナーによる大陸移動説がプレートテクトニクスとよばれる、様々な地学現象を総合的に理解するパラダイム（共通認識）へと発展していく歴史的経過をたどる。 最後にその観点から西日本に住む我々にとって無視することにできない次の南海地震の危険性について考える。
■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
地球上で発生する様々な地学現象を総合的に理解するための基礎的知識を身につけること。ニュース等で報道される地震や火山などの自然現象を地球の歴史という長期的視点にたって理解・考察できるようになること。
■講義方法
講義内容に関連する資料を配布する。その資料とパワーポイントを使用しながら講義を進める。
■系統的履修
地学概論Ⅰ、地学実験、力学、物理学、数学、化学
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の授業の最後に復習問題を課す。問題の解答をレポート用紙まとめておき、授業中に指定する時期に提出すること。授業中に小レポートの提出を求めることがある。予習が必要な場合は適宜指示する。
■成績評価の方法
レポート（50%）復習問題のレポートや授業中の小レポート
定期試験（50%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
毎回復習問題を課すので欠席しないように。授業中、講義に集中している者への迷惑行為（私語、携帯電話、飲食など）は慎むこと。疑問な点があれば授業中に積極的に発言してほしい。
■講義計画
①地球の大きさの測定：m単位の起源
②地球楕円体とジオイド：標高の基準
③大陸と海洋の違い：アイソスタシー
④地震波の伝わり方：モホロビチッチ不連続面
⑤地球の内部構造：低速度層の発見
⑥地層の形成順序：地層累重の法則
⑦化石による地球の編年：示準化石
⑧放射性同位体による年代測定：地球の年齢
⑨地球全史：地球の誕生から人類の誕生まで
⑩大陸移動説：ウエゲナーの提唱
⑪大陸移動説の復活：地球の磁場
⑫海洋底拡大説：マントル対流
⑬仮説の検証と展開：プレートの運動
⑭プレートテクトニクス：プレートの誕生・移動・消滅
⑮まとめ：大地震への備え

地球環境概論

【担当】市川　陽一、宮浦　富保
【開講】後期　火1

■講義概要
近年、地球がどのように変化したかを理解するためには、まず地球の生物圏としての機能を理解し、その機能に人間が影響をもたらす以前はどのようになっていたかを理解することが必要である。環境の時代を象徴するように、地球環境問題が声高に取り上げられているが、それらが人間の生活にどのように関わっているのか、その因果関係を明確にし、なぜ問題視するかを論述する。 人間が引き起こしたさまざまな地球環境問題に取り組み、解決策をさぐるにあたって、まず地球が集積されたシステムとしてどのように機能しているかを基本的に理解することが重要である。
■到達目標
地球における複雑な物理的・生物的環境を把握し、人間活動が地球の機能に対しどのように影響をもたらしているかを理解する。人間による地球環境へのインパクトを評価し、対処するのに必要な基礎的知見を得ることが可能となる。
■講義方法
板書、OHP、あるいはパワーポイントを用いてわかり易く講義を進める。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義で学んだことを理解するために、ネットや図書館を利用して事例研究を行うとともに、様々な観点から地球環境問題の議論が行われていることを確認し、理解を深めていただきたい。
■成績評価の方法
レポート（30%）
定期試験（70%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①講義の進め方
地球環境とは?
②地球の歴史
③地球の気候変動
④地球の生態系　－起源と進化
⑤地球の生態系　－生物多様性
⑥人類の来歴と環境問題
⑦生態系に与える人間の影響
⑧地球環境の持続可能性
⑨環境汚染　－陸上
⑩環境汚染　－大気
⑪環境汚染　－海洋
⑫地球温暖化
⑬エネルギーと地球環境
⑭環境問題の対策と見通し
⑮まとめ

知的財産概論

【担当】藤河　恒生
【開講】後期　水３

■講義概要
本講座では産業財産権である特許権、実用新案権、意匠権、商標権について概観し、特に、技術者にとって大事な特許権について詳細に学習する。特許に関する手続きはどのようにするか、特許を受けるための要件とは何か、特許書類はどのように読み、書くか、などを実例を見ながら勉強する。特許庁が提供している産業財産権情報、特に特許電子図書館（ＩＰＤＬ）を活用するため、それをアクセスする基本操作から学ぶこととし、ＩＰＤＬの操作に関する時間もかなり取っている。本講座を通じて知的財産を身近に感じ、また、知的財産の重要さを感じ取ることも目的としている。

■到達目標
学習・教育目標：C2（○）
産業財産権（特許、実用新案、意匠、商標）の取得、活用についての全体像を理解する。
特許制度について、全体にわたった基礎的な知識を習得する。
将来、産業財産権の制度を利用できるよう実用的な知識を習得する。

■講義方法
配布する資料を使って講義をするとともに、インターネットを用いて実例を参照又は調査したり、電子出願ソフトを用いた特許出願書類作成の練習をしたりする。
講義は、各自がインターネットを使用できる教室で行う予定である。また、ゲストスピーカーによる講義もはさむ予定である。

■授業時間外における予・復習等の指示
パソコンの基本的な操作はできるようにしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（50%）
レポートの課題は、最終講義の２回前の講義時に渡し、最終講義時にレポート提出を受ける予定である。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①知的財産権（産業財産権）とは?特許制度とは?
②出願から特許権取得までⅠ（特許出願書類）
③出願から特許権取得までⅡ（公報、産業財産権情報）
④出願から特許権取得までⅢ（審査請求以降）
⑤ＩＰＤＬで特許情報にアクセス／演習
⑥発明とは?特許になる発明とは?
⑦特許を受けることができる者とは?職務発明とは?
⑧発明発掘から特許出願まで
⑨特許出願書類を書いてみようⅠ（特許請求の範囲）
⑩特許出願書類を書いてみようⅡ（明細書他）
⑪外国での特許取得　外国の特許情報にアクセス
⑫特許以外の産業財産権制度／実用新案・意匠
⑬特許以外の産業財産権制度／商標
⑭ＩＰＤＬで意匠・商標情報にアクセス／演習
⑮企業における知的財産権の位置づけ

人間工学

【担当】橋本　正治
【開講】前期　水１

■サブタイトル
製品設計への人間工学的アプローチ

■講義概要
人間工学は、人間をシステムの一要素として扱い、人間の特性を考慮し、人間にとって適切なシステムの設計・改良をめざす工学である。ここでは、生理学・心理学・運動学の立場から人間の諸特性を明確にし、特に生産の場における製品設計・作業設計等に用いられる人間工学的方法について解説する。これによって人間工学的な観点から設計における問題解決できる能力を養う。

■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
人間の生体機能、運動機能に関する基本的な特性を理解でき、設計に応用できる。
機械・電気システムにおいて考慮しなければならない入出力インタフェースの特性を理解し設計に応用できる。

■講義方法
ノート講義を中心に進めますが、適時ＯＨＰ等で最新事例も紹介します。図を使った説明が多くなりますので可能な限りプリントも用意します。ノートへの記入が負担となるかもしれませんが、整理されたノートを作り上げることで、学習が進むと考えます。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習：次回のテーマに応じたキーワードの調べ、授業開始時に指定用紙に記入し提出

■成績評価の方法
平 常 点（30%）予習課題の提出をもって平常点とします。
レポート（10%）
定期試験（60%）60%の正答率をもって合格とします。
平常点（30点）とレポート（10点）、定期試験（60点）、合計100点満点で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
長町三生　『現代の人間工学』　朝倉書店　3,885円

■履修上の注意・担当者からの一言
解らないことや興味のあることは授業の途中でも質問や意見を発言して下さい。それはきっと他の人も同じように考えているに違いないからです。ただ聞いているだけの授業ではなく、授業に積極的に参加して、より興味ある内容となるよう一緒に学んでいきましょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
下記アドレスまでメールしてください
hashi@mec.setsunan.ac.jp

■講義計画
①人間工学の定義（歴史的背景、人間工学をとりまく研究分野）
②人間の生理的特性と心理的特性（感覚器全般）
③人間の生理的特性と心理的特性（色の研究の歴史）
④人間の生理的特性と心理的特性（色を感じるメカニズム）
⑤人間の生理的特性と心理的特性（視覚と色覚特性）
⑥人間の生理的特性と心理的特性（色の表現法）
⑦人間の生理的特性と心理的特性（聴覚）
⑧生理的機能の測定法（筋電、心拍、呼吸、発汗）
⑨心理的機能の測定法（官能検査、アンケート調査）
⑩動作分析・動作解析（動作分析）
⑪動作分析・動作解析（動作解析）
⑫動作分析・動作解析（運動計測）
⑬マンマシンシステム（フィードバック、インターフェイスの要素、人間の制御機能）
⑭マンマシンインターフェイス（歴史的背景、コミュニケーションと情報の流れ）
⑮インターフェイスの最新事例（人工現実感）

物理実験（2007年度以降入学生）
理工学基礎実験Ａ（2006年度以前入学生）

【担当】金子　康智
【開講】後期　火３・火４・火５

■サブタイトル
理工学基礎実験

■講義概要
理工学の全ての分野の基礎となる力学、光学、熱学、電磁気学、原子物理学の分野から選ばれた基本的で重要な11種の実験について実習する。数理情報の分野でも実験技術は非常に重要であり、将来卒業研究や大学院において、新しい方法を実験で検証したり、新しい実験装置や機器を製作したりすることが必要になるが、そのためのトレーニングになる。ノギス､マイクロメーター､サーキットテスター、デジタルボルトメーター、オッシロスコープなどの簡単な道具や測定器をいつでも使えるようにすること、得られた実験データの誤差が評価できて、有効数字が分かること、重力加速度、波の波長、速度、振動数、温度、熱起電力、活性化エネルギー、電気抵抗、電圧、電流、電力、ローレンツ力、ヤング率、光の波長、屈折率、波の干渉、回折などの概念について実験によって深く理解することを目標とする。プレゼンテーションの練習のため、最後に発表会も行う。

■到達目標
種々の実験の原理を理解する。ノギスなどの基礎的器具を使えるようになる。実験データの誤差を評価できる。積極的に質問し､自ら進んで勉強できるようになる。

■講義方法
実験指導書にそって、二人一組で、毎回１つのテーマの実験を行う。レポートを各自まとめて提出する。

■系統的履修
物理的基礎科目と物理実験を続けて履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示
事前にテキストを良く読み、実験の内容を良く理解してから実験を開始すること。実験終了後は、参考書などを利用して実験中の疑問点などを調べ、レポートにまとめること。

■成績評価の方法
レポート（80%）
定期試験（20%）
毎回のレポートを主体（約８割）にし､まとめの試験（約２割）を加味して総合的に評価する。

■テキスト
龍谷大学理工学部編　『物理実験』
テキストは初回に配布します。関数電卓とＡ４ノート１冊を各自用意して下さい。

■参考文献
小出昭一郎　『物理学（三訂版）』　裳華房　2,100円
原　康夫　『物理学基礎』　学術図書出版社　2,400円

■履修上の注意・担当者からの一言
初回のガイダンスとノギスの使い方の実験を無断欠席すると、今期履修しないものとみなすので注意して下さい。まず実験の原理､方法を自習して、考えても分からなかったことをTAに質問し、分からなかった理由を考えることにより力をつけて下さい。受講マナーにも気をつけて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
実験1テーマにつき1人のTAが配置された少人数教育であるので、3コマ連続の時間を有効に利用して物理の内容についても、どんどん教員およびTAに質問して下さい。

■講義計画
①ノギスの使い方
②振り子によるgの測定
③のびによるヤング率の測定
④弦の振動の実験
⑤分光器の実験
⑥レーザー光の回折実験
⑦テスターの使い方とパルス回路
⑧アナログ回路
⑨電気抵抗の温度変化
⑩熱起電力
⑪電子の比電荷の測定
⑫発表会準備と追加実験（公欠の人）
⑬発表会
⑭レポート総合指導
⑮まとめの試験及び解説

学科固有科目

（数理情報学科）

カナ	科目名	担当者	開講曜講時		ページ
ア	アルゴリズム・演習／アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	馬　青	後期	木2･木3	147
オ	オートマトン	植村　渉	前期	木３	147
	応用アルゴリズム／ネットワーク・アルゴリズム	宇土　顯彦	後期	月２	148
	応用数理Ａ／非線形解析	國府　宏枝	後期	水３	148
	応用プログラミング演習／プログラミングおよび実習Ⅱ	佐野　彰	後期	月4･月5	149
カ	確率統計・演習Ⅰ／確率・統計および演習Ⅰ	四ツ谷　晶二	後期	月１	149
	確率統計・演習Ⅱ／確率・統計および演習Ⅱ	中野　裕治	前期	火４	150
	関数解析	四ツ谷　晶二	前期	木１	151
	関数論・演習／関数論および演習	森田　善久	前期	木2･木3	152
キ	記号処理	中野　浩	前期	木４	152
	基礎セミナー	宇土　顯彦	前期	木２	153
	基礎セミナー	大西　俊弘	前期	火３	153
	基礎セミナー	松本　和一郎	前期	木２	154
	基礎セミナー	四ツ谷　晶二	前期	木２	154
ク	グラフィックス基礎・演習	中野　浩	前期	火1･火2	155
	グラフィックス基礎	中野　浩	前期	火１	155
	グラフィックス基礎実習	中野　浩	前期	火２	156
ケ	計算科学Ⅰ	池田　勉	後期	月２	157
	計算科学Ⅱ	樋口　三郎	前期	水３	158
	計算科学演習Ⅰ／計算科学実習Ⅰ	池田　勉	後期	月３	159
	計算科学演習Ⅱ／計算科学実習Ⅱ	樋口　三郎	前期	金２	160
	計算機援用数学／固有値問題	山岸　義和	後期	金１	160
	計算機システムⅠ／情報処理システムⅡ	佐野　彰	前期	木３	161
	計算機システムⅡ／計算機アーキテクチャ	中野　浩	後期	火１	161
	現象の数学Ａ／現象の数学Ⅰ	四ツ谷　晶二	前期	月３	162
	現象の数学Ｂ／現象の数学Ⅱ	飯田　晋司	後期	火３	162
シ	集合と位相・演習／集合・位相および演習	國府　宏枝	前期	木1･木2	163
	情報処理の基礎／情報処理システムⅠ	中野　浩	後期	水３	163
ス	数学序論	飯田　晋司／池田　勉	前期	金３	164
	数値計算法	松木平　淳太	前期	金１	164
	数値計算法演習／数値計算法実習	松木平　淳太	前期	金２	165
	数理計画法	山下　信雄	後期	木２	165

カナ	科目名	担当者	開講曜講時		ページ
ス	数理情報演習	全教員	後期	月4･月5or木4･木5	166
	数理モデル基礎・演習Ⅰ／数理モデル基礎および演習Ⅰ	四ツ谷　晶二	前期	月１	166
	数理モデル基礎・演習Ⅱ／数理モデル基礎および演習Ⅱ	山岸　義和	後期	水１	167
セ	セミナー	全教員	前期	月4･月5or木4･木5	167
	線形代数・演習Ⅰ／線形代数および演習Ⅰ	池田　勉	前期	火4･火5	168
	線形代数・演習Ⅱ／線形代数および演習Ⅱ	松本　和一郎	後期	木1･木2	169
タ	多様体と力学系	國府　宏枝	後期	月２	169
	大域解析	松本　和一郎	前期	金２	170
テ	データ構造とアルゴリズム／アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	馬　青	前期	月４	170
	データベース／データベースシステム	曽我　麻佐子	後期	月３	171
	ディジタル信号処理／信号処理	藤田　和弘	後期	木３	171
	電気と磁気／電磁気学	飯田　晋司	前期	水３	172
ト	特別研究	全教員	通年	集中	172
	特別講義	松木平　淳太	通年	集中	173
ニ	認知科学と人工知能／人工知能	小堀　聡	後期	火４	173
ネ	ネットワーク構成論	岡田　至弘	後期	火２	174
ヒ	微積分・演習Ⅰ／微積分および演習Ⅰ	山岸　義和	前期	木4･木5	174
	微積分・演習Ⅱ／微積分および演習Ⅱ	森田　善久	後期	月4･月5	175
	微分幾何／微分幾何入門	松本　和一郎	後期	金２	175
フ	物理学序論	阪井　一繁／松本和一郎／中野　浩	後期	金３	176
	物理数学・演習Ⅰ／物理数学および演習Ⅰ	飯田　晋司	前期	月4･月5	176
	物理数学・演習Ⅱ／物理数学および演習Ⅱ	松木平　淳太	後期	木4･木5	177
	プレゼンテーション演習	野口　昌子	前期	月１	178
	プレゼンテーション演習	野口　昌子	前期	月２	179
	プログラミング・演習／プログラミングおよび実習Ⅰ	馬　青	前期	火2･火3	180
ヘ	偏微分方程式	森田　善久	後期	火２	180
	ベクトル解析／応用ベクトル解析	阪井　一繁	前期	水１	181
メ	メカトロニクス	渋谷　恒司	後期	金２	181
リ	力学／力学Ⅰ	飯田　晋司	前期	月２	182
	離散数学・演習	國府　宏枝	後期	金２	182
	理論物理Ａ／統計熱力学	大坂　寿之	後期	水２	183

アルゴリズム・演習（2007年度以降入学生）
アルゴリズムとデータ構造Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】馬　青
【開講】後期　木2・木3

■講義概要
与えられた問題をコンピュータで解くには、まずその問題を把握し、どのような手順で解いて行けばよいかを考え、その手順にそってプログラムを作成する必要がある。この問題解決の手順をアルゴリズムという。この講義では、ソートや探索などの基本的なアルゴリズムについて学ぶ。また、演習を通じて、学んだアルゴリズムについての理解を深めるとともに、それらをプログラムで実現する能力を養う。さらに、各種ソート法のプログラムを作成しそれらの性能（実行速度）を比較する実験を通してアルゴリズムの性能評価についても考える。

■到達目標
情報科学の分野における基礎知識を習得するとともに、コンピュータを利用した、基本的な問題解決能力を身につけることである。

■講義方法
毎週2講時（講義1講時と演習1講時）の授業が開講される。講義部分では、配布資料を使った解説の後、紙上演習を行い、内容理解を深める。演習部分では与えられた課題を、担当教員やティーチングアシスタントの助言を得ながら計算機上で完成させていく。

■系統的履修
計算機基礎実習Ⅰ・Ⅱ、プログラミング・演習

■授業時間外における予・復習等の指示
次回授業の１週間前に、講義プリントと演習課題をWebに載せておくようにしているので、必ず予習しておくこと。また、毎回の授業後は、未完成の演習課題と復習に十分な時間をかけること。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）演習課題の完成状況＋平常点
レポート（20%）
定期試験（50%）

■テキスト
プリントを配布（Webからもダウンロード可）

■参考文献
石畑清 『アルゴリズムとデータ構造』 岩波書店
小澤孝夫 『コンピュータ・アルゴリズム』 昭晃堂
疋田輝雄 『Cで書くアルゴリズム』 サイエンス社

■講義計画
①導入：アルゴリズムとは
②導入：アルゴリズムの評価
③選択ソート
④バブルソート
⑤ヒープソート：ヒープ、ヒープ化
⑥ヒープソート：ヒープソート
⑦クイックソート
⑧各種ソート法の比較実験（レポート課題）について
⑨線形探索法、二分探索法
⑩ハッシュ法：基本的な考え方、ハッシュ関数、衝突
⑪ハッシュ法：ハッシュ表の作成、ハッシュ探索
⑫比較実験（レポート課題）の解説
⑬文字列探索：C言語の文字列処理とファイルの入出力、力任せ法
⑭文字列探索：応用例
⑮復習・質疑応答

学科固有

オートマトン

【担当】植村　渉
【開講】前期　木3

■講義概要
オートマトン（Automaton）とは計算機システムの動作原理をシンプルに数学的に表記したものである。本科目では「オートマトンとはどのようなものか」から始めて、その数学的表現、基本的諸性質を具体例を通して説明する。さらに記号列の集合を定義する生成文法との関連について説明する。

■到達目標
状態遷移図が理解でき、言語とオートマトンの関係、決定性と非決定性の動作の関係等を理解すること。

■講義方法
基本的に教科書に従って進める。演習問題に関してはレポートとする。

■系統的履修
コンパイラと形式言語（形式言語）

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書をしっかりと読んでくること。

■成績評価の方法
定期試験（100%）
期末のテストで評価する。

■テキスト
富田悦次／横森貴 『オートマトン・言語理論（基礎情報工学シリーズ5)』 森北出版株式会社

■参考文献
特になし

■講義計画
①オートマトン，形式言語
②形式言語の最小構成要素
③ド・モルガン則
④順序機械
⑤状態遷移
⑥オートマトンの等価性
⑦非決定性有限オートマトン
⑧部分集合構成法
⑨ ε -動作をもつ非決定性有限オートマトン
⑩言語演算
⑪正則・正規表現
⑫有限オートマトンと正規表現の変換
⑬演習問題
⑭非正規言語
⑮演習問題の解説

応用アルゴリズム（2007年度以降入学生）
ネットワーク・アルゴリズム（2006年度以前入学生）

【担当】宇土　顯彦
【開講】後期　月2

■サブタイトル
データ構造とアルゴリズムの知識を、ネットワーク関連を題材として深める

■講義概要
まず、通信網や電気回路網などのネットワークを抽象的に扱うための、グラフに関する基礎的な概念と用語について説明し、ついで、グラフにおける探索、さらに重み付きグラフにおける最小コスト木、最短路を求めるアルゴリズムなどを紹介する。直観的な説明と、的確な記号を使っての正確な記述の両面から理解を深める。

■到達目標
論理的思考力の向上、ソフトウェア開発の基本的能力の獲得

■講義方法
各回の授業では、まず一通り説明した後に演習問題を解いてもらい（出席確認を兼ねる）最後にその正解を示す。

■系統的履修
データ構造とアルゴリズムに関するまとめの科目である。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業に先だって前回分の復習を確実にしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（12%）
定期試験（88%）
（1）期末試験の成績（100点）（2）レポート点（各回0.8点：基準を満たした場合）の合計（上限100点）

■テキスト
プリントを適宜配布

■参考文献
小澤孝夫 『コンピュータアルゴリズム』 昭晃堂（絶版）

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の順序は講義計画のとおりであるが、実施日は多少前後に移動することがある。

■講義計画
①ネットワ-クとその抽象的扱いのためのグラフ
②アルゴリズムのPADによる記述、計算複雑度
③集合
④グラフに関する記述法と基本操作
⑤無向グラフ、有向グラフの要素と種類
⑥２分木とその探索、アルゴリズムの再帰的記述
⑦スタックとキュー、グラフにおける広さ優先探索
⑧グラフにおける深さ優先探索
⑨コスト最小木（Kruskal法）
⑩コスト最小木（Prim法）
⑪最短路アルゴリズム（アサイクリック）
⑫最短路アルゴリズム（Dijkstra法）
⑬最大フロ－アルゴリズム
⑭マッチングアルゴリズム
⑮全体の復習、傾向と対策

応用数理Ａ（2007年度以降入学生）
非線形解析（2006年度以前入学生）

【担当】國府　宏枝
【開講】後期　水3

■サブタイトル
カオス理論および分岐理論入門

■講義概要
自然現象や社会現象の多くは本質的に非線形現象であり、それを調べるには従来の線形理論とは異なる手法が必要となる。この講義では非線形現象を扱うためのカオス理論と分岐理論について入門的な解説を行う。前半では、カオスを生み出すいくつかのシステムを紹介し、その意味や数学的な解析の手法について講義する。後半は分岐理論への入門として、システムに含まれるパラメータの変化が現象にどのような変化をもたらすか、その典型例を考察する。

■到達目標
カオス理論や分岐理論の基礎知識を身につけ、非線形現象を取り扱う基本的な手法を習得する。

■講義方法
おおむね配布プリントに沿って講義を進める。

■系統的履修
微積分および演習、物理数学および演習

■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に出た問題の中は、小テストやレポートに出すので必ず次の週までに解いておいて下さい。

■成績評価の方法
小テスト（50%）１回程実施予定
レポート（50%）１回実施予定

■テキスト
特になし

■参考文献
ロバート・L. ドゥヴェイニー 『カオス力学系入門』 共立出版 5,775円

■履修上の注意・担当者からの一言
進路に合わせて、講義内容・講義計画の変更があるかもしれません。

■講義計画
①線形とは?非線形とは?
②1次元写像とカオス--ロジスティック写像
③1次元写像とカオス--テント写像
④1次元写像とカオス--ベルヌーイシフト
⑤2次元写像とカオス--馬蹄形写像
⑥2次元写像とカオス--安定多様体と不安定多様体
⑦カオスの特徴--記号力学系
⑧カオスの特徴--稠密性と一様性
⑨カオスの特徴--不変測度
⑩カオスの特徴--リャプノフ指数
⑪分岐理論とは
⑫分岐現象の典型例Ⅰ--サドル・ノード分岐
⑬分岐現象の典型例Ⅱ--周期倍分岐他
⑭連続系と離散系
⑮ハミルトン系と天体力学

応用プログラミング演習（2007年度以降入学生）
プログラミングおよび実習Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】佐野　彰
【開講】後期　月４・月５

■講義概要
計算機プログラムは、本来「なにか」を計算機で高速に効率的に処理したいという目的があって作成されるものです。したがって、実用的なプログラムを作成する際には、現実の様々なデータ形式に応じた計算や入出力を行う必要があります。この科目では、C言語を用いて、画像データやネットワークデータなどの具体的なデータを処理するプログラムを作成することで、より実際的なプログラミングの作法を学びます。

■到達目標
現実の多様なデータを処理するためのプログラミング作法を修得する。少し大きな規模のプログラムが作成できるようになる。

■講義方法
講義とその内容に沿ったプログラミング演習を行います。

■系統的履修
「プログラミング・演習／プログラミングおよび実習Ⅰ」の後を継ぎ、プログラミング能力のさらなる強化を目指します。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習・復習ならびに演習課題に取り組むために授業時間外にも多くの時間を費やす必要があります.

■成績評価の方法
平 常 点（70%）主に演習の課題達成度
レポート（30%）

■テキスト
プリント等を適宜配布。必要に応じてウェブページで課題等を提示。

■参考文献
英語の読み書きを学ぶために辞書が必要なように、プログラミング言語を学ぶためにはその書き方をすぐに調べられる情報源を手元に用意しておくべきです。書店に行けば山ほどC言語の書籍がありますので、辞書のように使える&自分の好みに合うものを手に入れておくことを強くおすすめします。講義でも幾つかの参考書を紹介する予定です。もちろん既に所有しているものが使えそうならそれでも構いません。使えそうなウェブページなどを自分で見つけておくのもよいでしょう。

■履修上の注意・担当者からの一言
この科目は、2007年度以降入学生にとっては「応用プログラミング演習」という名前であり、2006年度以前入学生にとっては「プログラミングおよび実習Ⅱ」という名前です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
1号館5階に掲示される担当教員のオフィスアワーを確認してください。

■講義計画
よりよい授業にするために、項目ごとの開始時期を前後にずらしたり順序を入れ替えたりすることがあります
①Linux環境でのプログラミングに必要な知識・操作法の復習と、C言語の復習（主に関数）
②画像を処理してみよう（多次元配列）
③画像を処理してみよう（ファイル入出力）
④画像を処理してみよう（まとめ）
⑤郵便番号簿の探索（分割コンパイル）
⑥郵便番号簿の探索（構造体）
⑦郵便番号簿の探索（まとめ）
⑧前半のまとめと後半の導入
⑨計算機ネットワークとプロトコル（TCP/IP）
⑩TCP/IPのしくみ（telnet）
⑪サーバ・クライアントシステム（make、ソケット）
⑫サーバ･クライアントシステム（sizeof演算子､バイトオーダー）
⑬サーバ・クライアントシステム（まとめ）
⑭ネットワークプロトコルの設計
⑮積算プロトコル

確率統計・演習Ⅰ（2007年度以降入学生）
確率・統計および演習Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】四ツ谷　晶二
【開講】後期　月１

■サブタイトル
データの解析、統計学

■講義概要
数字の誤用や悪用の例は枚挙にいとまがない。悪用にだまされたり、無意識に誤用することのないようにすることは、社会の中で生きていく上で非常に大切なことである。そのとき必要なのが統計学の知識である。
統計学は数学は使うが数学そのものではなく、社会科学的側面が大きい。数式ばかりに目を奪われていると、本来身に着けるべき統計学に特有の考え方の修得はさっぱりということになりかねない。とはいえ、数学なしにより深い理解は得られない。この講義では、確率論にはできるだけ立ち入らずに統計学特有の考え方を丁寧に説明する。同時に、1年生で学んだ微積分・線形代数の知識を使い数学的な側面もしっかりおさえて、確率・統計の考え方の基礎がしっかり身につくような講義を行う。

■到達目標
・確率分布と確率変数の意味をしっかり理解する。
・正規分布・中心極限定理極を理解し、応用できるようにする。
・推定・検定を基本的な問題が解け、応用できるようにする。
・相関係数・回帰分析の意味を理解し、応用できるようにする。

■講義方法
・適宜プリントを配布し、それに基づいて講義・演習を行う。
・統計に必要な数学の部分から、適宜、レポート課題を出す。
・理解を確認するため、適宜、小テストを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習･復習をしっかりすること。

■成績評価の方法
小テスト（30%）適宜、回実施する。
レポート（30%）適宜、回実施する。
定期試験（40%）
・レポートはＡ４用紙に書き、期限厳守のこと（期限を過ぎたものは受け取らない）。
・インフルエンザ・介護実習等のしかるべき理由で期限を過ぎた場合については、レポートにその旨を朱書し証明する書類を添えて提出すれば期限内提出レポートと同じ基準で評価する。
・インフルエンザ・介護実習等のしかるべき理由で小テストを受けることができなっかた場合、レポート提出等で代替する。

■テキスト
特になし

■参考文献
笠原勇二 『確率論入門』 数学書房　2,100円
この本の理論を抜粋して利用する。意欲のある学生は､購入していて損はない。

■履修上の注意・担当者からの一言
配布プリントは必ず持参して下さい。プリントのデータや､数表を利用するためです。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
・オフィスアワー：月曜日・木曜日　昼休み　於１－５４１
･緊急の場合等は shoji@math.ryukoku.ac.jp にメールを下さい。日時を調整します。

■講義計画
①データとその表現
②データの平均と分散
③相関係数　回帰直線
④基本的な確率分布
⑤正規分布の重要性
⑥推定の考え方
⑦平均値の推定（母分散既知）
⑧平均値の推定（母分散未知）
⑨比率の推定
⑩検定の考え方
⑪平均値の検定（母分散既知）
⑫平均値の検定（母分散未知）
⑬比率の検定　　$\chi 2$ 検定
⑭確率空間・確率変数・確率分布
⑮全体のまとめ

確率統計・演習Ⅱ（2007年度以降入学生）
確率・統計および演習Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】中野　裕治
【開講】前期　火4

■サブタイトル
確率論入門

■講義概要
確率・統計Ⅰでは、基本的な統計の検定を学びました。この講義では、確率論の考え方、方法を学び、今後の研究、他の分野との関連も考慮して話を進めます。近代確率論は、古典確率論の発展を受けて、20世紀に旧ソビエトのコルモゴロフにより確立されました。
確率論は、統計学の理論を支え、現代では数学の解析のみならず、物理学においては統計物理、気象学等、経済学では、金融工学に多大なる影響を与えています。講義では、まずさまざまな不確実現象（確率現象）について復習し、現象に付随する統計値の計算を学びます。一見規則性のない現象でも、大数の法則や中心極限定理といわれる法則が発見されており、さまざまな分野に応用されています。これを次に学びます。条件付き確率の考えは、気象の予報など広くその考え方は普及しており、独立性と合わせて大事な概念でこれらをきっちり理解する必要があります。花粉のジグザク運動から発見されれたブラウン運動は、ランダムウォークからも導かれ、今日では金融工学の基本事象になっていて、ブラック・ショールズ方程式は”金融工学の金字塔”と言われています。講義では、これらを初等的な方法で導き、講義の後半は演習室で確率現象のシミュレーションを学びます。

■到達目標
1．二項分布や正規分布などの確率現象の数学構造の把握
2．大数の法則や中心極限定理、確率解析方法としての特性関数などの理解
3．独立性、条件付き確率などの概念の理解と応用する力を身につけること
4．ランダムウォークやブラウン運動などの時間とともに変動する動きの理解
5．ブラック・ショールズ方程式などの確率論の応用モデルに興味を持つこと
6．確率現象をシミュレーションする力を身につけること

■講義方法
教科書「明解　確率論入門」に沿って、授業を進めます。講義方法は、要点となる概念や教科書では省略されている計算を補いつつ、重要な定理の証明はきちんと説明します。演習では、TAに手助けしてもらってプログラムを作成したり、Mathematica によるシミュレーションや作図を行います。

■系統的履修
初等的な微積分, Excel などの計算技術

■授業時間外における予・復習等の指示
講義で与えられた演習問題を、復習して理解してください。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）習熟度によって判定します。
定期試験（60%）
実習には､必ず出席し､わからないことは TA に質問すること。

■テキスト
笠原勇二　『明解　確率論入門』　数学書房　2,100円
コンパクトにまとめてある良書。講義の理論はこの本で学ぶ。

■参考文献
岡部靖憲　『確率・統計－文章題のモデル解法ー』　朝倉書店　2,800円
山本浩ほか　『シミュレーションによる確率論』　日本評論社　2,900円
「確率・統計－文章題のモデル解法ー」は、確率現象をどのようにして数学モデルとして構成していくかを示した、素晴らしい教科書です。確率論の考え方をやさしくしかも深く解説していて、確率論の体系的方法を得ることができます。「バイオサイエンスの統計学」は Excel を使って、さまざまな医学データの統計的検定を実践しています。

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に使う数学は、必要最小限説明します。教科書は必ず持参して下さい。教科書のデータや、数表を利用するため。卓上計算機も持参が望ましい。わからないときは質問して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問等は、y-nakano@biwako.shiga-u.ac.jpへメール下さい。

■講義計画
①基本の復習（1）確率変数
②基本の復習（2）いろいろな分布
③期待値
④分散
⑤ランダムウォーク
⑥ブラック・ショールズの公式
⑦条件付き確率と独立性
⑧特性関数
⑨演習室での実習（1）（大数の法則）
⑩演習室での実習（2）（特性関数）
⑪演習室での実習（3）（中心極限定理）
⑫演習室での実習（4）（正規分布に関連した計算）
⑬演習室での実習（5）（ランダムウォーク）
⑭演習室での実習（6）（ブラウン運動）
⑮演習室での実習（7）（ブラック・ショールズモデル）

関数解析

【担当】四ツ谷　晶二
【開講】前期　木1

■サブタイトル
無限次元の線形代数

■講義概要
「関数解析」では、ある性質をもつ関数全体（例えば閉区間上の連続関数全体）が対象となる。このような関数空間は無限次元のベクトル空間と見ることができる。また、関数空間上の重要な変換は線形作用素とよばれ、「関数解析」は線形代数の無限次元版といえる。この講義では、具体的な例を用いて有限次元の場合と対比しながらその相違点と共通点を浮き彫りにする。ベクトル空間の復習から始めて距離やノルムの概念を解説する。次に縮小写像の原理、バナッハ空間やヒルベルト空間の解説をする。

■到達目標
「関数解析」では一般化や抽象化の考え、また論理的思考が鍛えられる。具体的例からどのように重要な概念が取り出され、また一般化され、そして応用されるかを学ぶ。こうして、関数と空間に対して深い知識を得る。

■講義方法
解説と演習で進めていく。毎回、基本的な演習問題も解いてもらう。

■系統的履修
「偏微分方程式特論Ａ、Ｂ」、「関数解析特論Ｂ」

■授業時間外における予・復習等の指示
レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりすること.

■成績評価の方法
平 常 点（60%）出席と演習課題の提出と中間試験
定期試験（40%）
出席が２／３以上ない場合は自動的に不可とする。また、遅刻2回は欠席1回に計算する。

■テキスト
特になし

■参考文献
金谷健一　『これなら分かる応用数学教室：最小二乗法からウェーブレットまで』　共立出版　3,045円
藤田　宏　『理解から応用への関数解析』　岩波書店　3,990円
山田　功　『工学のための関数解析』　数理工学社　2,550円

■講義計画
①関数空間とは：関数空間、線形性
②線形作用素の例
③ノルムの性質と例
④ノルム空間
⑤内積とノルム
⑥直交性と射影
⑦前半の復習（中間試験）
⑧ヒルベルト空間の例
⑨ヒルベルト空間と正規直交系
⑩バナッハ空間と例
⑪有界作用素の例
⑫縮小写像と不動点
⑬縮小写像の応用
⑭コンパクト性とコンパクト集合
⑮後半の復習

関数論・演習（2007年度以降入学生）
関数論および演習（2006年度以前入学生）

【担当】森田　善久
【開講】前期　木2・木3

■サブタイトル
複素関数、正則関数の性質
■講義概要
まずは複素数、複素平面の扱いに慣れる。つぎに複素関数とはどういうものか、その導関数はどのように定義できるかを解説する。複素関数の正則性から、コーシーの積分定理や積分公式など非常にシンプルできれいな性質が導かれる。このような理論は実用的な計算に応用できることを演習問題を交えて解説する。
■到達目標
複素数の世界まで関数概念を広げることによって、新しい視野の獲得や数学的な発想を学ぶ。また応用として留数計算など新しい積分計算の方法をマスターする。
■講義方法
講義と演習を実施する。講義では複素関数の性質や計算方法をていねいに解説する。演習では基礎的問題を多数解くことに主眼をおく。
■系統的履修
微積分・演習Ⅰ、Ⅱ
■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の演習プリントの残りは宿題となります。復習も兼ねてしっかりと解いてください。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）演習プリントの提出など
小テスト（50%）中間試験（30点）＋小テスト（20点）
定期試験（40%）
■テキスト
原　惟行・松永秀章　『複素解析入門』　共立出版　1,995円
概ねテキストに沿って重要ポイントを解説しながら進めていきます。
■参考文献
寺田文行・田中純一『演習と応用　関数論』サイエンス社　1,680円
■履修上の注意・担当者からの一言
複素数の扱いが苦手な人が多いですが、この講義と演習を受講して複素数へのコンプレックスを克服し、複素関数の新しい世界を体験してください。数学の持つ自由な発想がいかにして応用に結びつくかを体験できる分野です。ただし、基礎的な事項から積み重ねていきますが、新しいことがたくさん出てくるので、油断しないよう気をつけましょう。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
第一回目の授業のときに連絡する。
■講義計画
①複素数の性質：複素数計算、極形式、オイラーの公式
②複素平面と複素数列：複素平面、数列の収束
③複素関数：複素関数、写像
④複素関数の微分：コーシー・リーマンの関係式
⑤初等関数：指数関数、三角関数、対数関数
⑥前半の復習（中間試験）
⑦複素積分：曲線、領域
⑧コーシーの積分定理
⑨正則関数の積分表示：コーシーの積分公式
⑩関数の級数展開：テイラー展開、零点の位数
⑪復習（小テスト）
⑫特異点とローラン展開：ローラン展開、孤立特異点
⑬一般の関数のローラン展開
⑭留数の定理
⑮留数の定理の応用と、後半の復習

記号処理

【担当】中野　浩
【開講】前期　木4

■サブタイトル
コンパイラ構築の実際
■講義概要
簡単な手続き型プログラミング言語を例として、コンパイラ構築の基本的事項について解説し、Cを用いたコンパイラの構築をしていきます。その中で、プログラムがどのように計算機アーキテクチャと関わっているのかについての理解を深めます。この講義のねらいは、1. コンパイラの内部構造を知ること、2. ある程度大きなソフトウエアの構成を知ること、3. 種々のプログラミング技法に触れることの3つです。受講者がCによるプログラミングに習熟していることを前提としています。
■到達目標
日頃お世話になっているコンパイラが、どのような仕組みで動いているのかが理解でき、それがプログラミング能力の向上につながってくれることを期待します。
■講義方法
配布したプリントに沿って講義を行います。概念的な話だけではなく、具体的なプログラムを提示しますので、受講者は自習時間にCを用いて実際にコンパイラを構築して行くことができます。
■系統的履修
「計算機システムII」を履修していると内容の理解の助けになるはずです。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業時間以外の学習を前提に授業を進めます。　第2回以降の授業の資料は事前に配布しますので、十分予習してください。ほぼ毎回演習課題が宿題に出ます。
■成績評価の方法
期末試験（100点満点）と提出された課題等で評価します。期末試験が x点、課題の得点率が y%　の場合、総合的な成績は x+（100－x）y/400（端数切り捨て）となります。
■テキスト
特になし
■参考文献
湯浅太一　『コンパイラ』　昭晃堂　3,465円
R.ハンター　『コンパイラ構成論』　近代科学社　3,360円
■履修上の注意・担当者からの一言
授業中は集中力が必要になると思います。それを覚悟して受講して下さい。
■講義計画
①コンパイラの内部構成
②BNF記法と構文木
③構文図
④構文図からのパーザの生成
⑤プログラミング言語Minimum C
⑥Minimum Cの字句解析
⑦Minimum Cの構文解析
⑧仮想計算機MVM
⑨MVMにおけるメモリ割り当て
⑩オブジェクトの管理1
⑪オブジェクトの管理2
⑫式に対するコード生成1
⑬式に対するコード生成2
⑭文に対するコード生成
⑮コンパイラの完成

基礎セミナー

【担当】宇土　顯彦
【開講】前期　木2

■サブタイトル
「コンビニで数学しよう」から大学の数学へ
■講義概要
高校までに習った数学の知識を総合化し、「単に公式を暗記して使う」数学から卒業することを目的とします。
　教科書「コンビニで数学しよう」は、身近なテーマ、意外性のあるテーマを高校迄に習った数学で説明しています。各回の最初20－30分位は受講者1名にその1つないし2つの単元を学習してきた内容をPowerPointで説明してもらい、教員が補足説明を行います。残りは数学を体系的に、かつ、いろいろな角度から理解することの面白さを判ってもらうために、マクローリン展開から初めて$\exp(i\pi)=-1$の式の証明や直感的考え方を紹介します（講義）。無理数である自然対数の底2.7182818…やπ=3.141592…が複素数の世界では美しく結び付きます。
　その他、無限大に関するテーマや、フーリエ級数展開など、受講生の興味や理解度に応じて、柔軟に進めていきます。
■到達目標
数学が決して暗記科目でないことを理解する。また、証明や答えはひとつとは限らないということから，いろいろのことに柔軟に対応できる考え方を身に着ける。
■講義方法
上記の「講義概要」のとおりです。
■系統的履修
いろいろの科目の基礎となります。
■授業時間外における予・復習等の指示
予習として教科書に目を通してくること。また、復讐として提示された演習問題を解くこと。
■成績評価の方法
平常点（60%）活動状況
その他（40%）発表
■テキスト
秋山仁監修　『コンビニで数学しよう』　森北出版　2,310円
■参考文献
表 実 著　『理工系の数学入門コース５－複素関数』　岩波書店　2,415円
■履修上の注意・担当者からの一言
過去の受講者の授業アンケートでは「難しい」が「面白い」という回答が多くありました。担当教員は数学が専門でなく、工学的な問題を解くのに使って来ましたが、その分、形式に捕われず、実践的、直感的な教え方をしたいと思います。
■講義計画
①PowerPoint中級編
②以下は「コンビニで数学しよう」の毎回の該当個所です。今回は「２．駐車場をつくる」に関してピタゴラスの定理の２とおりの証明（教員がします）と複素数の入門です。
③４．５．ジュースの缶をしばる
④６．コピー機のなぞ
⑤７．壁紙を修理する　８．中間テストの勉強
⑥９．理想のスタイルは? 10．コウジの挑戦（前半）
⑦10．コウジの挑戦（後半）11．折り紙遊び（1）
⑧12．折り紙遊び（2）
⑨14．遺跡の発掘　25．期末テストの勉強
⑩15．倒れた広告塔　16．パズルの雑誌から
⑪17．バーコードの秘密
⑫21．チーズ蒸しパンの３等分
⑬23．積み上げた商品が崩れ落ちる
⑭26．iの不思議
⑮26．iの不思議（続き）

基礎セミナー

【担当】大西　俊弘
【開講】前期　火3

■サブタイトル
中・高の数学を見つめ直し、大学の数学へつなげる --- 数学の教員を目指す人の基礎的素養
■講義概要
中学校や高等学校の数学の教員を目指す人には、数学に関する幅広い教養が必要になります。
例えば、問題を単に解ければそれでよいのではなく、その問題の背後に潜む数学的な構造や、その問題が生まれてきた歴史的な背景も知っておかないと、十分な指導はできません。
本セミナーでは、中学校や高等学校で学んできた数学の内容を別の視点から見つめ直し、諸君の数学に対する見方・考え方を、より広く、より柔軟にすることを目指しています。
また、中学校や高等学校の数学と大学の数学との関連についても述べたいと思います。
本セミナーは、数学の教員を目指している人を主たる対象としていますが、数学好きであれば、教員以外の進路希望の人も歓迎します。
■到達目標
目標は中学校や高等学校で学んできた数学の内容を別の視点から見つめ直し、諸君の数学に対する見方・考え方を、より広く、より柔軟にすることです。
■講義方法
教科書は使用せず、毎回プリントを配布して、授業を進めます。講義だけでなく、問題演習や討論も行います。
時間的な余裕があれば、コンピュータ実習も行います。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業後に、まず復習を行い理解を深めること。その後、授業で学んだことを発展・応用する課題に自ら取り組むこと。
■成績評価の方法
小テスト（80%）２～３回小テストを実施予定。
レポート（20%）2回程度レポートを課し、未提出の場合は単位を認定しない。
授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
また、レポート未提出の場合も単位は認定しない。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは、水曜日・木曜日の３講時である。但し、出張で不在の日もあるので、メール等で予約をすることが望ましい。
連絡は電子メールにて行う。メールアドレスは、最初の講義で連絡する。
■講義計画
①オリエンテーション　（数学的な考え方について）
②色々な証明方法（1）（代数的な証明編）
③色々な証明方法（2）（図形的な証明編）
④別解を作ろう　（星形多角形の内角の和）
⑤自分で定理を発見しよう（1）（九九の表の不思議）
⑥自分で定理を発見しよう（2）（発見した定理の証明）
⑦模型で公式を説明しよう（1）（展開の公式の模型を作る）
⑧模型で公式を説明しよう（2）（数列の和の公式模型を作る）
⑨別解の探究（1）（見方を変えよう）
⑩別解の探究（2）（数学は互いに関連している）
⑪パスカルの三角形の拡張（1）　規則性を読み取る
⑫パスカルの三角形の拡張（2）　ニュートンの発想
⑬新問題を作ってみよう（1）（問題条件を一部変更）
⑭新問題を作ってみよう（2）（問題条件を一部変更）
⑮問題を拡張しよう　（２次元から３次元へ）

基礎セミナー

【担当】松本　和一郎
【開講】前期　木2

■サブタイトル
ユークリッド幾何学をコンピュータで考えよう
■講義概要
ユークリッド幾何学を考える上で作図が大切だが、定規とコンパスを使ってもなかなか正確な図が描けないし、ましてや多様な場合に応じてたくさんの作図を描くことは大変である。しかし、ジェオジェブラというソフトを使うと簡単に正確な作図ができる上に、条件を変えていくと図がどう変わっていくかも正確にかつ連続的に見ることができる。まず、コンピュータ上に図を描くことで証明したいことが「いかにもなり立つ」ことを見た上で、証明に取り組む。
幾何の証明の手段として、図形に補助線を引く方法、座標幾何学、ベクトルによる方法、複素数による方法などがあり、問題に応じてどれが使いやすいかも習得する。
有名なナポレオン・ボナパルトは数学の論文を書いている。彼が証明したことにより「ナポレオン三角形」と呼ばれる三角形がある。この諸性質を証明することが目標となる。こみいった計算が必要な場合には「数式処理ソフト」メープルを使うことも学ぶ。
■到達目標
ジェオジェブラを使いこなし、幾何の証明になじむ。
■講義方法
少人数のグループに分かれ、毎週ごとの課題に対するレポーターのレポートをもとにディスカッションし、より良い理解を獲得する。
■系統的履修
数学において共に大切な「直感」と「論理性」を養成する。
■授業時間外における予・復習等の指示
次回の課題を前の週に提示するから、全員、グループ単位で本でもＷＥＢでも自由に調べたりグループ内で共同で考えたりして、その成果を次回、グループ単位で報告する。
■成績評価の方法
平常点（100%）自由に調べてきたことの内容、レポートにおける工夫、ディスカッションにおける熱意など
■テキスト
ポザマンティエ/レーマン　『偏愛的数学 II 魅惑の図形』　岩波書店　2,310円
必要に応じてプリントを配布します。テキストは購入しなくてもよい。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
１週間あれば何か得るところがある。それを毎回報告する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
新学期になってから研究室のドアにＯＨの時間を掲示します。
■講義計画
①「幾何学」とは何か
②ユークリッド幾何学の公理
③ジェオジェブラを使いこなそう
④円の５心とは何か
⑤円の５心の基本的事項を証明しよう（1）内心と外心
⑥円の５心の基本的事項を証明しよう（2）重心と傍心
⑦円の５心の基本的事項を証明しよう（3）垂心
⑧「ナポレオン三角形」とは何か
⑨ナポレオン三角形の作図
⑩ナポレオン三角形の性質
⑪ナポレオン三角形の易しい性質の証明
⑫ナポレオン三角形の難しい性質の証明のために--メープルの手ほどき
⑬ナポレオン三角形の難しい性質の証明のために--メープルによる証明
⑭ナポレオン三角形の難しい性質の証明のために--嘘の証明
⑮まとめ

基礎セミナー

【担当】四ツ谷　晶二
【開講】前期　木2

■サブタイトル
数学を基本から理解し直そう
■講義概要
数学検定２級・準１級の問題集や教員採用試験の問題を題材にして、高校までに学んだ数学を全く異なった発想で見直す。例えば、多くの人が苦手とする、数列の漸化式をΣ記号を一切使わず解く方法を説明する。さらに、この解法を微分を含んだ方程式である、微分方程式の解法と比較することによりその本質的な同一性を認識し理解を深める。他にも、ユークリッド互除法。不定方程式の解法、２次関数の複雑にみえる問題を一瞬に解く方法、不等式のおしゃれな証明法等を紹介したい。同時に、数式処理ソフトMapleを利用して、計算したり可視化して理解を深める方法も紹介する。
これらをきっかけに、本質をついた簡潔な新しい解法を考えたり、さらに高度な数学的知識の獲得に繋げていく。
しっかりとした数学力の修得や、中学・高校数学での教師をめざす学生向けのセミナーである。
毎回、宿題を出す。どのような方法でもよいので何とか解いてくること。自分で苦労して解いた後でなければ、簡単な別解のありがたさ理解できないからである。
■到達目標
少人数での課題探求型の学習によって、数学検定準１級をめざすことを通じ、数理情報学科での学修の目的意識を明確にしていく。
■講義方法
毎回問題を提示するので、事前にそれについて考えて、解答を書いてくること。
■授業時間外における予・復習等の指示
レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりすること。
■成績評価の方法
平常点（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
・毎回が連続した内容の少人数授業なので欠席は認めません。欠席したら、次回落ちこぼれて、ついていけなくなるからです。
・必修ではなく選択なので、自分から積極的に取り組む態度の学生のみを歓迎します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
・オフィスアワー：月曜日・木曜日　昼休み　於１－５４１
・緊急の場合等は shoji@math.ryukoku.ac.jp にメールを下さい。日時を調整します。
■講義計画
①数列の和とその意味
②漸化式の解法
③因数分解の基本公式
④等分多項式と円分多項式
⑤最大公約数とユークリッドの互除法
⑥ユークリッドの互除法の応用
⑦連立１次方程式と行列式
⑧２次方程式
⑨高次方程式
⑩対称性をもった不等式
⑪相加相乗平均とその応用
⑫コーシー・シュワルツの不等式と応用
⑬凸関数と不等式への応用
⑭ルジャンドルの補間公式
⑮まとめ

グラフィックス基礎・演習（2007年度以降入学生）

【担当】中野　浩
【開講】前期　火１・火２

■サブタイトル
Java言語によるオブジェクト指向とグラフィックス入門

■講義概要
Java は比較的新しいプログラミング言語で、C言語に似た文法を持っていますが、オブジェクト指向と呼ばれる考え方に基づいたプログラミングを行うことを意識して設計されています。 Javaは普通のパソコンから携帯電話までいろいろな機器の上で動作し、標準化された豊富なライブラリ群が用意されていますので、あまり細かいことを意識しなくてもグラフィックス（図形の描画など）や、マウス、キーボードの処理を行ったり、あらかじめ用意されている部品（ボタンやメニューなど）を組み合わせて比較的容易にグラフィカルユーザインターフェース（GUI）を構築することができます。この科目では、Javaプログラミングを学びながら、オブジェクト指向プログラミングの考え方に触れ、グラフィックスの基本、グラフィカルユーザーインタフェースの仕組みやその構築法を学びます。

■到達目標
オブジェクト指向のプログラミングの考え方を知る。 オブジェクト、クラス、インターフェイス、継承など、オブジェクト指向プログラミングに付随するいろいろな概念を理解する。画面の描画（グラフィックス）に関する基本的な手法を学ぶ。グラフィカルユーザーインターフェース（GUI）の構築法を知る。

■講義方法
配布資料に沿って講義を行います。これと並行して情報処理実習室でのJavaプログラミングの演習を行います。

■系統的履修
計算機基礎実習Ⅰと計算機基礎実習Ⅱやプログラミング・演習で学んだ内容が前提となります。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業前に配布資料の内容の予習が必須です。指定の参考書の購入をお勧めします。また、講義内容の復習やプログラミングの演習課題のために授業時間外にも相当の時間を費やすことが必要です。

■成績評価の方法
期末試験（100点満点）と平常点（プログラミング課題と適宜行う小テスト）で評価します。期末試験が x点、平常点の得点率が y%の場合、総合的な成績は x+（100－x）y/400（端数切り捨て）となります。

■テキスト
特になし

■参考文献
立木秀樹、有賀妙子 『すべての人のためのJavaプログラミング 第2版』 共立出版 2,800円

■履修上の注意・担当者からの一言
初めて担当する科目ですので、授業の進み具合や小テストの結果などによって、講義計画を一部変更することがあるかもしれません。

■講義計画
①Javaとは
②オブジェクトの生成とメソッドの起動
③クラス定義
④メソッドの継承と再定義
⑤コンストラクタ
⑥配列
⑦変数とメソッドのまとめ
⑧クラス定義のまとめ
⑨GUI入門
⑩図形の描画
⑪インタフェースとイベント処理
⑫画像の処理
⑬スレッドと例外処理
⑭Swingコンポーネント
⑮まとめ

グラフィックス基礎（～2006年度以前入学生）

【担当】中野　浩
【開講】前期　火１

■サブタイトル
Java言語によるオブジェクト指向とグラフィックス入門

■講義概要
Java は比較的新しいプログラミング言語で、C言語に似た文法を持っていますが、オブジェクト指向と呼ばれる考え方に基づいたプログラミングを行うことを意識して設計されています。 Javaは普通のパソコンから携帯電話までいろいろな機器の上で動作し、標準化された豊富なライブラリ群が用意されていますので、あまり細かいことを意識しなくてもグラフィックス（図形の描画など）や、マウス、キーボードの処理を行ったり、あらかじめ用意されている部品（ボタンやメニューなど）を組み合わせて比較的容易にグラフィカルユーザインターフェース（GUI）を構築することができます。この科目では、Javaプログラミングを学びながら、オブジェクト指向プログラミングの考え方に触れ、グラフィックスの基本、グラフィカルユーザーインタフェースの仕組みやその構築法を学びます。

■到達目標
オブジェクト指向のプログラミングの考え方を知る。 オブジェクト、クラス、インターフェイス、継承など、オブジェクト指向プログラミングに付随するいろいろな概念を理解する。画面の描画（グラフィックス）に関する基本的な手法を学ぶ。グラフィカルユーザーインターフェース（GUI）の構築法を知る。

■講義方法
配布資料に沿って講義を行います。

■系統的履修
グラフィックス基礎実習と同時に受講することを強く推奨します。計算機基礎実習Ⅰ、同Ⅱやプログラミングおよび実習Ⅰ、同IIで学んだ内容が前提となります。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業前に配布資料の内容の予習が必須です。指定の参考書の購入をお勧めします。また、講義内容の復習やプログラミングの演習課題のために授業時間外にも相当の時間を費やすことが必要です。

■成績評価の方法
期末試験（100点満点）と平常点（適宜行う小テスト）で評価します。期末試験が x点、平常点の得点率が y%の場合、総合的な成績は x+（100－x）y/400（端数切り捨て）となります。

■テキスト
特になし

■参考文献
立木秀樹、有賀妙子 『すべての人のためのJavaプログラミング 第2版』 共立出版 2,800円

■履修上の注意・担当者からの一言
初めて担当する科目ですので、授業の進み具合や小テストの結果などによって、講義計画を一部変更することがあるかもしれません。

■講義計画
①Javaとは
②オブジェクトの生成とメソッドの起動
③クラス定義
④メソッドの継承と再定義
⑤コンストラクタ
⑥配列
⑦変数とメソッドのまとめ
⑧クラス定義のまとめ
⑨GUI入門
⑩図形の描画
⑪インタフェースとイベント処理
⑫画像の処理
⑬スレッドと例外処理
⑭Swingコンポーネント
⑮まとめ

グラフィックス基礎実習（～ 2006年度以前入学生）

【担当】中野　浩
【開講】前期　火2

■サブタイトル
Java言語によるオブジェクト指向とグラフィックス入門

■講義概要
Java は比較的新しいプログラミング言語で、C言語に似た文法を持っていますが、オブジェクト指向と呼ばれる考え方に基づいたプログラミングを行うことを意識して設計されています。 Javaは普通のパソコンから携帯電話までいろいろな機器の上で動作し、標準化された豊富なライブラリ群が用意されていますので、あまり細かいことを意識しなくてもグラフィックス（図形の描画など）や、マウス、キーボードの処理を行ったり、あらかじめ用意されている部品（ボタンやメニューなど）を組み合わせて比較的容易にグラフィカルユーザインターフェース（GUI）を構築することができます。この科目では、Javaプログラミングを学びながら、オブジェクト指向プログラミングの考え方に触れ､グラフィックスの基本､グラフィカルユーザーインタフェースの仕組みやその構築法を学びます。

■到達目標
オブジェクト指向のプログラミングの考え方を知る。 オブジェクト、クラス、インターフェイス、継承など、オブジェクト指向プログラミングに付随するいろいろな概念を理解する。画面の描画（グラフィックス)に関する基本的な手法を学ぶ｡グラフィカルユーザーインターフェース（GUI）の構築法を知る。

■講義方法
情報処理実習室でのプログラミング実習。

■系統的履修
グラフィックス基礎と同時に受講することを強く推奨します。計算機基礎実習Ⅰ、同Ⅱやプログラミングおよび実習Ⅰ、同Ⅱで学んだ内容が前提となります。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業前に配布資料の内容の予習が必須です。指定の参考書の購入をお勧めします。また、プログラミングの演習課題のために授業時間外にも相当の時間を費やすことが必要です。

■成績評価の方法
平常点（100%）プログラミング課題など毎回の授業の提出物に対する評価

■テキスト
特になし

■参考文献
立木秀樹、有賀妙子 『すべての人のためのJavaプログラミング 第2版』 共立出版 2,800円

■履修上の注意・担当者からの一言
初めて担当する科目ですので、授業の進み具合や小テストの結果などによって、授業計画を一部変更することがあるかもしれません。

■講義計画
①Javaとは
②オブジェクトの生成とメソッドの起動
③クラス定義
④メソッドの継承と再定義
⑤コンストラクタ
⑥配列
⑦変数とメソッドのまとめ
⑧クラス定義のまとめ
⑨GUI入門
⑩図形の描画
⑪インタフェースとイベント処理
⑫画像の処理
⑬スレッドと例外処理
⑭Swingコンポーネント
⑮まとめ

学科固有

計算科学Ⅰ

【担当】池田　勉
【開講】後期　月2

■サブタイトル
フーリエ級数展開・力学的な運動の数値シミュレーション

■講義概要
最初に、Linux の基本的なコマンドを復習し、ファイルを分別することなどにより、Linux の利用環境を整えます。
信号処理に現れる三角波、ノコギリ波、パルス波などだけではなく、周期を持つ波（同じ形を繰り返す波）は、簡単なものも複雑なものも、単純な波（正弦波と余弦波）を足し合わせることによって近似できます。この作業を「周期関数をフーリエ級数展開によって近似する」といいます。２番目にフーリエ級数展開の基礎との適用方法を学修します。
最後に、常微分方程式系の数値計算法を学びます。振り子などの力学的な運動は常微分方程式系によって表現されますから、数値計算を行うことによって現象をシミュレートすることができます。

■到達目標
１．Linux の利用環境を整備すること。
２．フーリエ係数の計算方法を習得し、フーリエ係数を計算するプログラムを作成すること。
３．高速フーリエ変換のプログラムを適用することによって「音色」とエネルギースペクトルの関係を体験すること。
４．常微分方程式系の数値計算法を学習し、解軌道の可視化などによってダイナミクスを理解するスキルを取得すること。
５．数値計算によるアニメーションを体験すること。

■講義方法
「計算科学Ⅰ」は「計算科学演習Ⅰ」とペアで履修しなさい。「計算科学Ⅰ」では、担当教員が作成･配付する要点ノートに沿って解説・講義をします。実習とのペアで一回一回完結させる形で運営します。達成感が得られるように、例題を学生が黒板上で解くことなどによって講義を参加型のものにします。

■系統的履修
必ず「計算科学演習Ⅰ」と並行履修して下さい。「数値計算法」、「数値計算法演習」、「数理モデル基礎・演習Ⅰ」、「力学」の延長線上のある科目です。「数理モデル基礎・演習Ⅱ」を合わせて履修することが望ましいでしょう。

■授業時間外における予・復習等の指示
受講者は、配布する講義資料およびサンプルプログラムを利用して、十分に予習・復習をすることが期待される。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）宿題型の小テスト
小テスト（15%）小テスト（講義資料・ノートの持込可、担当教員への質問可）
レポート（5%）
定期試験（60%）ウェブページに過去問と解答例を公開、筆記用具以外は持込不可
１．最高評価100点の範囲内でボランティア・ポイントを加算します。
２．出席を確認することがあります。出席の確認は、不特定少数の学生に対してのみ行われることがあります。欠席の場合は、成績評価の際に減点します。

■テキスト
特になし

■参考文献
皆本晃弥・坂上貴之 『GIMP/GNUPLOT/Tgifで学ぶグラフィック処理』 サイエンス社　2,310円
大竹敢 『使いこなすＧＮＵＰＬＯＴ』 テクノプレス　2,625円
船越満明 『キーポイントフーリエ解析』 岩波書店　2,520円
藤原毅夫、栄伸一郎 『フーリエ解析＋偏微分方程式』 裳華房　2,625円
戸川隼人 『ＵＮＩＸワークステーションによる科学技術計算ハンドブック』 サイエンス社　3,990円
川村哲也 『数値計算入門』 サイエンス社　1,680円
水島二郎 『理工学のための数値計算法』 数理工学社　2,100円
森口繁一ら 『C による算法通論』 東京大学出版会　2,625円

■履修上の注意・担当者からの一言
１．欠席などのため、講義･演習の資料を貰えなかった場合は、ウェブページからダウンロードして下さい。
２．期末に実施される＜学生による授業評価調査＞の結果はウェブを通して公表します。【この授業の改善すべき点は何ですか】への記述内容と担当者の反応および【あなたのこの授業への取り組みを振り返って自由に書いてください】への記述内容もウェブを通して公表します。
３．過去の定期試験問題と解答例、成績評価の分布などもウェブページに公開されています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
１．オフィスアワーについては、掲示およびウェブページ（http://www.math.ryukoku.ac.jp/index.shtml）を通して理工学部数理情報学科から連絡されます。
２．担当教員へは電子メール（tsutomu@rins.ryukoku.ac.jp）によって連絡して下さい。

■講義計画
①コンソールを開く、基本的なコマンド、ファイルやディレクトリの名称、ファイルの分別、ワイルドカード、オンラインマニュアル
②三角関数のグラフ・加法定理・合成・積和公式・半角の公式、周期関数の周期・周波数
③正弦波と余弦波の正規直交性
④Grapes で聴く、波形エディタで聴く
⑤偶関数・奇関数、パルス波、三角波、正弦波の上半分、ノコギリ波
⑥台形則、周波数変調波
⑦離散データの三角関数による表現､高速フーリエ変換（FFT）
⑧楽器の音（flute, harp, piano, tuba, violin）、猫の鳴き声、犬の鳴き声
⑨初期値問題とその数値解法（4 次の Runge-Kutta 法）、自律系の平衡点・相図
⑩ロジステック方程式、ＣＲ回路
⑪自律系のヌルクライン・平衡点・解曲線
⑫速度に比例する抵抗を受けるバネ－おもり系、ＬＣＲ回路、えじき-捕食者系
⑬単振り子、van der Pol 方程式
⑭バネ－おもり系、えじき－捕食者系、van der Pol 方程式
⑮単振り子、二重振り子

学科固有

計算科学Ⅱ

【担当】樋口　三郎
【開講】前期　水3

■サブタイトル
現象の確率モデル

■講義概要
この授業では、複雑な現象を確率を含んだルールを導入することで簡単にモデル化する確率モデルのいくつかを紹介します。また、コンピュータで確率モデルのシミュレーションを行い、得られたデータを解析するための理論と技術を説明します。

■到達目標
現象の確率モデルとは何か、例をあげて説明できる。
離散、連続な確率変数の確率（密度）分布、期待値、平均、分散の意味を説明し、計算することができる。

■講義方法
計算科学IIは週に1回の講義からなる授業ですが、計算科学演習IIと一体の週2回授業として実施します。

■系統的履修
並行して計算科学実習Ⅱを履修することを前提とします。予備知識として、数値計算法/演習、確率統計・演習I程度の数学とコンピュータの知識を仮定します。現象の数学Aは深く関係する内容であり、あわせて受講を奨めます。

■授業時間外における予・復習等の指示
必要な予習・復習は、この授業または計算科学演習IIの時間内および授業サポート hig3.net で毎回指示します。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）予習復習、授業時間内のquiz、アンケートへの反応などの合計です。
小テスト（30%）プチテストとよんでいます。1回。
定期試験（50%）ファイナルトライアルとよんでいます。1回。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の情報は授業サポート hig3.net で提供しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業サポート hig3.net を参照してください。

■講義計画
①離散型確率変数と疑似乱数
②期待値・平均・分散
③確率過程と離散座標ランダムウォーク
④ラグランジュ表現オイラー表現
⑤確率分布関数の時間発展
⑥生成関数の方法
⑦拡散方程式の数値計算
⑧離散型確率変数としてのプチテスト得点
⑨連続型確率変数と連続座標ランダムウォーク
⑩確率密度関数の変数変換と連続値疑似乱数
⑪逆関数法による擬似乱数の生成
⑫中心極限定理
⑬統計誤差と区間推定
⑭棄却法による疑似乱数の生成
⑮疑似乱数を用いた数値積分

計算科学演習Ⅰ（2007年度以降入学生）
計算科学実習Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】池田　勉
【開講】後期　月3

■サブタイトル

フーリエ級数展開・力学的な運動の数値シミュレーション

■講義概要

最初に，Linux の基本的なコマンドを復習し，ファイルを分別することなどにより，Linux の利用環境を整えます．

信号処理に現れる三角波，ノコギリ波，パルス波などだけではなく，周期を持つ波（同じ形を繰り返す波）は，簡単なものも複雑なものも，単純な波（正弦波と余弦波）を足し合わせることによって近似できます．この作業を「周期関数をフーリエ級数展開によって近似する」といいます．２番目にフーリエ級数展開の基礎との適用方法を学修します．

最後に，常微分方程式系の数値計算法を学びます．振り子などの力学的な運動は常微分方程式系によって表現されますから，数値計算を行うことによって現象をシミュレートすることができます．

■到達目標

１．Linux の利用環境を整備すること．
２．フーリエ係数の計算方法を習得し，フーリエ係数を計算するプログラムを作成すること．
３．高速フーリエ変換のプログラムを適用することによって「音色」とエネルギースペクトルの関係を体験すること．
４．常微分方程式系の数値計算法を学習し，解軌道の可視化などによってダイナミクスを理解するスキルを取得すること．
５．数値計算によるアニメーションを体験すること．

■講義方法

「計算科学演習Ⅰ」は「計算科学Ⅰ」とペアで履修して下さい．「計算科学演習Ⅰ」では，実習形式によるプログラム作成と講義形式による解説を行います．講義とのペアで一回一回完結させる形で運営します．達成感が得られるように，教員と学生，ＴＡと学生，さらに，学生同士のデスカッションを推奨します．早くできた学生は他の学生を指導するよう期待され，ボランティア・ポイントという形で成績評価に反映されます．

■系統的履修

必ず「計算科学Ⅰ」と並行履修して下さい．「数値計算法」,「数値計算法演習」,「数理モデル基礎・演習Ⅰ」,「力学」の延長線上のある科目です．「数理モデル基礎・演習Ⅱ」を合わせて履修することが望ましいでしょう．

■授業時間外における予・復習等の指示

受講者は，配布する講義資料およびサンプルプログラムを利用して，十分に予習・復習をすることが期待される．

■成績評価の方法

平 常 点（20%）演習・実習の達成状況（締切に遅れた場合もチェックして貰えます）
小テスト（15%）講義・実習資料・ノートの持込可，ＴＡへの質問可
レポート（5%）
定期試験（60%）プログラムを作成し，実行結果を提出する形で実施されます

１．最高評価100点の範囲内でボランティア・ポイントを加算します．
２．出席を確認することがあります．出席の確認は．不特定少数の学生に対してのみ行われることがあります．欠席の場合は，成績評価の際に減点します．

■テキスト

特になし

■参考文献

皆本晃弥・坂上貴之 『GIMP/GNUPLOT/Tgifで学ぶグラフィック処理』 サイエンス社　2,310円
大竹敢 『使いこなすＧＮＵＰＬＯＴ』 テクノプレス　2,625円
船越満明 『キーポイントフーリエ解析』 岩波書店　2,520円
藤原毅夫，栄伸一郎 『フーリエ解析＋偏微分方程式』 裳華房　2,625円
戸川隼人 『ＵＮＩＸワークステーションによる科学技術計算ハンドブック』 サイエンス社　3,990円
川村哲也 『数値計算入門』 サイエンス社　1,680円
水島二郎 『理工学のための数値計算法』 数理工学社　2,100円
森口繁一ら 『C による算法通論』 東京大学出版会　2,625円

■履修上の注意・担当者からの一言

１．欠席などのため，講義･演習の資料を貰えなかった場合は，ウェブページからダウンロードして下さい．
２．期末に実施される＜学生による授業評価調査＞の結果はウェブを通して公表します．【この授業の改善すべき点は何ですか】への記述内容と担当者の反応および【あなたのこの授業への取り組みを振り返って自由に書いてください】への記述内容もウェブを通して公表します．
３．過去の定期試験問題と解答例，成績評価の分布などもウェブページに公開されています．

■オフィスアワー・教員への連絡方法

１．オフィスアワーについては，掲示およびウェブページ（http://www.math.ryukoku.ac.jp/index.shtml）を通して理工学部数理情報学科から連絡されます．
２．担当教員へは電子メール（tsutomu@rins.ryukoku.ac.jp）によって連絡して下さい．

■講義計画

①コンソールを開く，基本的なコマンド，ファイルやディレクトリの名称，ファイルの分別，ワイルドカード，オンラインマニュアル
②三角関数のグラフ・加法定理・合成・積和公式・半角の公式，周期関数の周期・周波数
③正弦波と余弦波の正規直交性
④Grapes で聴く，波形エディタで聴く
⑤偶関数・奇関数，パルス波，三角波，正弦波の上半分，ノコギリ波
⑥台形則，周波数変調波
⑦離散データの三角関数による表現，高速フーリエ変換（FFT）
⑧楽器の音（flute, harp, piano, tuba, violin），猫の鳴き声，犬の鳴き声
⑨初期値問題とその数値解法（4 次の Runge-Kutta 法），自律系の平衡点・相図
⑩ロジステック方程式，ＣＲ回路
⑪自律系のヌルクライン・平衡点・解曲線
⑫速度に比例する抵抗を受けるバネ-おもり系，ＬＣＲ回路，えじき-捕食者系
⑬単振り子，van der Pol 方程式
⑭バネ-おもり系，えじき-捕食者系，van der Pol 方程式
⑮単振り子，二重振り子

計算科学演習Ⅱ（2007年度以降入学生）
計算科学実習Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】樋口　三郎
【開講】前期　金2

■サブタイトル
コンピュータで確率モデル

■講義概要
計算科学Ⅱで扱う確率モデルを例に、確率モデルをコンピュータで解析する方法を学びます。

■到達目標
与えられた離散的・連続的な確率分布に従う疑似乱数を発生するプログラムを作成できる。 確率的な現象を、疑似乱数を利用してシミュレートするプログラムを作成できる。シミュレーションで得られたサンプルを表計算ソフトウェアや統計計算ソフトウェアを利用して分析し、母分布のパラメタを推定することができる。

■講義方法
計算科学演習IIは週に1回の演習からなる授業ですが、計算科学IIと一体の週2回授業として実施します。
計算科学演習IIでは主に学生が個人またはグループで、TAからアドバイスを受けつつ作業を進めます。
計算機実習室で、Windows Vista、Visual C++ 2007、Excel 2007、R を主に使用します。
一部の回では、学生の（2名以上の）グループ分けを指定し、グループ単位の活動と評価を行います。

■系統的履修
並行して計算科学IIを履修することを前提とします。予備知識として、数値計算法/演習、確率統計・演習I程度の数学とコンピュータの知識を仮定します。

■授業時間外における予・復習等の指示
予習すべき内容は各回の計算科学IIで指示します。各回の計算科学演習IIの課題を完成するためには、授業時間外にも、計算機実習室および自宅のコンピュータを用いての自習が必要です。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）毎回の課題のquiz、時間外の課題で評価します。
小テスト（80%）プチテストとよんでいます。3回。資料参照制限下でプログラムを作成します。

■テキスト
特になし

■参考文献
平岡和幸、堀玄 『プログラミングのための確率統計』 オーム社　3,150円
宇土顕彦 『効率よく学ぶCプログラミング』 コロナ社　2,100円

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の情報は授業サポート hig3.net で提供しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業サポート hig3.net を参照してください.

■講義計画
①疑似乱数の生成
②ラグランジュ表示での離散ランダムウォークのシミュレーション
③期待値・平均・分散の推定
④春のプチテスト
⑤オイラー表示での離散ランダムウォークのシミュレーション
⑥確率分布の可視化
⑦拡散方程式と1次元セルオートマトン
⑧連続値疑似乱数
⑨初夏のプチテスト
⑩連続座標ランダムウォーク
⑪逆関数法による擬似乱数生成
⑫確率密度関数の可視化と中心極限定理
⑬区間推定と統計誤差
⑭真夏のプチテスト

計算機援用数学（2007年度以降入学生）
固有値問題（2006年度以前入学生）

【担当】山岸　義和
【開講】後期　金1

■講義概要
計算機を援用した幾何学のいくつかの話題について学ぶ。

■到達目標
数学ソフトを用いて、曲線・曲面の描画や、微分積分などの数式処理計算ができる。

■講義方法
板書で講義することが多い。適宜、幾何学関連のソフトウエアや数式処理ソフトを用いることがある。受講生の習熟度に応じて講義計画を変更することがある。

■授業時間外における予・復習等の指示
ほぼ毎週、課題を出す予定。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
一松信 『正多面体を解く』 東海大学出版会　2,100円
阿原一志 『ハイプレイン』 日本評論社　2,940円

■講義計画
①曲面の微分幾何（1）さまざまな曲面
②ひまわりの葉序（1）フィボナッチ数
③ペンローズタイル（1）凧と矢
④曲面の微分幾何（2）ガウス曲率、平均曲率
⑤ひまわりの葉序（2）複素数、連分数
⑥ペンローズタイル（2）updown generation
⑦曲面の微分幾何（3）極小曲面
⑧ひまわりの葉序（3）三角形の螺旋タイリング
⑨ペンローズタイル（3）置き換え規則
⑩曲面の微分幾何（4）トーラスを切る
⑪ひまわりの葉序（4）葉序の折り紙
⑫ペンローズタイル（4）切断射影集合
⑬ハイプレイン
⑭さまざまなタイリングと折り紙
⑮まとめ

計算機システムⅠ（2007年度以降入学生）
情報処理システムⅡ（2006年度以前入学生）

【担当】佐野　彰
【開講】前期　木3

■サブタイトル
CPUを設計する
■講義概要
計算機は 0・1 の2値ディジタル情報を内部表現とし、論理回路と呼ばれるディジタル演算素子の組み合わせで実現されています。この講義の前半では、2値ディジタル情報表現とその基礎となるブール代数やブール（論理）関数を学びます。また、ブール代数で定義される論理演算を、電子回路（論理回路）として実現する方法を考えます。講義の後半では、これらの論理回路を用いて単純なCPUを設計していくことで、CPUの様々な構成要素として必要とされる、組み合わせ論理回路や順序回路などの構造や原理を考えていきます。
■到達目標
計算機が多種多様になっている現在、「2値ディジタル表現によって計算機が実現されている」ということを知識として知っていても、それが具体的にどのように実現されているのかを知る機会はあまりないと思います。単純な2値表現と論理回路によるデータの流れによって、CPU上の演算がどのように具体化され、皆さんの書くプログラムがどのように実現されているのかがイメージできるようになることを期待しています。
■講義方法
板書とプロジェクタを併用します。
■系統的履修
「情報処理の基礎」の内容を継承しています。「集合と位相・演習」を同時に履修していると理解が容易になるかもしれません。より実際的な計算機システムの構成原理として「計算機システムII」へと接続します。
■授業時間外における予・復習等の指示
各回の内容を積み上げる形式で講義を進めるので、毎回の講義内容はきちんと復習して次回までに理解しておいて下さい。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）講義中の発言なども評価したいと思います。
定期試験（80%）
講義を通して課題などを課した場合は、それらも評価に含めます。
■テキスト
必要に応じてプリントを配布します。
■参考文献
南谷崇 『論理回路の基礎』 サイエンス社　2,100円
渡波郁 『CPUの創りかた』 毎日コミニュケーションズ　2,800円
■履修上の注意・担当者からの一言
理解度や進行に合わせて講義内容や順序を変更することがあります。
■講義計画
①2値符号と2進数
②2進数の演算とn進数
③ブール代数と基本論理回路
④論理関数と標準展開
⑤組み合わせ論理回路
⑥トランジスタと基本論理回路
⑦メモリ
⑧CPUの構成と機械語
⑨フリップ・フロップ
⑩1ビットCPU
⑪レジスタとデータセレクタ
⑫加算器とキャリーフラグ
⑬プログラムカウンタ
⑭命令デコーダとカルノー図
⑮CPUの処理速度とパイプライン

計算機システムⅡ（2007年度以降入学生）
計算機アーキテクチャ（2006年度以前入学生）

【担当】中野　浩
【開講】後期　火1

■サブタイトル
計算機アーキテクチャとオペレーティングシステム入門
■講義概要
パソコンなどの計算機の標準的なハードウェアの仕組みをCPUの命令セットを中心に解説します。また、Windows、Linux、Mac OS X などのオペレーティングシステムの核となる部分（カーネル）の役割と仕組みについて学びます。
■到達目標
自分の書いたCプログラムが、なぜ動いてくれるのか、その仕組みを理解することが目標です。
■講義方法
配布資料に沿って講義を行ないます。
■系統的履修
情報処理の基礎（旧情報処理システムI）、計算機システムI（旧情報処理システムII）の内容が前提となります。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業時間以外の学習を前提に授業を進めます。　第2回以降の授業の資料は事前に配布しますので、十分予習してください。ほぼ毎回演習課題が宿題に出ます。
■成績評価の方法
期末試験（100点満点）と提出された演習課題等で評価します。期末試験が x点、課題の得点率が y%　の場合、総合的な成績は x+（100－x）y/400（端数切り捨て）となります。
■テキスト
特になし
■参考文献
矢沢久雄『コンピュータはなぜ動くのか』日経BP社　2,520円
デイビッド･A･パターソン、ジョン･L･ヘネシー 『コンピュータの構成と設計 第4版（上）』 日経BP社　4,410円
デイビッド･A･パターソン、ジョン･L･ヘネシー 『コンピュータの構成と設計 第4版（下）』 日経BP社　4,200円
大久保英嗣 『オペレーティングシステムの基礎』 サイエンス社　1,680円
アンドルー・S. タネンバウム 『モダン オペレーティング システム 原書 第2版』 ピアソン・エデュケーション・ジャパン　7,350円
■講義計画
①プログラムが動くということ
②CPUとメモリ
③データ転送命令と演算命令
④分岐命令
⑤キャッシュメモリ
⑥パイプライン処理
⑦プログラミングへの応用
⑧オペレーティングシステムの役割
⑨カーネル
⑩プログラムとプロセス
⑪システムコール
⑫ファイルシステム
⑬メモリ管理
⑭仮想記憶システム
⑮ライブラリ、サービス、シェル

学科固有

現象の数学A（2007年度以降入学生）
現象の数学Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】四ツ谷　晶二
【開講】前期　月3

■サブタイトル
熱伝導・拡散現象の数学

■講義概要
・熱伝導・拡散現象に焦点を絞り、数理モデルによる表現とその解法について解説する。
・まず、空間が連続な場合の偏微分方程式で表される拡散方程式（熱方程式）、および、その定常問題である楕円型方程式について解説する。
その際の基本的な道具はフーリエによって発見されたフーリエ級数展開である。
・フーリエ級数展開とその無限区間バージョンであるフーリエ変換の基本的な事項についても解説を行う。
・偏微分方程式を直感的に理解するには、対応する差分方程式を考えることが不可欠である。このことについても解説する。

■到達目標
自然現象を理解するための数理モデルの構築と、数学的な解析方法をマスターする。

■講義方法
講義の合間に演習を入れる。

■系統的履修
数理モデル基礎および演習ⅠとⅡ

■授業時間外における予・復習等の指示
レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりすること。

■成績評価の方法
小テスト（30%）適宜、小テストを行う
レポート（30%）適宜、レポート提出を課す
定期試験（40%）
拡散モデルの数学的な扱いを学習しますが、いままでの数学系の科目と違って新しい概念を理解する必要があります。ただ計算できれば良いという考えでは、ついていくのが大変です。

■テキスト
特に無し。適宜、プリントを用意します。

■参考文献
E.クライツィグ著　岡部訳 『フーリエ解析と偏微分方程式』
培風館　1,700円

■履修上の注意・担当者からの一言
線形代数と微積分のしっかりした基礎学力が必要です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー：月曜日・木曜日の昼休み
e-mail: shoji@math.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①常微分方程式の基礎事項
②拡散現象
③境界値問題とフーリエの方法
④いろいろな境界値問題
⑤フーリエ級数展開
⑥フーリエ正弦展開・余弦展開
⑦フーリエ級数展開の応用と発展
⑧拡散方程式の初期値問題
⑨フーリエ変換の基礎事項
⑩フーリエ変換の応用
⑪拡散方程式の定常問題
⑫ポアソン方程式の解法
⑬差分法で理解を深める
⑭比較定理と最大値原理
⑮まとめ

現象の数学B（2007年度以降入学生）
現象の数学Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】飯田　晋司
【開講】後期　火3

■サブタイトル
振動と波動の力学

■講義概要
地球の生命の源である太陽エネルギーは光（電磁波）で運ばれます。人間は視覚や聴覚を持っていますが、これは可視光(電磁波)や音(音波)が情報を運ぶことを利用したセンサーです。これらはすべて、波動方程式という2階偏微分方程式で記述される現象です。この科目では波動方程式の性質や解き方を学びます。
波動方程式は、物理数学・演習IIで学んだ単振動を無限個集めて《組み合わせた》ものと見なせます。そこで、単振動の復習から始めて、次にばねでつながれた2個の物体の運動（連成振動）を考えます。ここでは数理モデル基礎・演習IIが役立ちます。さらに、N個の物体がばねで1列につながれている場合を考え、最終的にN→∞の極限として波動方程式を導きます。波動方程式には専用の解法がいくつかあります.世の中の多くのものの背後には振動と波動があることがわかってもらえるものと思います。

■到達目標
N自由度の連成振動の運動方程式が解ける。波動方程式が解ける。

■講義方法
週に1回の講義からなる授業です。講義の時間内にある程度の演習を行います。

■系統的履修
この科目は現象の数学Aの続きではありません。1年次の数学・物理系必修科目に加えて、数理モデル基礎・演習Iの内容はこの科目の前提です。

■授業時間外における予・復習等の指示
各回の講義は、それまでの講義内容の理解を前提としています。オフィスアワー、チューター、序論などを利用して理解が不十分な点を残したままにしないようにしてください。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
小形正男 『振動・波動』 裳華房　2,000円

■講義計画
①単振動 − 調和振動子
②複数のばねの力による振動
③微小振動 − 一般のポテンシャルの平衡点の近くでの振動
④2個の物体の連成振動
⑤連成振動 − 基準座標
⑥連成振動 − 固有周波数と固有モード
⑦うなり
⑧3個の物体の連成振動 − 固有モードと基準座標
⑨N個の物体の連成振動1
⑩N個の物体の連成振動2
⑪無限個の物体の連成振動 − 波動方程式の導出
⑫波動方程式の固有モード
⑬波動方程式の初期値境界値問題
⑭波動方程式の初期値境界値問題のフーリエ級数解
⑮波動方程式のダランベール（進行波）解

集合と位相・演習（2007年度以降入学生）
集合・位相および演習（2006年度以前入学生）

【担当】國府　宏枝
【開講】前期　木1・木2

■サブタイトル
収束と連続の定義にこだわってみよう！

■講義概要
高校まで、数学の世界は数直線か広くても平面どまりでした。でもこれからは、ベクトル全体の空間とか、微分方程式の解全体の空間とか、関数全体の空間とか、大胆な空間をいろいろ考えていきたいのです。
1変数関数はグラフに書くとよくわかりました。しかし､2変数関数f(x,y)では、値の収束先が（x,y）の（0,0）への近づけ方によって変わるというショッキングなことがあるのでした。平面にしてこれですから、もっと大胆な空間では何が起きるかわかったものではありません。その基礎をしっかりするために、収束や連続の定義を考え直していきます。あわせて､数学的な（ちょっと抽象的な）考え方に出会います。数学じゃなくて国語みたいでショック受ける人もいるかも? でもこれが数学。

■到達目標
ユークリッド空間の点列の収束や、ユークリッド空間上の関数の連続性が成立するかどうか直観的にビビビッとわかり、証明もできるようになること。証明が好きになることを目標にします。

■講義方法
1週間に講義演習を1講時ずつ行います。2013年度は木1が講義､木2が演習です。

■系統的履修
直接に必要な予備知識は日本語だけですが、微積分や線形代数の例を使うこともあるので、その辺がよくわかっているのはプラスです。また、3,4年次の数学系科目の多くは、この科目で学んだ言葉を使って語られることになります。

■授業時間外における予・復習等の指示
演習の問題のうちいくつかを宿題とします。次の時間に提出できるよう準備してください。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（50%）
定期試験（40%）
上記以外、+点で、突発的な課題が出るかもしれません。合計が100点以上になる場合は100点とみなします。

■テキスト
鈴木晋一　『集合と位相への入門:ユークリッド空間の位相』　サイエンス社　1,733円

■参考文献
鈴木晋一　『理工基礎 演習集合と位相』　サイエンス社　1,943円
一楽重雄（監修）『集合と位相そのまま使える答えの書き方』　講談社　2,100円
1冊目はテキストと密接に対応した演習書。2冊目は別の視点から丁寧に解説した演習書＋要点のまとめ。
図書館や書店で自分にあった本を探す場合は「(一般) 位相」「位相空間（論）」を探しましょう。「位相幾何（学）」は名前は似てるけどとりあえず別の分野です。「トポロジー」はあたりの場合もはずれの場合もあります。

■履修上の注意・担当者からの一言
進路に合わせて、講義内容･講義計画の変更があるかもしれません。

■講義計画
①集合
②論理
③写像
④同値関係があったら同値類別しよう
⑤集合の大きさを測るのは濃度
⑥ユークリッド空間に慣れる
⑦前半まとめと小テストと解説
⑧開集合閉集合内点…
⑨境界点集積点触点
⑩「すべての」と「ある」を使い分けよう--収束の定義
⑪連続の定義
⑫いろんな空間-----コンパクト
⑬へんな距離で測ろう--三角不等式しかなくてもダイジョーブ！
⑭位相って何。
⑮まとめ

情報処理の基礎（2007年度以降入学生）
情報処理システムⅠ（2006年度以前入学生）

【担当】中野　浩
【開講】後期　水3

■サブタイトル
コンピュータは何をしているか?

■講義概要
いろいろな用途にコンピュータが使われています。Webブラウザを使ってネットサーフィンが出きるのも、家庭用ゲーム機で仮想世界を体験できるのも、洗濯機や炊飯器が簡単に使えるのも、コンピュータの働きのおかげです。ボタンを押した、マウスを動かしたといった現実の世界での出来事を、コンピュータはどのようにして知り、それをどのように処理し、どのように現実世界に反映させているのか、その仕組みを解説します。

■到達目標
日頃お世話になっているコンピュータがどのような仕組みで動いているのかを理解し、コンピュータを使うと何ができそうかといった事に関する感覚が養われることを期待しています。

■講義方法
配布した資料に沿って講義を行います。

■系統的履修
計算機基礎実習Ⅰ、計算機基礎実習Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示
第2回以降の授業の資料は事前に配布しますので、十分予習をしてください。

■成績評価の方法
期末試験（100点満点）と適宜行う小テストで評価します。期末試験が x点、小テストの得点率が y%の場合、総合的な成績は x+（100－x）y/200（端数切り捨て）となります。

■テキスト
特になし

■参考文献
久野靖『改訂2版 UNIXによる計算機科学入門』丸善　3,570円
矢沢久雄　『コンピュータはなぜ動くのか』　日経BP　2,520円

■講義計画
①計算機と情報
②アナログ情報とディジタル情報
③自然数の符号化
④文字列の符号化
⑤計算機の構成
⑥入出力装置の仕組み
⑦主記憶装置の仕組み
⑧補助記憶装置の仕組み
⑨論理素子
⑩演算装置の仕組み
⑪負の整数の符号化
⑫CPUの仕組み
⑬機械語プログラム
⑭プログラムとプロセス
⑮メモリ管理

数学序論

【担当】飯田　晋司、池田　勉
【開講】前期　金３

■サブタイトル
微積分・演習Ⅰ、線形代数・演習Ⅰ、物理数学・演習Ⅰを理解しよう

■講義概要
数学序論は数学系の授業（微積分･演習Ⅰ、線形代数･演習Ⅰ、物理数学・演習Ⅰ）をサポートする科目です。
高校までの数学を十分には習得していない場合、自分だけの力で不足分を補いながら、微積分･演習Ⅰ、線形代数･演習Ⅰ、物理数学・演習Ⅰに関して一定以上の理解レベルに到達するのは困難かも知れません。また、これらの授業は多くの学生を対象とした講義であり、授業での疑問がすぐに解決できるとは限りません。
数学序論では、授業時間に解決できなかった疑問を解決できるように、授業で出てくる演習問題や課題を自分で解けるようにＴＡや教員が指導します。
数学序論の単位は「増加単位」であり、卒業要件単位ではないことに注意して下さい。
また、受講登録をしていない学生も参加できますから、疑問や質問があるときには随時お出で下さい（受講登録をしていない学生には単位認定はできません）。

■到達目標
微積分・演習Ⅰ、線形代数・演習Ⅰ、物理数学・演習Ⅰ の授業での疑問を解決し、演習問題や課題を自分でしっかり解けるようになる。

■講義方法
数学序論は少数の学生を対象として演習形式で行います。
個々の学生のペースに沿って
　高校での数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、C
　微積分・演習Ⅰ
　線形代数・演習Ⅰ
　物理数学・演習Ⅰ で使われる数学
の内容を理解できるようにきめ細かにサポートします。

■授業時間外における予・復習等の指示
受講者は、微積分・演習Ⅰ、線形代数・演習Ⅰ、物理数学・演習Ⅰ の講義などで配布される資料などを利用して、十分な予習・復習を行うことが期待される。

■成績評価の方法
平常点（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
微積分・演習Ⅰ、線形代数・演習Ⅰ、物理数学・演習Ⅰのテキストやプリント

■履修上の注意・担当者からの一言
単に自習する時間として使ってもらっても構いません。分からないことが出てきたら質問するというような参加形態でも構いません。分からないことを貯めてしまわないように、「数学序論」を活用して下さい。

■講義計画
教員（飯田・池田が交代で担当）とＴＡが受講生からの質問に応じて指導します。

数値計算法

【担当】松木平　淳太
【開講】前期　金１

■講義概要
人工衛星の軌道計算、気象予測、金融におけるリスク計算、ロボットの制御、建築物の強度設計、宇宙の進化や銀河系の生成のシミュレーションなど、自然現象から工学、経済の分野に到るまで、数理モデルとコンピュータによる数値計算は非常に強力な解析ツールである。この講義では数値計算の基礎理論とそのプログラミング技法を学習する。プログラミング言語としてはC言語を使用する。

■到達目標
「数値計算法」、「数値計算法演習」を修得することによって、基本的な数値計算の能力が身につくはずである。この科目修得後、「計算科学I」、「計算科学I演習」を学んでほしい。

■講義方法
教科書・教員作成の資料によって通常の講義形式で授業を行う。なお、この講義は「数値計算法演習」とペアで履修することを前提とする。

■授業時間外における予・復習等の指示
予復習にあたっては、教科書、授業中配布の資料、Webページを有効に活用すること。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
定期試験（90%）

■テキスト
栗原正仁 『わかりやすい数値計算入門 [第2版]』 ムリスリ出版　2,250円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
この授業自体は他学科の学生でも履修可能であるが、この授業とペアになっている「数値計算法演習」は履修できないので、注意すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
連絡先：junta@rins.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①C言語の復習
②数の表現と誤差（2進数）
③数の表現と誤差（浮動小数点、誤差）
④漸化式
⑤打切り誤差（円周率、e の計算）
⑥打切り誤差（テイラー展開）
⑦前半のまとめ
⑧非線形方程式の求根（ニュートン法）
⑨非線形方程式の求根（2分法）
⑩数値積分（区分求積法、台形則）
⑪数値積分（シンプソン則、ロンバーグ積分）
⑫統計計算（平均、分散、偏差値）
⑬統計計算（最小2乗法）
⑭連立一次方程式
⑮総まとめ

数値計算法演習（2007年度以降入学生）
数値計算法実習（2006年度以前入学生）

【担当】松木平　淳太
【開講】前期　金2

■講義概要
「数値計算法」の講義に基づく実習を行う。内容については「数値計算法」の項を参照せよ。

■到達目標
「数値計算法」、「数値計算法演習」を修得することによって、基本的な数値計算の能力が身につくはずである。この科目修得後、「計算科学I」、「計算科学I演習」を学んでほしい。

■講義方法
「数値計算法」の講義で学んだ内容をもとに、オンラインで提示される課題に対して、プログラム作成等を各自が行う。プログラム作成上の質問に対しては、教員・T.A.が個別に指導する。

■授業時間外における予・復習等の指示
予復習にあたっては、教科書、授業中配布の資料、Webページを有効に活用すること。

■成績評価の方法
平常点（100%）毎回出される課題に対して、教員とT.A.が達成度を評価し、その総合点を成績とする。

■テキスト
栗原正仁　『わかりやすい数値計算入門』　ムリスリ出版　2,205円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
課題は授業時間内に完成できるとは限らないので、授業時間外も時間を割かれることを覚悟すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー：
連絡先：junta@rins.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①C言語の復習
②数の表現と誤差（2進数）
③数の表現と誤差（浮動小数点、誤差）
④漸化式
⑤打切り誤差（円周率、e の計算）
⑥打切り誤差（テイラー展開）
⑦前半のまとめ
⑧非線形方程式の求根（ニュートン法）
⑨非線形方程式の求根（2分法）
⑩数値積分（区分求積法、台形則）
⑪数値積分（シンプソン則、ロンバーグ積分）
⑫統計計算（平均、分散、偏差値）
⑬統計計算（最小2乗法）
⑭連立一次方程式（掃出し法）
⑮総まとめ

学科固有

数理計画法

【担当】山下　信雄
【開講】後期　木2

■サブタイトル
諸問題に対する最適な解決策を求めるためのモデル化とアルゴリズム

■講義概要
数理最適化とは、対象とする問題の最適な解決策を与えるため、問題の数理モデル（数理計画問題）を導出し、適切なアルゴリズムによってそのモデルの解を求めることである。講義では、まず、いくつかの現実の問題を題材にとり、その数理的特性から数理計画問題としてモデル化できることを見る。続いて、数理計画問題の重要な理論のひとつである最適性の理論について講義する。さらに最適性の理論に基づいて、最急降下法、ニュートン法、単体法、内点法などのアルゴリズムを紹介する。

■到達目標
さまざまな社会的、工学的問題を数理的に観察力を養い、それらの問題に対する合理的な解決策を導く手法を身につける。

■講義方法
ノート講義および演習問題を含むプリントの配布

■系統的履修
線形代数、解析

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書および配布資料をよく読み、予・復習すること。

■成績評価の方法
定期試験（100%）
学期末に試験を行う。試験問題に類似した問題を授業中に演習として与える。
レポートで成績に加点することもある。

■テキスト
山下信雄・福島雅夫　『数理計画法』　コロナ社

■参考文献
福島雅夫　『数理計画入門』　朝倉書店　3,400円
茨木俊秀・福島雅夫　『最適化の手法』　共立出版　2,884円

■履修上の注意・担当者からの一言
数理計画法は様々な分野で使われる道具であり、授業を通して「数理計画法」を使いこなせるようになってもらいたいです。そのためには、授業中の私語は慎み、わからないことがあれば講義中でも積極的に質問してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールにて質問に答える。

■講義計画
①数理計画法とは
②さまざまな問題のモデル化：生産計画等
③さまざまな問題のモデル化：ポートフォリオ最適化等
④数理計画法の基礎概念
⑤凸計画問題
⑥最適性の条件：制約なし最小化問題
⑦最適性の条件：KKT条件
⑧KKT条件の活用
⑨解法の基礎概念
⑩制約なし最小化問題の解法：直線探索法
⑪直線探索法の例：最急降下法、ニュートン法、準ニュートン法
⑫線形計画問題
⑬単体法
⑭内点法
⑮その他の解法

数理情報演習

【担当】全教員
【開講】後期　月4・月5 or 木4・木5

■サブタイトル
セミナー形式の専門的演習
■講義概要
学生を担当教員に配属し、少人数で輪講や実習を行う。演習の具体的内容と配属方法については、6月に説明会を開き詳しく説明する。説明会の日程は6月初旬に掲示する。
■到達目標
4年生の特別研究の準備となる演習である。ただし、内容的には特別研究と連動しないので、数理情報演習と特別研究で担当教員が異なっても構わない。今まで習ってきたことの検証と、より専門的な知識や技術を教員の直接の指導によって習得することができる。
■講義方法
担当教員毎に異なる。説明会の際に詳しい説明がある。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。
■成績評価の方法
テーマに対する取り組みの姿勢や課題の達成度を担当教員が評価する。
■テキスト
担当教員毎に異なる。
■参考文献
担当教員毎に異なる。
■講義計画
講義計画は担当教員毎に異なる。

数理モデル基礎・演習Ⅰ（2007年度以降入学生）
数理モデル基礎および演習Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】四ツ谷　晶二
【開講】前期　月1

■サブタイトル
微分方程式を作り・解こう
■講義概要
多くの自然界の法則は微分方程式で書かれている。ニュートンの力学の運動方程式、熱の伝播、波の振動などである。さらに、生物の分布や成長、経済現象なども微分方程式でかくことができる。したがって、微分方程式を解いて解の性質を調べると、現象を深く分析したり未来を予測することができる。それらの方程式はどういうふうにして導かれたのでしょうか?微分方程式を導くことを微分方程式を「立てる」という。さらに、現象に対応する（と見られる）微分方程式を立てることを《数理モデル》を作るという。現象の観測から得られた知見を基に数理モデルを作るわけであるが、必ずしも十分な知見がそろっているわけでなく、数理モデルを作り、解いて、解を分析してみて、観測から得られている知見を説明できるかどうかチェックしなければならない。現象を説明できないならばそのモデルは妥当でないということで、モデルを作り直すところからやり直さなければならない。
この授業では、数理モデルのつくり方と独立変数が1つの、いわゆる「常微分方程式」の解法の初歩を学びます。特に、有限回の加減乗除・微分・積分などにより初等函数の範囲で解が求まるものをあつかう。
■到達目標
簡単な数理モデルが作れて、その性質を見て取れるようになる。1階常微分方程式、2階線形常微分方程式の解き方が分かる。
■講義方法
週に1回の授業で講義主体であるが、適宜TAの方々の協力を受けつつ演習・小テストを行う。
■系統的履修
物理数学・演習Ⅱ、微積分・演習Ⅰ、Ⅱの内容を使う。また、同時に開講される電気・磁気、力学も履修しておくと理解の幅が広がる。一方、計算科学Ⅰ・計算科学演習Ⅰは、この科目で出てくるものに似ている。しかし、初等関数等では解けない微分方程式を計算機を使って解こうというものです。
■授業時間外における予・復習等の指示
レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりすること。
■成績評価の方法
小テスト（30%）適宜、小テストを行う。
レポート（30%）適宜、提出を求める。
定期試験（40%）
■テキスト
川野日郎・薩摩順吉・四ツ谷晶二（共著）『理工系の数理 微分積分＋微分方程式』　裳華房　2,700円
不足する事項については、適宜、プリントを配付する。
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー　月曜日・木曜日の昼休み
e-mail：shoji@math.ryukoku.ac.jp
■講義計画
①複素数と複素平面
②生物や化学物質の増減を表す微分方程式
③微分方程式と解
④微分演算子
⑤定数係数の斉次線形微分方程式
⑥定数係数の非斉次線形微分方程式
⑦振動を表す微分方程式
⑧定数変化法と階数低下法
⑨線形化できる微分方程式
⑩変数分離形
⑪同次形・完全微分形
⑫ラプラス変換
⑬ラプラス変換による微分方程式の解法
⑭常微分方程式の解の存在定理と一意性定理
⑮まとめ

数理モデル基礎・演習Ⅱ（2007年度以降入学生）
数理モデル基礎および演習Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】山岸　義和
【開講】後期　水1

■講義概要
さまざまな現象の数理モデルとして重要な常微分方程式系について講義する。その中でも特に２変数の常微分方程式に話題を絞り、線形微分方程式の解法、相平面を用いて微分方程式を定性的に調べる手法を解説する。

■到達目標
微分方程式について、単なる解法だけでなく、微分方程式がどのような現象の解析に役に立つのか、微分方程式の解を図形的にとらえることでどのようなことがわかるのか等々、微分方程式を学習する上で基本となる感覚を身につける。

■講義方法
黒板を使って講義する予定ですので、ノートをとってください。eラーニングのページも利用します。受講生の習熟度に応じて講義計画を変更することもあります。

■系統的履修
微積分･演習Ⅰ・Ⅱ、線形代数･演習Ⅰ・Ⅱ、数理モデル基礎･演習Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示
ほぼ毎週、課題が出ます。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（20%）中間試験
定期試験（60%）期末試験

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①ベクトル場を描く
②一階連立微分方程式（対角型の場合の一般解と相図）
③一階連立微分方程式（双曲型平衡点の場合の一般解）
④一階連立微分方程式（双曲型平衡点の場合の座標変換と相図）
⑤二階線形微分方程式を一階連立微分方程式に変換して解く
⑥一階連立微分方程式（ジョルダン標準形）
⑦二階線形微分方程式の計算
⑧中間試験
⑨中間試験の解説
⑩渦状点
⑪2次行列の微分方程式
⑫非線形方程式の局所理論
⑬現象のモデルとしての微分方程式
⑭総合問題を解く
⑮全体の復習

学科固有

セミナー

【担当】全教員
【開講】前期　　月４・月５ or 木４・木５

■講義概要
学生を担当教員（原則として特別研究と同じ）に配属し、特別研究の内容を補足する。輪講あるいは実験・実習などを行うが、担当教員によって内容および方法は異なる。

■到達目標
このセミナーを通して、特別研究を完成するための土台を造る。

■講義方法
担当教員毎に異なる。特別研究の履修説明会のときに詳しい説明がある。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。

■成績評価の方法
研究テーマに対する取り組みの姿勢、テーマに関する調査や発表の内容、課題の達成度などを担当教員が評価する。

■テキスト
担当教員毎に異なる。

■参考文献
担当教員毎に異なる。

■講義計画
講義計画は担当教員毎に異なる。

線形代数・演習Ⅰ（2007年度以降入学生）
線形代数および演習Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】池田　勉
【開講】前期　火4・火5

■サブタイトル

コンピュータ・グラフィックス、２次曲線・２次曲面と線形代数

■講義概要

線形代数は、情報科学や自然科学など、ほとんどすべての科学技術分野のみならず、経済学などの社会科学分野においても必要とされる基礎知識であり、単純で、奥深く、役に立つ道具です。しかしながら、この重要性を大学初年度の学生に分かりやすく伝えるのは容易ではありません。そこで、「コンピュータ・グラフィックス」という、学生が比較的なじみやすい視点から「線形代数」にアプローチします。コンピュータ･グラフィックスでは、図形の回転、拡大･縮小、対称変換、平行移動、図形を傾ける操作などが必要ですが、その多くが、数学で「線形変換」と呼ばれるものに対応します。線形変換は数を長方形に並べた「行列」によって表現されることを最初に学びます。線形代数はいろいろな場面で役に立ちますが、最も有用であるのは「行列の固有値・固有ベクトルと対角化」であると思います。この有用性を２次曲線と２次曲面を例として採用し、ビジュアルに説明するよう計画しています。

■到達目標

空間３次元までの線形変換について、固有値・固有ベクトル、行列の対角化などの原理と利用方法を身に付けることが目標です。これにより、より高度な物理学や化学などの自然科学、情報科学や経済学などの種々の社会科学の学修が可能になります。

■講義方法

週２回開講される、ひとかたまりの科目です。一方は講義形式で、他方は演習形式で実施します。講義では、基本的な考え方を説明し、適切な例題を解きます。演習では、講義内容の習得と応用力の育成を目指して課題を解きます。必要に応じてコンピュータを使った実習も行います。講義・演習（実習）を一回ごとに完結させる形で運営します。達成感が得られるように講義は受講生参加型にします。演習（実習）では、教員と学生、ＴＡと学生、さらに、学生同士のデスカッションを推奨します。早くできた学生は他の学生を指導するよう期待され、ボランティア・ポイントという形で成績評価に反映されます。

■授業時間外における予・復習等の指示

受講者は、配布する講義資料を利用して、十分に予習・復習をすることが期待される。

■成績評価の方法

平 常 点（20%）演習・実習の達成状況（締切に遅れた場合もチェックして貰えます）
小テスト（20%）講義資料・ノートの持込可、ＴＡへの質問可
定期試験（60%）ウェブページに過去問と解答例を公開、筆記用具以外は持込不可

１．最高評価100点の範囲内でボランティア・ポイントを加算します。
２．出席を確認することがあります。出席の確認は。不特定少数の学生に対してのみ行われることがあります。欠席の場合は、成績評価の際に減点します。

■テキスト

特になし

■参考文献

桑村雅隆　『リメディアル線形代数』　裳華房　2,520円
高橋大輔　『理工基礎線形代数』　サイエンス社　1,680円

■履修上の注意・担当者からの一言

１．欠席などのため、講義･演習（実習）の資料を貰えなかった場合は、ウェブページからダウンロードして下さい。
２．期末に実施される＜学生による授業評価調査＞の結果はウェブを通して公表します。【この授業の改善すべき点は何ですか】への記述内容と担当者の反応および【あなたのこの授業への取り組みを振り返って自由に書いてください】への記述内容もウェブを通して公表します。
３．過去の定期試験問題と解答例、成績評価の分布などもウェブページに公開されています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

１．オフィスアワーについては、掲示およびウェブページ（http://www.math.ryukoku.ac.jp/index.shtml）を通して理工学部数理情報学科から連絡されます。
２．担当教員へは電子メール（tsutomu@rins.ryukoku.ac.jp）によって連絡して下さい。

■講義計画

①２次曲線を表す式、２次曲面を表す式
②ベクトルの表現、内積、行列の表現、行ベクトル・列ベクトル、正方行列、転置行列、行列のスカラー倍、行列の和と差、零行列・零ベクトル
③行列とベクトルの積、行列と行列の積、行列の積とベクトルの内積の関係、行列のべき乗、非可換性、結合法則・分配法則
④直線のベクトル方程式、平面から平面への写像、いろいろな線形変換（拡大･縮小、対称移動、回転移動、傾ける変換）、線形性とは?、合成変換と積の非可換性
⑤図形の拡大・縮小率と逆変換、ベクトルの線形独立・線形従属、行列のランク、逆行列
⑥変数消去法（掃き出し法）、連立１次方程式の行列表現、拡大係数行列、行基本変形による連立１次方程式の解法、解の一意存在・存在・非存在、すべての解を求める
⑦階段行列、ランクの自動計算、逆行列の自動計算
⑧固有方程式、固有値・固有ベクトル、行基本変形による固有ベクトルの計算、対角化・三角化
⑨行列のベキ乗、数列の一般項、複素数平面、ド・モアブルの公式
⑩直交行列、正規直交系、合同変換、実対称行列とその対角化
⑪だ円、１点、双曲線、交差する２直線、平行な２直線、１直線、放物線
⑫外積、スカラー三重積、行列式と体積、固有値・固有ベクトル
⑬直交行列、正規直交系、合同変換、実対称行列とその対角化
⑭だ円面、１点、単葉双曲面、２次錐面、双葉双曲面、だ円柱、１直線、だ円放物面
⑮双曲柱、交わる２平面、双曲放物面、平行２平面、１平面、放物柱

学科固有

線形代数・演習Ⅱ（2007年度以降入学生）
線形代数および演習Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】松本　和一郎
【開講】後期　木1・木2

■サブタイトル
「行列と行列式」から「線形代数学」へ

■講義概要
線形代数・演習Ⅰで、行列の作用が持つ図形的意味や固有値・固有ベクトルの有用性について学びました。Ⅱでは、「これらのことが何故うまくいくのか?」、「この仕組みは他の問題にも適用できるのか?」を考えます。この2つの問いかけは、線形代数に限らず、現代数学が常に持つ問題意識です。すなわち、同じような考察を問題ごとに繰り返すのではなく、ある問題でうまくいった「カラクリ」を分析し、別の問題にも広く使えるように、用語や概念を整備・一般化しておく姿勢です。線形代数学の知識とともに、「考え方」も修得して下さい。

■到達目標
「カラクリ」の解明と概念の整備・一般化は、将来、皆さんが社会に出たときに、数学以外の問題の解決においても、身に付けておくと役にたつ重要な「考え方」の1つです。

■講義方法
講義と演習の組み合わせです。演習は、事前に与えた問題を各自が自宅で解いてきて、演習の時間は板書等で各自の解答を報告・説明します。演習の時間は、10数名程度の小クラスに分かれます。

■系統的履修
線形代数･演習Ⅰの内容を理解していることを前提に講義を進めます。

■授業時間外における予・復習等の指示
次回の演習の時間に扱う問題を配付しますから、自宅で解いてきてください。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）活動点10、宅習点10、発表点10。活動点は、活動率2/3で0点、3/3で10点、0で-20点です。
定期試験（70%）
講義・演習一体の評価です。講義・演習時の平常評価（レポートも含む）が30点、期末試験が70点です。期末試験のウェイトが大きいですが、平常の演習で問題の解法のトレーニングをしておかないと期末試験で良い点は取れません。

■テキスト
松本和一郎　『線形代数入門』　共立出版　3,210円
講義の前に次回進む範囲の教科書を読んできてください。どこまで分かって、どこから分からなくなるか、分からなくなるところをしっかり講義の時に聞いて完全な理解につなげて下さい。90分間､均等な緊張は続きません。各自の「聞くべき山」を設定して下さい。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
数学は積み重ねの学問ですから、必ず講義に出席し、事前に配布する演習問題を自宅で解いてから演習に臨んで下さい。日頃の努力が肝心です。講義は教科書に沿って行いますから、ノートを取るより講義を聴いて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
学期が始まってから研究室の扉にオフィスアワーの時間を掲示します。

■講義計画
①はじめにスカラーありき、ベクトル空間
②部分空間と線形独立
③次元と基底
④線形写像
⑤カーネルとイメージ
⑥行列のランク
⑦基本変形による標準形と逆行列の求め方
⑧行列式はなぜ必要か?
⑨行列式の諸性質
⑩余因子展開
⑪固有値と固有ベクトル、行列の対角化
⑫対角化可能性のための条件
⑬対称行列、正規行列、直交行列
⑭正規行列の対角化
⑮行列の対角化の応用

多様体と力学系

【担当】國府　宏枝
【開講】後期　月2

■サブタイトル
力学系とその幾何学的方法

■講義概要
力学系は時間とともに変化する状態を記述するシステムであり、その変化の法則が決定論的に与えられているものをいう。本講義では、まず、力学系を扱うのに必要となる多様体の解説をする。その後で、力学系の一般的な定義を与え、いくつかの基本的な力学系を取り上げ、それらに共通する基本的性質について解説する。また、カオスなどの現象についてその数学的な扱いを解説する。

■到達目標
幾何学的な考え方を身につけてもらいたい。

■講義方法
板書による講義。練習問題をたくさん出したい。

■系統的履修
微積分および演習、線形代数。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に出た問題の中は、小テストやレポートに出すので必ず次の週までに解いておいて下さい。

■成績評価の方法
小テスト（50%）２回ほど実施予定。
レポート（50%）１回ほど実施予定。

■テキスト
特になし

■参考文献
国府寛司・石井豊・新居俊作・木坂正史　『カオス力学系入門　第２版』　朝倉書店　5,500円
坪井俊　『幾何学I 多様体入門』　東京大学出版会　2,600円
一楽重雄（監修）『位相幾何学』　朝倉書店　3,800円

■オフィスアワー・教員への連絡方法
1-514の前に掲示するので見てください。

■講義計画
①ユークリッド空間、距離空間多様体について
②位相空間
③ユークリッド空間の中の多様体－簡単な例
④多様体の定義－可微分多様体
⑤多様体の定義－座標変換接
⑥空間－接ベクトル空間
⑦多様体上の関数
⑧基本群と被覆空間－群
⑨単体と複体
⑩ホモロジー群－定義
⑪ホモロジー群－鎖複体と鎖写像
⑫ホモロジー群－閉曲面のホモロジー
⑬力学系の定義－基本的な力学系
⑭トーラス変換
⑮記号力学系、双曲型力学系、パイこね変換・カオス

大域解析

【担当】松本　和一郎
【開講】前期　金2

■サブタイトル
変分問題
■講義概要
幾何学や物理学において、ある量を最大にする、あるいは最小にする函数を求める問題が頻繁に生じる。たとえば、長さがが同じ曲線で囲まれる図形で、面積最大のものはどんなものか、とか、媒質が均質でない媒体内を伝わる光の経路は光学的距離を最短にするものであるが、それはどのようなものか、などである。これらは、いかにも難しそうに見えるが、要するに最大・最小問題で、基本は１変数函数の最大・最小問題が基本になる。高校生が習うことが基本原理である。函数の空間は無限次元であるが、１次元の原理にどううまく無限次元を乗せるかが工夫のしどころである。具体例を多く取り入れて解説していく。
■到達目標
Euler-Lagrange の方程式が導けること、Lagrange の未定係数法が何を意味しているか、の２点の理解が目標である。
■講義方法
基本原理は易しいので、教員の講義と共に、学生諸君に輪番で黒板の前で説明をして貰う。学生・教員一体となって講義を作っていきたい。
■系統的履修
１年次の微積分の常微分・偏微分を復習しておいて欲しい。Euler-Lagrange の方程式が導けても解けなければ何にもならない。モデル論基礎で習った、常微分方程式の解法も復習しておいて欲しい。
■授業時間外における予・復習等の指示
適宜、プリントを配布する。講義の前にそれを読んで、どこまで分かりどこから分からなくなるか明確にして来ること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）講義の一部を担当して貰う。その出来を評価する。
レポート（10%）
定期試験（70%）
■テキスト
特になし
■参考文献
緒方　秀教 『変分法』 コロナ社　2,600円
参考書のすべてを講義で取り上げることはできない。基礎の部分を丁寧に解説する。
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に自分の考えを発表して欲しい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
学期が始まったら研究室の扉にオフィスアワーの時間を掲示する。
■講義計画
①変分問題とは何か
②１変数函数の極大極小
③多変数函数の極大極小
④第１変分
⑤Euler-Lagrange の方程式
⑥具体例（1）
⑦安定条件と第２変分
⑧具体例（2）
⑨前半のまとめ
⑩有限次元の場合の Lagrange の未定係数法
⑪変分法における Lagrange の未定係数法
⑫具体例（3）
⑬後半のまとめ
⑭総合的演習
⑮全体のまとめ

データ構造とアルゴリズム（2007年度以降入学生）
アルゴリズムとデータ構造Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】馬　青
【開講】前期　月4

■講義概要
効率的なアルゴリズムを作ろうとするときに処理の対象となるデータをコンピュータの内部でどのように表現するかは（場合によってはアルゴリズムそのものよりも）重要である。このようなデータ表現とそれに伴う機能を持つものがデータ構造である。この講義では、連結リスト、スタック、キュー、木など各種の基本的なデータ構造について学ぶ。また、「アルゴリズム・演習」で触れていなかった効率的な文字列探索アルゴリズムについても学ぶ。
■到達目標
情報科学の分野における基礎知識を習得するとともに、コンピュータを利用した問題解決手順を考える能力を身につけることである。
■講義方法
配布資料にそって講義する。講義と共に毎時間演習を行う。
■授業時間外における予・復習等の指示
学習効果を上げるためには予習と復習がたいへん重要である。次回の授業内容を事前に知らせておくので、必ず予習しておくこと。また、復習にも参考書を使うなどして十分な時間をかけること。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
期末試験の成績を主とし、これに演習の評価を加味する。
■テキスト
プリントを適宜配布
■参考文献
東野勝治ら著 『C言語によるアルゴリズムとデータ構造入門』 森北出版
湯田幸多・伊原充博共著 『アルゴリズムとデータ構造』 コロナ社
小澤孝夫著 『コンピュータ・アルゴリズム』 昭晃堂
石畑清 『アルゴリズムとデータ構造』 岩波書店
■講義計画
①導入
②基本的なデータ構造：セル、配列、連結リストの配列による実現
③連結リスト：基本準備（構造体、自己参照型構造体、malloc関数）
④連結リスト：連結リストの作成
⑤連結リスト:連結リストへの操作（探索、更新、追加、削除）
⑥スタック、スタックの応用例
⑦キュー：配列による実現、連結リストによる実現
⑧キューの応用例
⑨木、２分木、２分探索木
⑩２分探索木への操作：追加・削除
⑪平衡木：最適２分探索木
⑫平衡木：AVL木
⑬平衡木：B木（2-3-4木、赤黒木）
⑭文字列探索：KMP法
⑮文字列探索：BM法

データベース（2007年度以降入学生）
データベースシステム（2006年度以前入学生）

【担当】曽我　麻佐子
【開講】後期　月3

■サブタイトル
データベースの基本から設計、運用まで

■講義概要
データベースは様々な情報処理システムに必須の要素である。本講義では、データベースシステムに関して、基本的な概念から設計、プログラミング、運用論までを扱う。具体的には、最も基本的で普及しているリレーショナルデータベースを主な対象とするが、オブジェクト指向データベースやマルチメディアデータベースなど、最近の技術についても触れる。

■到達目標
データベースの基本概念と利用方法を理解し、簡単なデータベースシステムが設計できるようになる。

■講義方法
主として講義形式で行い、内容の理解度をチェックするために、適宜小テストや演習課題を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
事前に講義資料をダウンロードし、読んでおくこと。毎回配布する資料や小テストについて復習しておくこと。

■成績評価の方法
小テスト（20%）
レポート（10%）
定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
増永良文 『データベース入門』 サイエンス社　1,900円
永田武 『データベースの基礎』 コロナ社　2,400円

■講義計画
①ガイダンス（授業の概要、データベースとは）
②リレーショナルデータベースモデル
③リレーショナル代数とデータ操作
④SQL１：単純質問
⑤SQL２：結合質問
⑥データベース設計、実体関連図
⑦正規化
⑧データベース設計（実践）
⑨データベース管理システム
⑩トランザクション
⑪プログラムからのアクセス
⑫XMLデータベース
⑬オブジェクト指向データベース
⑭マルチメディアデータベース
⑮まとめ

学科固有

ディジタル信号処理（2007年度以降入学生）
信号処理（2006年度以前入学生）

【担当】藤田　和弘
【開講】後期　木3

■サブタイトル
MIT OpenCourseWareを用いた「信号とシステム」に関する授業

■講義概要
ディジタル信号処理は、情報通信技術の分野における基礎的な技術であり、電子情報通信以外の分野でも用いられる幅広い応用をもつ学問分野である。
この講義では、「信号とシステム」の基礎理論および信号処理とその応用について議論する。基礎理論である信号のフーリエ級数表現と線形時不変システムに重点をおいた上で、信号処理において重要なサンプリング定理、離散フーリエ変換について詳しく議論する。

■到達目標
画像処理などの信号処理の基礎的な理論に関する知識を習得し、簡単な信号処理のプログラムが理解できるようになる。
周期的信号のフーリエ級数表現を求めることができる。連続時間フーリエ変換、離散時間フーリエ変換の計算ができる。
サンプリング定理を理解し、信号に対して適切なサンプリング周波数を求めることができる。

■講義方法
MIT OpenCourseWareを中心に授業を行い、適宜小テストを行う。2回程度レポートを提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示
毎授業前に、e-Learning System上にアップロードしたテキストを印刷し予習しておくこと。
また、毎授業後、e-Learning System上の小テストを受験すること。

■成績評価の方法
小テスト（10%）
レポート（20%）
定期試験（70%）

■テキスト
MIT OpenCourseWareを利用して授業を行います。

■参考文献
A.V.Openheim 『Signals & Systems』 Prentice Hall

■オフィスアワー・教員への連絡方法
基本的には、水曜日3限目ですが、出張や会議の場合もあります。情報メディアセンター Course Management System（ Moodle ）で、質問などが行えます。

■講義計画
①ガイダンス（授業の概要、履修の仕方、Course Management System（ Moodle ）の使い方、予習・復習）
Lecture Note #1 イントロダクション
②Lecture Note #2 システムの特性と例
③Lecture Note #3 離散時間時不変システム
④Lecture Note #4 連続時間時不変システム
⑤Lecture Note #5 連続時間フーリエ級数
⑥Lecture Note #6 連続時間フーリエ級数の特性、離散時間フーリエ級数
⑦Lecture Note #7 フーリエ級数と線形時不変システム
⑧Lecture Note #8 連続時間フーリエ変換
⑨Lecture Note #9 連続時間フーリエ変換のたたみ込み特性、離散時間フーリエ変換
⑩Lecture Note #10 離散時間フーリエ変換の特性と例（1）
⑪Lecture Note #11 離散時間フーリエ変換の特性と例（2）
⑫Lecture Note #12 時間周波数特性
⑬Lecture Note #13 サンプリング
⑭Lecture Note #14 連続信号の離散時間処理
⑮総括、レポートおよび小テストの解答

電気と磁気（2007年度以降入学生）
電磁気学（2006年度以前入学生）

【担当】飯田　晋司
【開講】前期　水3

■サブタイトル
簡単な電気回路を表す微分方程式

■講義概要
最初に電気や磁気の関係する現象について簡単に紹介します。次に、電場や磁場、抵抗、電気容量、インダクタンスなど電気と磁気の現象を表すのに必要な用語を説明していきます。抵抗、コンデンサー、コイルで構成される交流回路を表す微分方程式を導き、その解を求めます。

■到達目標
抵抗、コンデンサー、コイルなどで構成される簡単な交流回路を表す微分方程式が書き下せ、解けるようになる。

■講義方法
適宜プリントを用いた通常の講義。

■系統的履修
物理数学・演習Ⅰ、Ⅱ、微積分・演習Ⅰ、Ⅱ、線形代数・演習Ⅰ、Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示
各回の講義は、それまでの講義内容の理解を前提としています。オフィスアワー、チューター、序論などを利用して理解が不十分な点を残したままにしないようにしてください。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
長岡洋介　『電磁気学Ⅰ（物理入門コース3)』　岩波書店
長岡洋介　『電磁気学Ⅱ（物理入門コース4)』　岩波書店
浦上澤之　『理工　基礎物理学』　裳華房
基礎物理教育研究会　『基礎物理』　森北出版

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義時に連絡します。

■講義計画
①電気・磁気現象の紹介、電気素量、電流、電流密度、クーロンの法則
②複数の電荷からのクーロン力
③電場、電気力線
④電場と静電ポテンシャルの関係、簡単な電荷配置に対する静電ポテンシャル
⑤一様な電場と抵抗のある中での電子の運動1、オームの法則、電気伝導度、抵抗率
⑥一様な電場と抵抗のある中での電子の運動2、抵抗の消費する電力、ジュール熱
⑦交流と実効値、コンデンサーと電気容量、RC回路、コンデンサーに蓄えられる静電エネルギー
⑧抵抗とコンデンサーで構成される交流回路、複素インピーダンス
⑨磁場中を運動する荷電粒子に働く力、ローレンツ力
⑩サイクロトロン運動、電流が磁場から受ける力
⑪円電流が磁場から受ける力、モーターの原理、ビオ・サバールの法則
⑫直線電流の作る磁場、平行電流間にはたらく力、電流の作る磁場の例（平行電流、円電流、ソレノイド）
⑬電磁誘導の法則、コイルに発生する誘導起電力、インダクタンス
⑭LR回路、磁場に蓄えられるエネルギー、LCR回路の複素インピーダンス
⑮直列および並列回路の合成インピーダンス、キルヒホッフの法則

特別研究

【担当】全教員
【開講】通年　集中

■サブタイトル
卒業研究

■講義概要
4年次生を対象に配属された各教員のもとで特別研究を行う。3年次までに習得した学力を基に、特定の研究テーマについて研究を行う。履修した科目の応用能力を高め、新しいテーマに自主的に取り組み、研究成果をまとめて発表する能力を養成することを目的とする。

前年度後期に配属についての説明会が開かれ、そこで各教員の研究テーマについての詳しい説明がある。配属に際しては，定員以内であれば学生諸君の希望が優先される。担当教員のもとでなされた各自の研究は、年度末に諸君が卒業論文としてまとめ発表する。

■到達目標
4年間の勉学の総決算である。指導教員による個別指導により、研究方法や論文のまとめ方、発表方法を習得する。

■講義方法
担当教員毎に異なる。説明会のときに詳しい説明がある。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業時間外にも十分な学習時間が必要である．担当教員の指示に従うこと．

■成績評価の方法
卒業論文と特別研究審査会での各自の発表・質疑応答を総合して学科で判断する。

■テキスト
担当教員毎に異なる。

■参考文献
担当教員毎に異なる。

■講義計画
担当教員毎に異なる。説明会のときに詳しい説明がある。

特別講義

【担当】松木平　淳太
【開講】通年　集中

■講義概要
数理科学や情報科学に関連するテーマについて、学外から講師を招いて講義を行う。講師は幅広く大学や企業から人選し、社会や学術分野で活躍されている方の生の声を聞く機会を与える。大学での勉学がどのように研究や開発の第一線で生かされているか、また、社会に出たときどのような知識・能力が期待されているかなど、大学での勉学の指針となるようなテーマを選んで講義してもらう。

■到達目標
実際に第一線で活躍されている人たちの講演を聴くことによって、大学での勉学に大きな指針が与えられる。また就職活動の際の参考になる話も得られる。

■講義方法
学外から講師を数名招いて一回毎の講義をしてもらう。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。

■成績評価の方法
１～４年次の間に随時受講した上で、その都度指定される形式の評価に６回以上合格することで単位認定される。成績評価は、６回の合格で80点、７回で90点、８回以上で100点とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
内容は毎回異なり、常設科目には無い内容のものが多いので、なるべく多く出席して欲しい。なお、登録は4年次の前期にすることになっているので、注意すること。

■講義計画
年に3ないし4回、主に水曜日の5講時に開講する。テーマや実施日・時間・場所はその都度掲示する。

認知科学と人工知能（2007年度以降入学生）
人工知能（2006年度以前入学生）

【担当】小堀　聡
【開講】後期　火４

■サブタイトル
人間と人工システムの比較

■講義概要
人工知能には、人間の知能を機械で実現しようとする工学的な立場と人間の知能のメカニズムを解明しようとする科学的な立場がある。前者が狭義の人工知能であり、後者は認知科学と呼ばれる。これらの範囲は基礎から応用まで多岐にわたるが、講義では特に重要な事項に限定する。まず、認知過程の基礎とそのモデル化について解説し、人間の記憶や学習、ニューラルネットワーク、知識表現、問題解決、探索、推論などについて述べるとともに、脳神経系や心のモデルなどについて触れ、最後にエキスパートシステムやロボットなどの応用分野にも言及する。

■到達目標
認知科学や人工知能についての基礎的な知識が得られるだけでなく、人間と計算機を比較しながら、それらの特徴について理解が深められる。

■講義方法
原則としてパソコンによる提示と板書にそって講義を進める。

■系統的履修
なし

■授業時間外における予・復習等の指示
講義ノートは本授業のサイトで公開しているので、PDFを各自ダウンロードして予習･復習に活用すること。なお､講義ノートはプリントアウトして授業に持参すること。

■成績評価の方法
定期試験（100%）
定期試験（100点満点）の成績により評価するが、期末までにレポートを提出することを定期試験の受験の条件とする。詳細については、授業において説明する。

■テキスト
使用しない

■参考文献
安西 祐一郎 『心と脳――認知科学入門（岩波新書）』 岩波書店　903円
その他の参考書などについては、授業の中で随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
単に授業に出てノートを取るだけでなく、自分でよく考えながら講義を聴くようにしてほしい。なお、Webページ（http://milan.elec.ryukoku.ac.jp/~kobori/resume.html）で、講義ノートや関連情報を公開しているので、そちらも参考にしてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
電子情報学科の教員の週間予定については、学科のWebサイトで参照することができます。スケジュールを確認して、１号館４階の研究室を訪問してください。

■講義計画
①認知科学と人工知能について
②知覚と運動
③記憶と学習
④ニューラルネットワーク
⑤知識表現
⑥問題解決と探索
⑦推論
⑧演習問題解説１
⑨脳と神経系
⑩心のモデル
⑪エキスパートシステム
⑫ロボット
⑬インタフェース
⑭演習問題解説２
⑮質疑応答

ネットワーク構成論（2007年度以降入学生）

【担当】岡田　至弘
【開講】後期　火2

■サブタイトル
ネットワークの基礎からインターネット・Webテクノロジまで
■講義概要
通信の基本要素（遅延、帯域、信頼性と誤り制御）の理解から情報ネットワークまでの拡張を基本プロトコル階層の学習を通してすすめ、具体的なネットワーク構成の例（インターネット)からネットワーク構成の実際を学んでいく。ここでは、通信の基礎概念・用語・技術の羅列ではなく、データ伝送から情報通信までの概念を系統的に学習していく。一般的なOSI基本参照モデルなどのプロトコルレベルの概念紹介は行わず、TCP/IPやUDPなどの実体のあるプロトコルの理解からネットワーク構成の普遍性を理解することに力点を置く。
■到達目標
情報通信の概念整理と新たなネットワーク技術・サービスへの対応・理解
■講義方法
教科書、配布資料（プリント)、毎回のプレゼンテーション、Web教材を用いる。
■系統的履修
インターネットリテラシー、計算機基礎実習、ソフトウエア構成論
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に配布される資料を用い、予習・復習を毎週行い、講義中に指示されたWebページ、文献、問題の読了を行うこと。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（10%）１ないし2回の課題呈示に対応したレポート提出
定期試験（60%）
不定期の小テストと、定期試験の評価およびレポート課題含めた総合評価を行う。
■テキスト
岡田史郎 『インターネットプロトコル』 オーム社　2,800円
■参考文献
村上優子著 『ネットワーク概論』 サイエンス社　1,500円
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義日（火曜日）の１２：４０～１５：００
■講義計画
①マルチメディア通信を指向するネットワーク構成概略
②レイヤー、プロトコルおよびサービス概念
③インターネットのアーキテクチャ（物理層）
④インターネットのアーキテクチャ（データリンク制御）
⑤インターネットのアーキテクチャ（ネットワーク層）
⑥インターネットのアーキテクチャ（アドレス体系）
⑦インターネットのアーキテクチャ（トランスポート層）
⑧インターネットのアプリケーション（ストリーミング、ＱＯＳ制御）
⑨セキュリティ
⑩ネットワーク管理
⑪分散コンピューティング1：ＮＯＳ
⑫分散コンピューティング2：ＪＡＶＡ
⑬ネットワーク化マルチメディアシステム
⑭大規模ネットワークシステム事例
⑮大学ネットワークシステム

微積分・演習Ⅰ（2007年度以降入学生）
微積分および演習Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】山岸　義和
【開講】前期　木4・木5

■講義概要
一変数および多変数の微分法と、その応用について学ぶ。
■到達目標
一変数および多変数の微分について、基本的な考え方を理解し、計算方法を身につける。
■講義方法
２講時連続で、講義と演習をします。講義は黒板を使う予定ですので、ノートをとってください。演習にはティーチングアシスタントの補助があります。eラーニングのページも利用します。受講生の習熟度に応じて講義計画を変更することがあります。
■授業時間外における予・復習等の指示
ほぼ毎週、演習課題が出ます。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）
■テキスト
桑村雅隆 『微分積分入門』 裳華房　2,520円
■参考文献
必要があれば「入学前学習課題 数学 問題・解答集」（龍谷大学高大連携数学WG）も利用します。
■履修上の注意・担当者からの一言
数学序論、ティーチングアシスタントやチューター制度も利用してください。
■講義計画
①いろいろな関数（高校数学の復習）
②微分係数・導関数の計算
③合成関数の微分、変数変換と微分
④陰関数の微分
⑤接線と接平面、全微分
⑥平均値の定理
⑦関数の多項式による近似
⑧テイラー展開
⑨テイラー展開の応用
⑩複素平面
⑪オイラーの公式
⑫１関数の極値とグラフ
⑬多変数関数の極値
⑭条件つき極値問題
⑮全体の復習

微積分・演習Ⅱ（2007年度以降入学生）
微積分および演習Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】森田　善久
【開講】後期　月４・月５

■サブタイトル
積分法とその応用

■講義概要
「微積分および演習Ⅰ」に引き続く科目で，１変数の関数の積分と多変数関数の重積分について講義と演習をする。この科目は理系の基礎となる科目で，数学だけでなく応用数学や物理学，工学など応用の分野でより高度な計算技術を身につけるために欠かすことの出来ない科目である。重積分，ヤコビ行列など新しい内容がたくさん出てくる科目でもある。いろいろな具体例や幾何的な解説を交えながら新しい概念の意味を説明，計算方法を身につける。

■到達目標
積分・重積分などの基礎的計算方法とその応用，また多変数関数のイメージをつかむ。

■講義方法
週２回の授業を講義と演習の時間に分けて進めていく。演習はティーチングアシスタントの協力できめ細かな指導をする。演習の問題は別途プリントを配布する。

■系統的履修
微積分・演習Ⅰ，線形代数・演習Ⅰ，Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の演習プリントの残りは宿題となります。復習も兼ねてしっかりと解いてください。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）演習プリントの提出など
小テスト（50%）中間試験1回（30点）＋小テスト1回（20点）
定期試験（40%）期末試験
必修科目なので出席を前提として成績をつけます。理由なしで欠席した回数が多い場合、期末の受験資格がなくなることもあります。授業の初回に、成績評価についての詳細を説明します。

■テキスト
桑村雅隆　『微分積分入門』　裳華房　2,520円
微積分・演習Ⅰと同じテキストです。演習問題が少ないのでプリントで補強します。

■参考文献
微積分の教科書は多数あります。テキスト以外に自分に合ったものが見つかるかもしれません。

■履修上の注意・担当者からの一言
重要な科目なのでしっかりと身に付くように勉強して下さい。演習時間に解けなかったプリントは宿題とします。チューター制度などを利用して，毎回宿題をきちんと自力で解いていきましょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーや連絡先は，最初の講義の時に説明します．

■講義計画
①微分の復習：微分の概念
②積分の基本公式・部分積分・置換積分
③不定積分の計算
④微積分の基本定理と色々な関数の積分
⑤いろいろな定積分の公式
⑥定積分の応用：面積と弧の長さ
⑦前半の復習（中間試験）
⑧累次積分の計算
⑨2重積分と累次積分
⑩変数変換とヤコビアン
⑪復習（小テスト）
⑫変数変換による重積分の計算
⑬極座標変換による重積分の計算
⑭3重積分の計算
⑮積分の応用：面積と体積

微分幾何（2007年度以降入学生）
微分幾何入門（2006年度以前入学生）

【担当】松本　和一郎
【開講】後期　金２

■サブタイトル
曲線の微分幾何

■講義概要
図形の構造を調べる学問が幾何学である。その基本的な考え方は「何を同じと見なすか?」の違いによって分類される。合同な図形を同じと見なせばユークリッド幾何学、相似な図形を同じと見なせば射影幾何学、連続写像で写りあえる図形を同じと見なせば位相幾何学がえられる。微分幾何学とは、十分に微分可能な写像で写りあえる図形を同じと見なす幾何学で、位相幾何学よりはるかに古い歴史を持つ。本講義では、平面曲線論・空間曲線論の入り口を、古典的スタイルで説明する。理論と具体例の計算を半々に扱う。概念の構成は比較的易しいが、知識の積み重ねが重要なので、途中で手を抜くと途端に分からなくなる危険がある。なお、１年時の微積分・演習Ⅰ,Ⅱと線形代数・演習Ⅰ,Ⅱの知識（合成函数の微分、ユークリッド空間の正規直交基底など）はすべて習得されているものとして講義を進める。

■到達目標
曲線に乗って、ジェットコースターを楽しんでいるような気分になれたら、曲線論がマスターできたといえる。

■講義方法
教科書を指針にしながら、具体例を豊富に挙げていく。事前にプリントを配布するから、講義の前に自宅で読んでくること。

■系統的履修
講義名にあるように、常微分・偏微分を多用する。同時に、線形代数の基本的概念（ベクトルの線形独立性、基底、内積、正規直交、など）も多用するので、微積分・演習Ⅰ,Ⅱ、線形代数・演習Ⅰ,Ⅱの内容を復習しておきなさい。特に、合成函数の微分は必須である。

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書・プリントをあらかじめ読んで、どこまで分かりどこから分からなくなるか明確にして講義に臨むこと。講義において自分の分からないことを分かるようにする。講義の中で自分が特に注意を注ぐ「山」を自分で作るように。適宜、レポートを課す。

■成績評価の方法
レポート（20%）講義の進捗状況に応じて、レポートを課せない可能性もある。そのときは期末試験だけで評価する。
定期試験（80%）

■テキスト
小林昭七　『曲線と曲面の微分幾何（改訂版）』　裳華房
教科書の証明には間違いがある。その間違いを自分で直せるくらいになってほしい。それほど難しい修正は要らない場合がほとんどである。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
１年時の微積分・演習Ⅰ,Ⅱと線形代数・演習Ⅰ,Ⅱの知識（合成函数の微分、ユークリッド空間の正規直交基底など）を良く復習しておくように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
学期が始まってから、研究室の扉にオフィスアワーの時間を張り出す。

■講義計画
①平面曲線のパラメータ表示
②平面曲線の曲率
③フレネの標構
④フレネの公式
⑤具体例：フレネの公式の適用
⑥平行曲線
⑦宿閉線・伸開線
⑧包絡線
⑨具体例：包絡線の具体例
⑩常微分方程式への応用
⑪回転数、単純閉曲線、卵形線
⑫全曲率と４頂点定理
⑬空間曲線とフレネの標構
⑭フレネーセレの公式
⑮接触球

物理学序論

【担当】阪井　一繁、松本　和一郎、中野　浩
【開講】後期　金３

■サブタイトル
微積分・演習Ⅱ、線形代数・演習Ⅱ、物理数学・演習Ⅱを理解しよう
■講義概要
物理学序論は数学･物理系の授業（微積分･演習Ⅱ、線形代数･演習Ⅱ、物理数学・演習Ⅱ）をサポートする科目です。
高校までの数学を十分には習得していない場合、自分だけの力で不足分を補いながら、微積分･演習Ⅱ、線形代数･演習Ⅱ、物理数学・演習Ⅱに関して一定以上の理解レベルに到達するのは困難かも知れません。また、これらの授業は多くの学生を対象とした講義であり、授業での疑問がすぐに解決できるとは限りません。
物理学序論では、授業時間に解決できなかった疑問を解決できるように、授業で出てくる演習問題や課題を自分で解けるようにＴＡや教員が指導します。
物理序論の単位は「増加単位」であり、卒業要件単位ではないことに注意して下さい。
また、受講登録をしていない学生も参加できますから、疑問や質問があるときには随時お出で下さい（受講登録をしていない学生には単位認定はできません）。
■到達目標
微積分・演習Ⅱ、線形代数・演習Ⅱ、物理数学・演習Ⅱの授業での疑問を解決し、演習問題や課題を自分でしっかり解けるようになる。
■講義方法
物理学序論は少数の学生を対象として演習形式で行います。
個々の学生のペースに沿って
　高校での数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、C、物理Ⅰ、Ⅱ
　微積分・演習Ⅱ
　線形代数・演習Ⅱ
　物理数学・演習Ⅱで使われる物理と数学
の内容を理解できるようにきめ細かにサポートします。
■授業時間外における予・復習等の指示
上記の演習で出された問題を自分で解いてみて質問すること等を考えてきてください。
■成績評価の方法
平常点（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
微積分・演習Ⅱ、線形代数・演習Ⅱ、物理数学・演習Ⅱのテキストやプリント
■履修上の注意・担当者からの一言
単に自習する時間として使ってもらっても構いません。分からないことが出てきたら質問するというような参加形態でも構いません。分からないことを貯めてしまわないように、「物理学序論」を活用して下さい。
■講義計画
教員（松本・中野・阪井が交代で担当）とＴＡが受講生からの質問に応じて指導します。

学科固有

物理数学・演習Ⅰ（2007年度以降入学生）
物理数学および演習Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】飯田　晋司
【開講】前期　月４・月５

■サブタイトル
ベクトルと微分積分でボールをおいかけよう
■講義概要
微積分やベクトルを物体の運動の記述という観点から学びます。まず、物体の運動が、関数を使って表現できることを知ります。次に、その関数を微分、積分すると、運動の様子がよくわかることを体験します。さらに、運動が3次元になると、ベクトルを使うのが便利であることを学びます。この体験を通じて、ベクトルや微積分、運動についての直観と空間感覚とを獲得します。
■到達目標
簡単な状況下で、物体の位置関係や物体の運動を式で表せることを目標とします。
■講義方法
適宜プリントを用いた通常の講義。通例、4講時に講義、5講時に演習を行います。
■授業時間外における予・復習等の指示
各回の講義は、それまでの講義内容の理解を前提としています。オフィスアワー、チューター、序論などを利用して、理解が不十分な点を残したままにしないようにしてください。
■成績評価の方法
演習課題を9回以上提出したうえで、予定されている2回の確認テストの両方に60点以上をとるか、あるいは定期試験に60点以上をとることで合格とします。どちらの基準でも合格の場合、最終成績は確認テストの平均点と定期試験の点数の高い方とします。
■テキスト
特になし
■参考文献
和達三樹　『物理のための数学』　岩波書店　2,835円
和達三樹　『例解 物理数学演習』　岩波書店　2,940円
高木隆司　『力学（Ⅰ）』　裳華房
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義時に連絡します。
■講義計画
①簡単な運動の紹介、３次元のベクトルとその演算
②ベクトルの成分表示、ベクトルの内積とその使用例
③ベクトルの外積、平面の方程式、平行６面体の体積
④力のつりあい、力のモーメントと回転についてのつりあい、力のモーメントと回転の向き
⑤ベクトルによる運動の表現、等速度運動を表す位置ベクトル
⑥等加速度運動を表す位置ベクトル、微分の基本的性質
⑦直線上の運動における速度の正負と運動の向き、速度ベクトル、加速度ベクトル（第１回目確認テスト予定）
⑧速度ベクトルと物体の運動する向き、加速度ベクトルと速度の変化する向き
⑨直線上の運動における速度の積分、基本的な関数の積分
⑩直線上の運動：物体にはたらく力と初期条件から物体の運動を求める
⑪3次元の運動における加速度や速度の積分、運動方程式
⑫物理量と単位の換算、力といろいろな運動１：放物運動
⑬力といろいろな運動２：放物運動（運動の軌跡）、単振動
⑭力といろいろな運動３：リサジュー運動、等速円運動（第２回目確認テスト予定）
⑮全体のまとめ

物理数学・演習Ⅱ（2007年度以降入学生）
物理数学および演習Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】松木平　淳太
【開講】後期　木4・木5

■講義概要
物理数学・演習Iでは、物体の運動を数式で表現し、それから速度、加速度を求めることを学んだ。この授業では逆に、微分方程式から物体の運動を求めることを学ぶ。そのために必要な微分方程式の解き方も学ぶ。

■到達目標
力学における基礎的な問題において、以下の３ステップの考え方を身につけることが目標である。
1. 物体に働く力から微分方程式を立てる。
2. 微分方程式を数学的に解く。
3. 解から物体の運動を求める。

■講義方法
基本的には４、５講時目の前半に講義、後半に演習を行うが、状況に応じて変更することもありうる。

■系統的履修
物理数学・演習I, 微積分・演習Iの内容を前提とする。

■授業時間外における予・復習等の指示
予復習にあたっては、教科書、授業中配布の資料、Webページを有効に活用すること。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（30%）
定期試験（60%）

■テキスト
高木隆司 『力学（Ⅰ）』 裳華房　2,100円

■参考文献
為近和彦 『ビジュアルアプローチ 力学』 森北出版　2,500円
原康夫 『数学といっしょに学ぶ力学』 学術図書出版社　1,500円
潮秀樹 『よくわかる力学の基本と仕組み』 秀和システム　2,310円

■講義計画
①速度、加速度
②等速度運動、等加速度運動
③ニュートンの運動方程式
④摩擦力
⑤空気抵抗の力と変数分離型微分方程式
⑥小テスト1
⑦ばねの力と単振動
⑧ばねの力と減衰振動
⑨ばねの力と2階定数係数常微分方程式（減衰振動、過減衰、臨界減衰）
⑩ばねの力と2階定数係数常微分方程式（重力が加わった場合）
⑪仕事
⑫小テスト2
⑬エネルギー
⑭力学的エネルギー保存則の応用
⑮まとめ

プレゼンテーション演習

【担当】野口　昌子
【開講】前期　月1

■サブタイトル
演習で身に付く「自分の考えをうまく伝える方法」

■講義概要
「人前で堂々と話したい」「自分の考えを自信を持って伝えたい」と、感じていませんか。この授業は、「知る」⇒「演習」⇒「身につく」流れを大切にし、様々な演習を通じて「自分の考えをうまく伝える方法」が身に付くことを目標とします。人前で話すことが苦手な人も演習を重ねることで緊張に慣れ、話すことが楽しくなることを目指します。プレゼンテーションスキルを高めることは、就職活動でも社会人としても重要視されます。社会で求められるプレゼンテーションスキルとは何かを考え、対話や傾聴により信頼関係を構築するコミュニケーション能力などを磨きます。さらに、コミュニケーションゲームやワークなどを通して自身の強み弱みを認識し、自分を語るための理解を深めます。

■到達目標
1．人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーションスキルを高めるためのノウハウを学び、身につける。
2．就職活動の際、自信を持って自己をアピールできる対話力を高める。
3．ワーク、ゲーム、トレーニング、ディスカッションなどの様々な演習を通じてコミュニケーション能力を高め、「対話力」や傾聴力」を体得する。

■講義方法
・毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「聞く」「話す」を実践する。
・テーマの内容によって、ペアやグループでの演習を行う。
・演習ごとに振り返りを行い、自己目標への達成レベルを確認する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだプレゼンテーションスキルのさらなる向上のために、日常でも活用できる部分を取り入れ実践する。

■成績評価の方法
授業の中で各自が発表する「論文」や「演習」などにより決定する

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の積み重ねがプレゼンテーションスキル向上のポイントになります。授業中の演習には自ら積極的に取り組むことで、気づきや学びが深まります。

■講義計画
①プレゼンテーションスキルの自己成長をイメージし、目標設定をする。アイスブレイクワークを通じて、視覚・聴覚の効果を認識し、コミュニケーションの重要性を理解する。
②相手に印象づける自己表現の仕方を考える。声、表情、姿勢の効果を理解し、ただ「話す」のではなく「伝える」ことを意識することで、自己表現をする楽しさを体得する。
③コミュニケーションゲームを通じて、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を考える。同時に、チーム内における自身の強み弱みを発見する。
④自身の人生を振り返り、自己分析を深める。過去の体験に基づく現在の価値観を認識することで、新たな自己発見につなげ、自分を語る素材を見つける。
⑤ブレーンストーミングを通じて発言力を高め、傾聴力を身に付ける。さらに、「なりたい自分像」を明確にし、未来の自分について自信を持って伝える説得力を体得する。
⑥プレゼンテーションスキルのパーソナルチェックを通じて、普段の自分の話し方の強みや改善点を確認する。これまでの授業で体得した点と今後の目標設定を再認識する。
⑦聞き手の印象に残る話し方のノウハウを学ぶ。短時間で分かりやすい伝え方や具体性と熱意が伝わる表現力を体得する。
⑧想定外の質問にも対応できるアドリブで答える対応力を身に付ける。質問に対し、分かりやすく伝える方法や、自身のイメージを言語化し、臨場感が伝わる話し方を実践する。
⑨面接におけるグループディスカッションの評価ポイントを理解する。相手を納得させる話し方のテクニックや共感表現を学ぶ。また、チームワークとは何かを考え、集団における自身の特性を確認する。
⑩コンセンサスを得られる対話力を学ぶ。面接を想定したコミュニケーションゲームを通じて自己の役割を認識し、行動することでコンセンサスを得る手法を学ぶ。「集団」と「チーム」の違いを知り、期待される成果を出す。
⑪面接を想定したディベートの評価ポイントを理解する。与えられたテーマでグループ別にディベート（討論）を交わし、相手の意見に反論するときの伝え方を実践することで効果的な説得の仕方を学ぶ。
⑫集団面接を想定し、面接の評価ポイントを理解する。社会人に求められるマナーやコミュニケーションを学び、主体的に行動できるスキルを身につける。
⑬個人面接をシミュレーションし、質疑応答を実践する。掘り下げた質疑応答を繰り返すことで話し手のアドリブ力を高める。さらに、どのような緊張の状況でも自信を持って答える力を身につける。
⑭これまでに学んだプレゼンテーションスキルをおさらいし、発表する。この授業で学んだこと、身に付いたことを整理し、発表する。
⑮これまでに体得したスキルを活かし、「自分」についてプレゼンテーションをする。自身が設定した目標を振り返り、成長と今後のステップアップを考える。

プレゼンテーション演習

【担当】野口　昌子
【開講】前期　月2

■サブタイトル
演習で身に付く「自分の考えをうまく伝える方法」

■講義概要
「人前で堂々と話したい」「自分の考えを自信を持って伝えたい」と、感じていませんか。この授業は、「知る」⇒「演習」⇒「身につく」流れを大切にし、様々な演習を通じて「自分の考えをうまく伝える方法」が身に付くことを目標とします。人前で話すことが苦手な人も演習を重ねることで緊張に慣れ、話すことが楽しくなることを目指します。プレゼンテーションスキルを高めることは、就職活動でも社会人としても重要視されます。社会で求められるプレゼンテーションスキルとは何かを考え、対話や傾聴により信頼関係を構築するコミュニケーション能力などを磨きます。さらに、コミュニケーションゲームやワークなどを通して自身の強み弱みを認識し、自分を語るための理解を深めます。

■到達目標
1．人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーションスキルを高めるためのノウハウを学び、身につける。
2．就職活動の際、自信を持って自己をアピールできる対話力を高める。
3．ワーク、ゲーム、トレーニング、ディスカッションなどの様々な演習を通じてコミュニケーション能力を高め、「対話力」や傾聴力」を体得する。

■講義方法
・毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「聞く」「話す」を実践する。
・テーマの内容によって、ペアやグループでの演習を行う。
・演習ごとに振り返りを行い、自己目標への達成レベルを確認する。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業で学んだプレゼンテーションスキルのさらなる向上のために、日常でも活用できる部分を取り入れ実践する。

■成績評価の方法
授業の中で各自が発表する「論文」や「演習」などにより決定する

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業の積み重ねがプレゼンテーションスキル向上のポイントになります。授業中の演習には自ら積極的に取り組むことで、気づきや学びが深まります。

■講義計画
①プレゼンテーションスキルの自己成長をイメージし、目標設定をする。アイスブレイクワークを通じて、視覚・聴覚の効果を認識し、コミュニケーションの重要性を理解する。
②相手に印象づける自己表現の仕方を考える。声、表情、姿勢の効果を理解し、ただ「話す」のではなく「伝える」ことを意識することで、自己表現をする楽しさを体得する。
③コミュニケーションゲームを通じて、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を考える。同時に、チーム内における自身の強み弱みを発見する。
④自身の人生を振り返り、自己分析を深める。過去の体験に基づく現在の価値観を認識することで、新たな自己発見につなげ、自分を語る素材を見つける。
⑤ブレーンストーミングを通じて発言力を高め、傾聴力を身に付ける。さらに、「なりたい自分像」を明確にし、未来の自分について自信を持って伝える説得力を体得する。
⑥プレゼンテーションスキルのパーソナルチェックを通じて、普段の自分の話し方の強みや改善点を確認する。これまでの授業で体得した点と今後の目標設定を再認識する。
⑦聞き手の印象に残る話し方のノウハウを学ぶ。短時間で分かりやすい伝え方や具体性と熱意が伝わる表現力を体得する。
⑧想定外の質問にも対応できるアドリブで答える対応力を身に付ける。質問に対し、分かりやすく伝える方法や、自身のイメージを言語化し、臨場感が伝わる話し方を実践する。
⑨面接におけるグループディスカッションの評価ポイントを理解する。相手を納得させる話し方のテクニックや共感表現を学ぶ。また、チームワークとは何かを考え、集団における自身の特性を確認する。
⑩コンセンサスを得られる対話力を学ぶ。面接を想定したコミュニケーションゲームを通じて自己の役割を認識し、行動することでコンセンサスを得る手法を学ぶ。「集団」と「チーム」の違いを知り、期待される成果を出す。
⑪面接を想定したディベートの評価ポイントを理解する。与えられたテーマでグループ別にディベート（討論）を交わし、相手の意見に反論するときの伝え方を実践することで効果的な説得の仕方を学ぶ。
⑫集団面接を想定し、面接の評価ポイントを理解する。社会人に求められるマナーやコミュニケーションを学び、主体的に行動できるスキルを身につける。
⑬個人面接をシミュレーションし、質疑応答を実践する。掘り下げた質疑応答を繰り返すことで話し手のアドリブ力を高める。さらに、どのような緊張の状況でも自信を持って答える力を身につける。
⑭これまでに学んだプレゼンテーションスキルをおさらいし、発表する。この授業で学んだこと、身に付いたことを整理し、発表する。
⑮これまでに体得したスキルを活かし、「自分」についてプレゼンテーションをする。自身が設定した目標を振り返り、成長と今後のステップアップを考える。

プログラミング・演習（2007年度以降入学生）
プログラミングおよび実習Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】馬　青
【開講】前期　火2・火3

■サブタイトル
C言語によるプログラミング能力の強化

■講義概要
計算機基礎実習Ⅰ・Ⅱに引き続いて、C言語によるプログラミングについての理解を深めるとともに、各種のデータ表現、データ構造、アルゴリズム、プログラミング技法を学習し、演習を通して実際のプログラミングに応用する能力を養う。特に、文字列の取り扱い、配列や構造体などを利用したデータ構造の実現などについて学ぶ。

■到達目標
プログラミング能力、論理的思考能力。

■講義方法
毎週2講時（講義1講時と演習1講時）の授業が開講される。講義部分では、配布資料を使った解説の後、プログラミングの演習問題が出題される。演習部分では、講義部分で解説した例題や演習問題のプログラムを実際に計算機上で動かしてみることで理解を深める。また、教員やティーチングアシスタントの助言を得ながら、作成したプログラムをよりよいものへ変更していく。

■系統的履修
計算機基礎実習Ⅰ・Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示
次回授業の１週間前に、講義プリントと演習課題をWebに載せておくようにしているので、必ず予習しておくこと。また、毎回の授業後は、未完成の演習課題と復習に十分な時間をかけること。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）演習課題の完成状況＋平常点
定期試験（70%）

■テキスト
プリントを配布（Webからもダウンロード可）

■参考文献
宇土顕彦 『効率よく学ぶCプログラミング』 コロナ社
カーニハン、リッチー著、石田晴久訳 『プログラミング言語C（第2版）』 共立出版

■履修上の注意・担当者からの一言
プログラミングは「習うよりも慣れよ」である。積極的に実習室を自習利用してプログラミングの楽しみを感じとってほしい。

■講義計画
①C言語の基本（計算機基礎実習Ⅱの復習）
②１次元配列
③関数
④ポインタ
⑤関数とポインタ
⑥文字処理の基本
⑦文字処理の標準関数
⑧文字列処理の基本
⑨文字列処理の標準関数
⑩文字列の数値への変換
⑪２次元配列
⑫２次元配列と関数
⑬構造体
⑭構造体と関数
⑮総合演習問題

偏微分方程式

【担当】森田　善久
【開講】後期　火2

■サブタイトル
偏微分方程式の基礎理論と、半線形拡散方程式の解

■講義概要
この講義では、偏微分方程式の基礎理論と解法を学ぶ。まず、１階の線形偏微分方程式の初期値問題を扱い、特性曲線の方法による解法を解説する。次に２階線形偏微分方程式が双曲型、放物型、楕円型の３種類に分類できることを説明する。
さらに放物型方程式の代表的な例である半線形拡散方程式の解について詳しく解説する。

■到達目標
偏微分方程式に関する基礎理論と、方程式に対応した解法や解析手法を身につける。

■講義方法
重要事項を解説をしながら、簡単な演習問題を解いていく。演習は基本的事項の確認と、新たに学んだ項目を理解するために行う。演習プリントは課題として提出してもらう。

■系統的履修
「数理モデル基礎Ａ・Ｂ」、「現象の数学Ａ・Ｂ」、「関数解析」

■授業時間外における予・復習等の指示
講義内容をすぐに理解するのは容易でないので、演習プリントの残りを宿題とする。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）演習プリントによる課題の提出
小テスト（40%）小テスト2回
定期試験（40%）

■テキスト
特になし

■参考文献
神保秀一著 『偏微分方程式入門』 共立出版　2,730円
渋谷仙吉、内田伏一 『物理数学コース　偏微分方程式』 裳華房　1,890円

■履修上の注意・担当者からの一言
内容は少し高度です。基礎的な学力がないと講義についていけないかもしれません。
出席を前提とします。2/3以上の出席が無い場合は、定期試験の受験資格がありません。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
初回の講義のときにお知らせします。

■講義計画
①１階線形偏微分方程式の初期値問題
②１階線形偏微分方程式の特性曲線の方法による解法
③２階線形偏微分方程式と特性曲線
④線形拡散方程式の解法
⑤拡散方程式の解の性質
⑥復習（小テスト）
⑦拡散方程式と最大値原理
⑧半線形拡散方程式の解の性質
⑨半線形拡散方程式における最大値原理
⑩半線形拡散方程式の定常問題
⑪復習（小テスト）
⑫解の安定性と漸近挙動Ⅰ
⑬解の安定性と漸近挙動Ⅱ
⑭システムの方程式と解
⑮チューリング不安定性入門

ベクトル解析（2007年度以降入学生）
応用ベクトル解析（2006年度以前入学生）

【担当】阪井　一繁
【開講】前期　水1

■講義概要
天気予報に出てくる「各地の気温」や「各地の降水量」の図を想像してみましょう。全国各地が気温の高低で色分けされていたり、降水量が各地点から上に伸びる棒グラフで示されたりしています。これが、この講義に登場する「スカラー場」と呼ばれるものの一例です。また、同じく天気予報の「全国の風の様子」の図を想像してみましょう。全国各地に矢印(ベクトル)がくっついています。こちらは、「ベクトル場」と呼ばれるものの一例です。スカラー場やベクトル場を微積分や線形代数で学んだ数学を駆使して調べるのが、ベクトル解析です。この講義ではベクトル解析の基本的な計算手法や応用範囲の広いいくつかの定理について解説します。

■到達目標
ベクトル解析の対象である「場」の概念の理解と、関連する計算手法、基本定理の習得を目指す。

■講義方法
通常の講義形式です。なお、受講生の習熟度に応じて講義計画を変更することもあります。

■系統的履修
物理数学・演習Ⅰ、Ⅱ、微積分・演習Ⅰ、Ⅱ、線形代数・演習Ⅰ、Ⅱの内容を理解していないと苦しいです。不安な人は至急復習を勧めます。

■授業時間外における予・復習等の指示
この科目は、演習の時間はありません（ＴＡも付きません）。講義時間内に練習問題を解くことはありますが、それ以外にも自主的に予習・復習（自習用の問題は配布する予定です）を行い、理解度を毎週確認しておくことが必要です。

■成績評価の方法
小テスト（20%）２回（日程は初回講義時に伝えます）予定しています。
定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
小林亮・高橋大輔　『ベクトル解析入門』　東京大学出版会　2,940円

■履修上の注意・担当者からの一言
新しい概念が次々に登場するので、脱落してしまうと取り返すことは不可能に近いです。講義への積極的な参加を心掛けましょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
自習してもわからないところは遠慮なく質問をしてください。オフィスアワーの曜講時は講義中に案内します。

■講義計画
①曲線の接線と法線～微分とベクトルの復習
②曲線の長さ～積分とベクトルの復習
③「場」という考え方
④スカラー場の線積分
⑤ベクトル場の線積分
⑥方向微分・スカラー場の勾配
⑦重積分の復習・グリーンの定理
⑧ベクトル場の回転（渦度）
⑨保存場とポテンシャル
⑩ガウスの発散定理（2次元）
⑪ベクトル場の発散
⑫曲面の接平面と法線
⑬面積分・ガウスの発散定理（３次元）
⑭３次元保存場
⑮全体の復習

メカトロニクス（2006年度以前入学生）

【担当】渋谷　恒司
【開講】後期　金2

■講義概要
メカトロニクスは、メカニクス（mechanics：機械工学）とエレクトロニクス（electronics：電子工学）を融合した総合技術であり、様々な機器に応用されている。メカトロニクスを理解するためには、それを構成する個々の要素についての知識を深めるとともに、それらの構成手法についても理解する必要がある。この授業では電子回路、アクチュエータ、センサ、信号処理、インタフェース、コントローラ等のメカトロニクス要素についての理解を深めるとともに、具体的な例を通してメカトロニクスを応用したシステムの構成方法についても言及する。

■到達目標
メカトロニクスを構成する要素とその構成方法について理解すること。

■講義方法
テキストを中心に講義を進めるが、適宜テキスト以外の内容にもふれる。実物、スライド、ビデオ等を用いて、なるべく現実の物をイメージできるように工夫したい。

■系統的履修
力学Ⅰ・Ⅱ、電磁気学、電子制御Ⅰ・Ⅱ、制御工学Ⅰ・Ⅱ、ロボット工学

■授業時間外における予・復習等の指示
教科書の該当箇所をよく読むと共に、学習した内容を参考文献で挙げた図書およびホームページ等でよく調べること。

■成績評価の方法
レポート（30%）内容、分量等を勘案し決定する。
定期試験（70%）
レポートの内容および期限は講義中に適宜指示する。なお、レポートの期限外提出は減点の対象となるので注意すること。また、全てのレポートを提出しないと単位取得は難しい。

■テキスト
高森　年　『メカトロニクス』　オーム社　2,500円

■参考文献
武藤一夫　『実践　メカトロニクス入門』　オーム社　2,900円
初澤　毅　『メカトロニクス入門』　倍風館　2,700円
塩田　泰仁　『はじめてのメカトロニクス』　森北出版　1,900円
三浦　宏文　『ハンディブック　メカトロニクス』　オーム社　3,800円
赤津　観（監修）『最新　モータ技術のすべてがわかる本』　ナツメ社　1,890円
メカトロニクスの内容は多岐にわたり，１冊の教科書だけでは十分にカバーできない。できれば上に挙げた参考書も参照して欲しい。なお、他の参考文献も多数あるので、適宜授業で紹介するつもりである。

■履修上の注意・担当者からの一言
力学、電子回路、電磁気学、制御工学等についての基礎的な知識を要する。特に機械システム工学科以外の学生は、この点に注意すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは特に設けないが、研究室（１－３１４）に来てくれれば、時間がある限り対応する。

■講義計画
①メカトロニクス概論
②アクチュエータ（1）　アクチュエータ概論、D.C.モータ
③アクチュエータ（2）　A.C.モータ
④アクチュエータ（3）　ステッピングモータ
⑤アクチュエータ（4）　その他の電気アクチュエータ、および油圧・空気圧アクチュエータ
⑥減速機構
⑦センサ（1）　センサ概論、変位センサ
⑧センサ（2）　速度、加速度センサ
⑨センサ（3）　力センサ、その他のセンサ
⑩アナログ情報処理（1）　アナログ素子、OPアンプによる増幅とフィルタ
⑪アナログ情報処理（2）　A/D変換，D/A変換
⑫ディジタル情報処理
⑬コンピュータ，コントローラ
⑭制御工学入門
⑮メカトロニクス設計法とまとめ

力学（2007年度以降入学生）
力学Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】飯田　晋司
【開講】前期　月2

■サブタイトル
質点・質点系・剛体の運動

■講義概要
「物理数学・演習Ⅰ・Ⅱ」に続き、質点・質点系・剛体の運動の取り扱い方やそれらの一般的な性質について説明する。前半では、大きさや形を無視して点で近似した物体（質点）に対して、複雑な運動を調べる上でも有用なエネルギーの概念と回転運動の記述に有用な角運動量の概念について説明する。後半では、質点の集まり（質点系）の運動を考える。相互作用する多数の質点の運動を一般的に扱うことは困難であるが、重心運動と相対運動という概念を導入して幾つかの解析できる場合を考える。特に､質点相互の位置が変わらないと近似した質点系（剛体）に対して、幾つかの簡単な場合で、その運動を理解する。

■到達目標
エネルギーの概念とそれによる運動の理解、力のモーメント・角運動量・慣性モーメントといった回転運動に関わる概念、質点系における重心の概念、大きさや形を考慮に入れた物体のつり合いや運動の仕組み

■講義方法
教科書･教員作成の資料によって通常の講義形式で授業を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
各回の講義は、それまでの講義内容の理解を前提としています。オフィスアワー、チューター、序論などを利用して理解が不十分な点を残したままにしないようにしてください。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
佐川弘幸／本間道雄　『力学 第2版』　シュプリンガー・ジャパン　2,200円

■参考文献
特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法
連絡先：iida@rins.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①仕事とエネルギー（1次元）：調和振動における力学的エネルギーの保存
②力学的エネルギー保存と運動の範囲、重力による位置エネルギー、1次元の運動における位置エネルギー
③抵抗力により力学的エネルギーが減少する場合
④保存力、3次元の力のポテンシャルの計算例、中心力
⑤力学的エネルギー保存と運動の範囲（3次元）、保存力の向きと力のポテンシャル、仕事とエネルギーの変化
⑥角運動量、力のモーメント、中心力が働く場合の角運動量の保存、2次元極座標での角運動量
⑦極座標系での運動エネルギーと力の中心までの距離の変化する領域
⑧逆2乗力が働く場合に力の中心までの距離の変化する領域
⑨2次元極座標系での運動方程式
⑩一定の角速度で回転する座標系での運動方程式、コリオリ力、遠心力
⑪地球表面近くでの物体の運動、フーコー振り子の運動
⑫原点が運動する座標系、慣性力、質点系の質量中心
⑬質量密度が与えられている場合の質量中心の計算、質点系の運動量とエネルギー
⑭2物体の衝突におけるはねかえり係数
⑮質点系の角運動量、固定軸のまわりの剛体の回転運動と慣性モーメント

離散数学・演習（2007年度以降入学生）

【担当】國府　宏枝
【開講】後期　金2

■サブタイトル
証明問題に強くなろう。

■講義概要
論理的思考力、また、それを人にわかりやすく説明するといった能力はあらゆる場面で必要なものです。この講義では、論理パズルを解きながら、論理学の基礎を学びます。また、簡単な数学の証明問題にチャレンジします。証明の間違い探しや、証明を書くことを練習します。

■到達目標
論理力を鍛え、正しい証明をかけるようにします。

■講義方法
１回ごとに解説とテストをします。

■系統的履修
集合と位相および演習

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回出される１，2題の宿題を次回に提出してください。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（40%）１回または２回まとめのテストをします。
定期試験（50%）

■テキスト
中内伸光　『ろんりの練習帳』　共立出版　2,200円

■参考文献
小野田博一　『論理力を強くする』　講談社　800円
松井知己　『だれでも証明が書ける』　日本評論社　2,200円
野崎昭弘　『逆説論理学』　中公新書　760円

■履修上の注意・担当者からの一言
進路に合わせて、講義内容・講義計画の変更があるかもしれません。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
1-501の前、あるいは１号館の掲示版に掲示されているので見ておいてください。

■講義計画
①論理パズル１－真実とウソ
②論理パズル２－否定とand とor
③論理パズル３－ならば
④論理パズル４－十分条件と必要条件
⑤論理パズル５－恒真・恒偽
⑥論理パズル６－和積・積和標準形
⑦今までの確認テストと解説
⑧証明１－論理が正しい・対偶・逆
⑨証明２－背理法
⑩証明３－数学的帰納法
⑪述語論理－allとexist
⑫述語論理－allとexistの否定
⑬証明問題－allとexist
⑭後半の確認テストと解説
⑮連続性の定義

理論物理A（2007年度以降入学生）
統計熱力学（2006年度以前入学生）

【担当】大坂　寿之
【開講】後期　水2

■講義概要
統計力学は我々が日常で見かける巨視的な現象を、物質を構成する原子分子などの微視的な系が従う物理法則を統計的手法を用いて結びつける。巨視的スケールの熱現象の基礎から出発し、エントロピーをキーワードに例を交えて統計力学の考え方を説明する。

■到達目標
エントロピーと呼ばれる基本的物理量の熱力学的意味、統計力学的意味を理解する。

■講義方法
通常の講義形式で進める。

■系統的履修
物理数学および演習Ⅰ・Ⅱ、力学Ⅰ、確率統計Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示
毎回の授業終了後に復習をして、理解内容を定着させると共にその内容から派生する事柄（内容を掘り下げる、別条件での場合，関連する演習問題，など）も考えて、自主的な学習に繋げて行って下さい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
必要があれば講義中に紹介します。

■講義計画
①ガイダンス、巨視的世界と微視的世界
②熱力学序論
③熱力学第１法則、理想気体
④熱機関、熱力学第２法則
⑤熱力学におけるエントロピー
⑥統計力学序論、統計力学におけるエントロピー
⑦ボルツマン因子と分配関数
⑧ヘルムホルツの自由エネルギー
⑨エントロピーによる力
⑩エントロピーによる力の例
⑪統計力学的エントロピーと熱力学的エントロピー
⑫量子統計序論
⑬フェルミ・ディラック統計
⑭ボース・アインシュタイン統計
⑮量子統計とボルツマン分布

教職課程科目

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
カ	介護等体験	大西　俊弘／山中　健一／脇田　博文	通年	集中	187
	学校カウンセリング論	石川　眞理子	前期	水４	188
	学校教育社会学	池田　曜子	後期	水３	189
キ	教育の方法と技術	神月　紀輔	前期	木１	189
	教育課程論	大西　俊弘	後期	土２	190
	教育実習指導Ⅰ	大西　俊弘／山中　健一／脇田　博文	前期	月３	190
	教育実習指導ⅡＡ	大西　俊弘／山中　健一／脇田　博文	通年	集中	191
	教育実習指導ⅡＢ	大西　俊弘／山中　健一／脇田　博文	通年	集中	191
	教育社会学	森　繁男	通年	月３	192
	教育社会学Ⅰ	森　繁男	前期	月３	193
	教育社会学Ⅱ	森　繁男	後期	月３	193
	教職実践演習（中・高）	各教員 （大西　俊弘／山中　健一／脇田　博文）	後期	月３・４、 火１・２、 水４、金４	194
	教職論	山中　健一	前期	土２	195
シ	情報科教育法	松原　伸一	通年	水１	196
	情報科教育法Ⅰ	松原　伸一	前期	水１	197
	情報科教育法Ⅱ	松原　伸一	後期	水１	197
	人権教育論／同和教育論	岸　衛	前期	水４	198
ス	数学科教育研究Ａ	森原　則男	前期	木４	198
	数学科教育研究Ｂ	大西　俊弘	後期	木４	199
	数学科教育法	大西　俊弘	前期 後期	月５ 月３	200
	数学科教育法Ⅰ	大西　俊弘	前期	月５	201
	数学科教育法Ⅱ	大西　俊弘	後期	月３	201
セ	生徒指導論	脇田　博文	後期	金１	202
ト	道徳教育指導法	牧﨑　幸夫	後期	土１	203
	特別活動論	脇田　博文	前期	金１	204

介護等体験　【担当】大西　俊弘、山中　健一、脇田　博文

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅰ（介護等体験）　【開講】通年　集中

■サブタイトル

心豊かな教師を目指して～「介護等体験」への参加～

■講義概要

子ども達に「豊かな心」を育むことが今日の教育の大きな課題となっている。そのためには、まず教師自らが「豊かな心」をもつ存在でなければならない。障害者や高齢者などに対する介護、介助、これらの人々との交流が、人間の尊厳を自覚させ、相手の立場や心に思いを馳せる「豊かな心」を育む貴重な経験となるのである。

国では教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成10年4月1日施行）により、小・中学校の教員免許状を取得しようとする者に「介護等体験」への参加を義務づけている。これを基に本学では、特別支援学校および社会福祉施設で行う「介護等体験」とともに、その事前･事後に大学で必要な指導を行い、それらを総合して教職関係科目に位置づけている。

■到達目標

教師に必要な「豊かな心」を育む。

■講義方法

・１年次の10月からガイダンスが始まるので掲示には注意しておくこと。１年次に２回の説明会と講演会を行い、２年次には説明会及　び事務手続きを行い、６月より随時体験に入る。

・2年次生以上の履修についても1年次生と同様。

■授業時間外における予・復習等の指示

指示されたことを確実に遵守し、龍谷大学生としての自覚をもって体験を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（50%）事前・事後指導及び体験への参加状況、意欲・態度を評価する。

その他（50%）提出された記録簿、レポートの内容、学校・施設からの報告書等を総合的に評価する。

上記の尺度･割合を目安として総合して単位認定する。ただし、下記の履修上の注意にもあるように、説明会・講演会の欠席、提出物の遅れ、体験の無断欠席や遅刻等、教職への適性を著しく欠く場合には単位を認定しない。

■テキスト

講義で適宜配布する。

■参考文献

講義で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

①説明会や講演会には必ず出席すること。無断欠席の場合は受講資格を失う。公欠等でやむなく欠席する場合は事前に相談・届出をし、指示を受けること。
②教育実習の先修要件であるので､3年次までに履修すること。
③書類などの提出日は厳守すること。
④進路変更などにより受講を途中で辞退する者は教職課程教室に「辞退届」を提出すること。
⑤「体験」への無届け欠席や遅刻は絶対に許されない。
⑥「体験」には真摯な態度で臨むこと。

■講義計画

①介護等体験説明会①－ガイダンス及び登録
②介護等体験説明会②－介護等体験の意義と課題
③介護等体験講演会１－障害児教育諸学校
④介護等体験説明会③及び事務手続き
⑤介護等体験講演会２－福祉施設
⑥介護等体験説明会④－福祉施設への参加手続き
⑦介護等体験説明会⑤－特別支援学校への参加手続き
⑧介護等体験への参加
1. 障害児教育諸学校　2日間
2. 社会福祉施設　5日間
⑨介護等体験を振り返って－記録簿等の書類提出

学校カウンセリング論

【担当】石川　眞理子
【開講】前期　水4

■サブタイトル
教育現場で活かすカウンセリングを学ぶ

■講義概要
教育現場では不登校、いじめ、校内暴力、学級崩壊などの心理・社会的諸問題が多発している。
このような問題の指導や解決のためには、教師自身も心理カウンセリング的資質が必要となってくる。
本講義では、学校現場におけるカウンセリングの基礎を学び、心理カウンセリング的な基本的態度と、
具体的な対応について理解を深めていくこととする。

■到達目標
教育活動における心理カウンセリング的な基礎知識を習得し、問題を抱えた児童・生徒への援助方法を習得する。

■講義方法
講義+演習形式で行う。必要に応じて、資料・プリントを配布、視聴覚教材を用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業では小テストを5回実施するので、毎回授業の復習をしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）平常点（出席+演習）取り組みを重視する
小テスト（30%）小テストを5回実施する
レポート（20%）最終講義で発表
そ の 他（10%）ミニレポート（2回）
主体的な授業態度を重視する。

■テキスト
特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献
馬場謙一・松本京介（編）『スクールカウンセリングの基礎と経験』 日本評論社
管佐和子・木之下隆夫（編）『学校現場に役立つ臨床心理学』 日本評論社
松原達哉（編）『教師のためのカウンセリング技術』 教育開発研究所
関連文献は講義中に適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
本講義では座席指定制を導入。
初講時の出席により座席を決定しますので、受講希望者は初講の参加が重要となります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
メール連絡とします。
miv26045@fc.ritsumei.ac.jp

■講義計画
①オリエンテーション
②学校カウンセリング基本的理解（1）
問題のある児童・生徒の早期発見・観察法
③学校カウンセリング基本的理解（2）
問題のある児童・生徒の早期発見・診断・効果の測定のための心理テスト
④学校カウンセリング基本的理解（3）
教師のための予防的・開発的グループカウンセリング技術
⑤学校カウンセリング基本的理解（4）
個別面接による来談者中心カウンセリングの技術
⑥学校カウンセリング基本的理解（5）
人間関係づくりのための集団カウンセリング
⑦学校カウンセリング基本的理解（6）
社会生活能力を育てる訓練法
⑧学校カウンセリング基本的理解（7）
進路指導のためのキャリアカウンセリング
⑨学校カウンセリングの基本的理解（8）
無気力・無意欲の児童・生徒のための生活分析的カウンセリング
⑩学校カウンセリング応用（1）
不登校・ひきこもりへの対応
⑪学校カウンセリング応用（2）
いじめへの対応
⑫学校カウンセリング応用（3）
学級崩壊への対応
⑬学校カウンセリング応用（4）
暴力・非行への対応
⑭学校カウンセリング応用（5）
スクールカウンセラーと連携した指導
⑮ミニ施行カウンセリング演習
まとめ

学校教育社会学　※2011年度までの旧名称：教育制度論

【担当】池田　曜子
【開講】後期　水3

■講義概要
教育社会学の代表的な理論を、その歴史と近年の研究動向を踏まえながら解説する。
特に、教育社会学の理論と学校組織、教育環境との関連に焦点を絞り、どのようにして、これからの社会における新しい教育のあり方、学校のあり方を多面的に考えていく。

■到達目標
講義内で取り上げる事象を身近なものとしてとらえ、批判的な思考力を養うことによって、その他の事象に関しても自ら理解を深められるようになることを目指す。

■講義方法
講義ごとに配布するレジュメや資料を利用し、講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示
教育社会学に関する基礎的な概念・知識に関して、授業後復習し理解することが望ましい。
授業で取り扱った内容に関連した時事問題に関心を持ち、積極的に授業において自ら紹介できるようになることを推奨する。

■成績評価の方法
レポート（30%）毎授業終了時に提出してもらう小レポート
定期試験（70%）学期末の筆記試験

■テキスト
講義ごとにレジュメや資料を配布します。

■参考文献
講義内において適宜紹介します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業前後の時間またはy-ikeda@cc.nara-wu.ac.jpまで連絡してください。

■講義計画
①イントロダクション
　日本の教育界の現状
②いじめ
③不登校
④子どもの居場所
⑤教師生徒関係
⑥教師の多忙化
⑦カリキュラムと学力①
⑧カリキュラムと学力②
⑨学ぶことの意味
⑩選抜と進路選択①
⑪選抜と進路選択②
⑫階層と努力①
⑬階層と努力②
⑭これからの学校の可能性①
⑮これからの学校の可能性②

教育の方法と技術　※2011年度までの旧名称：メディア教育論

【担当】神月　紀輔
【開講】前期　木1

■講義概要
講義は前半と後半で大きく2つにわける。
前半は、生徒が「主体的に学ぶ」ことを意図した授業設計を実践的に行う。
後半は、教育の情報化に伴うデジタル技術について概観したのち、教育現場における情報機器の活用を授業でどのように取り入れるかについて、実践的に考える。
情報機器に関する最新の情報を適宜講義の中で紹介し、また、情報機器を扱う上で重要な情報モラルについても考える時間をとりたいと考えている。

■到達目標
教育実践において、次のことができるようになることを目標に置く
・生徒の主体的な学びをデザインできる。
・生徒の効果的な情報機器の活用を支援できる。

■講義方法
講義とグループによる演習およびe-Learningをブレンドした形で行う予定である。
グループ編成は初回に行うので､できるだけ欠席のないように。

■授業時間外における予・復習等の指示
各自が取得しようとする教員免許の指導法については復習しておきたい。
また、最新の教育事情や情報機器の取り扱いについても、新聞やマスコミなどで情報を得ておくとさらに学習を進めることができる。
メールやWebによりコメント収集やレポート提出を行うので基本操作の復習をしておきたい。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）自己評価、相互評価、到達度評価シートなど
小テスト（30%）2～3回､知識理解について授業内でテストを行う。
レポート（40%）学校における理想の教育方法について、メールにより提出
5回以上の欠席は単位を認定しません。

■テキスト
特になし

■参考文献
西之園 晴夫 『学習ガイドブック教育の技術と方法―チームによる問題解決のために』 ミネルヴァ書房　1,890円
教員免許取得予定の校種・教科の学習指導要領解説は随時使用する。
その他、参考文献は適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
グループ学習が中心となるので、積極的な参加が望まれます。
できるだけ欠席をしないようにがんばりましょう。
メールによりレポート等の提出をするので、PCの基本的操作を復習しておいてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
連絡先　norisuke@norisuke.net
メールで連絡はお願いします。

■講義計画
①ガイダンス、グループ分け
②教育とは、学習とは
③教育工学
④主体的に学ぶとは
⑤主体的に学ぶための授業デザイン
⑥主体的な学び相互評価
⑦情報教育とは
⑧情報の科学的理解
⑨情報モラルと人権教育、生徒指導
⑩教育における情報機器の活用
⑪情報活用の実践力
⑫情報活用の実践力を意図した授業デザイン
⑬情報活用の実践力相互評価
⑭これからの機器活用
⑮まとめと自己評価

教育課程論

【担当】大西　俊弘
【開講】後期　土2

■講義概要
すべての教育活動には目的があり、その目的を遂行するには、綿密な計画が必要となる。学校における教育活動の計画（全体）が、教育課程であるといえる。本講義では、教育課程について生徒の視点ではなく、教師（指導者）の視点で捉えて解説する。具体的には、次のような内容に取り組む。
1．中学校･高等学校における教育課程について､実例を通して概観する。
2．学校現場と教育行政との関係を踏まえた上で、教育課程編成の手順について学ぶ。
3．戦後の教育課題と関連させながら､学習指導要領の変遷について学ぶ。
4．近年の学力観・評価観について解説し、教育課程編成における新しい取り組みと紹介する。
5．学習指導要領の改訂と学力低下問題の関係について考察する。
6．諸外国の教育制度・教育課程を参考にして、今後の日本の教育のあり方を考える。

■到達目標
学校現場における教育課程の重要性について認識し、様々な教育問題への興味・関心を深める。学校現場の状況及び国の政策について学ぶことにより、今後の教育が目指していくべき方向性について考える。

■講義方法
講義形式ではあるが、出来る限り学生参加型の授業としたい。また、視聴覚教材の活用も積極的に図りたい。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業後に、まず確実に復習を行い、理解を確実なものとしてほしい。

■成績評価の方法
レポート（10%）レポート未提出の場合は､単位を認定しない。
定期試験（90%）基本事項を幅広く出題、記述式
レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。
授業への参加は必須要件であり、特別な事情なしに3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
また､レポート未提出の場合も､原則として単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
田中耕治　他３名　『新しい時代の教育課程』　有斐閣アルマ　1,900円
中学校・高等学校の学習指導要領やその解説書が必要になる場合があるが、その都度指示する。
その他の参考文献については適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー：水曜日・木曜日の３講時に研究室（2号館117号室）にて。
連絡方法：電子メールにて（メールアドレスは講義で連絡）

■講義計画
①序論（教育をめぐる社会の状況）
②戦前の教育制度・教育改革
③戦前の教育課程について
④戦後の教育改革と生活単元学習
⑤系統学習と戦後の学習指導要領の変遷
⑥学校教育に関する法体系と教育課程
⑦高等学校の各種制度と学習指導要領
⑧教育課程編成の実際
⑨高等学校における未履修問題
⑩学力低下問題と学習指導要領の関係
⑪国際的な学力調査の結果が教育課程に及ぼす影響
⑫観点別評価と生徒指導要録
⑬外国の教育課程
⑭教育改革の方向性と新学習指導要領
⑮新学習指導要領の実施に向けての課題

教育実習指導Ⅰ

【担当】大西　俊弘、山中　健一、脇田　博文
※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅱ（事前指導）
【開講】前期　月3

■サブタイトル
教育実習に向けて

■講義概要
教育実習は教員養成課程の総仕上げとしての位置付けを持つ。実習生にとっては生涯忘れ得ぬ感動を得る機会である。同時に、実習校及び実習校の生徒にとっても絶対に有意義なものでなければならない。
そのために、実習生は教師として必要な最低限の見識と能力を備えている必要がある。本学では教育実習の先修科目として「教育原論」「発達と教育（青年心理学）」「教科教育法」「人権論A」「人権論B」「介護等体験」を必修と定めている。この他にも､「教師論」「生徒指導論」「学校カウンセリング論」「メディア教育論」「教育制度論」等の教職科目と、できるだけ多くの「教科に関する科目」を実習前年までに修得している事が望ましい。
これら先修科目の基盤として、教師として必要な責任の自覚を促し、教育実習に関する実務的内容を教授するのが「教育実習指導Ⅰ」の目的である。

■到達目標
教壇に立つ心構えを身につける。

■講義方法
必要な資料を配布して説明する。

■系統的履修
教育実習指導ⅡＡまたは教育実習指導ⅡＢ

■授業時間外における予・復習等の指示
適宜指示を行う。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）出席状況
レポート（60%）毎回の講義で提出を求めるレポートの内容
その他（10%）教職を目指す者にふさわしい意欲・態度等
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。

■テキスト
『教育実習の手引き』（龍大教職課程教室編）を配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
教育実習前は健康管理に十分気をつけること。

■講義計画
①はじめに（教育実習の意義）
②教育実習の準備と心得
③教員の服務
④教科指導
⑤教科外活動の指導
⑥最近の学校教育の現状と課題
⑦今後の教育改革の方向
⑧教育実習後の総括

教育実習指導ⅡA　【担当】大西　俊弘、山中　健一、脇田　博文

※2011年度までの旧名称：教育実践研究ⅢA（教育実習）　【開講】通年　集中

■サブタイトル
教えられる立場から教える立場へ

■講義概要
「教育実習指導ⅡA」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など実に多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。
教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。

■到達目標
「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法
学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修
教育実習指導Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示
十分な教材研究を事前に行うこと。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）実習後の報告・事後指導
レポート（30%）実習記録・指導案・レポート
そ の 他（60%）実習校の評価
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後２週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。

■テキスト
特になし

■参考文献
教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）

■履修上の注意・担当者からの一言
・真摯な態度で参加すること。
・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画
①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
②事前打ち合わせ
③オリエンテーション
④教科指導
　１．授業見学（多くは期間前半に実施）
　２．授業実施（多くは期間後半に実施）
　３．研究授業と批評会
⑤特別活動の指導
　１．学級（SHR、LHR）指導
　　中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
　２．その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
⑥その他の校務分掌業務について
⑦教育実習全体の反省
⑧教職に就くに当たっての心得など

教育実習指導ⅡB　【担当】大西　俊弘、山中　健一、脇田　博文

※2011年度までの旧名称：教育実践研究ⅢB（教育実習）　【開講】通年　集中

■サブタイトル
教えられる立場から教える立場へ

■講義概要
「教育実習指導ⅡB」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など実に多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。
教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。

■到達目標
「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法
学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修
教育実習指導Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示
事前に十分な教材研究を行うこと。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）実習後の報告・事後指導
レポート（30%）実習記録・指導案・レポート
そ の 他（60%）実習校の評価
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後２週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。

■テキスト
特になし

■参考文献
教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）

■履修上の注意・担当者からの一言
・真摯な態度で参加すること。
・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画
①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
②事前打ち合わせ
③オリエンテーション
④教科指導
　１．授業見学（多くは期間前半に実施）
　２．授業実施（多くは期間後半に実施）
　３．研究授業と批評会
⑤特別活動の指導
　１．学級（SHR、LHR）指導
　　中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
　２．その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
⑥その他の校務分掌業務について
⑦教育実習全体の反省
⑧教職に就くに当たっての心得など

教育社会学（2006年度以前入学生）

【担当】森　繁男
【開講】通年　月３

■サブタイトル
（前期）教育社会学入門　（後期）教育現象の社会学的理解

■講義概要
教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。本授業は教育に対するこうしたアプローチから次のように展開してゆく。

まず前期では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。

続いて後期では、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。

■到達目標
「教育」というきわめて「価値的」な営みを「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握し、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。

■講義方法
前期では、主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。
後期では、上記の方法以外に、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。

■系統的履修
「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問や「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。
「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言
ミクロな「相互作用」とマクロな「社会構造」との関連の中で「教育現象の発生」を理解するような社会学的視点を養い、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。

■講義計画
①イントロダクション
②社会学的社会観と教育作用（1）
③社会学的社会観と教育作用（2）
④教育社会学の視点と方法（1）
⑤教育社会学の視点と方法（2）
⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（1）
⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（2）
⑧現代学校の理念と現実（1）
⑨現代学校の理念と現実（2）
⑩社会の変化と家族関係（1）
⑪社会の変化と家族関係（2）
⑫メディアと地域の教育環境
⑬教育問題の発生と解釈（1）
⑭教育問題の発生と解釈（2）
⑮前期のまとめ
⑯教育学と社会学の接点（1）
⑰教育学と社会学の接点（2）
⑱家族・学校と教育の階層性（1）
⑲家族・学校と教育の階層性（2）
⑳文化的再生産と社会的相互作用（1）
㉑文化的再生産と社会的相互作用（2）
㉒ディスカッション（その１）
㉓ジェンダーと教育の諸現象（1）
㉔ジェンダーと教育の諸現象（2）
㉕メディアと青少年の文化問題（1）
㉖メディアと青少年の文化問題（2）
㉗ディスカッション（その２）
㉘教育社会学と教育実践
㉙教育社会学と教育改革
㉚後期のまとめ

教育社会学Ⅰ（2007年度以降入学生）

【担当】森　繁男
【開講】前期　月3

■サブタイトル
教育社会学入門
■講義概要
教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。まず前期の本授業では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。
■到達目標
「教育」というきわめて「価値的」な営みを、「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握する態度を養いたい。
■講義方法
主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。
■系統的履修
「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。
「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。
■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）
■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）
■履修上の注意・担当者からの一言
日常の人と人とのコミュニケーション（相互作用）を注意深く観察し、人間関係や人間形成のあり方と社会の仕組み（社会構造）とをつないでいる「文化」を読み取るよう心がけていただきたい。（なお、本科目を「教職科目」として受講するつもりの理工学部の学生は、本科目よりも別途開講されている「学校教育社会学」を受講することが望ましい。）
■講義計画
①イントロダクション
②社会学的社会観と教育作用（1）
③社会学的社会観と教育作用（2）
④教育社会学の視点と方法（1）
⑤教育社会学の視点と方法（2）
⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（1）
⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（2）
⑧現代学校の理念と現実（1）
⑨現代学校の理念と現実（2）
⑩社会の変化と家族関係（1）
⑪社会の変化と家族関係（2）
⑫メディアと地域の教育環境
⑬教育問題の発生と解釈（1）
⑭教育問題の発生と解釈（2）
⑮前期のまとめ

教育社会学Ⅱ（2007年度以降入学生）

【担当】森　繁男
【開講】後期　月3

■サブタイトル
教育現象の社会学的理解
■講義概要
本授業では、前期の「教育学社会学Ⅰ」に引き続いて、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。
■到達目標
社会学的視点と方法から、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。
■講義方法
「レクチャー」をプリントやビデオで補いつつ、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。
■系統的履修
「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。さらに前期の「教育社会学Ⅰ」を先修していることが望ましい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。
「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。
■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）
■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）
■履修上の注意・担当者からの一言
様々な「教育現象」を社会学的にとらえ、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。
■講義計画
①教育学と社会学の接点（1）
②教育学と社会学の接点（2）
③家族・学校と教育の階層性（1）
④家族・学校と教育の階層性（2）
⑤文化的再生産と社会的相互作用（1）
⑥文化的再生産と社会的相互作用（2）
⑦ディスカッション（その1）
⑧ジェンダーと教育の諸現象（1）
⑨ジェンダーと教育の諸現象（2）
⑩メディアと青少年の文化問題（1）
⑪メディアと青少年の文化問題（2）
⑫ディスカッション（その2）
⑬教育社会学と教育実践
⑭教育社会学と教育改革
⑮後期のまとめ

教職実践演習（中・高）

【担当】各教員（大西　俊弘、山中　健一、脇田　博文）
【開講】後期　月3・4、火1・2、水4、金4

■サブタイトル
4年間の総仕上げとして教職への適性を省察する

■講義概要
本授業は教職課程科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認することを目的とする。この意味で、全学年を通じた総仕上げとしての位置付けを持つ。
テーマとしては、本科目の趣旨を踏まえ、教員として求められる①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科内容等の指導力に関する４つの事項を中心に展開する。
【注意事項】先修要件等
ア 教育実習指導ⅡＡ・ⅡBの先修要件（教育原論等）を満たしている者
イ ４年次前期までの履修カルテの入力を済ませている者
ウ 教育実習指導ⅡＡ・ⅡBが不合格の場合は、本授業の単位も不認定となる。

■到達目標
将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活を円滑にスタートできるようになる。

■講義方法
授業は、講義概要で示した4つの事項に関する講義・研究協議の他に、より実践場面を想定した課題に基づいて、学生自らがグループ討議、ロールプレーイング、発表等を行い、自らの教員としての資質能力を確認するようにする。また、これ以外にも講演会等によって、教職に対する自覚･省察を深める。
【注意事項】授業の一環として、9月下旬に全体会を開催し、オリエンテーション、講演等を行うので必ず参加すること。日程等の掲示に注意すること。

■系統的履修
※「履修カルテ」をWeb上で必ず記入すること。（未記入者は評価対象外とする。）

■授業時間外における予・復習等の指示
『教職実践演習ノート』を使用する。毎回出される課題をその都度適切にこなすこと。

■成績評価の方法
平常点（30%）授業への参加度・意欲等　※3分の１以上の欠席者は単位不認定とする。
その他（70%）毎回だされる課題等　※下記の自由記載参照
上記の評価基準を原則にして総合的に評価を行う。併せて教職科目の修得状況、ボランティア等の学外活動及び本授業を通して、講義概要で示した４つの事項について教職の適性を4段階（ABCD）で評価する。

■テキスト
『教職実践演習ノート』（龍谷大学教職課程編）を配布する。
4月配布の『教育実践研究』（龍谷大学教職課程編）も参考にすること。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
ア 講座の決定については予備登録を実施する。4月当初の履修登録に関する教職課程の指示に十分注意すること。
イ 意欲的に参加すること。就職活動やアルバイト等の個人的な理由による欠席は認めない。

■講義計画
①授業の趣旨・計画・評価及び諸注意
②教職の意義及び教員の役割
③子どもの変化と理解
④協議及びまとめ、今後のスケジュールに関する諸注意等
⑤教育実習を振り返って
⑥テーマ１：教職の意義や教員の役割、職　務内容等
⑦テーマ２：子どもの変化と理解、子どもに対する責任等
⑧テーマ３：社会性や対人関係能力
⑨テーマ４：保護者・地域への対応
⑩テーマ５：教科指導力の向上①
⑪テーマ５：教科指導力の向上②
⑫テーマ６：生徒指導力の向上①
⑬テーマ６：生徒指導力の向上②
⑭テーマ７：学級経営力の向上
⑮まとめ：自己評価、アンケート等

教職論　※2011年度までの旧名称：教師論

【担当】山中　健一
【開講】前期　土2

■サブタイトル
これからの教員に求められる資質能力とは何か。

■講義概要
教員に求められる資質能力とは何か。まず教員は豊かな教養をもち、高い専門的知識・技能、教員としての使命感、教育的愛情等のいつの時代にも求められる資質能力を有することが必要である。さらに、これからの教員には、社会変化の激しい時代にあって､子どもたちに「生きる力」を育むためにも、幅広い視野、課題解決能力、対人関係能力、変化への対応能力等の実践的指導力を併せてもつことが期待されている。
本講義では、今日の教員が直面する教育課題や職務内容など、教職に関する全体像を理解するとともに、教育改革が進む中、これからの時代に期待される教師像について考察していく。

■到達目標
教員に求められる資質能力について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法
講義の他、学生参加型授業を取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示
必要に応じて、小テストを実施するので復習をしておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（10%）　必要に応じて実施する。
レポート（10%）　必要に応じて実施する。
定期試験（50%）
上記の割合を原則として、総合的に評価する。

■テキスト
講義の中で適宜プリントを配布する。

■参考文献
講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として、意欲的に受講すること。

■講義計画
①教職の意義
②教育法規
③教員養成
④任用と服務
⑤勤務条件
⑥資質向上と研修
⑦学校組織
⑧学校経営・学級経営
⑨教育課程編成・学習指導
⑩生徒指導・進路指導
⑪教育課題
⑫職務の実際と連携
⑬家庭・地域等との連携
⑭教育改革
⑮教職への道

情報科教育法（2009年度以前入学生）

【担当】松原　伸一
【開講】通年　水１

■講義概要
前期では、情報教育の在り方について論じ、教科「情報」の新設や改訂の経緯と趣旨について述べる。次に、情報教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置付けを明確にし、教科「情報」の目標及び科目編成やその指導法などを取り上げ、情報科教育に関わる方法論を中心に講義する。
また、後期では、教科「情報」の授業内容について考察する。特に、その展開については、問題解決を考慮した内容展開、実習の有効的活用、情報手段の活用、理解定着・自己学習力育成の実習について考察し、情報科教育に関わる内容論を中心に講義する。

■到達目標
前期では、下記の通りとする。
１．教科「情報」の新設及び改訂の意義について理解を深める。
２．情報教育の歴史的経緯について理解を深める。
３．情報教育の在り方とその目標について理解を深める。
４．情報科教育に関わる方法論について理解を深める。
また、後期では、下記の通りである。
１．教科「情報」の内容について、理論的側面を中心に理解を深める。
２．教科「情報」の内容について、実践的側面を中心に理解を深める。

■講義方法
基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜う。

■授業時間外における予・復習等の指示
該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくいこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎授業の平 常 点（小演習、小テストを含む）
レポート（20%）授業の展開に合わせて、レポートを課す。
定期試験（50%）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト
松原伸一　『情報学教育の新しいステージ』　開隆堂　2,300円

■参考文献
文部科学省　『高等学校学習指導要領解説情報編』　開隆堂　210円

■履修上の注意・担当者からの一言
レポートは、電子レポートとする。
電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画
①ガイダンスおよび教科教育について
②教科「情報」の概要
③情報教育の歴史的経緯（1）～教科「情報」の新設まで
④情報教育の歴史的経緯（2）～教科「情報」の改訂
⑤情報教育の在り方と目標
⑥小学校における情報教育
⑦中学校における情報教育
⑧教科「情報」新設の趣旨と意義
⑨共通教科「情報」の目標と科目構成
⑩専門教科「情報」の目標と科目構成
⑪評価と基準（規準）
⑫学習評価
⑬授業改善
⑭年間指導計画
⑮まとめ（前半）
⑯後半のガイダンス
⑰授業内容研究１ａ：データと情報（理論）
⑱授業内容研究１ｂ：データと情報（実践）
⑲授業内容研究２ａ：アナログとディジタル（理論）
⑳授業内容研究２ｂ：アナログとディジタル（実践）
㉑授業内容研究３ａ：リアルとバーチャル（理論）
㉒授業内容研究３ｂ：リアルとバーチャル（実践）
㉓中間まとめと中間レポートの課題提示と考察
㉔授業内容研究４ａ：メディア（理論）第５章
㉕授業内容研究４ｂ：メディア（実践）
㉖授業内容研究５ａ：生活への影響（理論）
㉗授業内容研究５ｂ：生活への影響
㉘総合実践研究１
㉙総合実践研究２
㉚まとめ

情報科教育法Ⅰ（2010年度以降入学生）

【担当】松原　伸一
【開講】前期　水1

■講義概要
情報教育の在り方について論じ、教科「情報」の新設や改訂の経緯と趣旨について述べる。次に、情報教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置付けを明確にし、教科「情報」の目標及び科目編成やその指導法などを取り上げ、情報科教育に関わる方法論を中心に講義する。

■到達目標
1．教科「情報」の新設及び改訂の意義について理解を深める。
2．情報教育の歴史的経緯について理解を深める。
3．情報教育の在り方とその目標について理解を深める。
4．情報科教育に関わる方法論について理解を深める。

■講義方法
基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜う。

■授業時間外における予・復習等の指示
該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくいこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎授業の平 常 点（小演習、小テストを含む）
レポート（20%）授業の展開に合わせて、レポートを課す。
定期試験（50%）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト
松原伸一 『情報学教育の新しいステージ』 開隆堂　2,300円

■参考文献
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説情報編』 開隆堂 210円

■履修上の注意・担当者からの一言
レポートは、電子レポートとする。
電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画
①ガイダンスおよび教科教育について
②教科「情報」の概要
③情報教育の歴史的経緯（1）～教科「情報」の新設まで
④情報教育の歴史的経緯（2）～教科「情報」の改訂
⑤情報教育の在り方と目標
⑥小学校における情報教育
⑦中学校における情報教育
⑧教科「情報」新設の趣旨と意義
⑨共通教科「情報」の目標と科目構成
⑩専門教科「情報」の目標と科目構成
⑪評価と基準（規準）
⑫学習評価
⑬授業改善
⑭年間指導計画
⑮まとめ

情報科教育法Ⅱ（2010年度以降入学生）

【担当】松原　伸一
【開講】後期　水1

■講義概要
教科「情報」の授業内容について考察する。特に、その展開については、問題解決を考慮した内容展開、実習の有効的活用、情報手段の活用、理解定着・自己学習力育成の実習について考察し、情報科教育に関わる内容論を中心に講義する。

■到達目標
1．教科「情報」の内容について、理論的側面を中心に理解を深める。
2．教科「情報」の内容について、実践的側面を中心に理解を深める。

■講義方法
基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜う。

■授業時間外における予・復習等の指示
該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）毎授業の平 常 点（小演習、小テストを含む）
レポート（20%）授業の展開に合わせて、レポートを課す。
定期試験（50%）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト
松原伸一 『情報学教育の新しいステージ』 開隆堂　2,300円

■参考文献
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説情報編』 開隆堂 210円

■履修上の注意・担当者からの一言
レポートは、電子レポートとする。
電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画
①ガイダンスおよび教科教育について
②授業内容研究１ａ：データと情報（理論）
③授業内容研究１ｂ：データと情報（実践）
④授業内容研究２ａ：アナログとディジタル（理論）
⑤授業内容研究２ｂ：アナログとディジタル（実践）
⑥授業内容研究３ａ：リアルとバーチャル（理論）
⑦授業内容研究３ｂ：リアルとバーチャル（実践）
⑧中間まとめと中間レポートの課題提示と考察
⑨授業内容研究４ａ：メディア（理論）
⑩授業内容研究４ｂ：メディア（実践）
⑪授業内容研究５ａ：生活への影響（理論）
⑫授業内容研究５ｂ：生活への影響
⑬総合実践研究１
⑭総合実践研究２
⑮まとめ

人権教育論（2007年度以降入学生）
同和教育論（2006年度以前入学生）

【担当】岸　衛
【開講】前期　水4

■サブタイトル
「今」を問う・「自分」を問う

■講義概要
差別は人と人の関係の中で起こる。だから日常の自分と他人の関係の仕方を見つめることから始めたい。
差別問題、人権問題は、いい古された言葉を語った時点で、自分で考えることをやめてしまう。「自分の言葉で何が語れるか」を最終の課題にしたいと考えている。

■到達目標
「今」を見る目が養われる
「自分」と「他人」との関係やあり方が見えてくる

■講義方法
基本的には講義形式で進めるが、可能な限り問答・会話を中心に進める。
人権学習についての「教案」を作り、実際に授業の一部をやってもらう。
自分の言葉で「語る」人権問題のスピーチをする。

■系統的履修
人権論Ａ・Ｂ（岸）

■授業時間外における予・復習等の指示
自分の課題･テーマを設定して、事前に資料その他をそろえて、教案を提出する。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）出席点・コミュニケーション・カード提出
レポート（35%）各テーマのまとめ・教案の提出
定期試験（50%）全体を踏まえて提出

■テキスト
岸　衛著『自分・差別・世間第２版』解放研究所しが　700円

■参考文献
特になし

■講義計画
①オリエンテーション
②「青い目・茶色い目」
③Black　is　beautiful
④自分を見つめる
⑤部落差別問題とは何か
⑥部落の何を差別するのか
⑦「世間」とは何か
　私たちは何を気にしているのか?
⑧日本と朝鮮の出会い・歴史
⑨明治以降の日本と朝鮮
⑩障害者差別問題を考える視点
⑪日本の「女性と男性」の歴史
　性差別とは何か
⑫大学の中の性差別・セクシャルハラスメントを語る・性差別を感じるとき
⑬「いじめ」を考える
⑭「いじめ」を考える
⑮アイデンティティと差別

教職課程

数学科教育研究Ａ（2010年度以降入学生）

【担当】森原　則男
【開講】前期　木4

■サブタイトル
数学の授業での創意工夫（教材・教具）

■講義概要
昨年度より新学習指導要領が中学校で本格実施、高等学校で理科・数学が先行実施されました。これで算数・数学では小学校も含めすべて新学習指導要領の内容で指導が行われるようになりました。
授業において教科の指導を行うとき、教科書に書かれている内容をそのまま伝えるだけでは児童・生徒は十分に理解してくれるとは限りません。そこで、指導しようとする単元の内容の本質をしっかりと押さえ、教材での工夫を行います。この講義では私が高校の現場で行ってきた、そのような工夫について披露していこうと思っています。受講生には実際に教材を作ってもらったり、課題を考えてもらったりして話を聞くだけでなく参加をしてもらおうと考えています。
また、時間が許せば、学習指導案の作成や模擬授業をしてもらったり、1つのテーマについての集団討論なども行えたらと考えています。

■到達目標
教壇に立ったとき、何を大切にして授業を組み立てていくのか、どう工夫ができるのかをつかんで下さい。
模擬授業でも教材や授業方法での工夫が出来るようにしてください。

■講義方法
講義概要でも述べたように、私が話をするだけでなく教材作りや課題を考えてもらったりします。
模擬授業に関しては受講人数を勘案して時間・方法等は設定します。人数の加減で実施できないこともあります。
毎回の授業の最後に「授業日誌」（授業内容と感想・自分が教壇に立ったとき習った内容をどう活かすのか等）を書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業内容に関って課題を出します。提出日を指定しますので、その日に提出してください。
模擬授業での学習指導案は予め　受講生数＋2部　コピーを準備してください。

■成績評価の方法
平常点（100%）出席状況・授業参加状況・模擬授業の評価・課題提出状況等を総合評価します。

■テキスト
森原作成の冊子「数遊・数楽」を配布します。それをテキストとします。
また、授業時に必要なプリント等は配布します。

■参考文献
中学・高校の教科書
中学校・高等学校の学習指導要領

■履修上の注意・担当者からの一言
授業に参加することが大切です。
工作等を行うのではさみ･のり･定規を必ず持参してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業時に本人との直接対話で行います。

■講義計画
①授業開き（自己紹介・授業方法・評価について等）
②図形教材１（折り紙教材１）
③図形教材２（折り紙教材２）
④図形教材３（折り紙教材３）
⑤図形教材４
⑥順列・組み合せ
⑦数列
⑧模擬授業１　又は数学Ⅰ（数と式・因数分解・平方完成）
⑨模擬授業２　又は中学数学教材（文字式･ピタゴラスの定理）
⑩模擬授業３　又は数学Ⅱ（組み立て除法）
⑪生活と数学
⑫対数関数
⑬三角比・三角関数
⑭微分積分
⑮まとめ

数学科教育研究Ｂ（2010年度以降入学生）

【担当】大西　俊弘
【開講】後期　木４

■講義概要
中学校や高等学校の数学科教員として必要な資質（数学的な教養と教育技術）の習得を目的とする。
できる限り多くの具体例を紹介し、実践的な講義とする。
１．数学科の教材内容を概観し、数学教育の意義について考える。
２．指導案作成･模擬授業の実施によって､授業のあり方について考える。
３．数学科の教育課程について概観し､授業展開･評価等について考える。

■到達目標
教科書に記載されている内容を正確に理解し、指導者として的確な授業計画を立案できる。
グループ単位で学習指導案を作成し、模擬授業を行うことによって、授業の構成力・展開力を身につける。

■講義方法
講義だけでなく、学生間の討論や模擬授業なども行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義後、必ず復習を行い、理解を確実なものとすること。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）出席状況、討論・模擬授業等への取り組み
小テスト（40%）数回実施する
レポート（40%）
授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
数学の教員として、確かな数学力を身につけ、教科内容に精通していることは最低条件である。そのため、小テストで合格点に達しない者は、原則として単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
文部科学省 『中学校学習指導要領解説　数学編』 教育出版　242円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説　数学編・理数編』 実教出版　306円
中学校や高等学校の教科書を参考図書として使用予定であるが、書名や購入方法については別途指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
2010年度以降の入学生が対象であり、数学の教員免許取得希望者は、原則として2回生で履修すること。
数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは､水曜日･木曜日の３講時に研究室(2号館117D)にて。
連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画
①新学習指導要領の特徴について
②数学Ⅰの指導法研究（「データの分析」）
③数学Aの指導法研究（「整数の性質」）
④数学Aの指導法研究（「図形の性質」）
⑤数学Ⅲの指導法研究（「複素数平面」）
⑥教具・模型の利用について
⑦ICT機器の利用について
⑧学習指導案と授業設計
⑨模擬授業（1）
⑩模擬授業（2）
⑪模擬授業（3）
⑫「数学的活動」の事例研究（中学校）
⑬「数学的活動」の事例研究（高等学校）
⑭「課題学習」の事例研究（中学校）
⑮「課題学習」の事例研究（高等学校）

数学科教育法（2009年度以前入学生）

【担当】大西　俊弘
【開講】前期　月５、後期　月３

■講義概要

中学校や高等学校の数学科教員として必要な資質（数学的な教養と教育技術）の習得を目的とする。
できる限り多くの具体例を紹介し、実践的な講義とする。

１．中学・高校の教材内容を概観し、数学教育の意義について考える。
２．指導案作成・模擬授業の実施によって、授業のあり方について考える。
３．数学教育の歴史を概観し、数学教育の意義について考える。
４．数学教育のカリキュラムについて概観し、授業展開・評価等について考える。
５．数学教育へのテクノロジーの利用について解説・演習を行う。
６．できる限り多くの具体例・実践例を紹介する。

■到達目標

中学校・高等学校の教科書に記載されている題材だけでなく、課題学習等で扱う題材について学び、数学の面白さ・有用性について知る。
学習指導案の書き方について学び、模擬授業を行うことによって、教育実習に向けた準備を行う。

■講義方法

講義だけでなく、学生間の討論や模擬授業なども行う。
講義の３分の１程度は、コンピュータ等の利用に関する実習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず復習を行い理解を深めること。その後、授業で学んだことを発展・応用する課題に自ら取り組むこと。

■成績評価の方法

平 常 点（10%）出席状況、討論・模擬授業等への取り組み
レポート（90%）年間10回程度
授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく半期に3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領解説　数学編』 教育出版　242円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説　数学編・理数編』 実教出版　306円
杉山 吉茂 『中等科数学科教育学序説』 東洋館出版社　3,675円

■履修上の注意・担当者からの一言

数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは、水曜日・木曜日の３講時に研究室（2号館117D）にて。（但し、６月は教育実習の巡回指導で不在のときもある。）
連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画

①教材論（黄金比・白銀比）
②教材論（オリガミクス・くみがみ）
③教材論（ユークリッドの互除法等）
④学習指導案とは何か
⑤学習指導計画の作成方法
⑥模擬授業1
⑦観点別評価と評価規準
⑧評価規準を念頭においた学習指導案の作成
⑨模擬授業２
⑩授業研究（授業記録ビデオの分析）
⑪グラフツールGRAPES入門
⑫グラフツールGRAPESの活用＜教材作成1＞
⑬グラフツールGRAPESの活用＜教材作成2＞
⑭学力低下問題
⑮生徒の質問にどう答えるか
⑯数学教育史と学力観の変遷
⑰学習指導要領について
⑱作図ツールの基礎
⑲作図ツールの活用
⑳作図ツールを利用した課題学習
㉑課題学習の教材論（ピックの定理等）
㉒グループによる学習指導案研究
㉓模擬授業（課題学習）
㉔グラフ電卓入門
㉕グラフ電卓の活用
㉖PISAにおける数学的リテラシー
㉗外国における数学教育
㉘新科目「数学活用」について
㉙統計・データ処理の指導法
㉚「数学的活動」とは何か

数学科教育法Ⅰ（2010年度以降入学生）

【担当】大西　俊弘
【開講】前期　月5

■講義概要
中学校や高等学校の数学科教員として必要な資質（数学的な教養と教育技術）の習得を目的とする。
できる限り多くの具体例を紹介し、実践的な講義とする。
1．中学・高校の教材内容を概観し、数学教育の意義について考える。
2．指導案作成･模擬授業の実施によって､授業のあり方について考える。
3．数学教育の歴史を概観し、数学教育の意義について考える。
4．数学教育のカリキュラムについて概観し、授業展開・評価等について考える。
5．数学教育へのテクノロジーの利用について解説・演習を行う。
6．できる限り多くの具体例・実践例を紹介する。

■到達目標
中学校・高等学校の教科書に記載されている題材だけでなく、課題学習等で扱う題材について学び、数学の面白さ･有用性について知る。学習指導案の書き方について学び、模擬授業を行うことによって、教育実習に向けた準備を行う。

■講義方法
講義だけでなく、学生間の討論や模擬授業なども行う。
講義の３分の１程度は､コンピュータ等の利用に関する実習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業後に、まず復習を行い理解を深めること。その後、授業で学んだことを発展・応用する課題に自ら取り組むこと。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）出席状況、討論・模擬授業等への取り組み
レポート（90%）半期５回程度
授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
また､レポート未提出の場合も､原則として単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
文部科学省 『中学校学習指導要領解説　数学編』 教育出版 242円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説　数学編・理数編』 実教出版 306円
杉山 吉茂 『中等科数学科教育学序説』 東洋館出版社 3,675円

■履修上の注意・担当者からの一言
数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは、水曜日・木曜日の３講時に研究室（2号館117D）にて。（但し、出張で不在のときもある。）
連絡は､メールにて（メールアドレスは､最初の講義で連絡する）

■講義計画
①教材論（黄金比・白銀比）
②教材論（オリガミクス・くみがみ）
③教材論（ユークリッドの互除法等）
④学習指導案とは何か
⑤学習指導計画の作成方法
⑥模擬授業1
⑦観点別評価と評価規準
⑧評価規準を念頭においた学習指導案の作成
⑨模擬授業２
⑩授業研究（授業記録ビデオの分析）
⑪グラフツールGRAPES入門
⑫グラフツールGRAPESの活用＜教材作成1＞
⑬グラフツールGRAPESの活用＜教材作成2＞
⑭学力低下問題
⑮生徒の質問にどう答えるか

数学科教育法Ⅱ（2010年度以降入学生）

【担当】大西　俊弘
【開講】後期　月3

■講義概要
中学校や高等学校の数学科教員として必要な資質（数学的な教養と教育技術）の習得を目的とする。
できる限り多くの具体例を紹介し、実践的な講義とする。
1．中学・高校の教材内容を概観し、数学教育の意義について考える。
2．指導案作成･模擬授業の実施によって､授業のあり方について考える。
3．数学教育の歴史を概観し、数学教育の意義について考える。
4．数学教育のカリキュラムについて概観し、授業展開・評価等について考える。
5．数学教育へのテクノロジーの利用について解説・演習を行う。
6．できる限り多くの具体例・実践例を紹介する。

■到達目標
中学校・高等学校の教科書に記載されている題材だけでなく、課題学習等で扱う題材について学び、数学の面白さ･有用性について知る。学習指導案の書き方について学び、模擬授業を行うことによって、教育実習に向けた準備を行う。

■講義方法
講義だけでなく、学生間の討論や模擬授業なども行う。
講義の３分の１程度は､コンピュータ等の利用に関する実習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
授業後に、まず復習を行い理解を深めること。その後、授業で学んだことを発展・応用する課題に自ら取り組むこと。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）出席状況、討論・模擬授業等への取り組み
レポート（90%）半期５回程度
授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
また､レポート未提出の場合も､原則として単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
文部科学省 『中学校学習指導要領解説　数学編』 教育出版 242円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説　数学編・理数編』 実教出版 306円
杉山 吉茂 『中等科数学科教育学序説』 東洋館出版社 3,675円

■履修上の注意・担当者からの一言
数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは､水曜日･木曜日の３講時に研究室(2号館117D)にて。
連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画
①数学教育史と学力観の変遷
②学習指導要領について
③作図ツールの基礎
④作図ツールの活用
⑤作図ツールを利用した課題学習
⑥課題学習の教材論
（ピックの定理等）
⑦グループによる学習指導案研究
⑧模擬授業（課題学習）
⑨グラフ電卓入門
⑩グラフ電卓の活用
⑪PISAにおける数学的リテラシー
⑫外国における数学教育
⑬新科目「数学活用」について
⑭統計・データ処理の指導法
⑮「数学的活動」とは何か

生徒指導論

【担当】脇田　博文
【開講】後期　金1

■サブタイトル
学校教育における生徒指導の意義と役割

■講義概要
急速な社会変化の中で旧来の倫理観・価値観が大きく崩れ、家庭や学校の教育力は低下している中で、生徒指導の重要性とその対応のあり方については認識を新たにする必要がある。最近の学校現場で起こっているいじめ、不登校、学級崩壊等の問題は生徒指導上の喫緊課題であるが、単に表面的な目に見える現象だけに注目し、問題行動を起こす生徒への治療・矯正や防止対策として生徒指導を捉えてはならない。生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格的発達への支援、将来の自己実現に向けてのガイダンスという積極的な教育機能として位置づけられるべきである。
本講義では、まず生徒指導の本質的な意義や役割を明確にした上で、様々な問題例を通してその原因・背景・対処について実証的な考察を加え、さらにガイダンス機能の充実のための進路指導について触れる。そして教員には個人あるいは組織の一員としてどのような資質や能力や役割が求められているか理解したい。

■到達目標
教員に求められる資質･能力･役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法
講義の他、討論・発表等の参加型授業をできるかぎり取り入れる。

■系統的履修
「発達と教育」などの発達・教育心理学関係の科目

■授業時間外における予・復習等の指示
課題には主体的に取り組むこと。また紹介された参考文献等をよく読み、知識を深めるとともに、批判的な思考力を養うこと。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）授業への参加、意欲・態度等を評価する。
レポート（10%）毎回出される小課題の達成度を評価する。
定期試験（60%）学習内容の理解、教職への適性を試験で評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画
①はじめに
②学校及び青少年の現状と課題 1
③学校及び青少年の現状と課題 2
④生徒指導の意義と役割 1
⑤生徒指導の意義と役割 2
⑥生徒指導の意義と役割 3
⑦生徒理解 1
⑧生徒理解 2
⑨生徒理解 3
⑩問題行動・学級（授業）崩壊 1
⑪問題行動・学級（授業）崩壊 2
⑫いじめ・不登校 1
⑬いじめ・不登校 2
⑭進路指導のあり方
⑮まとめ

道徳教育指導法

【担当】牧﨑　幸夫
【開講】後期　土1

■サブタイトル
道徳の時間の授業力を磨く

■講義概要
道徳教育の「要」の時間である「道徳の時間」の実践的指導力を身に付けるため、道徳の時間の指導案作成、模擬授業等を行いながら具体的な研究・考察を行う。
適宜、小中学校教員又は研究者による講演を行う。

■到達目標
学習指導要領に示された道徳教育の目標、内容等について理解し、指導計画や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的指導力の基礎を身に付ける。

■講義方法
中学校学習指導要領解説「道徳編」（平成20年９月）を活用し、道徳教育の目標、内容等について理解するとともに、読みもの資料をもとに指導案の作成、模擬授業を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義において、小中学校で行われる道徳教育研究会をはじめ、京阪神地区で毎月行われている「横山利弘先生を囲む道徳教育研究会」や「宇治市道徳教育研究会」等の開催について紹介するので、可能な限り参加し、学校現場の状況を把握するとともに、自らの実践的指導力の向上を図ること。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）平 常 点（授業への参加態度等）
小テスト（20%）学習指導要領の内容、２回実施
定期試験（60%）提示された読みのもの資料による学習指導案の作成

■テキスト
文部科学省　『中学校学習指導要領解説「道徳編」（平成20年9月）』　日本文教出版　139円

■参考文献
横山利弘　『道徳教育とは何だろう』　暁教育図書　2,500円
横山利弘　『道徳教育、画餅からの脱却』　暁教育図書　2,500円
文部科学省　『中学校道徳読み物資料集』　文部科学省　600円
日本道徳教育学会近畿支部　『道徳読み物資料集』　日本道徳教育学会近畿支部　400円

■オフィスアワー・教員への連絡方法
木曜日２～４講時、金曜日１～４講時
℡ 075-343-3486
E-mail:makizaki@let.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①道徳教育の意義
－なぜ、今、道徳教育なのか－
②道徳教育の変遷
－学習指導要領における道徳教育はどのよう改訂されてきたのか－
③道徳教育の目標と内容
－道徳教育の目標や内容はどのように示されているのか－
④道徳の時間の学習指導案（1）
－ヤマのある授業を行うための指導案作成は、どのような手順によるのか－
⑤道徳の時間の学習指導案（2）
－資料はどのように読むのか－
⑥道徳の時間の学習指導案（3）
－生徒の多様な意見を引き出す中心発問はどのように作るのか－
⑦道徳の時間の学習指導案（4）
－中心発問につなぐ基本発問はどのように作るのか－
⑧道徳の時間の授業（1）
－自主性や自律性を育てる授業をどう作るのか－
⑨道徳の時間の授業（2）
－思いやりを育てる授業をどう作るのか－
⑩道徳の時間の授業（3）
－生命の尊さを考える授業をどう作るのか－
⑪道徳の時間の授業（4）
－人間の弱さを克服する力を育てる授業をどう作るのか－
⑫道徳の時間の授業（5）
－規範意識を育てる授業をどう作るのか－
⑬道徳の時間の授業（6）
－集団や社会との関わりについて考える授業をどう作るのか－
⑭学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育
－道徳教育の全体計画、指導計画はどのように作成するのか－
⑮まとめ
－生徒の多様な意見を引き出す道徳の授業はどのように作るのか－

特別活動論

【担当】脇田　博文
【開講】前期　金1

■サブタイトル
もう一つの教育課程－学校教育における特別活動の役割

■講義概要
学校での様々な教育活動の意義は、生徒一人ひとりが個性の伸張を図るとともに、集団や社会の一員としての自覚を深め、協力してより良い生活を築こうとする態度を身につけることにある。この意味で、学校が知識や技術の習得のためだけに合目的的に機能を単一化し、その本来的な多機能性（特に人間形成）を失い、居心地のよい場所でなくなりつつある現状を見ると、もう一つの教育課程である特別活動の意義は見直されるべきである。特別活動は、生徒の自主的、集団的な活動の時間であり、まさに「生きる力」を養う場として、各学校・教員が創造的にいろいろな実践や工夫を行う余地が多く残されている。
本講義では、特別活動の教育課程上の位置づけ、その教育的意義と内容、具体的な展開と工夫などについて考察しながら、学校教育における特別活動の基本的な役割について理解を深め、ひいてはこれからの時代に期待される教師のあり方について明らかにしたい。

■到達目標
教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法
講義の他、討論・発表等の参加型授業を導入する。

■授業時間外における予・復習等の指示
随時出される課題には主体的に取り組むこと。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）授業への参加、意欲・態度等を評価する。
小テスト（20%）授業中に出される課題の達成度を評価する。
レポート（40%）学期末の課題の達成度を評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
適宜講義中に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画
①特別活動の意義と特性　1
②特別活動の意義と特性　2
③特別活動の意義と特性　3
④望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ　1
⑤望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ　2
⑥望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ　3
⑦教育課程としての特別活動
⑧学級活動の意義と運営
⑨学校行事の意義と実施上の工夫・配慮事項
⑩特別活動の指導計画と工夫 1
⑪特別活動の指導計画と工夫 2
⑫特別活動の指導計画と工夫 3
⑬特別活動の指導計画と工夫 4
⑭特別活動と特色ある学校づくり・総合的な学習の時間
⑮まとめ

本願寺派教師資格課程科目

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
シ	宗教学概論	古賀　和則	通年	月５	207
	宗門法規	林　春男	前期	集中	208
	真宗学概論	中平　了悟	通年	月４	208
	真宗史	仲尾　孝誠	通年	土１	209
ニ	日本仏教史	下間　一頼	通年	火４	209
フ	仏教学概論	道元　徹心	通年	水３	210

宗教学概論

【担当】古賀　和則
【開講】通年　月5

■サブタイトル
宗教学は宗教をどのように見てきたか

■講義概要
広義の宗教学は、宗教を研究対象とする学問であり、神（宗）学、宗教哲学、宗教史、科学的宗教学の領域があります。また、教義の宗教学では宗教史と科学的宗教学があります。この講義では、まず、広義の宗教学の概要をたどり、続いて狭義の宗教学を取り上げ、主要な研究テーマを絞りたどります。

■到達目標
宗教研究の概要の理解。

■講義方法
講義形式ですが、前後期に各1回程度の討論会（シンポジウム）を行います。

■系統的履修
「現代社会と宗教」「生活の中の宗教」「心と身体と宗教」「哲学」「社会学」「心理学」「文化人類学」

■授業時間外における予・復習等の指示
ほぼ毎回レポート候補の課題を示すので、準備に取りかかっておく。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）前期、後期各１回以上のミニシンポ参加。＆準備
レポート（80%）前期まとめレポート(40点)、後期まとめレポート（40点）

■テキスト
特になし

■参考文献
上田・柳川編　『宗教学のすすめ』　筑摩書房
石田・薗田編　『宗教学を学ぶ人のために』　世界思想社
井上・月本・星野編　『宗教学を学ぶ』　有斐閣
脇本著　『宗教学入門』　講談社
武・宮庄・高田編　『宗教学の現在』　三和書房
細谷・藤田編　『新しい教養のすすめ　宗教学』　昭和堂

■履修上の注意・担当者からの一言
宗教学には広い範囲があります。それは、対象の宗教が多種多様であることもあります。また、学ぶ立場の多様性もあります。この講義では、主として、宗教を広くとらえ、科学的に分析しようとする立場にたちます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
e-mail: koga@soc.ryukoku.ac.jpでアポイントを取ること。

■講義計画
①ブリーフィング　宗教学の成立：成立の背景と分野
②宗教の規定
③科学と宗教
④宗教史Ⅰ
⑤ミニシンポ「スピリテュアル　パワー」
⑥宗教史Ⅱ
⑦宗教史Ⅲ
⑧宗教現象学Ⅰ
⑨宗教現象学Ⅱ
⑩宗教社会学Ⅰ
⑪宗教社会学Ⅱ
⑫宗教社会学Ⅲ①
⑬宗教社会学Ⅲ②
⑭宗教社会学Ⅳ
⑮宗教社会学Ⅴ
⑯宗教心理学Ⅰ
⑰宗教心理学Ⅱ
⑱宗教心理学Ⅲ
⑲宗教心理学Ⅳ
⑳宗教心理学Ⅴ
㉑ミニシンポ「現代人の宗教意識」
㉒宗教生理学
㉓宗教人類学Ⅰ
㉔宗教人類学Ⅱ
㉕宗教人類学Ⅲ
㉖宗教地理学
㉗宗教民俗学Ⅰ
㉘宗教民俗学Ⅱ
㉙宗教民俗学Ⅲ
㉚まとめ

宗門法規

【担当】林　春男
【開講】前期　集中

■サブタイトル
浄土真宗本願寺派（宗門）の諸規則について
■講義概要
本講義は、浄土真宗本本願寺派教師の資格取得に必要な単位として開設されているのであるが、近年の傾向として、必ずしも寺院関係者に限定されることなく、幅広く受講される状況にある。このため、浄土真宗本願寺派（西本願寺）という宗教団体は、どのような目的を持っているのか、また、どのような組織で、どのような活動を展開しているのかなどの点を中心に講義することとする。
■到達目標
浄土真宗本願寺派教師の資格取得によって、寺院住職、布教師就任の途が開かれる。そのため、より重要な責務を全うするに必要な宗門法規の内容理解を深める。
■講義方法
所定のテキストを中心に講義を進めるが、必要に応じて関係資料をプリントで配布することとする。
本講義では、その内容が宗門の諸規則という事からも、特殊な用語が多く用いられているので早く慣れていただきたい。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業時間後に、講義内容の復習を行うこと。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
法制部編『浄土真宗本願寺派 宗門基本法規集』本願寺出版社
■参考文献
特になし
■講義計画
①浄土真宗本願寺派（以下、宗門という。）の基本法規について
②宗門の組織について①
③宗門の組織について②
④宗門の諸法規の体系について
⑤本山（本願寺）の組織について①
⑥本山（本願寺）の組織について②
⑦本山以外の寺院の規則などについて
⑧宗門の法規と宗教法人法との関係について
⑨宗教法人法
⑩信教の自由と政教分離の原則について
⑪宗教法人法施行以前の宗教関係通達等（明治・大正・昭和初期）
⑫宗教法人法施行以前の宗教関係法規について（宗教団体法）
⑬宗教法人法施行以前の宗教関係法規について（宗教法人令）
⑭宗門基本法規のまとめ
⑮確認テスト

真宗学概論

【担当】中平　了悟
【開講】通年　月４

■講義概要
浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想の体系的な理解を目的に講義を行う。
「真宗学」の中心は、親鸞聖人によって明らかにされた思想･教義としての「浄土真宗」にある。どのような視点に立とうとも、「真宗学」という名称を用いる以上、親鸞聖人の思想や立場が前提とされる。
釈尊によって説かれた経典、およびインド・中国・日本の諸師（高僧）による経典の解釈を、親鸞聖人はどのように受容したのか。また、親鸞聖人によって説き示された（教えとしての）「浄土真宗」は今に至るまで、どのように理解・解釈されて来たのか。一年間の講義を通して、その概略について講義をしたい。
本講義は、入門的な内容を講義する予定である。しかし、一般的な意味で「簡単」ではないと思う。受講者の主体的な学びの態度がなければ、成立しないことを念頭に置いて受講して欲しい。
■到達目標
浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想を体系的に理解できるようになることを目的とする。
■講義方法
講義形式。板書とレジュメを中心に講義を行う。尚、テキストは必ず持参すること。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に小テストを実施するので、各自自主的な復習をすること。また、課題等については講義時に指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）出席は当然。受講態度などから総合的な判断する
レポート（30%）期末のレポートを予定している。
定期試験（60%）期末のテストを予定している。
規定数以上の出席は、評価の前提。　規定に満たない場合は、単位は認定されない。
■テキスト
『浄土真宗聖典註釈版（第二版）』 本願寺出版社
村上速水 『親鸞教義とその背景』 永田文昌堂
この他、講義時に指示する。
■参考文献
講義時に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
◆本講義は「本願寺派教師資格」に関する講義です。講義内容･方針もそれに見合ったものとなるように努めるので、受講者も了承の上受講してください。
◆「真宗学」の理解には、主体的に問い、学ぶことが必要です。知識は大切なものに近づく手がかりになるかも知れませんが、絶対的な条件ではありません。受講者の主体的な学びが必須です。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義時に連絡方法などについては説明する。また必要があれば、講義前後に相談してください。
■講義計画
１回目　　オリエンテーション　講義概略・評価方法等の説明
２～３回目　仏教とはなにか
４～５回目　浄土真宗とはなにか
６～11回目　親鸞聖人の生涯
12～18回目　親鸞聖人の思想
19～29回目　親鸞聖人の思想の背景（三経七祖）
30回目　　総括　その他

真宗史

【担当】仲尾　孝誠
【開講】通年　土1

■サブタイトル
浄土真宗の成立と変容の歴史
■講義概要
親鸞が開いた浄土真宗の教団は、今日、御同朋御同行のみ教えに生きる者の同朋教団であると公称されている。では御同朋御同行のみ教えとは、いかなる教えなのか。それは、どのようにして開顕され、また他の諸宗派とどのように違っていたのか。さらには、親鸞の開いた教団がその後、国家および民衆との関係においてどのように展開していったのか。
浄土真宗の成立と変容の歴史について学び、親鸞における信心の社会性の意義と今日的実践課題を共に明らかにしていきたい。
■到達目標
浄土真宗の歴史の全容。日本における宗教と国家、宗教と人権に関する基礎的な知識。
■講義方法
テキストを中心に講義するが、視聴覚教材も活用する。
■授業時間外における予・復習等の指示
授業内で指示する
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（10%）
定期試験（40%）
■テキスト
福間光超・堀大慈 『真宗史（中央仏教学院テキスト)』（本願寺出版社）
柏原祐泉 『仏教と部落差別その歴史と今日（人権ブックレット９)』 解放出版社
■参考文献
財・同和教育振興会 『差別・被差別からの解放本願寺教団と部落差別（増補版)』 本願寺同朋センター
他は講義の際適宜紹介する

■講義計画
①浄土真宗の教勢
②日本の仏教宗派
③日本への仏教伝来
④日本への仏教伝来
⑤日本仏教の差別体質
⑥日本仏教の差別体質
⑦法然とその教団
⑧法然とその教団
⑨親鸞とその教団
⑩親鸞とその教団
⑪親鸞とその教団
⑫大谷廟堂と本願寺
⑬大谷廟堂と本願寺
⑭蓮如と本願寺教団
⑮蓮如と本願寺教団
⑯一向一揆
⑰一向一揆
⑱近世本願寺教団の形成
⑲近世本願寺教団の形成
⑳近世本願寺教団の形成
㉑近世教学と信仰
㉒近世教学と信仰
㉓維新政治と真宗
㉔維新政治と真宗
㉕維新政治と真宗
㉖近代天皇制国家と教団
㉗近代天皇制国家と教団
㉘近代天皇制国家と教団
㉙戦後における真宗の動向　－ 部落問題・靖国問題
㉚まとめ

日本仏教史

【担当】下間　一頼
【開講】通年　火4

■講義概要
外来思想であった仏教がどのように受容・展開し、日本社会の中に定着してきたのか。現代人の宗教観・倫理観はどのような過程をへて形成されてきたのか。
本講義では日本仏教のあり方を歴史学の方法を用いて考察し、日本における仏教受容を検証していく。
■到達目標
高等学校では政治の流れを中心に歴史を学んできた。
ここでは仏教を方法的視座にすえることで、今までと異なる日本歴史像を提示できると考えている。
■講義方法
講義形式で授業を行なう。
■授業時間外における予・復習等の指示
講義中に指示する。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）
レポート（10%）
定期試験（80%）
■テキスト
特になし
■参考文献
二葉憲香・他 『歴史のなかの親鸞』 永田文昌堂　2,400円
その他、講義中に紹介する。

■講義計画
１～３回目　これから学ぶ仏教
４～６回目　仏教伝来
７～15回目　古代の仏教①
16～20回目　古代の仏教②
21～25回目　中世の仏教
26～27回目　近世の仏教
28～29回目　近代の仏教
30回目　　日本仏教の課題

仏教学概論

【担当】道元　徹心
【開講】通年　水３

■講義概要
仏教の教理について、歴史的展開をふまえながら体系的に講義する。
テキストに用いて講義する。先ず仏教が「真理の宗教」とされる理由を説明し、仏教が説く縁起の思想について講義する。そして、大乗仏教が興起し、中国仏教・日本仏教へと展開する過程で仏教が宗派仏教として広まった内容を解説する。特に天台教義・浄土教義については詳しく講義したい。また、現代社会における仏教思想の持つ意義についても考察を試みたい。

■到達目標
本願寺派教師資格科目の一つとして、要求される知識を身につける。

■講義方法
基本的にテキストに用いて板書しながら講義し、視聴覚教材を随時織り交ぜて説明する。また、必要に応じてプリントを配布する。

■系統的履修
必修の「仏教の思想」A・Bを履修済みであること。

■授業時間外における予・復習等の指示
講義時に紹介した参考文献を読む。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）出席状況と受講態度
定期試験（50%）

■テキスト
芹川　博通他　『仏教思想へのいざない』　北樹出版　2,200円

■参考文献
講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養っていってほしい。

■講義計画
１回目　　イントロダクション
２回目　　仏教とは何か
３～４回目　仏教の根本原理
５～６回目　縁起の思想（1）
７～８回目　縁起の思想（2）
９回目　　大乗仏教の起こり
10～11回目　大乗仏教の思想（1）
12～13回目　大乗仏教の思想（2）
14回目　　大乗経典
15～16回目　中国仏教の思想（1）
17回目　　中国仏教の思想（2）
18回目　　日本仏教の特徴（聖徳太子）
19～21回目　日本仏教の特徴（奈良仏教）
22～25回目　日本仏教の特徴（平安仏教）
26～28回目　日本仏教の特徴（鎌倉仏教）
29回目　　現代社会と仏教
30回目　　まとめ